

- 第57次発掘調査概報
- 猫間が淵跡発掘調査報告
- 第1次・第2次内容確認調査総括報告書

柳之御所遺跡



岩手県文化財調査報告書第118集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

—— 第57次発掘調査概報 ——

—— 猫間が淵跡発掘調査報告 ——

—— 第1次・第2次内容確認調査総括報告書 ——

平成16年3月

岩手県教育委員会

序 言

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、12世紀北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡であり、古くから先人先学がこの地を訪れて往時の栄華に思いをはせた地であります。

本遺跡は、一級河川北上川上流改修一閃遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴い、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会により事業予定地内の緊急発掘調査が実施されました。調査の進行にともない、大規模な掘立柱建築物跡・園池跡・井戸跡・塀跡が発見され、また、おびただしい量のかわらけ・墨画資料・各種木製品など、質・量ともに内容豊かな遺物が出土しました。これらの遺構・遺物は、12世紀後半、特に奥州藤原氏三代秀衡との関連が強く、本遺跡が『吾妻鏡』にみられる「平泉館」であるとの考えが多くの歴史家から指摘されているところであります。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のひとかたならぬ御理解により、平成5年には遺跡の永久保存が決定し、平成9年3月には『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。さらに、平成13年4月、本遺跡を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに登録されたことを受けて、平成20年の世界遺産本登録を目指した取り組みを進めております。

県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、この遺跡を後世に伝えるとともに広く活用されることを願い、将来的には史跡公園として整備し、平泉文化を全国に発信して参りたいと考え、平成10年度から本格的な発掘調査を実施しており、本年度は第2次三ヵ年計画の最終年度となります。

本年度は、柳之御所遺跡の中心建物との関連が予想される園池について、詳細な調査を行いました。その結果、新旧2時期ある園池の各々の規模と構造が明らかとなり、今後の復元に向けて貴重な資料を得ることができました。

本報告書は、平成15年度第57次調査の発掘成果とともに、今後追加指定を予定している、柳之御所遺跡に隣接する猫間が漏遺跡の調査成果をまとめたものであり、文化財保護と学術発展の一助となれば幸いと存じます。

調査の実施と報告書作成に当たり、御指導御援助賜りました、平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめ、文化庁記念物課、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所等の関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

平成16年3月

岩手県教育委員会

教育長 佐藤 勝

例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成15年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の第57次発掘調査の概要報告、岩手県教育委員会が実施した柳之御所遺跡の発掘調査本報告、今後国指定史跡柳之御所遺跡への追加指定を予定している猫間が淵遺跡の発掘調査本報告である。
- 2 調査回数・期間・面積は次のとおりである。これらについては既に概報・略報を刊行しており、その書名は下記のとおりである。

柳之御所遺跡（調査主体：岩手県教育委員会）

平成11年度	第50次調査	平成11年5月13日～10月31日	1,800㎡	岩手県文化財調査報告書第107集
平成12年度	第52次調査	平成12年5月9日～11月17日	2,500㎡	岩手県文化財調査報告書第111集
平成13年度	第55次調査	平成13年5月11日～11月13日	3,100㎡	岩手県文化財調査報告書第113集
平成14年度	第56次調査	平成14年5月13日～11月30日	4,000㎡	岩手県文化財調査報告書第117集
平成15年度	第57次調査	平成15年4月14日～10月31日	4,000㎡	岩手県文化財調査報告書第118集

猫間が淵遺跡（調査主体：平泉町教育委員会）

昭和61年度	第1次調査	昭和61年	116㎡	平泉町文化財調査報告書第11集
昭和62年度	第2次調査	昭和62年6月17日～8月12日	300㎡	平泉町文化財調査報告書第13集
平成元年度	第3次調査	平成2年2月4日～2月15日	53㎡	平泉町文化財調査報告書第20集
平成元年度	第4次調査	平成2年2月8日～2月23日	57㎡	同 上
平成14年度	第5次調査	平成15年2月17日～3月28日	800㎡	平泉町文化財調査報告書第81集

- 3 柳之御所遺跡の発掘調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。猫間が淵遺跡の発掘調査については猫間が淵遺跡が柳之御所遺跡への追加指定に係ることから、平泉町教育委員会が調査・報告したものを岩手県教育委員会でまとめたものである。
- 4 柳之御所遺跡第57次調査の調査および本報告書の制作体制は下記のとおりである。

〈岩手県教育委員会事務局〉		〈(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉	
生涯学習文化課長	吉川 健次	所 長	木村 昇
文化財保護監	小田野哲憲	調査第一課長	佐々木 勝
文化財保護監補佐	伊藤 吉郎	文化財調査員	杉沢昭太郎（担当）
主任柳之御所調査主査	斎藤 邦雄（担当）		
文化財調査員	大関 真人（担当）		
文化財調査員	戸根 貴之（担当）		

- 5 遺跡区割りは、昭和57年度から開始された柳之御所遺跡の範囲確認調査に際し、平泉町教育委員会が平泉町全域の埋蔵文化財を想定して、国土調査法・平面直角座標系第X系に基づいた測量基準点を設置し、遺跡測量を行ってきた。その際の方法は以下のとおりである。

- [1] 遺跡全域を覆う5mグリッドを設定し、北西隅に原点（0-0）を置いた標示を行うことにする。
- [2] グリッドは先の測量基準点に従ったもので、原点から南へ1・2・3……、同じように東へ1からの数字をつけ、その交点を標示し、0-1、1-1……100-105などのように呼称する。そのため、グリッドの呼称は昭和57年度以降に調査をおこなっている岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、岩手県教育委員会共通のものを使用し、今年度の調査についてもこの方法を原則としてい

る。従って、今回使用している座標値及び方角軸線については、平成14年4月1日施行の改正測量法以前のものを使用している。

なお、今年度の調査区のうち、〔4〕堀外部地区の調査については、野外調査時は調査区に便宜的にAからKまでの5×5mグリッドを設定し、その後平泉町教育委員会が設定したグリッドに合成している。

- 6 遺構の呼称は、昭和63年度に（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用した。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については、今回調査の遺構名とともに、当初の調査時の遺構名を並列して記した。

SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀 SE：井戸・井戸状遺構
SG：圃池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他 SI：壁穴住居 P：柱穴
例：57SD35 第57次調査の第35号溝・堀跡

- 7 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしており、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。

なお、番号の付与方法は次のとおりである。

柳之御所第57次…かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器等種別毎に1,2,3,4とし、種別毎に分類番号を番号の前に付与する。

例)かわらけ…1,2,3～ 国産陶器…1001,1002,1003～ 中国産陶磁器…2001,2002,2003～

猫間が淵遺跡…調査次数毎に器種分類し、その後通し番号を付与する。なお、概報旧番号を併記する。
柳之御所館跡…既に刊行されている概報の遺物番号をそのまま付与する。

- 8 第57次発掘調査の調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
- 9 遺構の埋土観察、遺物の色調観察は、『新版標準土色帖』を参考にした。
- 10 分析や鑑定・保存処理は次の個人と機関に依頼・委託した（順不同：敬称略）。記して深く感謝いたします。

銅印素材測定：国立歴史民俗博物館

年輪年代測定：尤谷拓実（奈良国立文化財研究所）

樹種鑑定委託：バリノ・サーヴェイ株式会社

自然化学分析委託：株式会社 古環境研究所

木製保存処理委託：釜石埋蔵文化財保存処理センター・岩手県立博物館

- 11 後述する「平泉遺跡群調査整備指導委員会」の委員の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。（順不同：敬称略）国立歴史民俗博物館（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県立博物館 平泉町教育委員会 平泉町文化財センター 柳之御所資料館 福島大学（財）水沢市埋蔵文化財調査センター 鎌倉考古学研究所 奈良国立文化財研究所
- 12 野外調査・室内整理等に從事していただいた平泉町や近隣市町村の方々のご協力に深く感謝いたします。
- 13 岩手県教育委員会で実施した、柳之御所遺跡に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。猫間が淵遺跡に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は平泉町教育委員会で保管している。

目次

序言
例目

本文目次

I はじめに.....	1	V 第1次・第2次内容確認調査総括	
1 調査経過.....	1	1 遺構.....	105
2 本年度の調査について.....	2	楯(塙・柱列).....	105
II 自然環境.....	6	建物跡.....	110
1 位置.....	6	道路・橋跡.....	115
2 地形.....	6	堀跡・溝跡.....	124
III 柳之御所遺跡57次調査		井戸.....	132
1 検出された遺構と遺物.....	9	圍池.....	140
圍池跡と附属施設.....	9	竪穴建物跡.....	141
北側調査区.....	23	土坑.....	141
東側調査区.....	23	トイレ状遺構.....	150
堀外部地区.....	30	その他の遺構(祭祀遺構).....	152
2 出土遺物.....	47	2 出土遺物.....	157
かわらけ.....	47	かわらけ.....	157
国産陶器.....	47	陶磁器.....	160
中国産陶磁器.....	47	瓦.....	171
瓦.....	47	木製品.....	179
木製品.....	48	文字・絵画資料.....	180
その他の遺物.....	48	金属製品.....	188
IV 猿間が酒跡の調査.....	68	3 まとめ.....	190
		遺構変遷.....	190

表目次

〈柳之御所遺跡57次調査〉		中国産陶磁器観察表.....	102
柱穴計測表.....	61	木製品観察表.....	103
かわらけ観察表.....	63	瓦観察表.....	104
国産陶器観察表.....	65	その他遺物観察表.....	104
中国産陶磁器観察表.....	66	〈第1次・第2次内容確認調査総括〉	
瓦観察表.....	67	柳之御所遺跡楯(塙)跡一覧表.....	106
木製品観察表.....	67	柳之御所遺跡建物跡一覧表.....	114
柳之御所遺跡57次調査遺物集計表.....	67	柳之御所遺跡道路状遺構一覧表.....	115
〈猿間が酒跡の調査〉		柳之御所遺跡井戸状遺構一覧表.....	134
かわらけ観察表.....	100	柳之御所遺跡土坑一覧表.....	142
国産陶器観察表.....	102	遺構別かわらけ計測値一覧表.....	159

図版目次

〈57次調査〉		第5図 23SG1・T1.....	15
第1図 平泉町位置図.....	6	第6図 23SG1・T2A~T2C.....	16
第2図 遺跡位置図.....	7	第7図 23SG1・T3A~T4.....	17
第3図 遺跡周辺地形図.....	8	第8図 23SG1・T5~T7.....	18
第4図 23SG1トレンチ設定.....	14	第9図 23SG1・T8.....	19

第10回	23SG1 平面図	20
第11回	23SG1・I期平面図	21
第12回	23SG1・II期平面図	22
第13回	北側調査区遺構配置図及び57SE2	24
第14回	57次調査掘外部地区遺構配置図	25-26
第15回	基本土層・57SD44	27-28
第16回	東側調査区遺構配置図	29
第17回	溝跡(1)	37
第18回	溝跡(2)・土坑ほか	38
第19回	その他の遺構・柱穴断面図(1)	39
第20回	柱穴断面図(2)	40
第21回	柱穴断面図(3)	41
第22回	柱穴群(1)	42
第23回	柱穴群(2)	43
第24回	柱穴群(3)	44
第25回	柱穴群(4)	45
第26回	柱穴群(5)	46
第27回	かわらけ(1)	49
第28回	かわらけ(2)	50
第29回	かわらけ(3)	51
第30回	かわらけ(4)	52
第31回	瀬美産陶器(1)・常滑産陶器(1)	53
第32回	瀬美産陶器(2)・常滑産陶器(2)	54
第33回	常滑産陶器(1)	55
第34回	須恵器系陶器ほか	56
第35回	中国産陶磁器(1)	57
第36回	中国産陶磁器(2)	58
第37回	瓦ほか	59
第38回	木製品・縄文土器・石器 (棺間が淵跡)	60
第39回	猫間が淵跡周辺地形図	69
第40回	第1期第1次平泉館跡調査 第2トレンチ平面図	71
第41回	猫間が淵跡第1次・第2次調査平面図	73
第42回	猫間が淵跡第1次・第2次調査断面図・ 出土遺物	74
第43回	猫間が淵跡第3次調査平面図・断面図・ 出土遺物	76
第44回	猫間が淵跡第4次調査平面図	77
第45回	猫間が淵跡第4次調査出土遺物	79
第46回	猫間が淵跡第5次調査平面図	80
第47回	柳之御所遺跡第38次調査 平面図	82
第48回	柳之御所遺跡第38次調査 断面図	83
第49回	柳之御所遺跡第56次調査(堀部分) 断面図	85-86
第50回	柳之御所遺跡第38次調査 38SD3出土遺物(1)	87
第51回	柳之御所遺跡第38次調査 38SD3出土遺物(2)	88
第52回	花立I遺跡第20次調査遺構図・断面図・ 出土遺物	90
第53回	柳之御所遺跡第56次調査 堀部分 平面図	91
第54回	柳之御所遺跡第56次調査 T4 断面図	92

第55回	柳之御所遺跡第56次調査 56SD39 出土遺物(1)	93
第56回	柳之御所遺跡第56次調査 56SD39 出土遺物(2)	94
第57回	柳之御所遺跡第56次調査 56SD39 出土遺物(3)	95
第58回	柳之御所遺跡第56次調査 56SD39 出土遺物(4)	96
第59回	柳之御所遺跡第56次調査 56SD39 出土遺物(5)	97
〈第1次・第2次内容確認調査総括〉		
第60回	溝・壕・柱穴列分布図	107
第61回	溝・壕・柱穴列(1)	108
第62回	溝・壕・柱穴列(2)	109
第63回	掘立柱建物跡(1)	111
第64回	掘立柱建物跡(2)	112
第65回	掘立柱建物跡(3)	113
第66回	掘立柱建物跡(4)	114
第67回	道路・溝・堀跡分布図	116
第68回	道路状遺構(1)	117
第69回	橋跡(1)	119
第70回	橋跡(2)	120
第71回	橋跡(3)	121
第72回	土橋・堀跡	122
第73回	想定される橋	123
第74回	堀跡(1)	126
第75回	堀跡(2)	127
第76回	堀跡(3)	128
第77回	堀跡(4)	129
第78回	堀跡(5)	130
第79回	堀跡(6)	131
第80回	井戸跡分布図	136
第81回	井戸跡(1)	137
第82回	井戸跡(2)	138
第83回	井戸跡(3)	139
第84回	井戸跡(4)	140
第85回	竪穴建物跡	142
第86回	溝・竪穴遺構・祭祀遺構分布図	143
第87回	トイレ状遺構分布図	151
第88回	祭祀遺構ほか(1)	153
第89回	祭祀遺構ほか(2)	154
第90回	祭祀遺構ほか(3)	155
第91回	祭祀遺構ほか(4)	156
第92回	かわらけ集成図(1)	161
第93回	かわらけ集成図(2)	162
第94回	かわらけ集成図(3)	163
第95回	かわらけ集成図(4)	164
第96回	かわらけ集成図(5)	165
第97回	かわらけ集成図(6)	166
第98回	かわらけ集成図(7)	167
第99回	かわらけ集成図(8)	168
第100回	かわらけ集成図(9)	169
第101回	陶磁器(常滑)	172

第102図	陶磁器(瀬美)	173
第103図	陶磁器(須恵器系・水沼)	174
第104図	陶磁器(白磁)集成図	175
第105図	陶磁器(青磁・青白磁・中国産陶器)集成図	176
第106図	瓦集成図(1)	177
第107図	瓦集成図(2)	178
第108図	木製品集成図(1)	181
第109図	木製品集成図(2)	182
第110図	木製品集成図(3)	183
第111図	木製品集成図(4)	184
第112図	木製品集成図(5)	185
第113図	絵画・文字資料集成図(1)	186
第114図	絵画・文字資料集成図(2)	187
第115図	金属製品集成図	189

第116図	遺構安遷図(I期)	195
第117図	I期建物(1)	196
第118図	I期建物(2)	197
第119図	遺構安遷図(II期)	198
第120図	II期建物(1)	199
第121図	II期建物(2)	200
第122図	II期建物(3)	201
第123図	遺構安遷図(III期)	202
第124図	III期建物(1)	203
第125図	III期建物(2)	204
第126図	III期建物(3)	205
第127図	III期建物(4)	206
付図1	柳之御所遺跡遺構配置図	
付図2	圃池23SG1平面図	

写真図版目次

23SG1全景	207
23SG1・II期池	208
50・52次調査区	209
55・56次調査区	210
銅印・白磁	211
白磁・青磁・青白磁	212
中国産陶器	213
57次調査出土輸入陶磁器 (57次調査)	214
写真図版1 23SG1畧石(II期)	215
写真図版2 23SG1・T1	216
写真図版3 23SG1・T2	217
写真図版4 23SG1・T3	218
写真図版5 23SG1・T4～T6	219
写真図版6 23SG1・T7、排水路	220
写真図版7 23SG1遺物出土状況	221
写真図版8 23SG1畧石ほか	222
写真図版9 排水路・北側調査区・東側調査区	223
写真図版10 東側調査区・堀外部地区	224
写真図版11 堀外部地区の調査	225
写真図版12 土坑(1)	226
写真図版13 土坑(2)・その他の遺構	227
写真図版14 溝跡(1)ほか	228
写真図版15 溝跡(2)	229
写真図版16 溝跡(3)	230
写真図版17 溝跡(4)	231
写真図版18 溝跡(5)	232
写真図版19 溝跡(6)	233
写真図版20 溝跡(7)	234
写真図版21 溝跡(8)ほか	235
写真図版22 かわけ(1)	236
写真図版23 かわけ(2)	237
写真図版24 かわけ(3)	238
写真図版25 かわけ(4)	239
写真図版26 瀬美産陶器(1)	240

写真図版27 瀬美産陶器(2)	241
写真図版28 瀬美産陶器(3)・常清産陶器(1)	242
写真図版29 常清産陶器(2)	243
写真図版30 須恵器系陶器ほか 中国産陶器(1)	244
写真図版31 中国産陶器(2)・瓦	245
写真図版32 木製品・その他の遺物(1)	246
写真図版33 その他の遺物(2)	247
写真図版34 その他の遺物(3)	248
写真図版35 平泉町中心部航空写真 (堀間が淵の調査)	249
写真図版36 堀間が淵跡(1)	250
写真図版37 堀間が淵跡(2)	251
写真図版38 堀間が淵跡(3)・ 柳之御所遺跡(1)	252
写真図版39 柳之御所遺跡(2)・花立I遺跡	253
写真図版40 柳之御所遺跡(3) (第1次・第2次総括)	254
写真図版41 52SE3かわらけ(1)	255
写真図版42 52SE3かわらけ(2)・ 52SE7かわらけ(1)	256
写真図版43 52SE7かわらけ(2)	257
写真図版44 52SE8かわらけ(1)	258
写真図版45 52SE8かわらけ(2)	259
写真図版46 52SE8かわらけ(3)	260
写真図版47 52SE8かわらけ(4)	261
写真図版48 52SE8かわらけ(5)	262
写真図版49 52SE8かわらけ(6)	263
写真図版50 52SE8かわらけ(7)	264
写真図版51 52SE10かわらけ(1)ほか	265
写真図版52 52SE10かわらけ(2)	266
写真図版53 52SE10かわらけ(3)	267
写真図版54 52SE10かわらけ(4)	268
写真図版55 55SE1かわらけ	269

I はじめに

1 調査経過

(1) 国史跡指定以前

昭和56年、高館の南東、北上川右岸に立地する柳之御所遺跡を通る一般河川北上川上流改修一閑遊水地事業及び平泉バイパス事業が計画されたことに伴い、(財)岩手県文化振興事業団郷土文化財センターと平泉町教育委員会によって、昭和63年から平成5年まで事前の緊急調査が実施された。

当初、柳之御所遺跡は、奥州藤原氏の初代清衡・二代基衡の居館と考えられ、北上川の浸食により既に遺跡の大半は失われたものと考えられていた。しかし、発掘調査の進展に伴い、12世紀を中心とする多量の遺物とともに、遺跡を囲む大規模な堀跡や建物群を囲む堀跡、圍池跡など重要な遺構の発見が相次ぎ、各方面から遺跡保存の要望が出された。このような中で、岩手県教育委員会では、遺跡の実態を把握するための範囲確認調査や関係機関との協議を行い、平成5年11月、岩手県知事と建設省(現国土交通省)東北地方建設局長は、「遺跡の保存と治水事業の両立を図り、事業計画を変更する。」との基本方針について合意した。

これまでの調査から、柳之御所遺跡は12世紀後半奥州藤原氏三代秀衡時代の政治的な中枢をなす遺跡であることが明らかにされてきており、武士社会成立過程における地方支配拠点の様相を具体的に知る全国でも類例の少ない遺跡とされ、平成9年3月5日に国指定史跡として官報告示された。

(2) 国史跡指定以後

県教育委員会では、柳之御所遺跡が平成9年に国の史跡に指定されたことから、当遺跡を史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁や柳之御所遺跡調査研究指導委員会(現平泉遺跡群調査整備指導委員会)の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象として内容確認の発掘調査を計画的・継続的に実施している。3ヵ年を1サイクルとし、第I期整備対象区域である堀内部地区を中心として調査を実施している。

平成10年度実施した第49次調査は、既往の調査で検出されていた圍池・中心建物群を囲む堀跡の追跡に主眼を置いて実施した。北上川に面する東辺の追跡を行った結果、緊急調査時点で検出されていた部分から7mほど北に向かい延長することが確認された。しかし、さらなる延長については検出されなかった。当初から部分的に堀を設置しなかったものなのか、あるいは後世に失われたものなのか次年度以降の課題とした。12世紀後半の井戸状遺構1基、トイレ状遺構4基、2×10間の長大な掘立柱建物が検出された。

平成11年度実施した第50次調査では、既往の調査で確認された圍池や大型の建物など、堀で囲まれた中枢域の周辺地域での12世紀代の遺構の広がりや密度を確認することを目的として発掘調査を行った。その結果、12世紀代の遺構が現況の河岸線まで分布し柳之御所遺跡の一部が北上川の侵食で失われていることが確認された。12世紀代の遺構についても、堀や井戸状遺構の検出、複雑に重複する掘立柱建物などが多数検出され、複数時期にわたって遺跡が営まれたことが明らかにされた。また、「髷前村印」と刻印された銅印と器表面全体を漆のしみ込んだ麻布で被覆されたほぼ完全な形に近い白磁四耳壺が同一の井戸状遺構から出土した。地名を刻印したと推定される銅印の発見は、奥州藤原氏の統治システムを考察する上で貴重な資料となるばかりでなく、本邦の印章史の空白期を埋める資料として注目された。

平成12年度の第52次調査では、従来から指摘されていた圍池の周辺域の中心建物群とは異なるエリアから、建物の軸線の異なる大型の建物が検出された。これは、時期を異にして大型の建物で構成される複数

の地域が存在したことであり、柳之御所遺跡の遺構の変遷を考えるうえでは重要な課題を提示した。両者とも12世紀後半代、三代秀衡の時代に比定される遺構群であるが、中心域に移動がおこなわれた背景には、平泉あるいは奥州藤原氏内部での何らかの重要な転換期を反映している可能性が考えられる。また、柳之御所遺跡は従来まで遺跡のピークが三代秀衡の治世12世紀第3四半期にあることが指摘されてきたが、新たに12世紀初頭あるいは前葉に位置づけられる一群の土器群が発見されたことで、当遺跡が12世紀前半代初代清衡の時期まで遡ることが明らかにされた。これは、政庁「平泉館」の性格あるいは、奥州藤原氏の平泉での確立期の状況を推定させる重要な発見である。

平成13年度の第55次調査では、新たに園池の北側に大規模な建物の存在が明らかとなり、柳之御所遺跡の中核施設の移動が想定されるようになった。また、初代清衡の時代である12世紀初め頃のかかわりがまとまって発見され、柳之御所遺跡の開始年代と遺跡の性格、ひいては平泉奥州藤原氏の設立期の問題を考える上で非常に大きな問題を示唆することとなった。

平成14年度の第56次調査では、遺跡中核部を囲む2条の堀跡の追跡調査を実施し、遺跡北部より30数基のトイレ状遺構が集中して見つかるなど、当時の生活の様子を具体的に分析できる資料が発掘された。また、平泉では初めてとなる中国南部の吉州窯製の陶器片も出土し、奥州藤原氏の経済基盤の豊かさを知る手がかりとなった。

平成15年度は第2次3カ年計画の最終年次に該当し、通年で第57次調査に相当する。今年度は、第23次（平成元年度）の調査で遺り替えが確認されていた、園池についての詳細な規模や造成時期の把握及び堀跡の追跡と門跡の確認、高館南側掘部分の遺構分布の確認を目的として調査を実施することにした。

2 本年度の調査について

(1) 平泉遺跡群調査整備指導委員会

当教育委員会では、平成10年度から柳之御所遺跡の内容確認調査を再開するにあたり、10名からなる「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登録されたことから、新たに5名の指導委員を委嘱し委員会の名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、さらに本年度、世界遺産本登録に向けたコアゾーン再検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称するとともに、三分野からなる専門部会を設置し、新たに1名の指導委員を委嘱した。

本年度は以下の内容で委員会を開催した。

(1) 第1回平泉遺跡群調査整備指導委員会

平成15年7月18日（金） 平泉町役場

- ・専門部会の設置について（県教育委員会）
- ・柳之御所遺跡整備実施計画策定について（県教育委員会）
- ・平泉遺跡群関連発掘調査計画について（平泉町教育委員会・岩手県立博物館）
- ・平泉文化研究機関整備推進事業について（県教育委員会）

(2) 平泉遺跡群調査整備指導委員会遺構検討部会

平成16年1月16日（金） 平泉郷土館

- ・柳之御所遺跡の遺構変遷について（県教育委員会）
- ・無量光院跡の調査状況について（平泉町世界遺産推進室）

(3) 第2回平泉遺跡群調査整備指導委員会

平成16年2月19日(木) 平泉町役場

- ・平成15年度平泉遺跡群の発掘調査成果について(県・平泉・衣川・前沢町教育委員会)
- ・保存管理計画について(平泉町教育委員会)
- ・柳之御所遺跡の遺構変遷及び整備計画について

(4) 平泉遺跡群調査整備指導委員会整備検討部会

平成16年3月

- ・整備のゾーニングと動線(第1段階整備計画)
- ・整備手法の検討(建築遺構及び園池の整備、遺構露出展示)

平泉遺跡群調査整備指導委員会

氏名	役職	専門分野	専門部会	備考
入間田宣夫	東北大学東北アジア研究センター教授	歴史学(古代・中世)	整備	
牛川 喜幸	京都橘女子大学教授	造園学・史跡整備	整備	
遠藤セツ子	メビウスの会代表	地元有識者	整備	
岡田 茂弘	東北歴史博物館長	考古学(古代)	保存・整備	
小野 正敏	独立行政法人国立歴史民俗博物館助教授	考古学<陶磁器>	遺構	
河原 純之	川村学園女子大学教授	考古学(中世)		委員長
工藤 雅樹	福島大学教授	考古学・歴史学(古代)	遺構・保存	副委員長
斉藤 利男	弘前大学教授	歴史学(中世)	遺構	
佐藤 信	東京大学教授	歴史学(古代)	保存・整備	
清水 擴	東京工芸大学教授	建築学	遺構	
清水 真一	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所建造物研究室長	建築学	遺構	
関宮 治良	平泉町商工会事務局長	地元有識者	整備	
田中 哲雄	東北芸術工科大学	造園学	保存・整備	
田辺 征夫	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部長	考古学(歴史)	遺構	
玉井 哲雄	千葉大学教授	建築学	遺構	
西村 幸夫	東京大学教授	都市工学	保存	

※ 専門部会 遺構・・・遺構検討部会、保存・・・保存管理計画検討部会、整備・・・整備検討部会

(2) 調査の目的と調査の方法

平成15年度は柳之御所遺跡発掘調査第2次3カ年計画の最終年次にあたり、堀内部地区中核と想定される園池部分と堀外部地区高館南側掘部分を主な調査対象地区として調査を実施した。

今年度の調査は以下の内容を目的として行った。

- (1) 造り替えが明らかになっている園池について、さらに詳細な規模や造成時期の把握。
- (2) 高館南側掘部分の遺構分布の確認。

(3) 第23次発掘調査で確認された屏の追跡調査及び門跡の有無。

発掘調査にあたって昭和63年度の(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った緊急発掘調査の際に設定したグリッドに従った。グリッドの野称についても同様である。

基本的には遺構の内容把握を主目的としている。遺構の所属時期の確定・遺構の性格等を把握することを最優先しており、検出した遺構すべてを最終的な段階まで精査しているわけではない。なお、半截あるいは完掘した遺構については砂で埋め戻し、遺構面を覆い、可能な限り元の状態に復旧し保存を図っている。

柳之御所遺跡発掘調査年次計画

年次		調査回数	調査面積	調査期間	予算(千円)	備考
第1次 三カ年 次計画	平成10年度	第49次	500㎡	5月15日～ 10月31日	18,211	国庫補助
	平成11年度	第50次	1,800㎡	5月13日～ 10月31日	32,236	国庫補助
	平成12年度	第52次	2,500㎡	5月15日～ 11月17日	43,341	国庫補助
第2次 三カ年 次計画	平成13年度	第55次	3,100㎡	5月11日～ 11月13日	46,103	国庫補助
	平成14年度	第56次	4,000㎡	5月13日～ 11月29日	62,054	国庫補助
	平成15年度	第57次	4,000㎡	4月14日～ 10月31日	67,195	国庫補助
第3次 三カ年 次計画	平成16年度		3,100㎡			
	平成17年度					
	平成18年度					

※ 平成15年度までは実績、16年度以降は予定

柳之御所遺跡発掘調査年次別調査計画

年 次	調査回数	調 査 内 容 等	
第 1 次 三 カ 年 次 計 画	平成10年度	第49次	<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。 ・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。 ・23SA3柱列跡、23SA1塀跡の延長確認。 ・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。
	平成11年度	第50次	<ul style="list-style-type: none"> ・池跡及び中心建物群を囲む23SA1塀跡の追跡。 ・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 ・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況追跡。 ・37次、42次の内容確認調査で確認されていた溝・塀頭の時期及び伸展状況の把握。
	平成12年度	第52次	<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。 ・祭祀遺構周辺域の解明。 ・無量光院との対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。
第 2 次 三 カ 年 次 計 画	平成13年度	第55次	<ul style="list-style-type: none"> ・中心建物群の北側地区の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される塀跡の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 ・現存する微高地状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地域の状況把握。
	平成14年度	第56次	<ul style="list-style-type: none"> ・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と張出施設を伴う溝の追跡。 ・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。 ・遺跡を二分する外堀の追跡。
	平成15年度	第57次	<ul style="list-style-type: none"> ・旧池跡の規模と造成時期の把握。 ・遺跡中核を囲う塀の追跡調査及び門跡の確認。 ・高館南側裾部分の未調査地域の遺構分布の確認。
第 3 次 三 カ 年 次 計 画	平成16年度		<ul style="list-style-type: none"> ・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 ・北上川縁地域の状況把握 ・堀外部地区との連絡施設(道路・橋等)の確認。

51次・53次・54次調査は平泉町教育委員会が実施。

Ⅱ 自然環境

1 位置

遺跡の所在する岩手県西磐井郡平泉町は、県南部に位置する面積6,339km²、人口約9,050人の町である。10km南には県南部の中心都市である一関市があり、北は胆沢郡雫沢町と衣川村、東は東磐井郡東山町に接している。県都盛岡市からは南におよそ83kmに位置する。

県南部に位置するために、冬期間の気候が厳しい岩手県のなかでは比較的温暖である。気候は内陸型で、年平均気温は11.5℃とやや低いが、4月～10月は気温も上昇し、年間降水量は900mmと県平均を下回り、冬期の積雪も少ない。

土地利用は、山林原野が約48.2%と最も多く、耕地は25.9%（水田19.8%、畑地6%）となっている。北上川などの河川沿いの沖積地と山地傾斜面を利用して、古くから「米作プラス商業的畑作」という複合経営が営まれていた。また、北上川西岸の平地地にJR東北本線と国道4号が並行して南北に走り、平泉駅前を中心に市街地が形成され、旧国道4号線沿いに商店街が軒を並べている。市街地の西端には昭和52年に開通した東北自動車道が走り、平泉駅の北3.8kmにある平泉・前沢インターチェンジは、国内有数の観光地である平泉へ多くの観光客を受け入れる役割を果たしている。

柳之御所遺跡へは次のような道順をたどる。JR東北本線平泉駅を出るとすぐ交差点がある。そこを右折した道が旧国道4号線で、直進してJR東北本線の踏切を越えたと間もなく県道相川－平泉線との交差点があるので、そこを右折すると300mほどで右手に柳之御所資料館が見える。その手前の道路の両側に広がる台地の縁に柳之御所遺跡がある。北側は台地の縁がほぼ北上川に接しているが、南側は北上川との間に狭い沖積地が広がる。駅からの距離は、およそ900m、徒歩10分である。20万分の1の地勢図では「一関」、5万分の1の地形図では「一関」の図幅に含まれ、北緯38° 59' 28"、東経141° 7' 35"付近に位置する。



第1図 平泉町位置図

2 地形

平泉町は北上盆地南部に位置し、西に奥羽山脈が連なり、東に北上山地が並び、南端は西から張り出す磐井丘陵に接している。盆地中央を、岩手県北部にある七時雨山付近に源を發し、岩手県を縦断して宮城県石巻湾に注ぐ全長249kmの北上川が流れている。北上川は平泉町をすぎると一関市の孤禪寺峽谷と呼ばれる狭窄部に入るが、増水した川がこの狭窄部でせき止められる形になり、すぐ上流にあたる平泉・一関地区に溢

れ出して大洪水の要因の一つとなっている。昭和23年のカスリン台風、翌24年のアイオン台風による被害は、一関遊水地事業計画にも大きく影響している。反面、この北上川が12世紀の物資の流通に重要な役割を果たしていたことが出土遺物等からも推測できる。

平泉町付近では、北上盆地を挟んで、東は標高596mの東福山、西は標高200m前後の衣川丘陵が広がる。盆地中央部を南流する北上川に、平泉丘陵を挟んで北は衣川、南は太田川が西から流入している。衣川は古代の奥六郡の南の境界となるもので、その北には広大な起伏扇状地が広がる。衣川と太田川に挟まれた平野部が現在の平泉町の中心部であるが、それは12世紀当時の「都市平泉」と重なるものである。

柳之御所遺跡は平泉市街地の東端の河岸段丘縁辺部に立地し、北西から南東に細長く、最大長約750m、最大幅約220m、その面積はおおよそ11万㎡である。北端は義経最期の地と伝えられる高館と接し、西は蒲間が淵と呼ばれる最大幅約58mの低地を挟み無蓋光院跡と隣接している。また、東は北上川によって囲まれ、南東から南には沖積地が広がっている。標高は、南端が22～25mで、北へ向かって漸次高くなり、高館と接するあたりで約38mになる。

一関遊水地・平泉バイパス建設事業が計画されたことに伴い、昭和63年から行われた緊急調査以前は、遺跡内の広い範囲が宅地化されており、次いで水田や畑地として利用されていた。それに伴う地形変化や擾乱は随所に見られ、特に県道相川・平泉線から北では遺構の大規模な削割を伴っていた。

《参考・引用文献》

- (1) 平泉町ホームページ
- (2) 三浦隆一・松本建彦(1994)『柳之御所(岩手県文化振興事業団遺産文化財調査報告書第228集)』(財)岩手県文化振興事業団



第2図 遺跡位置図(1:25,000)



左が北 1 : 5,000 トーンは堀内部地区

第3図 遺跡周辺地形図

Ⅲ 柳之御所遺跡57次調査

1 検出された遺構と遺物

〔1〕 園池跡と附属施設

一関遊水地事業・平泉バイパス建設関連の発掘調査で検出されていた23SG1園池跡を今回再調査した。57次調査ではあるが23SG1という遺構名を引き続き用いることとした。前回出土の遺物と今回出土した遺物が将来的に混乱しないために今回の遺物についてはY G57SG1と注記を変えている。本遺構のほかに附属施設として関連が指摘されていた導水溝28SD1と排水溝31SD58、そして重複して検出された57SE3についてもここで記述する。

はじめに先の調査によって得られた成果について、報告書から引用したい。

「園池跡は中心建物群の南西にあって塀23SA1の東辺から西へ65.5～95mの範囲にある。主軸が南北方向にあり、最大長40.5m±、最大幅32.4m±である。23SG1は、12世紀代には大きく2時期の変遷が考えられ、古い方から順にⅠ期～Ⅱ期とする。そして、Ⅱ期以降に東部の一部を埋め戻す形で築いており、Ⅱ期以降も園池として機能していたかあるいは自然の大規模な窪地の状態にあったことが埋土から推測でき、それはⅡ期以降と言うことで記述する。

Ⅱ期…Ⅰ期を完全に改修し、基本形態を大幅に変更していることをトレンチ1の土層断面A-A'に見ることができる。断面の観察では、池底は深度0.8から0.9mでほぼ一定の平坦な面をもち、それを覆う16層灰色粘土は層厚5～20cmで全体に広がる。その上に山形に載る21・28・34層は地山起源の粘土が卓越し、最大層厚55cmである。この層は園池の堆積物の一部ではなく、Ⅱ期に伴う改修に用いられた粘土である。その結果、滲水性の園池であるⅠ期の形式は失われ、溝を多数掘り出すような形にし、曲水の範疇で捉えられるⅡ期の形式が成立する。しかし、Ⅰ期についてはこのトレンチで調査しただけで、他はⅡ期に伴う調査の際に断片的に同じ状態が見られることを複数の箇所を確認しているにすぎない。東部には…」

要約すると以下のようになる。

- ・園池跡23SG1は12世紀代には大きく2時期の変遷がある（古い方からⅠ期～Ⅱ期と呼ぶこととする）。
- ・Ⅰ期は滲水性の園池であるが部分的な調査により正確な規模や形状は不明である。
- ・排水溝はⅠ期の園池に伴う。
- ・Ⅱ期はⅠ期を完全に改修（埋め立て）て、溝を多数掘り出すような形にし、大小の礫（景石）を配している。流れを重視した曲水の範疇で考えることができる形式へと変化している。
- ・導水溝28SD1は残りが悪く、23SG1と接続しているのは確実だが導水溝とする根拠は多いとはいえない。
- ・Ⅱ期以降については12世紀のものかそれ以降か判断し難い。

これらのことを踏まえ、今回は内容のよく判っていない古く段階の池跡（Ⅰ期）を、主な調査の対象とした。現実として古い段階の池跡（Ⅰ期）は、新しい段階の池跡（Ⅱ期）の下にあるため、発掘調査ではⅡ期の池跡を破壊しなければⅠ期の状況を把握することは不可能であった。そのため、Ⅱ期池跡の形状を大きく損なわないよう（配置された大小の礫があまり分布していないところ）配慮してトレンチは必要最小限に設定した。

23SG1・T1 (第5図・写真図版2)

前回の調査で設定したトレンチ1を再度クリーニングしT1とした。前報告書で記載されている断面A-A'とは逆方向の南側から北側を見る方向で記録をとった。

I期 遺構検出面から地山を約90cm掘り下げて構築されている。池底は概ね平坦で標高は25.0～24.9mを割り、西側が幾分高くなっている。大小の礫は全く見られない。池底から岸への立ち上がりは、土を改めて入れ直して整えられていた。12層がこれに相当する。I期の段階の埋土は11層である。灰色の泥と砂から成り、水を溜めた池底に沈殿した様相を呈していた。

II期 古い階段の池跡を埋め立てるかたちで構築されている。立体的に土を入れて（5～9層）溝状の低い部分と鳥状・尾根状の高い部分とを造りだし、主に高いほうに礫を貼り付けている。原則としてII期の池が機能していたときの堆積土は前調査時に掘られて残っていないが10層がそれに相当するかもしれない。1～4層には人為的な盛土の間に流れ込んだような土もあり解釈が難しい。こうした堆積状況はこの部分でしか観察されなかったので現時点では、II期の池を構築する途中段階に雨水等と共に流れ込んだものと考えている。
出土遺物 (第27図・写真図版22) かわらけ1～3がI期池に伴いほぼ底面から出土した。4・5はII期池に属する。

23SG1・T2-A (第6図・写真図版3)

73-74-73-75グリッドに設定した。23SG1北端部のほぼ中央にあたる。

I期 調査の結果、この地点付近は古い階段の池跡の外側になることが判明した。

II期 遺構検出面から45cm程下げると地山を掘り込んだ底面に達した。概ね平坦な底面から岸への立ち上がりは北側と南側の両方で確認できたが南側のほうは溝を複数造りだすII期の池跡の溝と溝との間にできる鳥・尾根状の高い部分への立ち上がりにあたる。埋土は流れ込んだ砂が卓越し、底面付近ではグライ化している。遺物は3～6・9層からの出土が目立つ。

出土遺物 (第27図・写真図版22) かわらけ6～17はII期池に属し、まとまった状態で出土したことから一時の廃棄による可能性が高い。

23SG1・T2-B (第6図・写真図版3)

74-75グリッド、23SG1北半の中央に設定した。

I期 遺構検出面から40cm程掘り下げた段階で地山の池底を確認した。平坦な底面で標高は25.0mを測る。埋土は2～4層の灰色泥・細砂が相当し、止水状態で池底に沈殿したものと解釈できる。出土遺物はない。

II期 1層がI期の池を埋め立ててII期の池を造成した土に相当する。摩耗したかわらけ細片を含む。

出土遺物 図化可能な遺物は出土しなかった。

23SG1・T2-C (第6図・写真図版3)

73-76グリッド、23SG1池跡のほぼ中央に設定した。

I期 I期池跡より古い57SE3とII期池の盛土に挟まれているため残存状態は非常に悪い。前述した池底の堆積土には、断面A-Bでは4層が類似し標高を比較しても矛盾しない。この時期に伴う遺物は出土していない。

II期 断面C-Dでみると、排水溝31SD58を埋め、57SE3より北側では新たに地山を掘削した後、改めて盛土し大小の礫を置いて成形している。1～7層がII期の池跡を造成する際に入れた土にあたる。

排水溝 (31SD58) 断面C-Dでみると、II期の池跡を造成する段階で埋められていることが判る。溝の

底面で標高は24.85mあり、Ⅰ期の池底より僅かに低く作られている。埋土は砂と泥との互層が主体で本遺構が排水の機能を有していた時期に堆積したものと解釈できる。調査中に出土した板材は溝の側壁に使われていたものが壊れて在ったものと思われる。

57SE3 池跡23SG1(Ⅰ・Ⅱ期)や排水溝よりも古い。遺構検出面より1m程掘り下げた時点で調査を中断し、保存することとした。そのため詳細は不明である。

これらのことから、このトレンチの部分がⅠ期における池と排水溝とが接する部分にあたるかと判断した。出土遺物(第27図・写真図版22) かわらけ19-22はⅡ期池に関連するものである。23は57SE3からの出土で特大のクワロかわらけである。木製品も9点掲載したが、4001に関しては、排水溝の側板が破損したものと考えられる。検出はしたが取り上げずに埋め戻した材もある。57SE3と23SG1が重複するため、出土した木製品も互いの遺物が混じっている感がある。4005や4009は57SE3に属する可能性が高い。

23SG1・T3-A(第7図・写真図版4)

71-75グリッド、池北北部の西端に設定した。

Ⅰ期 調査の結果、この付近は池ではないことが判明した。

Ⅱ期 遺構検出面から約40cm掘り下げた段階で地山面に達した。この段階の池跡を構築する際に掘削した部分にあたる。埋土は1-3層までがⅡ期の池跡を成形するために盛られたものであるが、4層は流れ込みによるとみられる暗灰黄色泥である。現時点ではⅡ期池跡の造成途中に雨水等と共に堆積したものと考えたい。出土遺物(第28図・写真図版22・23) 3・4層の出土が多かった(24-37)。37には底面に穿孔が認められる。

23SG1・T3-B(第7図・写真図版4)

71-76グリッド、池の北半部西側に設定した。

Ⅰ期 調査の結果、この付近は池ではないことが判明した。

Ⅱ期 遺構検出面から20cm前後掘り下げると地山面並びに排水溝を確認した。南側は緩やかに立ち上がり岸となる。埋土1層はⅡ期池跡を造成した際に用いられた土で、かわらけ片も多かった。

排水溝(31SD58) Ⅱ期池跡によって埋められていた。幅48cm、深さは16cmで溝底面の標高は24.88mを測り、その下には掘り方も確認できた。西側壁には板を用い、柳之御所で検出された12世紀代の溝跡の中でも、しっかりとしたつくりである。埋土はグライ化した細砂が多く、排水溝として機能していた時期に堆積したものであろう。遺物は出土していない。

出土遺物(第28図・写真図版23) かわらけ38-48が出土した。何れもⅡ期池に関連する。

23SG1・T4(第7図・写真図版5)

75-74グリッド、池北部の北東端近くに設定した。

Ⅰ期 6層が池を掘削した後に改めて整形するために入れ直した土と判断した。地山面で標高は29.0m、池の底面と推測される6層の上面では25.1-25.0mを測る。

Ⅱ期 Ⅰ期の池跡よりもさらに北側へ規模を拡張する形で地山を掘削している。池を成形する際には、北側から南側へと緩やかに下るように土を入れてから礫を貼り付けている。北側の遺構検出面付近(標高約25.8m)はこの時期の地表面とさほど変わっていないと思われる。この上に旧表土を厚く想定してしまうと、池と当時の地面との高低差が大きくなってしまふからである。

出土遺物(第28図・写真図版23) Ⅱ期池に関連してかわらけ49が出土した。

23SG1・T5(第8図・写真図版5)

75-75グリッド、池北半部の北東側に設定した。

I期 遺構検出面から最大で57cm下げると地山を掘り込んだ池底が確認された。底面は平坦で標高は24.8mを測る。池底から岸への立ち上がりには改めて土を盛って緩やかに成形している(4層)。埋土は2・3層で水を湛えた池底に堆積した泥や砂が互層を成している。かわらけ52はこの段階の池跡に伴う。

II期 I期の池跡を埋め立てるかたちで土を入れ表面には礫を貼り付けている。摩滅したかわらけ片も少量含む。北側は当時の岸にあたる部分だが、現地形の高低差を少なくするために広範囲で削平したものと推測される。

出土遺物(第28図・写真図版23) I期に伴って手づくねかわらけ52が、II期に関連して手づくねかわらけ51が出土した。

23SG1・T6(第8図・写真図版5)

77-73グリッド、池の北東端付近に設定した。

I期 調査の結果、池北側の岸部分になることが判った。

II期 遺構検出面から20cm前後地山を掘り込んでいた。そこに盛土をし、表面には礫を貼り付けている。表面は立体的ではなく比較的平坦に整形されている部分である。

出土遺物 なし。

23SG1・T7(第8図・写真図版6)

73-75グリッド、池北半部の中央付近に設定した。

I期 遺構検出面から約50cm下げると地山を掘り込んだこの時期の池底が確認された。その上には岸へと立ち上がる部分を成形するために入れられた3層があり、さらには池が機能していた時に底に堆積した2層があるので。遺物は3層から手づくねかわらけ片が出土したが図化できなかった。

II期 I期の池跡よりさらに北-西側へと拡張するように地山を削平し、その上に立体的に土を入れ、表面には礫を貼り付けている。埋土にはかわらけの微細な破片を多く含んでいた。

23SG1・T8(第9図・写真図版6)

排水溝が地形的な要因で自然消滅する部分に設定した。標高は24.74mを測る。池との取り付け口での標高が24.85mあり、緩やかではあるが傾斜がつけられている。遺構検出のみで精査を行っていないが、両側壁に並べられた板材の痕跡と見られるプランは確認できた。本来は柳の御所を区画する堀跡まで達していたと考えるのが素直で、そうなれば総長は43mとなる。

小 結

前回の調査と今回の調査によって明らかになったことについてここで整理しておく。

〈I期〉

- ・柳の御所堀内部地区に初めて造られた園池である。
- ・水を湛える池で規模は東西最大で22m、南北最大25mを測る。80~90cmは少なくとも落水が可能な深さを有していた。
- ・池の南端部についてはII期の深い溝③⑥の壁にあらわれるI期池の埋土から想定した。
- ・地山を掘り込んで平坦な池底とし、底から岸への立ち上がりには改めて土を入れ直して緩やかに立ち上がるように成形されている。

- ・礫は一切用いられていない。
- ・西側には排水溝が付けられ、西側へ延びて柳之御所を区画する堀へと排水されていた。
- ・池底から出土したかわらけは手づくねかわらけで、12世紀後半（秀衡期）のものである。

Ⅱ期

- ・Ⅰ期の池を廃し、その上に規模を拡大する形で構築されている。
- ・東西約40.5m、南北約32.4mの範囲で地山を掘削し、改めて立体的に盛土を行い大小の礫を表面に貼り付けて整形している。
- ・幾筋もの溝状の「流れる」低い部分とその溝の間にできる島・尾根状の高い部分（低くない部分といった方が適切か）から成る。溝は8条程想定され、その要所に景石が配置される。
- ・溝は大きく分けて南へ流れるものと、南東側へ流れるものがある。前者は最終的に1本の溝に集結し、やや蛇行して柳之御所を囲む堀へと延びている。後者に関しては緩やかに下る地形の影響で遺構が自然消滅してしまい全容は把握できない。これらの溝に新旧関係が存在する可能性も否定できないが、Ⅱ期池の埋土は前回の調査で掘られていたため今回の調査では検証できなかった。
- ・溝が大きく別れて流れる間の空間（陸地の部分）には一見、園池とは無関係に配置されたように見える礫群がある。礎石の根石との指摘もあり、現存するものは記録をとったが残りが悪く、建物になるように展開するからなかった。
- ・出土したかわらけからは12世紀後半と位置づけるのが妥当で奥州藤原氏滅亡の頃まで機能していたと考えたい。

Ⅱ期の園池に配された大小の礫

Ⅱ期池の造成に伴って配置された大小の礫の石質について代表的なものをここで記しておく。溝⑩に南接する大型の礫群（景石）では、黒色頁岩や砂質頁岩（宮城県石巻付近のものに似る）を安山岩（奥羽山系）や凝灰岩が取り囲むように配置されている。またそのすぐ東側には、北上川東岸産と見られる石英安山岩がある。溝⑦東端部の北岸には安山岩（奥羽山系）、凝灰岩、黒色頁岩、花崗岩が護岸に並べて配されている。そのすぐ南東部の溝⑤～⑧が集中する地点には緑色に変質した安山岩、砂岩、砂質頁岩、黒色頁岩（北上山系南部）などが窪みを囲むように並んでいる。溝⑤と⑧が分かれる部分には砂岩（宮城県などでよく見られる）、安山岩、花崗岩などが置かれている。その他には蛇紋岩（北上山系）、凝灰質粘板岩、石英安山岩、チャート、流紋岩などで構成されている。奥羽山系起源のほか、対岸の東稻山麓や宮城県北を含む北上山系南部の石材を多用しているようである。

園池周辺の地形

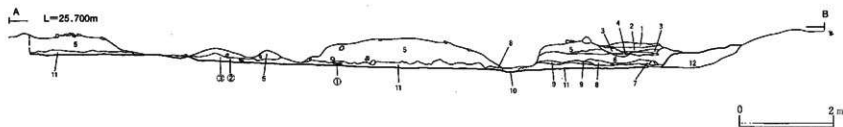
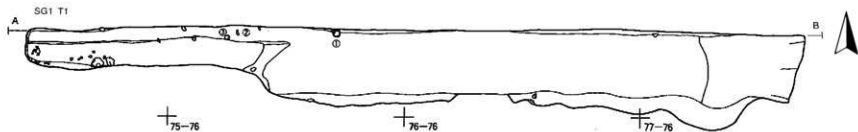
柳之御所遺跡全体の地形を簡単にいえば高館山のある北西側から南東側へと緩やかに下る。加えて北上川に近い北側が高く、反対に猫間が淵に近い南側が低くなるという地形になっている。園池を構築する際にはこうした緩斜面を平坦にしなければならなかったと推測される。特に園池北側の高いほうでは大規模に削平をしてから園池を構築していたと考えたい。本遺構での遺構検出面は地山であったが、この地山の上に当時の表土を厚く想定してしまうと、池と当時の地表面との高低差が大きくなり過ぎてしまうのではないかとと思われる。園池の北東側を中心に削平され水田として利用されていた部分があるが、これは12世紀の園池造成時の地形変化（土採り部分）を近年新たに手を加えたものではないかという可能性を指摘しておきたい。その一方で猫間が淵に近い池南西部の低い部分には盛土されていたと推察され、これは後に流失して痕跡がわからないものと解釈したい。

園池の環境

Ⅰ期池の埋土を中心に土壌サンプルを複数採取した。分析結果については次の報告書にて記載したい。



第4図 23SG1・トレンチ設定



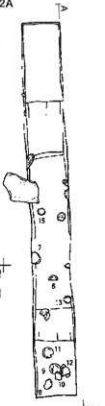
第5図 3SG1・T1

SG1 T1

- 1 10YR2/2黒褐色泥質土や褐色泥質土の互層 明黄褐色土もその間に見られるが、流れ込みと沈殿による埋積か 粘性・締りやや有
- 2 2.5Y5/1黄灰色泥質土 酸化鉄有 地山ブロック少量含む 粘性・締りやや有
- 3 2.5Y4/1黄灰色泥 酸化鉄有 粘性・締りやや有
- 4 2.5Y3/1黒灰色泥 酸化鉄有 粘性・締りやや有
- 5 2.5Y7/6明黄褐色土ブロック主体 他に淡黄色粘土ブロック・暗褐色土ブロック・小〜中河原石・かわらけ微細片などを含む 粘性やや有 締っている
- 6 2.5Y7/3淡黄色粘土ブロック主体 他に黒褐色土・河原石(小)を含む 粘性やや有 締っている
- 7 2.5Y5/2暗灰色砂質土 黒褐色土ブロック微量含む 粘性弱 締りやや有
- 8 2.5Y6/3にふい黄色砂 粘性なし 締りやや有

- 9 10YR6/3にふい黄褐色砂 黒褐色土ブロック・淡黄色粘土ブロック含む 粘性弱 締りやや有
 - 10 10GY5/1緑灰砂質土 微小な河原石を微量含む 粘性弱 締り弱
 - 11 10Y4/1灰色泥 10Y5/1灰色泥と交互に堆積 粘性・締りやや有 池底に沈殿堆積した土
 - 12 2.5Y7/3淡黄色粘土ブロック主体 他に黒褐色土・河原石(小)を含む 粘性やや有 締っている
- ※ 1〜4層は流れ込みと沈殿による埋積 つまり、Ⅱ期の池の埋土か？
 ※ 5〜9層はⅡ期溝を遡る際の盛土
 ※ 10層はⅡ期池の盛土と思われる
 ※ 11・12層はⅠ期池の埋土
 ※ 土サンプル「SG1 T1 Ⅰ期池」は11層から採った
 ※ 土サンプル「SG1 T1 Ⅱ期池」は4層から採った

SG1 T2A



A L=26.000m

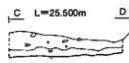
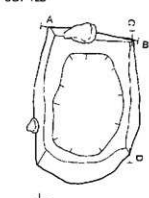


SG1 T2A

- 1 10Y7/4に多い黄褐色砂 河原石少量含む 粘性なし 締まっている
- 2 10Y6/2に多い黄褐色土 崖山アブロックを多量に含む 粘性やや有り 締まっている
- 3 10Y6/2に多い黄褐色砂 かわらけ含む 炭粒も混入含む 粘性なし 締まっている
- 4 2.5Y6/1黄褐色砂 炭粒ごく微量含む 粘性なし 締まっている
- 5 2.5Y6/1黄褐色砂土 炭粒ごく微量含む 粘性・締りやや有り
- 6 2.5Y6/4明黄褐色砂 炭化して赤褐色を呈する部分もある 粘性なし 締まっている

- 7 7.0G5/1青灰色砂 部分的に褐色の泥も混入している 粘性弱 締りやや有り
- 8 10Y6/2黄褐色砂 炭化赤じり 粘性なし 締まっている
- 9 2.5Y6/1黄褐色砂 部分的に炭化し明黄褐色となる 粘性なし 締まっている
- 10 10G2/6緑灰色粘土アブロックが主体で中に砂 炭粒土など混入する 粘性有 締りやや有り
- 11 10Y6/1黄褐色砂 粘土アブロック 炭を少量含む 粘性弱 締りやや有り
- ※ 1-11層は3期堆積の地層
- ※ 土ヤンタル「T2A、T2B」はT2層から採った

SG1 T2B



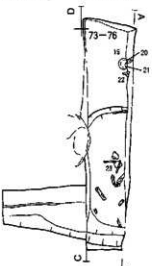
SG1 T2B

- 1 2.5Y7/4明黄褐色土 粘黄褐色土・河原石(小)・かわらけ細片等を含む 粘性やや有り 締まっている
- 2 5Y4/4黄褐色泥 炭粒含む 粘性やや有り 締りやや有り
- 3 5Y4/4黄褐色砂 粘性弱 締りやや有り
- 4 10Y7/4黄褐色泥 粘性やや有り 締まっている
- ※ 2-4層は1期堆積の地層

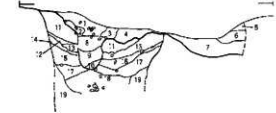
SG1 T2C

- 1 2.5Y6/4黄褐色土 粘灰・炭粒土アブロック少量含む 河原石少量含む 粘性弱 締まっている
- 2 10Y6/2黄褐色土 明黄褐色土アブロック微量 河原石少量含む 粘性やや有り 締りやや有り
- 3 10Y6/4に多い黄褐色土 崖山アブロックを微量含む 粘性・締りやや有り
- 4 10Y7/4黄褐色粘土質土 粘灰土アブロック多量に含む 粘性・締りやや有り
- 5 2.5Y7/4黄褐色土アブロック土 砂・炭粒混入に炭化赤じり少量混入 粘性弱 締まっている
- 6 10Y6/5黄褐色土 炭粒と崖山アブロックごく微量含む 粘性やや有り 締りやや有り
- 7 10Y6/5黄褐色土 炭粒と崖山アブロック微量 河原石少量含む 粘性やや有り 締りやや有り
- 8 10Y6/4に多い黄褐色土 崖山アブロックを微量含む 粘性・締りやや有り
- 9 2.5Y6/1黄褐色土 崖山アブロック少量含む 粘性やや有り 締りやや有り
- 10 2.5Y6/1黄褐色土 崖山アブロック少量含む 粘性・締りやや有り
- 11 10Y6/4明黄褐色土 炭粒混入土アブロック多量に含む 河原石も多量に混入 粘性やや有り 締りやや有り
- 12 2.5Y7/4黄褐色土 炭化赤じり 粘性・締りやや有り
- 13 2.5Y7/4黄褐色土 炭化赤じり 粘性・締りやや有り
- 14 10Y6/5黄褐色土 炭粒と崖山アブロックを微量含む 粘性・締りやや有り
- 15 2.5Y7/4黄褐色土 炭化赤じり 粘性・締りやや有り
- 16 2.5Y6/1黄褐色土 崖山アブロック少量含む 粘性・締りやや有り
- 17 2.5Y6/1黄褐色土 崖山アブロック少量含む 粘性・締りやや有り
- 18 10Y6/4明黄褐色土 炭粒混入土アブロック多量に含む 河原石も多量に混入 粘性やや有り 締りやや有り
- 19 2.5Y7/4黄褐色土 炭化赤じり 粘性・締りやや有り
- 20 1-2層は地層上 8-10層は地層上 11-19層は(地層上)の埋土
- 21 1-2層は「SG1 T2C」1期堆積の地層 8-10層は「SG1 T2C」2期堆積の地層 11-19層は「T2C」より古い埋土層 11-19層は「T2C」より古い埋土層 11-19層は「T2C」より古い埋土層
- 22 土ヤンタル「SG1 T2C」より古い埋土層 11-19層は「T2C」より古い埋土層

SG1 T2C



C L=25.700m

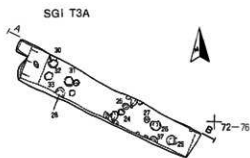


SG1 T2C

- 1a 10Y6/4黄褐色土アブロック主体 その埋土層に多い黄褐色土 粘土河原石を微量含む 粘性やや有り 締まっている
- 1b 10Y6/1黄褐色土 黄褐色土アブロックが混在する 炭粒ごく微量含む 粘性やや有り 締まっている
- 2 2.5Y6/2黄褐色土 黄褐色土アブロックを不規則に少量含む かわらけも含む 粘性やや有り 締まっている
- 3 10Y7/4明黄褐色土アブロックと黄褐色砂質土アブロックの混入 河原石(小)ごく微量含む 粘性有 締りやや有り
- 4 10Y7/4黄褐色土 10層との間には厚さが1cmに満たない炭の層が見られる

- また4層でも土の厚さは約1cm 粘性・締りやや有り(1期堆積の埋土)
- 5 2.5Y6/4黄褐色土と明黄褐色土 共に埋土層と混在する 粘性・締りやや有り(土の厚さ)
- 6 10Y6/1黄褐色土 粘性弱 締りやや有り
- 7 2.5Y6/1黄褐色砂土 明黄褐色土 炭粒混入土アブロック少量含む 粘性・締りやや有り
- 8 2.5Y6/4明黄褐色土アブロックと黄褐色砂質土アブロックの混入 粘性・締りやや有り
- 9 2.5Y6/4明黄褐色土アブロックと黄褐色砂質土アブロックと黄褐色粘土アブロックが混在する 粘性・締りやや有り 締まっている
- 10 7.0G5/1黄褐色粘土質土 粘性・締りやや有り 締りやや有り
- 11 5Y6/4黄褐色土 粘性・締りやや有り
- 12 7.0G5/1黄褐色粘土質土 11層との間に炭粒(豆さ)を混入しない 粘性弱 締りやや有り
- 13 10Y6/1黄褐色土 粘性弱 締りやや有り
- 14 中小の河原石が多量に混入
- ※ 1-3層は1期堆積の地層
- ※ 5-11層は2期堆積の地層 11-19層は埋土

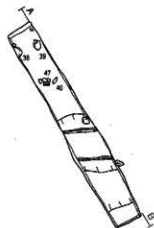
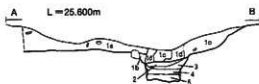
第6図 23SG1・T2A~T2C



SGI T3A

- 1 10YR5/6黄褐色土 黄褐色土ブロック 燧石 河原石(小)ごく少量含む 粘性やや有 締っている
- 2 10YR6/6明黄褐色土ブロック主体 その隙間に黄灰色土燧石 炭粒ごく(微量含む) 淡黄灰色土ブロックを部分的に包含含む 粘性やや有 締っている
- 3 2.5Y5/2灰黄色砂質土 明黄褐色土ブロックを不規則に多量に含む 粘性弱 締りやや有
- 4 2.5Y3/2暗灰黄色土 粘性・締りやや有 導水性・沈降と流れ込み作用にて 1-3層とは大気乾燥(1期)4層は自然乾燥(1期?)
- ※ 土サンプル「SGI T3A」は4層から採った

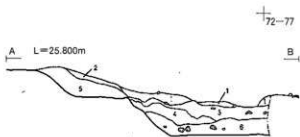
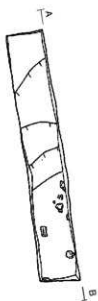
SGI T3B



SGI T3B

- 1a 10YR5/3にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックを不規則に少量含む かわらけも入る 粘性やや有 締っている
- 1b 10YR6/4淡黄褐色土ブロック主体 灰黄褐色土ブロックと混在 粘性やや有 締っている
- 1c 10YR7/6明黄褐色土ブロック主体 灰黄褐色土ブロックとの混在土 粘性やや有り 締っている
- 1d 10YR6/2灰黄褐色土 埴山ブロックごく(微量含む) 粘性・締りやや有
- 2 2.5Y5/1緑灰色砂質土 若干黄灰色土も混じる 粘性弱 締りやや有
- 3 10C2/1緑泥炭 緑灰色砂と互層を形成している 粘性やや有 締り弱
- 4 2.5Y5/1オリーブ灰色砂 粘性弱 締りやや有
- 5 2.5Y3/1緑灰色砂質土 黄褐色土ブロック等を少量含む 粘性・締りやや有 (排水路の両り?)
- ※ 2-5層は排水路

SGI T4

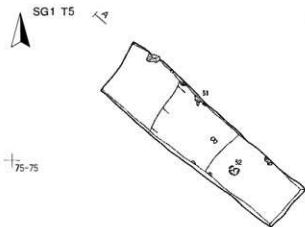


SGI T4

- 1 10YR6/2にぶい黄褐色土 黄褐色及び暗灰色土ブロックを多量に含む 上面には小河原石がのる 粘性やや有 締っている
- 2 10YR6/2にぶい黄褐色土 部分的に砂っぽい所もある 黄褐色及び暗褐色土ブロックをごく微量含む 粘性弱 締っている
- 3 10YR6/2にぶい黄褐色土砂質土 褐色土ブロック・炭粒を少量含む 粘性弱 締りやや有
- 4 10YR6/3にぶい黄褐色土 種の大きい明黄褐色土ブロック及暗褐色土ブロックを大量に含む 炭粒も微量見られる 粘白・締りやや有
- 5 2.5Y7/4淡黄色砂質土(下部はクレー化して明緑灰色)明黄褐色粘土ブロックを多量に含む 粘性弱 締っている
- 6 2.5Y5/1オリーブ灰色砂質土 暗褐色・黄褐色・淡黄色土のブロック大粒を多量に含む 粘性・締りやや有
- ※ いずれも1期池の盛土と見たが、6層だけは1期池の盛土の可能性がある。ただし、1期池の盛土が見られず直上に盛土があるとは不自然な。

0 1 m

第7図 SGI・T3A~T4



SG1 T5

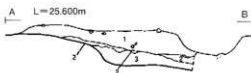
- 1 10YR5/3に多い黄褐色土（下部はクライ化して褐色）地山ブロックを大量に含む 炭粒も散見する と前には河原石がのる 粘性やや有 締っている
 - 2 2.5Y5/1暗オリーブ灰色泥 粘性やや有 締り弱
 - 3 5Y7/4淡灰色砂質土 粘性弱 締りやや有
 - 4 7.5YR3/2黒褐色土アブロック 褐色色・淡黄色土ブロックとの混在 粘性やや有 締っている（1期池の盛土）
- ※ 1層は2期池の盛土 2・3層は1期池の盛土 4層は1期池の盛土
 ※ 2期池の盛土には厚層がわいた土を使っている。大層を配置した所でも大きく北んだ跡はない。しかし下部はクライ化が認められるので、下は赤っぽかったのであろう
 ※ 土サンプル「T5 1期池」は2層から採った



SG1 T6

- 1 10Y2/6明黄褐色土ブロックと黒褐色土ブロック及び灰白色粘土ブロックから成る 粘性やや有 締っている 2期池造成時の盛土
- 2 7.5YR3/2黒褐色土 褐色を呈する部分もある 粘性やや有 締っている（締りすぎ）
- 3 2.5Y7/3淡黄色粘土質土 粘性有 締っている（締りすぎ）

SG1 T6



SG1 T7

- 1 10Y2/6明黄褐色土ブロックを主体とし、他に褐色土ブロック炭粒のごく微量・河原石（ごく微量）を含む 粘性やや有 締っている
 - 2 5Y6/1灰色砂質土 粘性弱 締りやや有
 - 3 2.5Y8/3淡黄色粘土を主体とし、淡黄色砂や灰色砂質土を不規則に少量含む 粘性有 締っている
- ※ 1層は2期池の盛土 2層は1期池の盛土 3層は1期池の盛土（かわかけを伴っている）

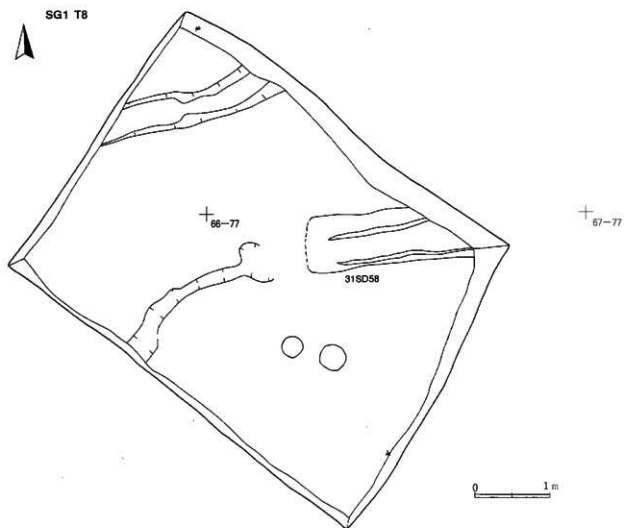
SG1 T7



73-76

1 m

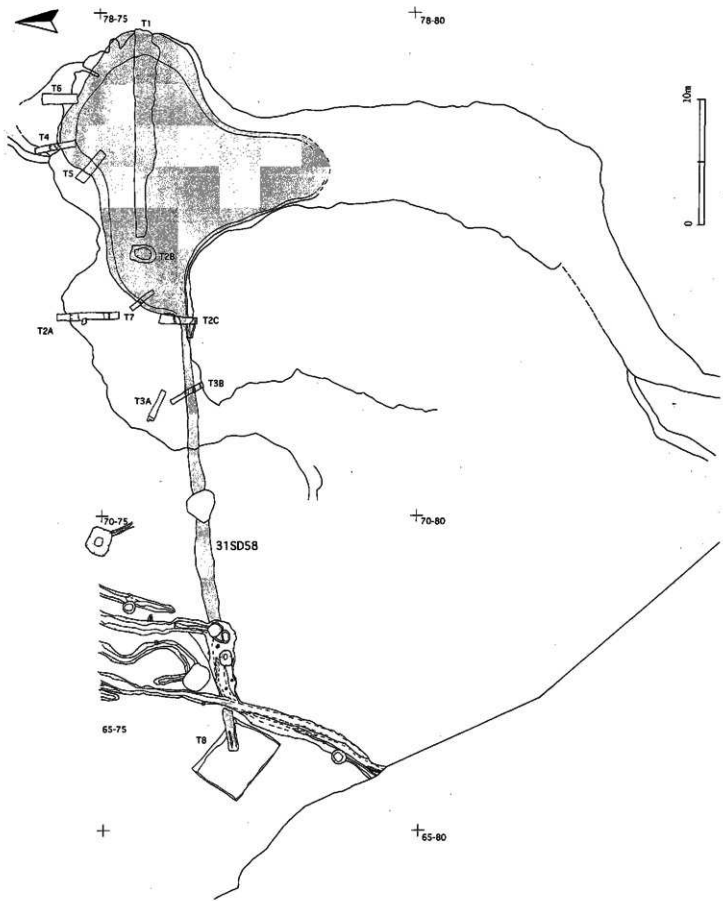
第8図 23SG1・T5~T7



第9圖 23SG 1 · T 8



第10圖 23SG1 平面圖



第11圖 23SG1・I期平面圖



第12圖 23SG1・Ⅱ期平面圖

〔2〕 北側調査区

掘内部地区の北縁、73-48~75-49グリッドを調査した。北上川による浸食及び護岸工事により北端部が失われている状況を確認した（第13図）。検出された遺構は、井戸1基、柱穴14基、溝1状であるが、12世紀当時、遺跡は現在では失われた北側へ展開していたことは疑いない。

57SE2（第13図・写真図版9）

遺跡北端部中央の北上川沿い（73-48）に位置している。北側は調査区外へ延びており、南半部のみを精査している。検出面での直径が1.8m、底面径0.9m、深さは2.01mを測る。底は黄褐色土の下層である暗褐色土層を30cm程掘り込んでいる。この面まで掘りあげたが湧水は認められなかった。埋土は基本的に人為堆積である。2・4・6・8層には大量の炭粒が含まれる。4層からは一定量の遺物が出土した。

11・12層からは遺物の出土はない。底面からの湧水もなく、井戸としては浅い感があり別な性格の遺構の可能性もある。

出土遺物（第29図・写真図版24・25） かわらけをみるとロクロかわらけのほうが多く出土している。中には101や102のように底径が小さく、器高が高い個体も含まれる。また常滑室陶器片が1点、瀬美室陶器片2点、須恵器系陶器片1点、白磁片3点が出土している。

〔3〕 東側調査区

（1）概要

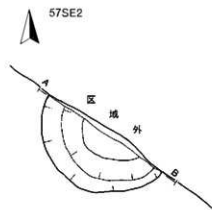
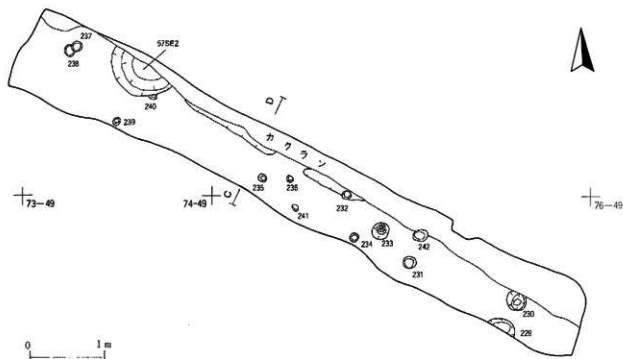
東側調査区は柳之御所遺跡の南東部に位置し、第48次、第49次、第50次調査区に隣接する。今回は、23SA1の延長を追跡することを目的として調査を実施した。

（2）遺構（第16図 写真図版9・10）

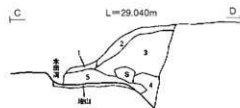
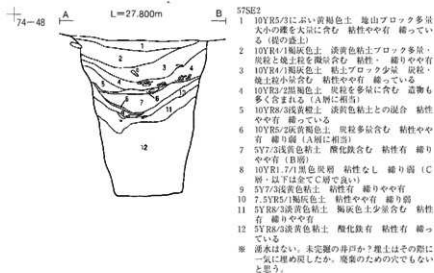
近現代の水道管跡や暗渠跡、礫の集積等があるので、12世紀の遺構確認面がある場合は、もっと下層で確認できる可能性はあるが、調査目的としていた23SA1との比高差が著しく、遺構が続いていく可能性は低いと考えられるため、掘削を中止し、調査を終了した。

（3）遺物

かわらけ細片が多く出土しているが、近代陶器片やガラス片なども混じって出土している。

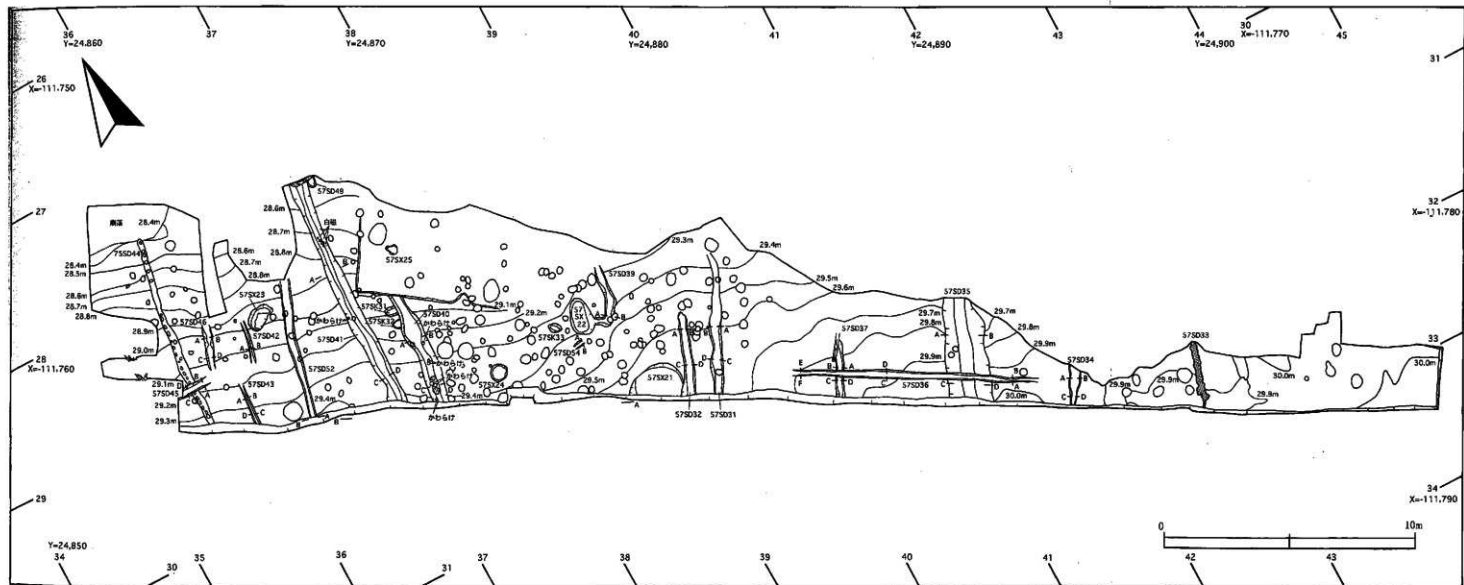


北上川沿
74-48断面図

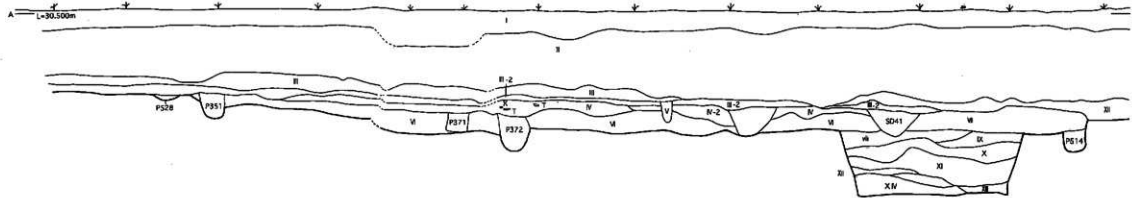


0 1m

第13図 北側調査区遺構配置図及び57SE2



第14図 57次調査 堀外部地区遺構配置図



基本土層

- I 10YR4/4褐色シルト 粘性あまりなし 締りやや有 表土
- II 10YR6/6明黄褐色シルト I層の土がやや多く混じる かわらけ片をわずかに含む Iはブロック状に堆積している 粘性強 締り弱 盛土
- III 10YR4/4灰褐色細粒炭シルト 炭化物粒、かわらけ片をわずかに含む 粘性やや有 締りあまりなし
- III-2 10YR4/3に近い黄褐色シルト 一部III層の土が混じる かわらけ片、炭化物をわずかに含む 粘性やや有 締りあまりなし
- IV 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物粒子をやや多く含む P371の付近では地山ブロックもやや多く混じる かわらけ片、陶器片等を少量含む 粘性、締りやや強
- IV-2 10YR3/2黒褐色シルト 炭化物ブロックを多く含む かわらけ細片を少量含む 粘性あまりなし 締りやや強

- V 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あまりなし 締り強 状の穴か
- VI 10YR3/4暗褐色シルト 炭化物をわずかに含む 縦文土器片がわずかに混じる 粘性やや有 締り強
- VII 10YR3/4暗褐色シルト 炭化物をやや多く含む かわらけ片がわずかに混じる 地山ブロックがわずかに混じる SX26とした埋土はこの層のもの SX26は単なるくぼみである 粘性やや有 締りやや強
- VIII 10YR5/6明黄褐色細粒炭シルト 炭質地山土 粘性あまりなし 締り強
- IX 10YR6/6明黄褐色砂質シルト 西隣地山土 礫を多く含む 粘性やや有 締り強
- X 10YR6/6明黄褐色砂 礫が主体 粘性なし 締り強
- X I 10YR6/6明黄褐色砂 粘性なし 締り強
- X II 2.5Y7/4浅黄褐色土 粘性かなり強 締りやや強
- X III 7.5YR/8褐色粘土 粘性、締り強
- X IV 2.5Y7/4浅黄褐色砂質粘土 粘性、締り強

P351

- I 10YR4/3に近い黄褐色シルト 埋土層を10%・地山ブロックを30%・炭化物粒子を5%・かわらけ細片を含む 地山ブロックは上層に顕著に入る 粘性やや強 締り強

P372

- I 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物粒をやや多く・地山ブロックをやや多く、かわらけ片をわずかに・陶器片をそれぞれ含む
- ※ 上層部分のみ残存のため、下層は不明。

P371

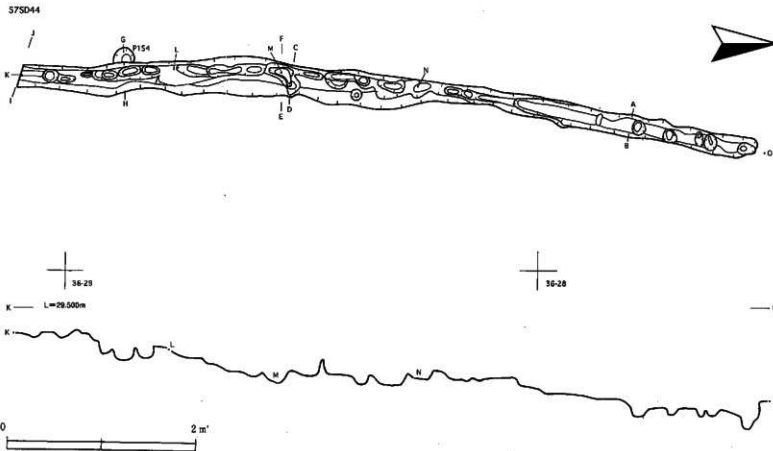
- I 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物粒をわずかに含む 地山粘土ブロックを15%含む かわらけ片をわずかに含む 粘性やや強 締り強

P514

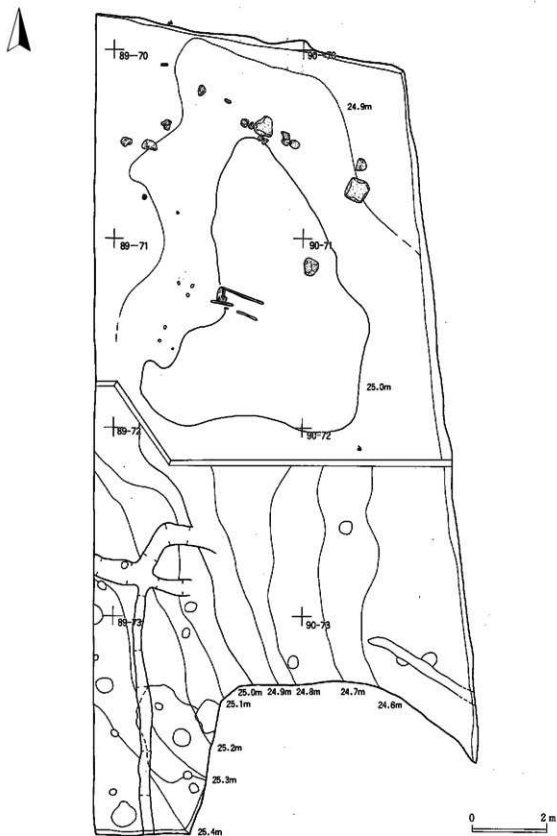
- I 10YR3/4暗褐色シルト かわらけ片・炭化物をわずかに含む 地山ブロックをわずかに含む 粘性・締り強

P368

- I 10YR3/3暗褐色シルト かわらけ片をわずかに含む 炭化物・地山ブロックを少量含む 粘性やや有 締りやや強



第15図 基本土層・57SD44



第16図 東側調査区遺構配置図

〔4〕堀外部地区

（1）立地

北上川右岸に形成された河岸段丘上に立地する。柳之御所遺跡の北西部、高館の堀の部分に位置する。

（2）調査経過

平成元年及び平成4年に平泉町教育委員会が柳之御所遺跡の内容確認のために発掘調査を一部実施している。区画溝跡や近世墓坑、柱穴等を検出している。今回はその既調査部分を含めて検出・精査を行っている。バイパス建設に伴う調査区からは約13～15mほど離れており、今回の調査区とバイパス建設に伴う調査区に挟まれた範囲の調査は行われていない。

（3）基本層序

基本層序は第15図のとおりである。20cm前後の表土の下に厚さ50cm～80cmの盛土がある。盛土は西に向かうにつれて厚くなる。その下に12世紀の遺物包含層になるⅢ層があり、この下層を第1回目の遺構検出面とした。調査区東側ではⅢ層の下が地山面になるが、西側はⅣ層に暗褐色土があり、上面で遺構が確認できたことから、1回目の遺構検出・精査終了後、2回目の検出をⅤ層下層で行った。遺物の入る状況から、Ⅲ・Ⅳ層は12世紀に、Ⅴ層は縄文時代に形成された層であると考えられる。なお、Ⅴ層上面段階では57P351、57P371の存在が断面で確認できた以外は、平面での遺構の検出はできなかった。

（4）遺構検出面の地形

遺構検出面の地形については、南東側及び南西側の標高は30m前後を測るが、北西に向かうにつれ標高は下がり、北西部の一番低いところで28.4mを測る。すなわち地形は南東及び南西から北西に向かって傾斜をしている。このことは柳之御所遺跡第40次調査でも指摘されており、今回の調査でもこのことは追認できた。

（5）遺構（第14～26図 写真図版10～21）

堀外部地区で検出された遺構には、堀、溝、土坑、その他の遺構、柱穴がある。以下でそれぞれの遺構について略述する。

なお、遺構番号については、下記の番号から始まっている。

堀・溝跡：31番。 土坑：31番。 その他の遺構：21番。 柱穴：301番。

A 堀跡・溝跡（SD）（第15・17・18図 写真図版14～21）

溝跡・堀跡は18条確認された。ほとんどは溝跡であるが、57SD44は堀跡である。

57SD44 35-27から35-29グリッドにかけて所在する。調査区域内での検出長は約7.8m、検出幅は0.15～0.4m、深さは14～40cmを測る。崖際まで堀跡は伸びている。57SD45より古い。また57P524と切りあうが、本遺構を完掘後に57P524を確認したことから、新旧関係については明らかではない。軸線角度は、南端から南側2.78mまではほぼ真北だが、その先北側は東側に向きを変え、N-8°-Eになる。布掘の痕跡とともに、板及び支柱と考えられる痕跡がある。

遺物については、かわらけの細片が205gあるのみで、時期については不明であるが、12世紀の可能性が高い。

57SD35 (25SD6) 40-31から41-31グリッドにかけて位置する。57SD36より古い。区画溝跡としてすでに柳之御所遺跡第25次調査及び40次調査で25SD6として検出されている。調査区域内での検出長は約4m、検出幅は上場1.2~1.7m、下場は0.45~0.60m、深さは50~56cmを測り、崖際まで溝は伸びる。軸線角度はN-22.5°-E、断面形状はU字形である。なお、57SD35を掘り上げた段階で、57P519、57P520を確認している。

溝を掘った後、一部人為的に埋めたが、全ては埋めなかったようである。

遺物はかわらけ12.335g、国産陶器（常滑産・瀬美産各10片、須恵器系1片）、中国産陶磁器（白磁・陶器各1片）、焼土塊、石器などがある。石器も出土しているが、最下層からかわらけや陶器片が出土していることから、12世紀の遺構と考えられる。

57SD40 37-28から37-29グリッドに位置する。後述する57SD41とほぼ平行に走る溝である。調査区域内での検出長は4.55m、検出幅は上場0.45~0.85m、下場0.2~0.65m、深さは19~30cmを測る。北側は近現代の擾乱により壊されている。軸線角度はN-5°-Eになる。断面形状は逆台形である。

埋土中にわずかに地山ブロックを含んでいるが、人為堆積の様相はみられない。

遺物はかわらけ7.475g、国産陶器片（常滑産1片、瀬美産5片、須恵器系2片）、琥珀細片、縄文土器、石器などがある。琥珀細片は、形状をとどめておらず、装飾品以外で使われたものと考えられる。かわらけは図化できるものが多く、23点図化している。ロクロかわらけも含まれるが、手づくねかわらけが主体である。

遺構の年代は、縄文時代の遺物も見られるものの、底面付近でかわらけが見つかっており、12世紀後半の遺構と考えられ、縄文土器・石器は流れ込みによるものと考えられる。

57SD41 36-27~36-29グリッドに位置する。前述した57SD40とほぼ平行に走る溝である。調査区域内での検出長は9.45m、検出幅は上場0.55~0.8m、下場0.1~0.35m、深さは21~41cmを測り、崖際まで溝は伸びる。軸線角度はN-2°-E、断面形状はU字形である。57P497、57P511、57SK31、57SK32より新しい。

埋土中に黄褐色粘土ブロックが混じっており、人為的に埋め戻した可能性もある。

遺物はかわらけ25.055g、国産陶器（常滑産2片、瀬美産5片、須恵器系6片）、中国産陶磁器（白磁6片、青磁・陶器各1片）、縄文土器、石器などが出土している。白磁碗がほぼ完形に近い状態で見ついている。また、図化できるかわらけも多く、16点図化している。

遺構の年代は南側断面図においてかわらけ片が底面まで埋まっている状況、さらに、出土遺物の特徴などから、12世紀後半の遺構と考えられる。

上記以外の溝跡については次表のとおりである。

遺構名	グリッド	検出長 (m)	検出幅(上) (下) (cm)	深さ (cm)	軸線角度	断面形状	時期	備考
57SD31	39-30	5.60	20~50 20~35	4~10	N-25°-E	逆台形	12世紀か	57P398、57P437より新しい。
57SD32	39-30	3.31	30~45 25~30	9~15	N-20°-E	U字形	12世紀	57SX21より新しい。
57SD33	42-32	2.20	18~40 12~29	7~11	N-17°-E		近世以降	暗渠。敷石あり。
57SD34	42-32	1.46	16~48 10~40	3~6	N-32°-E	U字形	近世以降	
57SD36	40-31	9.80	15~28 5~25	3~4	N-119°-E	逆台形	近世以降	57SD35、57SD37より新しい。

遺構名	グリッド	検出長 (m)	検出幅(上) (F) (cm)	深さ (cm)	軸線角度	断面形状	時期	備考
57SD37	40-30	1.92	29~34 14~22	10~14	N-25° - E	U字形	近世以降	57SD36より古い。
57SD39	38-29	2.90	24~44 10~30	8~12	N-4° - E ~ N-114° - E	逆台形	近世以降か	蛇行した溝。 57SX22と切り合う。 57P442より新しい。 57P443より古い。
57SD42	36-28	1.62	14~20 8~13	4	N-13° - E	逆台形	近世以降	
57SD43	35-29	1.70	11~20 5~9	6	N-4° - E	U字形	近世以降	
57SD45	35-28	1.18	30~35 20	7~10	N-88° - E	逆台形	近世以降	57SD44より新しい。
57SD46	35-28	1.85	25~37 6~25	4~11	N-18° - E	逆台形	近世以降	
57SD49	37-27	0.45	35 28~32	6~12	N-0° - E	木の根により 断面図取れず。	12世紀か	第2面検出時に確認。 崖際まで伸びる。
57SD52	36-28~ 36-29	5.48	24~40 13~30	5~13	N-11° - E -N-21° - E	逆台形	12世紀か	第2面検出時に確認。 57P482、57P484、 57P485、57P486より 古い。
57SD54	38-29	0.50	20 14	3	N-81° - E	逆台形	近世以降	

B 土坑 (SK) (第18図 写真図版12・13)

土坑は3基確認されている。いずれも2回目の検出時に確認されたものである。

57SK31 37-28グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。検出長は長軸0.62m、短軸0.36m、深さ40cmを測る。埋土中から須恵器系陶器片が1片出土している。遺構の時代は12世紀のものと考えられる。

57SK32 37-29グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。検出長は長軸0.60m、短軸0.34m、深さ12cmを測る。浅い土坑である。埋土中から遺物は出土していないので詳しい時期は不明である。

57SK33 38-29グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。検出長は長軸0.51m、短軸0.32m、深さ14cmを測る。検出時に縄文土器が出土しており、縄文時代の遺構の可能性が高い。

C その他の遺構 (SX) (第18~19図 写真図版13・14)

その他の遺構は以下のとおりである。なお、57SX26については、検出時は遺構と考えていたが、精査の結果、くは地であることが分かったので、外している。

57SX21 38-30グリッドに位置する。南半分は調査区外のため、正確な大きさ・形状は不明だが、ほぼ円形と考えられる。検出部分の長軸は2.35m、短軸は1.3m、深さ1.05mを測る。かつての調査では近世墓坑とされているものである。57SD32より古い。さらに、柱穴を1つ切っている。堆積の状況は自然堆積である。底部20cm前後は地山ブロックが混入している状況から、掘削後すぐに埋まった様子が伺える。

遺物は崩落土中のものを含めて、かわらけ3.785g、国産陶器片(常滑産・渥美産)、中国産陶磁器片、石器などがある。

遺構の性格は、第40次調査のときは近世墓坑と考えられていたが、今回の調査の結果、近世墓坑ではなく、土坑と考えられる。時期は、8層がらかわらけが出土していること、57SD32の年代観および出土した遺物の特徴などから、12世紀と考えられる。

57S X22 38-29グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。検出部分の長軸は1.45m、短軸は0.9m、深さ34cmを測る。57SD39と切りあうが、新旧関係は分からなかった。

出土遺物はかわらけ55g、焼土塊60g、石器である。出土遺物などから、12世紀以降の遺構と考えられる。

57S X23 36-28グリッドに位置する。平面形は不整形楕円形を呈する。検出部分の長軸は1.1m、短軸は0.7m、深さ8cmを測る。深さの非常に浅い遺構である。

出土遺物はかわらけがわずかに出土しているのみである。12世紀以降の遺構と考えられる。

57S X24 37-29グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。検出部分の長軸は0.7m、短軸は0.5m、深さ20cm前後を測る。

出土遺物はかわらけ細片55g、焼土塊、縄文土器である。12世紀以降の遺構である。

57S X25 37-28グリッドに位置する。平面形は円形を2個組み合わせた形を呈する。検出部分の長軸は0.5m、短軸は0.4m、深さ15-18cmを測る。遺物が出土しておらず、本遺構の時期については不明である。

D 柱穴群（Pほか）（第19図～第26図）

柱穴については、調査区全域で191基確認されている。特に37-28、37-30、40-31、40-29で囲まれたグリッド内では集中して見つかった。しかし、幅の狭い調査区であることなどのため、掘立柱建物跡や柱列を確認するまでには至らなかった。中でも特筆すべきものについて略述する。

P303 43-32グリッドに位置する。長軸50cm、短軸30cm、深さ30cmを測る。柱痕が明瞭に残り、根固め石も認められる。抜き取り痕は認められない。かわらけ細片がわずかに出土している。

P321 42-32グリッドに位置する。長軸45cm、短軸37cmの卵形を呈する。砥石が1点埋土中から出土している。かわらけは出土しなかったが、常滑産陶器片が2点出土している。

P354・P369 ともに36-29グリッドに位置する。直径25-30cmのほぼ円形を呈する。埋土中からるつばが出土している。

P375 37-29グリッドに位置する。長軸66cm、短軸60cm、深さ48cmを測る。柱痕は明瞭に残る。抜き取り痕は認められない。かわらけ細片が80g出土している。

P376 37-29グリッドに位置し、前述したP375に隣接する。長軸66cm、短軸60cm、深さ56cmを測る。柱痕は明瞭に残る。抜き取り痕は認められない。かわらけ細片45gが出土している。

P387 36-29グリッドに位置する。直径70cmのほぼ円形を呈し、深さ60cmを測る。柱痕及び抜き取り痕は認められない。すべての層に地山粘土ブロックが入っている。かわらけ細片223g、渚美産陶器片2点が出土している。土坑の可能性が高い。

P396 37-28グリッドに位置する。長軸88cm、短軸65cm、深さ53cmを測る。近現代の撓乱下から検出された。埋土中から、かわらけ片が2.618g、中国産陶器片、石器などが出土している。掘外部地区の柱穴から出土するかわらけ量は多くて200g程度だが、この遺構のみ飛び抜けている。土坑に近いものかもしれない。

なお、柱穴については1回目の検出では検出できなかったものの、2回目の検出で検出されているものもある。2回目の検出で見つかった柱穴は、以下の52基である。

P452～P456、P458、P463～465、P469～P491、P495、P497、P501～P509、P511、P514、P516、

P521、P526、P527、SK34、SX28、SX29。

これらの遺構のうち、P445、P479とP502は縄文時代のものの可能性もあるが、大多数はわずかずつではあるが、かわらけ細片が出土しており、12世紀のものと考えられる。

(6) まとめと考察

A 堀跡について

堀外部地区では堀跡の存在が確認された。堀跡の形状については、菅原計二氏による集成(菅原 1994)がある。菅原氏は堀跡の形態を大きく4種に分類し、A類についてはさらに4種に細分している。今回検出された57SD44には、布掘があることからA類またはC類に当てはまるが、柱列が並行していないので、A類であるのは確実である。さらに布掘内に柱穴・板痕跡があるので、A1類かA3類になると考えられるが、柱穴跡が数箇所あることから、A1類になるものと考えられる。

しかし、課題もある。今回確認された堀が、区画のための堀であれば、対応する堀はどこにあるのか。対応しないのであれば、どの遺構が堀の役割を果たすのか。57P375、57P376など明瞭に柱痕跡を残す柱穴もあり、建物との関係も含めて、今後の調査によってその様相が明らかになることを期待したい。

分類 A	布掘を行うもの。溝状の遺構として検出される。布掘には板痕跡や支柱などが痕跡を残していたり、材が残存している場合がある。
A0類	支柱・板痕跡がともに確認できないもの。
A1類	支柱・板痕跡が確認できるもの。
A2類	板痕跡のみが確認できるもの。
A3類	板痕跡の配列はA2類と同様だが、両端に柱穴が配置される。
分類 B	柱列で構成されるもの。柱穴が直線状に並ぶ。
分類 C	布掘に柱列が並行するもの。
分類 D	柱穴の掘り方が接して連続しているもの。構状の遺構。

堀跡の形態分類(菅原:1994)

B 残存地形について

平成4年度の範囲確認調査で柳之御所遺跡南東部では遺構が台地の縁辺部にまで延びており、柳之御所遺跡が北上川により削られていることが明らかになった。今回調査を行った堀外部地区でも、堀跡57SD44や区画溝跡57SD35(25SD6)が台地縁辺まで延びていることが明らかになり、北上川によって遺跡が削られていることが明らかになった。

このことについては、今回の調査区のさらに西側を調査した際の柳之御所遺跡発掘調査報告書でも指摘されているが、この時は地山面がかなり低位に位置し、従来は急斜面であったことから、想像よりは浸食を受けていない可能性が高いとしている(平泉町教育委員会ほか 1994)。

では、今回の調査地点ではどのように考えられるか。地盤の傾斜も一定ではなく、当時の水面標高も明らかではないので、一概にいうことは難しいが、今回の調査で分かったことから、試案を提示したい。

その際、北上川の水面標高を22mと仮定する。その理由は、10世紀の畑跡や中世の墓群が確認された北上川を挟んだ対岸の本町Ⅱ遺跡の遺構確認標高が凡そ23m前後(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターほか 2003)であり、ほぼ同時期の柳之御所遺跡が存在した時期に、水につかっていないことが明らかなため、さらに柳之御所遺跡の位置する標高の一番低いところが22m前後のためである。

まず、2500分の1の地図上における調査区西側57SD44付近では、標高30mから22mまでの比高差8mの距離は約22mである。そして、柳之御所遺跡側の標高22mと現在の北上川を挟んで対岸の標高22mまでの距離がおおよそ650mである。

一方、今回の調査における、標高29.3mから28.5mまでの比高差0.8mの平面距離は6.6m前後を必要とし、1m比高に差がある場合の平面距離は8.25m必要となる。この傾斜を標高30mから22mまでの比高差8mに当てはめた場合、66m平面距離が必要ということになる。すなわち、現在の標高30mから22mまでの平面距離が22m、今回の調査における比高差8mに必要な距離66m、この差44mが削られた部分の幅ということになる。

数字も凡そなので、大雑把な見方で考えなくてはならないが、柳之御所遺跡北西部では、現在の台地縁辺部から川に向かって約40mの地点まで柳之御所遺跡の本米存在した可能性があるといるのではないだろうか。

C 柱穴群の時期について

柱穴群の時期についてであるが、第1面で検出された柱穴の中にかわけ片が含まれずに縄文土器片のみが含まれている柱穴があったり、一方、第2面で検出された柱穴の中にかわけ片が入っている柱穴もある。それでは、これらの柱穴の時期はいつと考えるべきなのか。

結論からいえば、多くのものはどちらも12世紀またはそれ以降と考えられる。柱穴埋土内にかわけ片が入っているということは、少なくとも12世紀以降に埋まったものということができる。しかし、中にはかわかけが含まれずに縄文土器のみが含まれているものもある。縄文土器のみが含まれているものが、第2面で検出された柱穴であれば、まだ縄文時代のものと考えられることは理解できる。しかし、第1面で検出された柱穴であれば、下層の遺構より上層の遺構が古いということになり、辻褄が合わなくなる。たまたまかわかけ片がその柱穴に含まれず、流れ込みの縄文土器だけが入ったと考えれば、辻褄も合う。となると、今回検出された柱穴のほとんどは12世紀以降のものと考えられる。しかし、第1面で検出できずに第2面で検出できたというものもあるのだから、12世紀以内の時期差を検討する必要があるのはいうまでもない。

ただし、今回出土した柱穴群が構成する建物の配置については、十分な分析ができなかったので、早急に分析を行い、可能性を提示できるようにしたい。

D 手工業について

平泉町域における手工業については、増場や琥珀片、羽口の出土分布等から分析した八重樫忠郎氏の論考がある（八重樫 2001）。論考では、志羅山遺跡及び柳之御所遺跡堀内部地区に手工業者が集中する傾向があることを指摘している。うち、増場については、志羅山遺跡第80次調査で31点もの増場が出土しており（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001）、平泉町域で出土している増場の大多数を占めている。今回堀外部地区では増場が2点柱穴埋土中から出土している。さらに琥珀細片や磁石など他の手工業に関わる出土品もあることから、柳之御所遺跡堀外部地区でも手工業者の存在の可能性が出てきたといえるのではないだろうか。

E 調査区周辺の状況について

今回の調査区周辺は12世紀代の遺構が多いが、縄文時代の遺物も比較的多く出土しており（縄文土器片17点、石器23点）、縄文時代から柳之御所遺跡周辺は土地利用されていたものと思われる。このことは、第40次調査のときにも既に指摘されていることである。しかし、縄文時代に形成されたと考えられるⅥ層のすぐ上層に、12世紀に形成されたとみられるⅢ層が形成されているということは、その間の弥生時代から平安時代までの柳之御所遺跡周辺の人々はどこにいたのだろうか。堀内部地区では遺構は確認されていないが、古代の土師器・須恵器が出土しており（岩手県教育委員会 2002）、柳之御所遺跡周辺で人々が生活をしてい

た事は容易に推定される。想像の域は出ないものの、今回の調査区付近は12世紀及びそれ以前の人々が何度も先人の生活痕跡を削って生活していたということができないのではないだろうか。

【引用・参考文献】

- 菅原計二 1994 「平泉遺跡群の環跡・柱列遺構」『柳之御所跡の検討資料』
- 八重樫忠郎 2001 「平泉の手工業者」『考古学ジャーナル478』 pp.15～18
- 岩手県一関地方振興局一関農村整備事務所・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003
『本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査報告書(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第410集)』
- 岩手県教育委員会 2002 『柳之御所遺跡第55次発掘調査概報(岩手県文化財調査報告書第115集)』
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001
『志羅山遺跡発掘調査報告書(第47、56、67、73、80次調査)(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第352集)』
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書—柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査—(岩手県平泉町文化財調査報告書第33集)』
- 平泉町教育委員会・建設省岩手工事事務所 1994
『柳之御所跡発掘調査報告書—平泉バイパス・一関遊水地開通遺跡発掘調査—(岩手県平泉町文化財調査報告書第38集)』



57SD31
1 10YR3/3暗褐色土 炭化物粒子(φ1mm)・焼土粒子(φ1mm~2mm)・地山粘土ブロックを各々少量含む 粘りをわずかに含む かわらけ片を含む 粘性やや有り強



57SD31
1 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物粒子(φ1mm以下)・焼土粒子(φ1mm以下)をわずかに含む 粘性やや有り強



57SD34
1 10YR4/4褐色粘土 かわらけ片・炭化物わずかに混じる 粘性・粘り強



57SD34
1 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 地山ブロック少量混じる 粘性・粘り強



57SD36
1 10YR4/4褐色粘土 地山ブロックが多く混入する 粘性・粘り強
2 10YR5/3にぶい黄褐色粘土 粘性強 粘りやや強



57SD36
1 10YR4/4褐色粘土 粘性強 粘りやや強



57SD36
1 10YR4/4褐色粘土 炭化物を微量含む 粘性やや有り 粘りやや強



57SD37
1 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 7.5YR5/8明褐色土 粘性有り 粘りやや弱



57SD37
1 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 粘性強 粘りやや弱



57SD39
1 10YR3/4暗褐色土 かわらけ片含む 地山ブロックを少量含む 炭化物粒子(φ1mm以下)をわずかに含む 粘性あまりなし 粘り強

2 10YR6/8明黄褐色土 植物の根が入り込む 粘性やや有り強 地山か
3 10YR4/4褐色土 地山ブロックが少量に含まれる炭化物粒子(φ1mm以下)をわずかに含む かわらけ片を含む 粘性やや有り強
4 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物粒子(φ1mm前後)を少量含む 粘性やや強 粘り強



57SD41
1 10YR3/3暗褐色土 炭化物粒子(φ1mm前後)を多量・焼土炭化物(φ1mm前後)1%・かわらけ片を少量含む 粘性やや有り強

2 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子(φ2mm前後)を5%含む 焼土炭化物(φ1mm前後)1%を含む 上層石層に炭褐色粘土ブロックが混じっている 粘性有り 粘り強



57SD41
1 10YR3/4暗褐色土 かわらけ片を多く含む 炭化物粒子(φ3~5mm)を5%含む 黄褐色粘土ブロックを微量含む 粘性あまりなし 粘り強



57SD43
注記なし



57SD32
1 10YR3/4暗褐色土 炭化物粒子(φ1mm前後)・地山粘土ブロックをわずかに含む かわらけ片を含む 粘性やや有り強



57SD32
1 10YR3/3暗褐色土 炭化物粒子(φ1mm以下)をわずかに含む 焼土粒子(φ1mm前後)をわずかに含む 地山粘土ブロックをわずかに含む かわらけ片を含む 粘性やや有り強



57SD35
1 10YR3/2黒褐色土 かわらけ細片を微量含む 粘性・粘りやや有り
2 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロックを少量含む かわらけ細片・炭化物を微量含む 粘性・粘りやや有り 粘りやや強
3 10YR5/2灰黄褐色土 地山ブロックを多量に含む 粘性やや有り 粘っている
4 10YR4/2灰黄褐色土 かわらけ細片少量・炭化物微量含む 粘性・粘りやや有り
5 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロックをごく微量含む かわらけ細片・炭化物を微量含む 粘性やや有り 粘っている
6 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロックを多量に含む 炭化物を微量含む 粘性有り・粘っている
7 10YR5/3にぶい黄褐色土 地山ブロックと混入 粘性・粘りやや有り(粘り弱れ)
8 A・B層が人為堆積物か



57SD35
1 10YR3/2黒褐色土 かわらけ細片少量・炭化物粒子(φ1mm前後)を多量に含む 粘性やや有り 粘り強
2 10YR4/2灰黄褐色土 かわらけ細片微量に含む 炭化物粒子(φ1mm前後)を微量に含む 粘性・粘りやや有り 炭化物を微量含む
3 10YR5/2灰黄褐色土 地山ブロックをやや多量含む 炭化物粒子を微量に含む 粘性やや有り 粘り強
4 10YR4/2灰黄褐色土 かわらけ細片を多く含む 炭化物粒子を少量含む 粘性・粘りやや有り 人為堆積か
5 10YR4/2灰黄褐色粘土 炭化物粒子を微量含む かわらけ細片を微量含む 粘性強 粘りやや有り 人為堆積か
6 10YR5/6黄褐色土 粘性・粘り強
7 10YR6/2灰黄褐色粘土 地山ブロック混入 粘性・粘り強



57SD40
1 10YR3/3暗褐色土 地山ブロックが15%混じる炭化物粒子(φ1~2mm)を7%含む かわらけ片を少量含む 粘性あまりなし 粘り強
2 10YR3/2黒褐色粘土 炭化物粒子(φ2~3mm)を15%上部を占めて含む 粘性やや有り 粘り強
3 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子(φ1mm)を微量含む 地山ブロックが少量混じる 粘性有り 粘り強



57SD40
1 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物粒子(φ3mm前後)を2%・(φ1mm以下)を5%含む かわらけ片を少量含む 地山ブロックを微量含む 粘性やや有り 粘り強
2 10YR4/4褐色粘土 粘性やや有り 粘り強
3 10YR3/3暗褐色粘土 黄褐色土を微量含む 粘性・粘り強
4 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り 粘り強



57SD42
1 10YR4/4褐色土 粘性あまりなし 粘りやや有り



第17図 溝跡(1)



57SD44
注記なし



- 57SD44
- 1 10YR3/4暗褐色土 炭化物粒(φ1mm前後)をわずかに含む 地山ブロックを20%含む 粘性やや有 締り強
 - 2 10YR5/8黄褐色粘土 粘性有 締り強
 - 3 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性あまりなし 締り強
 - 4 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性やや有 締り強
 - 5 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒(φ1mm以下)をわずかに含む 地山ブロックを10%含む 埴土状粒子(φ1mm以下)をわずかに含む 粘性・締り強 柱状の埴土か



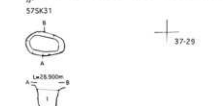
- 57SD44
- 1 10YR4/3Lに近い黄褐色粘土 炭化物をわずかに含む 粘性あまりなし 締りやや弱い 埴の締り方か?



- 57SD44
- 1 10YR4/2Lに近い黄褐色シルト 炭化物をわずかに含む 地山ブロックを少量含む かわらけ片有 粘性あまりなし 締り強



- 57SD44
- 1 10YR4/4褐色シルト 炭化物を少量・地山ブロックをやや多く・かわらけ屑片をわずかにそれぞれ含む 粘性あまりなし 締り強
 - 2 10YR4/4褐色シルト 混合物少ない 地山ブロックをわずかに含む 粘性あまりなし 締り強 板状跡か



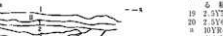
- 57SK32
- 1 10YR3/4暗褐色土 地山粒子・炭化物粒子をわずかに含む 粘性あまりなし 締り強



- 57SK33
- 1 10YR4/4褐色土シルト 地山ブロックを20%含む 炭化物粒子をわずかに含む 周辺で横文土器片が出土している 粘性あまりなし 締り強



- 57SK33
- 1 10YR6/8暗黄褐色粘土と10YR4/4褐色粘土混合層 かわらけ片を含む 粘性・締り強 埴土
 - 2 10YR4/2L黄褐色粘土 かわらけ片をわずかに含む 炭化物の粒をわずかに含む 粘性やや有 締り強 埴土上?
 - 3 10YR3/2暗褐色粘土 かわらけ片をわずかに含む 粘性強 締りやや有
 - 4 10YR3/2暗褐色粘土 炭化物粒子(大さきφ5mm前後)を15%含む かわらけ片を少量含む 粘性強 締り強
 - 5 10YR3/2暗褐色粘土と10YR5/6黄褐色粘土の混合層 炭化物ブロックを多量に含む かわらけ片をわずかに含む 粘性・締り強
 - 6 10YR4/1褐色粘土 粘性・締り強
 - 7 10YR4/2L黄褐色粘土 炭化物粒子(φ5mm)を5%含む かわらけ片を含む 粘性・締り強
 - 8 10YR4/3暗褐色粘土 炭化物粒子を多量に含む 粘性やや有 締り強
 - 9 10YR4/3Lに近い黄褐色粘土 粘土ブロック10%含む 炭化物粒子(φ5mm)を少量含む かわらけ片をわずかに含む 粘性・締り強
 - 10 10YR4/2L黄褐色粘土 粘性・締り強
 - 11 10YR4/2L黄褐色粘土 炭化物粒子(φ5mm以下)を少量含む 粘性・締り強
 - 12 10YR7/4Cに近い黄褐色粘土 粘性・締り強
 - 13 10YR4/2L黄褐色粘土 粘性・締り強
 - 14 10YR5/2L黄褐色粘土 粘性・締り強
 - 15 10YR4/2L黄褐色粘土 炭化物粒子(φ1mm)をわずかに含む 粘性強 締りやや有
 - 16 10YR7/2Cに近い黄褐色粘土と10YR4/2L黄褐色粘土の混合層 粘性・締り強 (人為的な埋積か?)
 - 17 10YR6/2Cに近い黄褐色粘土 粘性・締り強
 - 18 2.3Y6/2L黄褐色粘土 2.3Y6/2L黄褐色粘土と10YR5/4Cに近い黄褐色の粘土ブロックが多量に混じる 粘性・締り強
 - 19 2.3Y7/3黄褐色粘土 粘性強 締りやや有
 - 20 2.3Y6/3Cに近い黄褐色土 黄褐色粘土が多少入る 粘性・締り強
 - 21 10YR6/4Cに近い黄褐色粘土 10YR5/6黄褐色粘土ブロックを含む 粘性強 締りやや少強 SD322の埋土か?
 - 22 10YR4/3Cに近い黄褐色粘土と黄褐色粘土と2.3Y7/4L黄褐色粘土の混合層 柱状の埴土か?



第18回 溝跡(2)・土坑ほか

57SX22



57SX22

- 1 10YR7/6黄褐色粘土 40YR6/4褐色土が15%混入 粘性やや強 粘り強
- 2 10YR4/4褐色土 炭化物微量 2%混入 10YR7/6黄褐色土が10%混入 粘性弱 粘りやや強
- 3 10YR6/6明褐色土 炭化物微量含む 粘性弱 粘り強
- 4 10YR2/2黒褐色土 炭化物微量に1%混入 粘性なし 粘り弱
- 5 10YR6/4にぶい黄褐色粘土 10YR2/2黒褐色土多量混入 粘性やや強 粘りやや弱



36-28

36-30

57SX24



36-30

57SX24

- 1 10YR2/3黒褐色土 炭化物ブロック30%含む 粘性やや有 粘り強



57SX25

- 1 10YR3/4暗褐色土 かわらけ細片をわずかに含む 粘性あまり
- 2 10YR6/4褐色粘土 粘性やや有 粘り強
- 3 10YR5/8黄褐色土 粘性、粘り強 1層の土が混じる
- 4 10YR5/8黄褐色土 褐色粘土混含 粘性、粘り強

57SX25



57SX23



57SX23

- 1 10YR3/2黒褐色土 5YR6/8橙の土2%混入 酸化鉄か 粘性弱 粘り強

37-29

0 2 m

P303



P303

- 1 10YR2/3 黒褐色粘土 堆山粘土ブロック、炭化物粒を少量含む かわらけ細片を少量含む
- 2 10YR2/3 黒褐色粘土 堆山粘土ブロックをやや多く含む 炭化物粒、粘土状粒子を少量含む 粘性、粘り強
- 3 10YR2/3 黒褐色粘土 堆山粘土ブロックをやや多く含む 炭化物粒、炭土状粒子をわずかに含む 粘性強、粘りやや強
- 4 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色の混含粘土 10YR5/8主体炭化物粒、炭土状粒子をわずかに含む 粘性強、粘りやや強
- 5 10YR2/3 黒褐色土 炭土状粒子、炭化物粒をわずかに含む 粘性 堆山ブロックをやや多く含む 粘性、粘り強
- 6 10YR2/3 黒褐色土 炭土状粒子、炭化物粒をわずかに含む 堆山ブロックをやや多く含む 粘性、粘り強
- 7 10YR2/3 黒褐色土 炭土状粒子、炭化物粒をわずかに含む 堆山ブロックを少量含む かわらけ細片をわずかに含む 粘性強、粘りやや強 酸化鉄

P320



P320

- 1 10YR3/2黒褐色粘土 炭化物粒子を少量、堆山粘土ブロックをやや多く含む かわらけ片を少量含む 粘性強、粘りやや有

P324



P324

- 1 10YR6/3にぶい黄褐色粘土 かわらけ細片を少量含む 堆山ブロックを多量含む 炭化物粒子を少量含む 粘性やや有 粘り強
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子を微量含む 粘性強、粘り有

P304. 411, 449, 332



P304

- 1 10YR3/4暗褐色土 堆山粘土ブロック、炭化物粒子を少量含む 粘性やや有 粘り強
- 2 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 堆山粘土ブロックをやや多く含む かわらけ細片を含む 粘性、粘り強

P327



P327

- 1 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 堆山粘土ブロックを多量含む 粘性、粘り強
- 2 10YR7/4にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子(φ 5mm前後)少量含む かわらけ片有 粘性、粘り強
- 3 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子(φ 5mm前後)少量含む かわらけ片有 粘性やや強、粘り強
- 4 10YR7/4にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子(φ 5mm前後)少量含む 粘性強、粘りやや有

P305. 436



P305

- 1 10YR4/4褐色粘土 堆山粘土混入 炭化物粒子有 粘性、粘り有

P329



P329

- 1 7.5YR4/3褐色粘土 炭混入 かわらけ片有 粘性有 粘り強
- 2 7.5YR5/6明褐色粘土 炭混入 かわらけ片有 粘性有 粘り強
- 3 7.5YR6/8暗褐色粘土 炭混入 粘性有 粘り強

P315



P315

- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 かわらけ有 粘性、粘りやや強

P335



P335

- 1 10YR4/4褐色粘土 炭混入 かわらけ片有 粘性有 粘り強
- 2 10YR5/6明褐色粘土 粘性有 粘り強
- 3 10YR5/8黄褐色粘土 粘性やや有 粘り強

P319



P319

- 1 10YR3/4暗褐色粘土 かわらけ細片、炭化物粒子をわずかに含む 粘性、粘りやや有
- 1 10YR3/4暗褐色粘土 かわらけ細片を少量、炭化物粒子をわずかに、堆山粘土ブロックを多く含む 粘性、粘りやや有

0 2 m

第19図 その他の遺構・柱穴断面図(1)



- P337**
- 10YR6/6明黄褐色粘土 粘性あまりなし 粘り強
 - 10YR4/4褐色土と10YR6/6明黄褐色粘土の混合土 かわかけ混入有 粘性なし 粘り強



- P338**
- 10YR6/6にふい黄褐色粘土7.5YR5/6明褐色土と10YR4/4にふい黄褐色粘土との混合粘土 粘性有 粘りやや強
 - 10YR5/4にふい黄褐色土と10YR6/8明黄褐色粘土と10YR7/6明黄褐色粘土の混合土 炭化物1%混入 粘性有 粘り強
 - 10YR6/8明黄褐色粘土と10YR5/4にふい黄褐色粘土との混合粘土 粘性有 粘りやや強
 - 10YR5/4にふい黄褐色土と10YR6/4にふい黄褐色粘土の混合粘土 粘性有 粘りやや強
 - 10YR7/6黄褐色粘土と10YR5/4にふい黄褐色粘土と7.5YR5/8明褐色粘土との混合粘土 炭化物2%混入 粘性有 粘りやや強
 - 10YR7/4にふい黄褐色粘土と10YR6/6明黄褐色粘土との混合粘土 粘性有 粘りやや強



- P342**
- 10YR4/4褐色粘土 地山ブロック混入 炭化物粒子1%混入 粘性・粘り強
 - 10YR3/3暗褐色粘土 地山ブロック混入 炭化物粒子1%混入 かわかけ細片混入 粘性・粘り強
 - 7.5YR5/8暗褐色粘土 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物粒子1%混入 かわかけ細片混入 粘性・粘り強

- P341**
- 10YR3/2黒褐色粘土 地山ブロック混入 炭化物粒子1%混入 石混入 かわかけ細片混入 粘性・粘り強
 - 10YR6/6明黄褐色粘土 炭化物粒子1%混入 1層ブロック混入 粘性・粘り強
 - 10YR3/3暗褐色粘土 地山ブロック混入 炭化物粒子2%混入 かわかけ細片混入 粘性・粘り強
 - 10YR4/4褐色粘土 炭化物少量混入 粘性・粘り強



- P343**
- 10YR5/4にふい黄褐色粘土 炭化物粒子(φ5mm)少量含む 10YR6/8明黄褐色ブロック多量含む 粘性・粘り強
 - 10YR6/8黄褐色粘土 粘性・粘り強

- P344**
- 10YR3/3暗褐色粘土 10YR6/6明黄褐色ブロック少量含む 炭化物粒子(φ1mm)少量含む 粘性・粘り強
 - 10YR6/8明黄褐色粘土 粘性・粘り強



- P347**
- 10YR4/4褐色粘土 粘性強 粘りやや有
 - 10YR5/3にふい黄褐色粘土と10YR6/8明黄褐色粘土の混合層 炭化物粒子を微量含む 粘性・粘り強



- P349 - P446**
- 10YR4/3にふい黄褐色粘土と10YR6/6明黄褐色粘土と7.5YR5/8明褐色粘土と10YR7/6明黄褐色粘土と10YR7/4にふい黄褐色粘土との混合層 炭化物粒子を微量含む 粘性・粘り強
 - 10YR7/4にふい黄褐色粘土 炭化物粒子混入 粘性やや有 粘り強
 - 10YR5/3にふい黄褐色粘土 炭化物粒子少量混入 粘性やや有 粘り強
 - 10YR3/3暗褐色粘土と10YR5/4にふい黄褐色粘土(地山ブロックか?) 炭化物粒子少量混入 かわかけ片を少量含む 粘性・粘り強



- P350**
- 10YR4/4褐色土と10YR6/6明黄褐色の混合粘土 炭化物粒子少量混入 粘性有 粘り強
 - 10YR4/4褐色土と10YR6/8明黄褐色と2.5Y7/3黄褐色の混合粘土 炭化物粒子混入1% 粘性有 粘りやや強



- P352**
- 5YR2/1黒褐色粘土 炭化物粒子多く含む 粘性やや強 粘り強
 - 10YR5/6黄褐色粘土と褐色粘土の混合層 炭化物粒子少量含む 粘性強 粘り強
 - 10YR3/2暗褐色粘土 炭化物粒子多く含む かわかけ細片混入 粘性強 粘りやや強
 - 10YR5/6黄褐色粘土と10YR4/6褐色粘土の混合層 炭化物粒子微量含む 粘性・粘り強



- P362**
- 10YR3/4にふい黄褐色土 粘性あまりなし 粘り強
 - 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子混入1% 粘性あまりなし 粘りやや強



- P420**
- 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子混入1% 地山粘土混入 粘性有 粘り強
 - 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子混入1% 地山粘土混入 粘性有 粘り強
 - 10YR5/6黄褐色粘土 炭化物粒子混入1% 地山粘土混入 粘性有 粘りやや弱



- P368**
- 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子をやや多く含む 地山ブロックを少量含む 粘性強 粘りやや有
 - 10YR4/4褐色粘土 2.5Y7/3黄褐色粘土・黄褐色土ブロック(地山)を多く含む 炭化物粒子を少量含む 粘性強 粘りかなり強
 - 10YR4/4褐色粘土 黄褐色土ブロックをやや多く含む(2層よりは少ない) 炭化物粒子を少量含む 粘性強 粘りかなり強



- P371**
- 10YR3/2 黒褐色土 10YR7/6明黄褐色土との混合土 炭化物粒子5%混入 粘性・粘りやや有
 - 10YR4/4にふい黄褐色土 炭化物粒子1%混入 粘性弱・粘りやや有



- P375**
- 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物を少量含む 焼土ブロックをわずかに含む 地山粘土ブロックをやや多く含む 粘性強 粘りやや強
 - 10YR3/2黒褐色粘土 炭化物ブロック・焼土・地山粘土ブロックをやや多く含む 粘性強 粘り強
 - 10YR2/2黒褐色粘土 炭化物をやや多く含む 少量の焼土・地山粘土ブロックを少量含む 焼土粒子をわずかに含む 粘性強 粘りやや強
 - 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物粒子・かわかけ片を少量含む 粘性・粘り強
 - 10YR4/4褐色粘土 炭化物ブロック及び10YR5/6黄褐色粘土ブロックを多量に含む 粘性強 粘り強
 - 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 粘性・粘り強
 - 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物ブロックを多く含む 粘性やや有 粘り強



- P376**
- 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物粒子・地山粘土ブロックを少量含む 焼土粒子をわずかに含む 粘性やや強 粘り強
 - 10YR3/2暗褐色粘土 炭化物粒子をわずかに含む 粘性やや有 粘り強
 - 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物粒子・地山ブロックをわずかに含む 粘性・粘り強
 - 10YR3/4暗褐色粘土 地山ブロックを少量含む 炭化物粒子及び焼土粒子をわずかに含む 粘性・粘り強
 - 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子・焼土粒子をわずかに含む 粘性・粘り強
 - 10YR4/4褐色土 10YR3/4暗褐色粘土が混入する 粘性あまりなし 粘り強
 - 10YR4/3にふい黄褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 粘性・粘り強
 - 10YR4/3にふい黄褐色粘土 2.5Y6/6にふい黄褐色粘土が砂の夾層に混じる 炭化物粒子がわずかに混じる 粘性強 粘りやや強
 - 10YR6/8明黄褐色粘土10YR4/4褐色粘土の混合層 粘性やや強 粘り強
 - 2.5Y6/6にふい黄褐色土 地山ブロックが混じる 粘性強 粘りやや強
 - 10YR4/4褐色砂質粘土 炭化物粒子をわずかに含む 粘性やや強 粘り強



- P380**
- 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 粘性・粘り強
 - 10YR4/4褐色土 炭化物粒子をわずかに含む 粘性強 粘りやや有



- P385**
- 10YR3/2黒褐色土 炭化物粒子を多量に含む(特に上部) 粘性・粘りやや有
 - 10YR4/4褐色土 地山ブロック・炭化物粒子・かわかけ細片をそれぞれわずかに含む 粘性・粘りやや有



- P386** 粘結なし



P387



P387

- 1 10YR3/4暗褐色粘土 かわらけ片を少量・炭化物粒子(φ1mm~3mm)をやや多く・地山粘土ブロック(10YR5/6黄褐色土)をやや多く含む 円錐をわずかに含む 粘性・締り強
- 2 10YR4/6褐色粘土 地山粘土ブロック(10YR5/6黄褐色土)を40%含む 糞をわずかに含む 粘性やややや 締り強
- 3 10YR3/4暗褐色粘土と10YR5/6黄褐色土の混合層 炭化物粒子をわずかに含む 糞をわずかに含む 粘性やややや 締り強
- 4 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物をわずかに含む 地山粘土ブロックをわずかに含む 円錐をわずかに含む 粘性・締り強
- 5 10YR4/4褐色粘土 地山粘土ブロックをわずかに含む 炭化物粒子をわずかに含む 粘性・締り強

P396



P396

- 1 10YR3/3暗褐色粘土 地山ブロックを多く含む かわらけ片を少量含む 炭化物粒子(φ5mm~1cm)をやや多く含む 腐敗土は全体に含まれる 地山粒子をわずかに含む 粘性強 締りやややや
- 2 10YR3/3暗褐色粘土 炭化物粒子(φ3mm~5mm)を少量含む 地山粒子をわずかに含む 地山粘土ブロックを少量含む かわらけ片をわずかに含む 粘性やややや 締り強
- 3 2.5Y7/3S黄褐色土 10YR3/2黒褐色粘土が混じる ブロック状に入っている 粘性強 締りやややや
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 粘性・締り強
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子を少量含む 粘性・締り強

P402



P402

- 1 10YR4/4褐色粘土 10YR6/6明黄褐色粘土ブロックをやや多く含む 炭化物粒子をわずかに含む 粘性・締り強
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 粘性なし 締り弱
- 3 10YR4/4褐色粘土 かわらけ片を少量含む 粘性・締り強

P405



P405

- 1 10YR5/6黄褐色粘土と10YR5/3にぶい黄褐色粘土 粘性あまりなし 締り強 人為堆積か
- 2 10YR5/6黄褐色粘土と10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子を微量含む 粘性あまりなし 締り強 人為堆積か
- 3 10YR3/3暗褐色粘土と10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子・焼土状粒子有 粘性あまりなし 締り強

P407



P407

- 1 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子・かわらけ片を微量含む 粘性・締りやややや
- 2 10YR3/2黒褐色粘土 にぶい黄褐色土ブロックを少量含む 炭化物粒子(φ1mm)を少量含む 粘性・締り強
- 3 2.5YR6/6橙褐色粘土 10YR4/4褐色粘土をやや多く含む 粘性・締り強

P408, 409



P408

- 1 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子微量混入 かわらけ片少量・地山ブロック20%含む 粘性有 締りやや強
- 2 10YR5/6黄褐色粘土 粘性有 締りやや強 地山の腐敗か
- 3 10YR3/4暗褐色粘土 炭化物粒子少量混入 かわらけ片少量・地山ブロック5%含む 粘性有 締りやや強

P409



P409

- 1 10YR5/6黄褐色粘土 粘性有 締りやや強
- 2 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子少量混入 かわらけ片少量・地山ブロック15%含む 粘性有 締り強
- 3 10YR5/6黄褐色粘土 炭化物粒子微量混入 粘性有 締りやや強
- 4 10YR4/4褐色粘土 炭化物粒子微量混入 地山ブロック50%含む 粘性強 締りやや強

P412



P412

- 1 10YR3/4暗褐色粘土と10YR5/4にぶい黄褐色粘土 粘性やややや 締り強
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 粘性・締り強
- 3 10YR5/3にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子少量混入 粘性・締り強
- 4 10YR6/4にぶい黄褐色粘土 炭化物粒子少量混入 粘性・締り強

P432



P432

- 1 10YR2/2黒褐色土 10YR7/6明黄褐色土との混合土7% 炭化物粒子5%混入 粘性弱 締りやや強
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR7/6明黄褐色土と微量混合 炭化物粒子1%混入 粘性弱 締りやややや

P433



P433

- 1 10YR3/4暗褐色土 炭化物粒子をわずかに含む 粘性あまりなし 締り強
- 2 10YR4/6褐色粘土と10YR5/6明黄褐色粘土の混合層 炭化物粒子をわずかに含む 粘性・締り強
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色粘土 粘性・締り強
- 4 10YR5/6黄褐色土 粘性あまりなし 締り強

P434



P434

- 1 10YR5/6黄褐色粘土層 10YR4/4褐色土の混合 粘性なし 締りやや弱

P435



P435

- 1 10YR5/6黄褐色粘土と10YR4/4褐色粘土と10YR7/4にぶい黄褐色粘土 粘性やややや 締り強
- 2 10YR3/4暗褐色粘土と10YR5/4にぶい黄褐色粘土 かわらけ片・炭有 粘性やややや 締りやや強
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 粘性やややや 締りやや強

P437



P437

- 1 10YR2/2黒褐色粘土と10YR6/6明黄褐色粘土 炭化物粒子(φ5mm前後)2%混入 かわらけ片多量を含む 粘性やややや 締り強
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 地山ブロック混入 粘性やややや 締り強

※ 1層はSD33埋土 2層はP437埋土

P442



P442

- 1 10YR5/6黄褐色粘土と10YR3/4暗褐色粘土の混合層 炭化物粒子3%混入 粘性・締り強 (10YR5/6は地山粘土)

P447



P447

- 1 10YR3/3暗褐色粘土 かわらけ片少量混入 炭化物粒子(φ1cm大)混入 地山ブロック20%含む 粘性有 締り弱

P456



P456

- 1 10YR3/4暗褐色粘土 地山粘土ブロックを多く含む 粘性・締り強
- 2 10YR3/4暗褐色粘土 地山粘土ブロックはほとんど入らない 粘性・締り強

P469



P469

- 1 10YR3/4暗褐色土 炭化物粒子を少量含む 粘性・締りやや強
- 2 10YR4/4褐色土 地山ブロックをわずかに含む 粘性あまりなし 締り強

P519

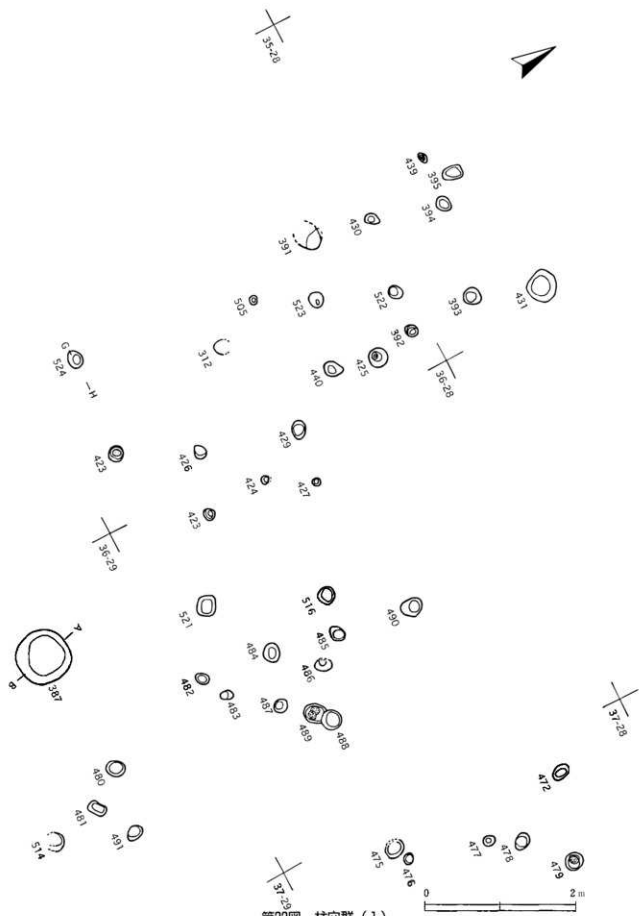


P519

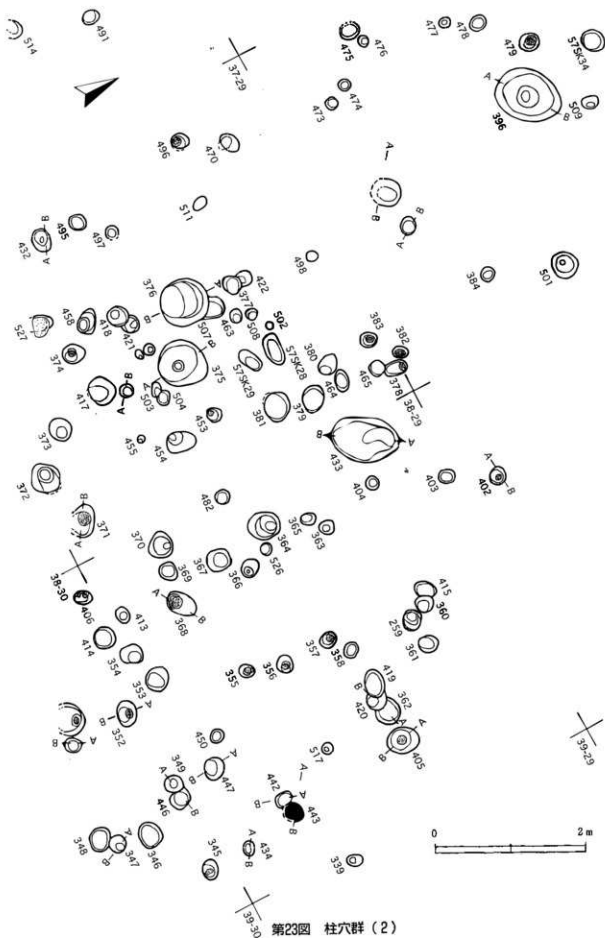
- 1 10YR3/4暗褐色土 炭化物粒子をわずかに含む 粘性あまりなし 締り強
- 2 2.5YR/3にぶい黄褐色土 ブロック主体1層の土がまじる 粘性・締り強



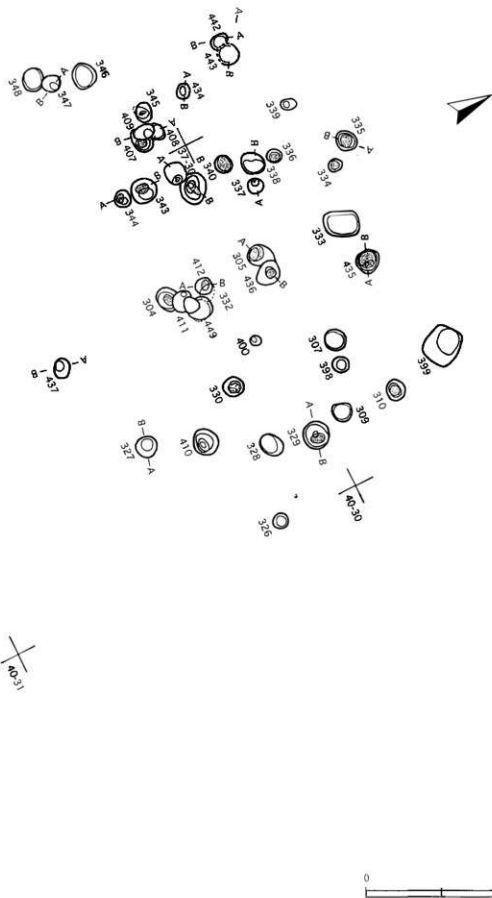
第21図 柱穴断面(3)



第22图 柱穴群 (1)



第23图 柱穴群 (2)



第24图 柱穴群(3)



41-31

025
A-D B
51 B

41-32

324

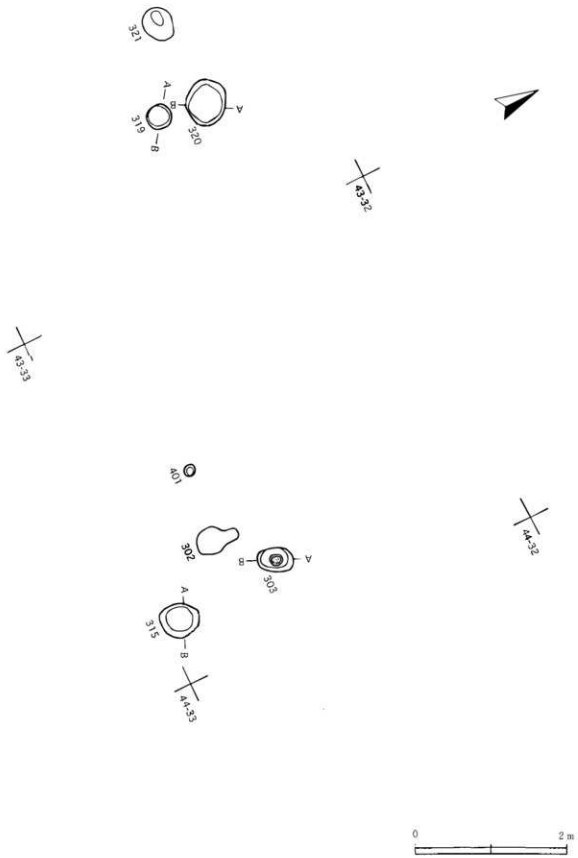
42-31

42-32

445
448
322
123

0 2 m

第25图 柱穴群(4)



第26图 柱穴群(5)

2 出土遺物

57次調査で出土した遺物は、かわらけ（ロクロ・手づくね）、国産陶器（常滑、渥美、須恵器系）、輸入陶磁器（青磁、白磁、青白磁、陶器）、瓦（軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦）、木製品、石製品、鉄器、埴埴、などがある。ここでは種類ごとに概要をまとめ、遺物の出土状況についてはⅢ・1で、個々の遺物の特徴については観察表で触れることとする。

〔1〕 かわらけ（第27～30図・写真図版22～25）

12世紀のかわらけは57次調査全体で221,964点出土した。内訳は堀内部地区136,948点、堀外部地区85,016点である。

出土したかわらけに関しては遺構出土のものを中心に掲載した（137点）。個々の特徴については表にまとめている。かわらけはロクロ整形と手づくねに分けられ、手づくねかわらけは以下のように分類される。

- | | |
|------------------|-------------------|
| C 3…2段で、口縁部面取りなし | C 4…2段で、口縁部をつまみ上げ |
| C 5…2段で、口縁部面取りあり | D 2…1段で、口縁部外反 |
| D 3…1段で、口縁部面取りなし | D 4…1段で、口縁部面取りあり |

ロクロかわらけについては特別、形態分類をしていないが、法量は表に載せている。これは実測図上で計測したものである。よって反転実測で求められた数値を記している場合もある。

〔2〕 国産陶器（第31～34図・写真図版26～30）

遺構内外から12世紀の国産陶器（常滑産、渥美産、須恵器系）の破片が多量に出土している。堀内部地区では常滑産陶器は34片、渥美産陶器は54片、須恵器系陶器が15片である。合計すると103片になる。堀外部地区では常滑産陶器は56片、渥美産陶器は125片、須恵器系陶器が33片である。合計すると214片になる。面積が小さいわりに堀外部地区からの出土は多かった。

〔3〕 中国産陶磁器（第35・36図・写真図版30・31）

白磁31片、青磁2片、青白磁0片が出土した。代表的なものを実測し、写真と観察表には実測しなかったものも加えて全点を掲載した。中国産陶器は20片が出土し、その大半を掲載した。中国産陶磁器の構成は以下のような。また、堀内部・外部とに分け、過去の出土量に加算したものも併せて作成したものは総括編に記載した。

〔4〕 瓦（第37図・写真図版31）

今回の調査では少量しか出土していない。この中から代表的なものを中心に軒丸瓦1点と丸瓦2点、平瓦2点を掲載した。

貿易陶磁器構成 (57次)

道路名	分類	白		青 磁											黒						定数	総数																			
		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	V	I	II	III			IV	V	VI																
																										系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系
隼之野所内部地区		0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10
隼之野所外部地区		0	7	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	23		
総 数		0	10	8	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	33			

貿易陶磁器構成 (57次)

道路名	分類	器種	青 磁										青 白 磁					陶 器					総数															
			龍泉窯系					同安窯系					柄	柄	合	小	特	特	黄	緑	球	紋		13	陶													
			柄	皿	壺	13	15	柄	柄	皿	皿	壺														子	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	
隼之野所内部地区		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
隼之野所外部地区		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	
総 数		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	

〔5〕 木製品 (第38図・写真図版32)

図23SG1に設定したトレンチT-3Cでは23SG1より古い井戸と考えられる遺構57SE2が検出されている。この遺構の検出面及び埋土から9点ほどを取り上げ、その全てを掲載した。種類を特定できるものは少ないが4001は排水路の側板が破損したものと考えられる。4005は削り出しの縁を持つ板材である。

〔6〕 その他の遺物 (第37・38図・写真図版32~34)

羽口 5001は遺構外出土である。

増埴 5002は柱穴 (P359) から出土した。ほぼ完形品で、注口もつくりだしてある。内面には付着物が残る。

刀子 5003は腐食が著しい。遺構外出土により12世紀のものではない可能性もある。残存値での長さ9.8cmを測る。

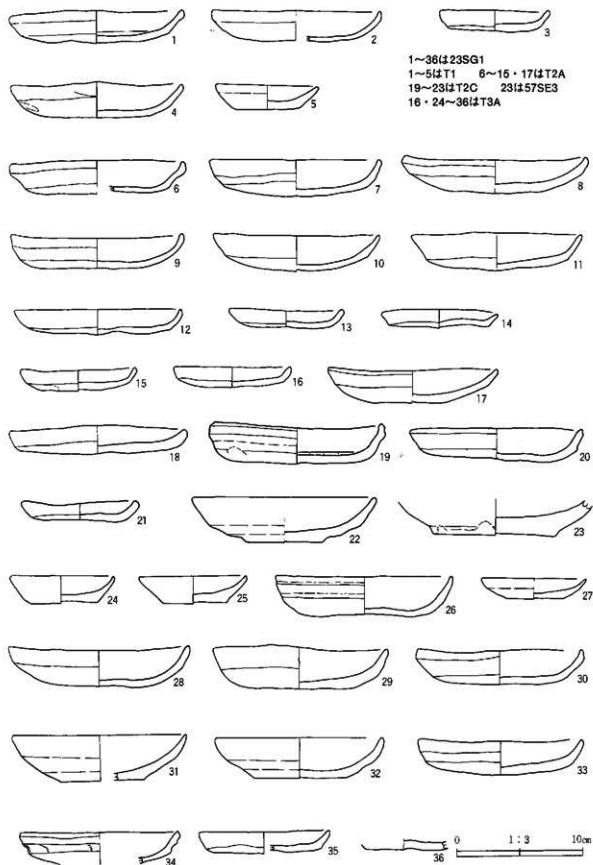
番石 57SE1より出土したが、遺構に伴わない。

碓石 5004は柱穴 (P321) から出土した。上部を欠く。

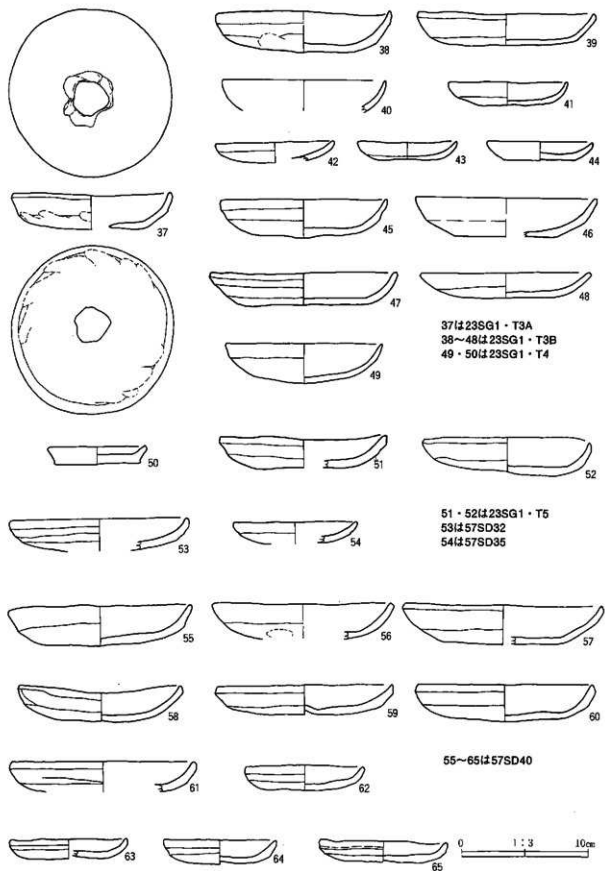
縄文土器・石器 (5006~5013) 堀外部地区を中心に土器・石器が散布していた。状態の良いものを掲載したが、遺構に伴って出土したものはない。

煙管 遺構外から2点出土している

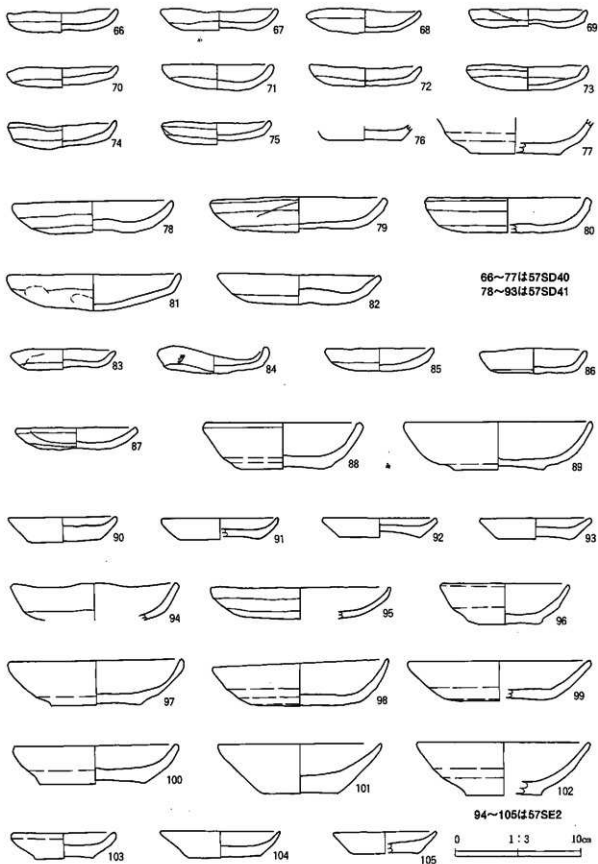
近世・近代の陶磁器 堀内部地区の東側調査区を中心にコンテナ (42×32×30cm) で0.5箱ほどの出土があった。



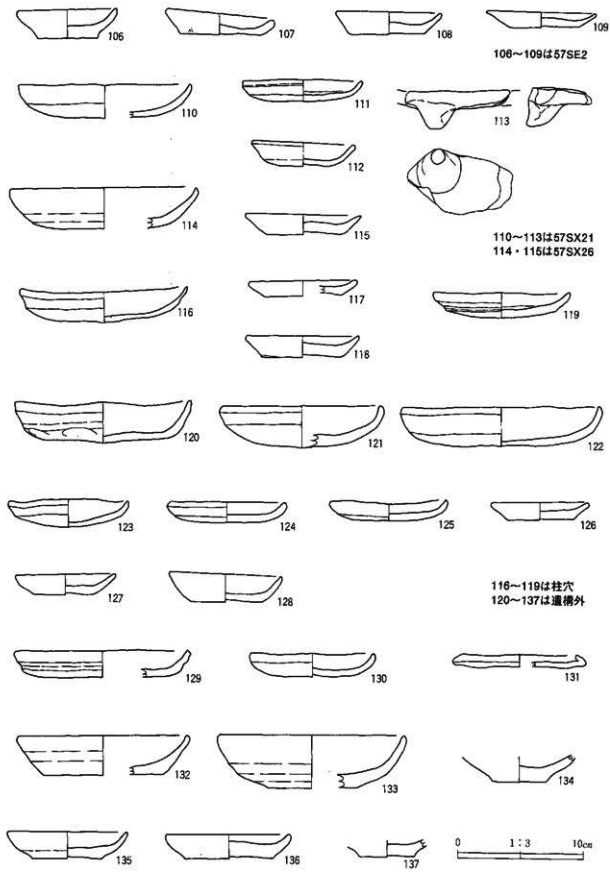
第27図 かわらけ(1)



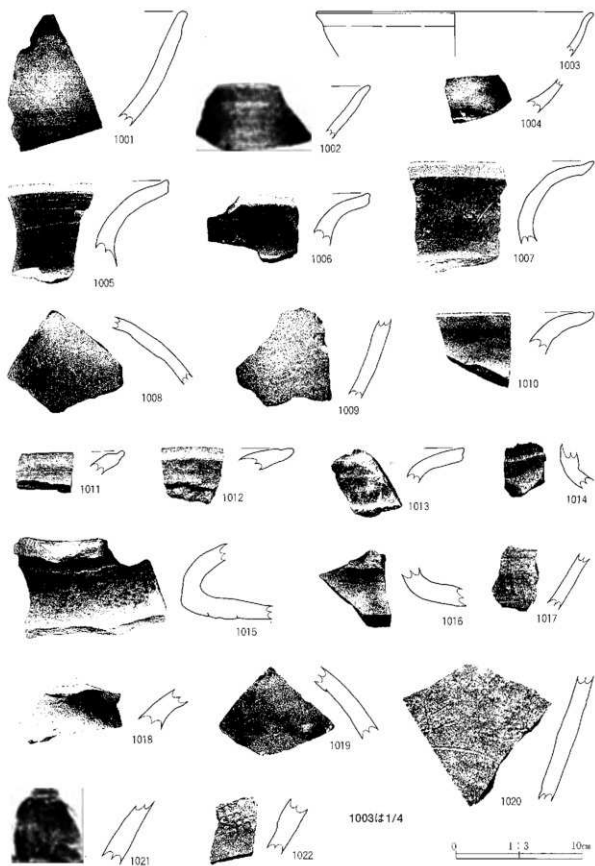
第28圖 かわらけ(2)



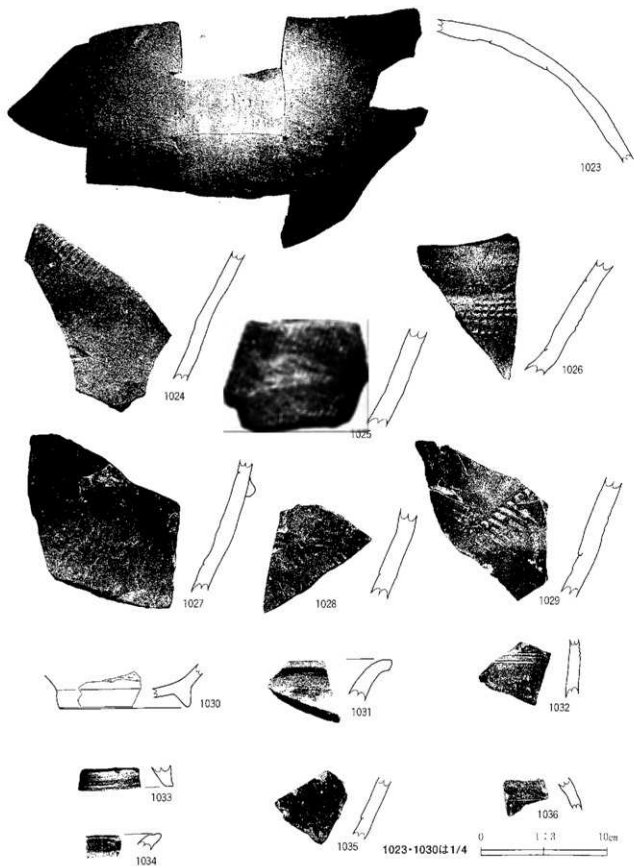
第29圖 かわらけ(3)



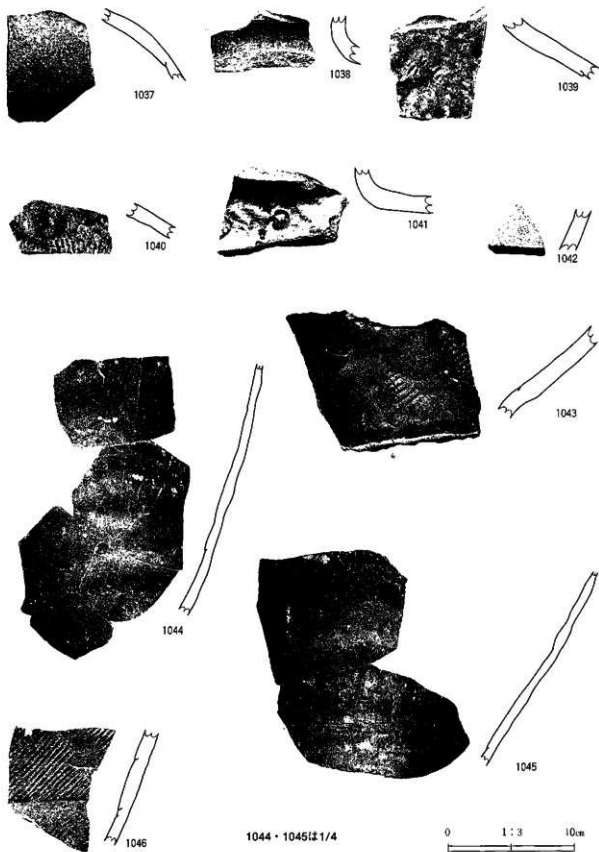
第30図 かわらけ(4)



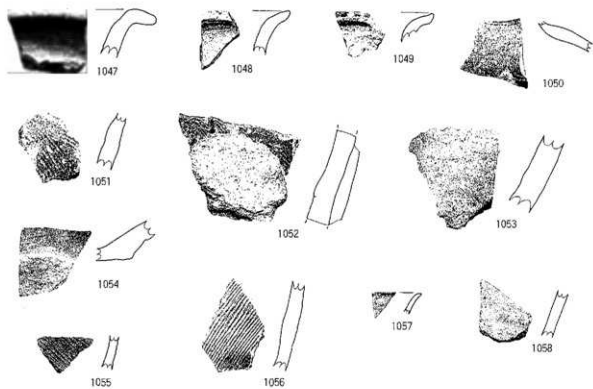
第31圖 渥美産陶器(1)



第32図 渥美産陶器(2)・常滑産陶器(1)

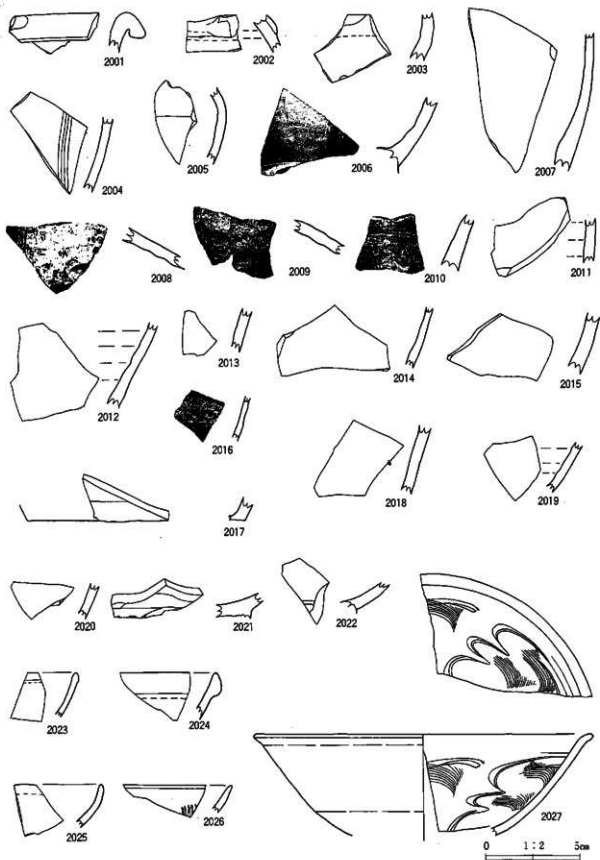


第33圖 常滑産陶器（2）

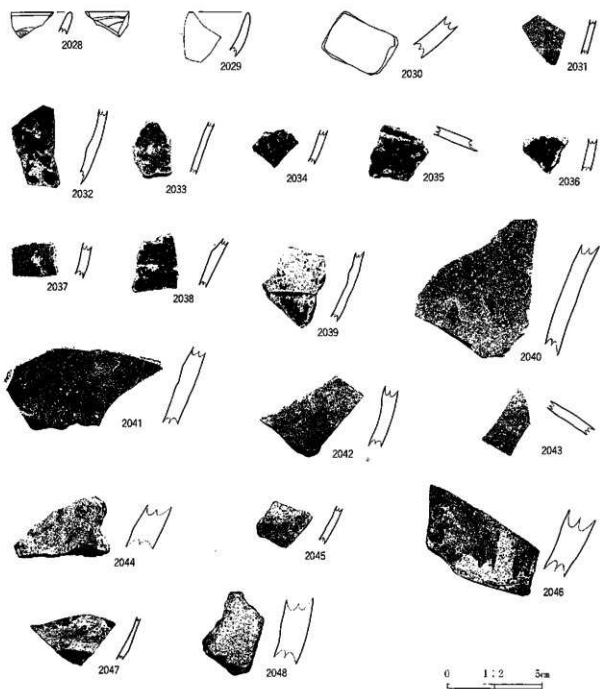


0 1 : 3 10cm

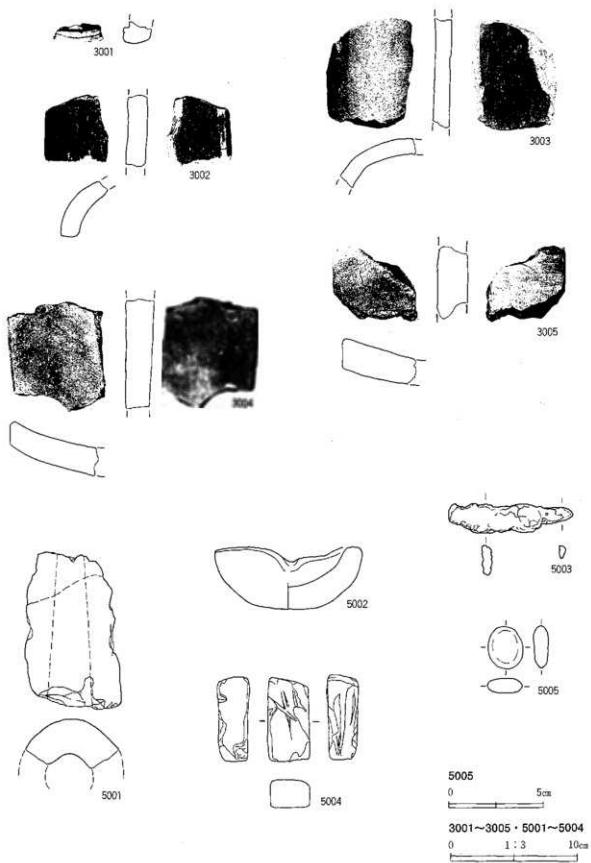
第34図 須恵器系陶器他



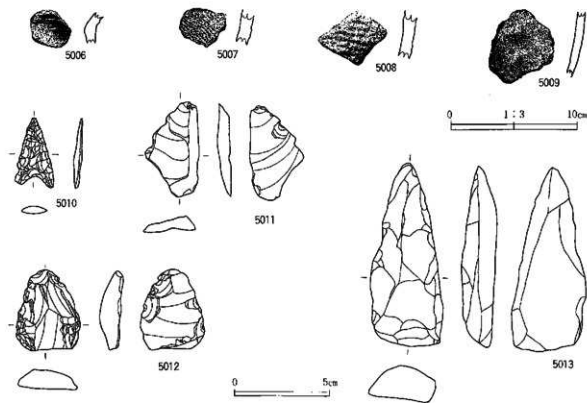
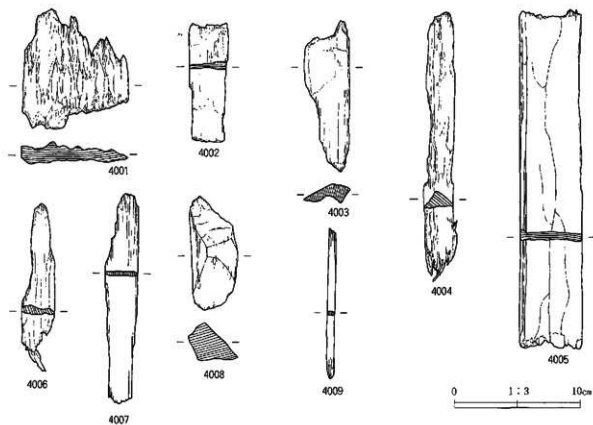
第35图 中国産陶磁器 (1)



第36图 中国産陶磁器(2)



第37図 瓦ほか



第38圖 木製品・縄文土器・石器

柱穴番号	標高 (m)	深さ (cm)	備 考
1	26.034	未測	
2	26.032	未測	
3	26.010	未測	
4	25.996	未測	
5	25.925	未測	
6	25.920	未測	
7	25.940	未測	
8	25.875	-	レベル不明
9			欠番
10	25.605	未測	
11	25.350	12.6	
12	25.643	-	レベル不明
13	25.856	未測	
14	25.798	-	レベル不明
15	25.850	未測	
16	25.661	未測	
17	25.736	-	レベル不明
18			欠番
19	25.561	未測	
20	25.716	未測	
21	25.761	未測	
22	25.789	未測	
23	25.795	-	
24	25.765	未測	
25	25.737	未測	
26	25.958	未測	
27	25.857	未測	
28	25.972	未測	
29	25.685	未測	
30	25.863	未測	
31	25.981	未測	
32	23.998	未測	
33	26.008	未測	
34	26.015	未測	
35	25.969	未測	
36	25.870	未測	
37	25.848	未測	
38	25.828	未測	
39	26.153	未測	
40	26.134	未測	
41	26.115	未測	
42	25.696	15.3	
43	25.668	13.2	
44	25.726	-	レベル不明
45	25.950	未測	
46	25.806	未測	
47	26.198	未測	
48	26.190	未測	
49	26.218	未測	
50	26.158	未測	
51	26.152	未測	
52	26.138	未測	
53	26.101	未測	
54	26.090	未測	
55	26.156	未測	
56	26.115	未測	
57	26.133	未測	
58	26.122	未測	
59	26.085	未測	
60	26.153	未測	
61	25.662	未測	
62	25.660	未測	
63	25.569	未測	
64	25.609	未測	
65	23.604	未測	
66	23.851	未測	
67	23.829	未測	
68	25.886	未測	
69	25.850	未測	
70	25.779	未測	
71	25.605	未測	
72	25.520	未測	
73	25.538	未測	
74	25.589	未測	
75	25.420	未測	
76	25.444	未測	
77	23.453	未測	
78	23.374	未測	
79	25.602	未測	
80	25.553	未測	
81	25.582	未測	
82	25.380	未測	
83	25.613	未測	
84	26.043	未測	

柱穴番号	標高 (m)	深さ (cm)	備 考
85	26.052	未測	
86	26.019	未測	
87	26.024	未測	
88	25.980	未測	
89	25.940	未測	
90	23.822	未測	
91	26.795	未測	
92	26.773	未測	
93	26.850	未測	
94	26.605	未測	
95	25.940	未測	レベル不明
96	25.445	未測	
97	26.744	未測	
98	26.724	未測	
99	26.473	未測	
100	25.656	未測	
101	25.442	未測	
102	23.643	未測	
103	25.565	未測	
104	25.643	未測	
105	25.698	未測	
106	25.645	未測	
107	25.554	未測	
108	25.670	未測	
109	25.624	未測	
110	25.623	未測	
111	25.717	未測	
112	25.715	未測	
113	25.633	未測	
114	25.697	未測	
115	25.670	未測	
116			欠番
117	25.692	未測	
118	26.642	未測	
119	25.594	未測	
120	25.620	未測	
121	25.662	未測	
122	25.657	未測	
123			
124	25.613	未測	
125	25.624	未測	
126	25.640	未測	
127	25.592	未測	
128	25.533	-	レベル不明
129			欠番
130	25.638	未測	
131	25.650	未測	
132	25.642	未測	
133	25.526	未測	
134	25.664	未測	
135	23.640	未測	
136	25.667	未測	
137	25.602	16.6	
138	25.628	未測	
139			欠番
140	25.540	未測	
141	25.601	未測	
142	25.568	未測	
143	25.660	未測	
144	25.628	未測	
145	25.695	未測	
146			欠番
147	25.533	未測	
148	25.679	13.0	
149	25.642	10.2	
150	25.610	14.0	
151	25.573	未測	
152			欠番
153	25.734	未測	
154			欠番
155	26.235	未測	
156	26.133	未測	
157	26.073	未測	
158	25.807	未測	
159	25.880	未測	
160	25.827	未測	
161	25.976	未測	
162	25.832	未測	
163	25.900	未測	
164	25.925	未測	
165	25.665	未測	
166	23.675	未測	
167	25.660	未測	
168	25.972	未測	

柱穴番号	標高 (m)	深さ (cm)	備 考
169	25.976	未測	
170	25.828	未測	
171	25.750	未測	
172	25.647	未測	
173	25.467	未測	
174	25.490	未測	
175	25.661	未測	
176	25.575	未測	
177	25.473	未測	
178	25.566	未測	
179	25.667	未測	
180	25.670	未測	
181	25.388	未測	
182	26.620	未測	
183	25.402	未測	
184	25.394	未測	
185	25.643	未測	
186	29.332	未測	
187			欠番
188	25.470	未測	
189	25.402	未測	
190	25.365	未測	
191	25.345	未測	
192	25.249	未測	
193	25.331	-	レベル不明
194	25.575	未測	
196	25.250	未測	
196	25.283	未測	
197	25.448	未測	
198	25.575	未測	
199	25.585	未測	
200	26.568	未測	
201			欠番
202			欠番
203	25.511	未測	
204	25.552	未測	
205	25.475	未測	
206	25.529	未測	
207	25.486	未測	
208	25.536	未測	
209	25.517	未測	
210	25.138	未測	
211	25.140	未測	
212	25.611	未測	
213	25.621	未測	
214	25.532	未測	
215	25.478	未測	
216	25.558	未測	
217	24.730	未測	
218	24.944	未測	
219	24.756	未測	
220	25.391	未測	
221	25.350	未測	
222	25.215	未測	
223	24.613	未測	
224	25.038	未測	
225	24.065	未測	
226	25.022	未測	
227	24.545	未測	
228	25.190	未測	
229	27.578	9.1	
230	27.378	7.6	
231	27.378	30.0	
232	27.395	20.8	
233	27.652	32.0	
234	27.596	19.6	
235	27.564	-	レベル不明
236	27.580	9.2	
237	27.600	8.5	
238	27.548	1.9	
239	27.588	18.0	
240	27.568	6.4	
241	27.548	未測	
242	27.018	32.2	
243			欠番
244	25.106	未測	
245	25.295	未測	
246	25.208	未測	
247	25.278	未測	
248	25.258	未測	
249	25.344	未測	
250	29.327	未測	
251	25.336	未測	
252	25.400	未測	

柱穴計測表 (1)

柱穴番号	柱高 (m)	深さ (cm)	備考
253	25.475	未観	
254	25.497	未観	
255	25.515	未観	
256	25.505	未観	
257			欠番
258	25.331	19.2	
259	24.953	未観	
260	25.395	未観	
261	24.275	未観	
262	25.210	未観	
263	25.215	未観	
264	25.160	未観	
265	25.339	未観	
266			欠番
267	24.795	未観	
268	24.075	未観	
269			欠番
270	29.070	未観	
271	29.355	22.5	
272	29.660	16.5	
273	29.534	19.3	
274			欠番
275	29.445	14.4	
276			欠番
277	29.464	15.9	
278	29.384	22.8	
279			欠番
280	28.912	未観	
281			欠番
282			欠番
283	29.950	20.6	
284			欠番
285			欠番
286			欠番
287			欠番
288			欠番
289			欠番
290			欠番
291			欠番
292			欠番
293			欠番
294			欠番
295			欠番
296			欠番
297			欠番
298			欠番
299			欠番
300			欠番
301			欠番
302			欠番
303			欠番
304			欠番
305			欠番
306			欠番
307			欠番
308			欠番
309			欠番
310			欠番
311			欠番
312			欠番
313			欠番
314			欠番
315			欠番
316			欠番
317			欠番
318			欠番
319			欠番
320			欠番
321			欠番
322			欠番
323			欠番
324			欠番
325			欠番
326			欠番
327			欠番
328			欠番
329			欠番
330			欠番
331			欠番
332			欠番
333			欠番
334			欠番
335			欠番
336			欠番
337			欠番
338			欠番
339			欠番
340			欠番
341			欠番
342			欠番
343			欠番
344			欠番
345			欠番
346			欠番
347			欠番
348			欠番
349			欠番
350			欠番
351			欠番
352			欠番
353			欠番
354			欠番
355			欠番
356			欠番
357			欠番
358			欠番
359			欠番
360			欠番
361			欠番
362			欠番
363			欠番
364			欠番
365			欠番
366			欠番
367			欠番
368			欠番

柱穴番号	柱高 (m)	深さ (cm)	備考
369	29.341	12.3	
370	29.336	10.1	
371	29.397	22.3	
372	29.413	61.9	
373	29.384	22.2	
374	29.554	69.4	
375	29.290	50.2	
376	29.271	58.1	
377	29.250	67.3	
378	28.925	14.2	
379	29.060	17.2	
380	29.050	22.6	
381	29.124	33.0	
382	28.898	9.2	
383	28.900	-	レベル不明
384	28.745	14.2	
385	28.784	18.9	
386	28.771	19.3	
387	29.343	61.4	
388			欠番
389			欠番
390			欠番
391	28.806	38.0	
392	28.746	12.4	
393	28.623	19.0	
394	28.612	15.9	
395	28.592	8.8	
396	28.647	33.4	
397			欠番
398	29.454	6.3	
399	29.790	15.7	
400	29.544	21.4	
401	29.508	-	レベル不明
402	28.958	23.3	
403	29.014	3.8	
404	29.028	16.8	
405	29.256	45.0	
406	29.453	-	レベル不明
407	29.607	34.8	
408	29.570	12.0	
409	29.597	23.0	
410	29.616	31.4	
411	29.628	22.9	
412	29.644	28.8	
413	29.429	15.0	
414	29.445	24.1	
415	29.132	2.2	
416			欠番
417	29.340	35.4	
418	29.253	21.2	
419	29.381	29.5	
420	29.268	52.1	
421	29.329	74.9	
422	29.184	22.7	
423	29.124	18.6	
424	28.998	18.8	
425	28.790	31.3	
426	29.099	10.7	
427	28.922	5.1	
428			欠番
429	28.925	12.0	
430	28.782	12.8	
431	28.442	21.4	
432	28.608	29.4	
433	28.957	48.1	
434	29.625	12.0	
435	29.292	13.0	
436	29.529	17.0	
437	29.633	15.5	
438	29.611	43.1	
439	28.656	29.1	
440	28.802	29.1	
441			欠番
442	29.430	25.9	
443	29.438	16.3	
444	29.826	-	レベル不明
445			レベル不明
446	29.510	35.0	
447	29.433	58.0	
448			欠番
449	29.620	21.6	
450	29.422	7.0	
451			欠番
452	29.119	17.0	

柱穴番号	柱高 (m)	深さ (cm)	備考
453	29.070	3.8	
454	29.124	27.4	
455	29.160	5.8	
456	29.140	20.6	
457			欠番
458	29.180	14.0	
459			欠番
460			欠番
461			欠番
462			欠番
463	28.985	5.0	
464	28.900	7.2	
465	28.030	20.0	
466			欠番
467			欠番
468			欠番
469	29.022	20.2	
470	28.921	27.1	
471	28.020	42.8	
472	28.474	17.8	
473	28.906	6.6	
474	28.772	16.9	
475	28.818	21.2	
476	28.710	20.0	
477	28.626	17.5	
478	28.622	7.8	
479	28.573	11.3	
480	29.324	25.6	
481	29.269	15.9	
482	29.160	15.4	
483	29.140	22.0	
484	28.094	10.8	
485	28.045	19.6	
486	28.071	28.9	
487	29.069	22.9	
488	28.907	13.1	
489	28.985	8.6	
490	28.820	12.0	
491	29.173	17.8	
492			欠番
493			欠番
494			欠番
495	29.125	4.7	
496			欠番
497	29.077	27.3	
498	28.845	48.6	
499			欠番
500			欠番
501	28.659	22.1	
502	28.916	未観	
503	29.128	13.6	
504	29.102	12.8	
505	29.130	18.6	
506	29.106	16.6	
507	29.090	10.6	
508	28.980	4.9	
509	28.217	26.3	
510			欠番
511	28.979	未観	
512			欠番
513			欠番
514	29.353	17.9	
515			欠番
516	28.912	12.6	
517	29.316	12.3	
518			欠番
519	29.318	18.9	
520	29.283	13.1	
521	29.121	16.8	
522	28.745	20.3	
523	28.880	14.8	
524	29.201	14.6	
525	28.877	6.5	
526	29.155	6.3	
527	29.240	32.5	
528	29.630	5.0	照野のみ
575S24	28.912	18.5	柱穴になった
575S28	28.978	11.3	柱穴になった
575S29	29.000	15.0	柱穴になった

柱穴計測表 (2)

番号	出土位置	分類	法 量 (cm)			底径/口径	備 考	図版	写真 掲載
			口径	底径	器高				
1	23SG1, T1・11層③	C3	13.6		2.5			27	22
2	23SG1, T1・11層④	D3	13.2		2.4		風化著しい	27	22
3	23SG1, T1・11層⑤	D3	8.6		1.7		風化	27	22
4	23SG1, T1	D3	13.4		2.9			27	22
5	23SG1, T1	ロクロ小	7.8	4.5	2.1	0.58		27	22
6	23SG1, T2A・3層①	C3	13.6		2.6			27	22
7	23SG1, T2A・3層②	C5	13.0		2.9			27	22
8	23SG1, T2A・4層①	D4	14.4		2.9			27	22
9	23SG1, T2A・4層②	C3	13.4		2.8			27	22
10	23SG1, T2A・4層③	D3	13.0		2.8			27	22
11	23SG1, T2A・4層④	D3	13.4		3.0			27	22
12	23SG1, T2A・4層⑤	D3	13.2		2.0		風化著しい	27	22
13	23SG1, T2A・5層①	D3	8.8		1.4		風化著しい	27	22
14	23SG1, T2A・6層②	D2	9.0		1.4		歪み	27	22
15	23SG1, T2A・6層③	D3	9.0		1.8		風化	27	22
16	23SG1, T3A・4層①	D3	9.2		1.6			27	22
17	23SG1, T2A・1-11	D4	13.2		2.6			27	22
18	23SG1, Ⅱ期池盛土	D3	13.8		1.2		すのこ復	27	22
19	23SG1, T2C・2層①	C5	13.2		3.0		すのこ復	27	22
20	23SG1, T2C・2層②	D4	13.5		2.7			27	22
21	23SG1, T2C・2層③	D3	9.0		1.7			27	22
22	23SG1, T2C・2層④	ロクロ大	14.4	6.0	3.5	0.42	風化著しい	27	22
23	23SG1, T2C・10層⑤(S.E.3)	ロクロ大	-	9.6	(2.5)		特大のかわらけ	27	22
24	23SG1, T3A・2層①	ロクロ小	8.1	5.3	2.2	0.63	表面剥落、石多	27	22
25	23SG1, T3A・2層②	ロクロ小	8.5	5.0	2.1	0.59	24と同じ胎土	27	22
26	23SG1, T3A・3層①	C4	13.8		3.3		表面剥落	27	22
27	23SG1, T3A・3層②	ロクロ小	8.4	4.5	1.6	0.54	28と同じ胎土	27	22
28	23SG1, T3A・3層③	D3	14.4		3.2			27	22
29	23SG1, T3A・3層④	D4	13.8		3.3		表面やや剥落	27	22
30	23SG1, T3A・3層⑤	D4	13.0		2.8			27	23
31	23SG1, T3A・3層⑥	ロクロ大	13.9	6.7	3.7	0.48	表面は風化している	27	23
32	23SG1, T3A・3層⑦	ロクロ大	13.1	7.0	3.2	0.53	風化著しい	27	23
33	23SG1, T3A・4層①	C3	13.0		2.7			27	23
34	23SG1, T3A・1-4層	C5	12.6		(2.5)			27	23
35	23SG1, T3A・1-4層	D3	10.2		1.8			27	23
36	23SG1, T3A・1-4層	ロクロ小	-	5.8	(0.9)			28	23
37	23SG1, T3A・3層①	D4	12.8		2.9		底部穿孔	28	23
38	23SG1, T3B・1a層①	C3	14.0		3.3			28	23
39	23SG1, T3B・1a層②	D4	13.9		2.6		風化著しい	28	23
40	23SG1, T3B・1a層③	ロクロ大	12.8	(2.4)	-		表面が剥落	28	23
41	23SG1, T3B・1d層①	D3	9.3		1.9			28	23
42	23SG1, T3B・1d層②	D3	9.2		1.7		風化著しい	28	23
43	23SG1, T3B・1層	D3	7.9		1.4			28	23
44	23SG1, T3B・1層	ロクロ小	8.3	5.6	1.5	0.67		28	23
45	23SG1, T3B・1d層③	C3	13.0		3.1		表面が剥落	28	23
46	23SG1, T3B・1d層④	ロクロ大	14.0	8.0	3.1	0.57		28	23
47	23SG1, T3B・⑤	C5	14.6		2.5		風化著しい	28	23
48	23SG1, T3A・1-4層	D2	13.4		2.0			28	23
49	23SG1, T4・3層①	D3	12.2		3.2		風化著しい	28	23
50	23SG1, T4・1-5層	ロクロ小	7.6	7.0	1.3	0.92		28	23
51	23SG1, T5・1層①	D4	13.0		2.6		風化著しい	28	23
52	23SG1, T5・2層①	D4	13.1		3.0			28	23
53	57SD32硬土	C5	13.8		(2.5)			28	23
54	57SD35, 4層	D3	9.6		(1.7)			28	23
55	57SD40硬土①	D3	14.4		3.2			28	23
56	57SD40硬土	D3	13.8		(3.1)			28	23
57	57SD40硬土	D4	15.6		2.9			28	23
58	57SD40硬土	D4	12.7		2.9			28	23
59	57SD40硬土	D4	13.8		(2.4)			28	24
60	57SD40硬土	D4	13.8		2.9			28	24
61	57SD40硬土	D4	14.4		(2.4)			28	24
62	57SD40硬土	C3	9.2		2.0			28	24
63	57SD40硬土	C3	9.2		1.6			28	24
64	57SD40硬土	C3	8.8		1.9			28	24
65	57SD40硬土	C4	10.0		1.7			28	24
66	57SD40硬土	D2	8.6		1.6			29	24
67	57SD40硬土	D3	9.0		1.8			29	24
68	57SD40硬土	D3	8.8		2.0			29	24
69	57SD40硬土	D3	9.2		1.5			29	24

柳之御所57次かわらけ調査表(1)

番号	出上位置	分類	法 量 (cm)			底径 L径	備考	図面	写真
			口径	底径	器高				
70	57 S D40埋土	D 3	8.8		1.6			29	24
71	57 S D40埋土①	D 3	8.6		2.1			29	24
72	57 S D40埋土②	D 3	8.3		1.5			29	24
73	57 S D40埋土	D 4	8.6		1.9			29	24
74	57 S D40埋土①	D 4	8.5		1.8			29	24
75	57 S D40埋土	D 4	8.4		1.8			29	24
76	57 S D40埋土②	ロクロ小		5.8	(1.2)			29	24
77	57 S D40埋土	ロクロ大		7.0	(2.9)			29	24
78	57 S D41埋土	C 3	12.6		2.5			29	24
79	57 S D41埋土	C 5	13.6		2.8			29	24
80	57 S D41埋土	C 5	12.6		2.8			29	24
81	57 S D41埋土①	D 3	13.6		3.0		砂多い粘土	29	24
82	57 S D41埋土	D 2	12.6		2.4			29	24
83	57 S D41埋土	D 2	8.2		1.7		外壁に錆目痕	29	24
84	57 S D41埋土	D 3	8.0		2.1		大きく含む	29	24
85	57 S D41埋土	D 3	8.6		1.8		砂多い粘土	29	24
86	57 S D41埋土	D 3	8.2		2.0		土み有り	29	24
87	57 S D41埋土	D 4	9.4		1.8			29	24
88	57 S D41埋土	ロクロ大	12.2	6.4	3.7	0.52		29	24
89	57 S D41埋土	ロクロ大	11.8	7.0	3.8	0.47		29	24
90	57 S D41埋土	ロクロ小	8.5	5.3	2.0	0.62	風化著しい	29	24
91	57 S D41埋土	ロクロ小	9.0	6.1	1.7	0.68		29	24
92	57 S D41埋土	ロクロ小	8.8	6.4	1.6	0.73		29	24
93	57 S D41埋土	ロクロ小	8.7	3.8	1.7	0.67	表層風化	29	24
94	57 S E 2埋土	D 3	13.0		(2.9)		風化	29	24
95	57 S E 2埋土	C 4	14.0		2.5			29	24
96	57 S E 2 ①	ロクロ小	9.9	5.6	3.3	0.57	表面が剥落	29	24
97	57 S E 2 ②	ロクロ大	13.6	7.2	3.5	0.33		29	24
98	57 S E 2、4層	ロクロ大	13.6	6.4	3.7	0.47		29	24
99	57 S E 2、4層	ロクロ大	14.4	6.8	3.1	0.47		29	24
100	57 S E 2、4層	ロクロ大	12.8	8.4	3.0	0.66	焼成良くない	29	24
101	57 S E 2、11層	ロクロ大	12.9	6.0	3.9	0.47	風化著しい	29	25
102	57 S E 2埋土	ロクロ大	13.4	6.0	4.2	0.40		29	25
103	57 S E 2、②	ロクロ小	8.2	4.6	2.0	0.56	すのこ板	29	25
104	57 S E 2、7層	ロクロ小	9.4	5.6	2.2	0.60		29	25
105	57 S E 2、8-12層	ロクロ小	8.0	5.0	1.7	0.63		29	25
106	57 S E 2埋土	ロクロ小	7.7	1.8	2.4	0.62	風化	30	25
107	57 S E 2埋土	ロクロ小	8.4	6.2	2.0	0.71	土み大	30	25
108	57 S E 2埋土	ロクロ小	8.1	5.8	1.9	0.72		30	25
109	57 S E 2埋土	ロクロ小	8.6	5.4	1.4	0.63		30	25
110	57 S X 21、崩落土中	D 3	13.4		2.6			30	25
111	57 S X 21埋土	C 4	10.5		1.8		外壁に粉状	30	25
112	57 S X 21埋土	ロクロ小	8.0	4.8	1.9	0.60		30	25
113	57 S X 21、崩落土中	-	-	-	-	-	鋼部、骨針	30	25
114	57 S X 26埋土	ロクロ大	14.8	8.4	3.2	0.6	骨針	30	25
115	57 S X 26埋土	ロクロ小	9.0	5.8	1.7	0.6	砂、骨針	30	25
116	P 335埋土	D 4	13.2		2.4			30	25
117	P 337、I材	ロクロ小	8.4	6.0	1.2	0.7		30	25
118	P 368埋土①	ロクロ小	8.8	6.2	1.7	0.7	砂、骨針	30	25
119	P 396埋土	C 3	10.8		2.0			30	25
120	37-28埋土、検出	C 4	13.8		3.2			30	25
121	38-29埋土	D 4	12.4		3.3		土み、すのこ板	30	25
122	36-28埋土、粗埋	D 4	15.6		3.1			30	25
123	36-28埋土、粗埋	D 4	9.4		2.2			30	25
124	39-29、39-30、検出	D 4	9.0		1.7		風化	30	25
125	37-29埋土、粗埋	C 4	9.1		1.6		砂多い粘土	30	25
126	36-28埋土、粗埋	ロクロ小	7.6	5.2	1.4	0.7		30	25
127	37-29、IV層	ロクロ小	7.8	4.5	1.7	0.6		30	25
128	38-28、IV層上部A	ロクロ小	8.8	5.7	2.2	0.6		30	25
129	90-73、I-II層	C 3	13.4		2.1			30	25
130	90-70	D 3	9.8		1.8			30	25
131	90-71埋土	内挿れ	9.0		1.1			30	25
132	89-72、I-II層	ロクロ大	13.2	9.4	3.1	0.7		30	25
133	89-70-89-71、I-II層	ロクロ大	14.6	7.0	4.2	0.5		30	25
134	89-70-89-71、I層	ロクロ大	-	(2.1)	4.2		風化	30	25
135	89-70-89-71、I-II層	ロクロ小	9.4	6.6	2.1	0.7		30	25
136	91-71埋土	ロクロ小	9.8	7.0	1.9	0.7		30	25
137	89-70-89-71、I層	ロクロ小	-	(1.4)	4.4			30	25
138	39-28・36-29、IV、V層	ロクロ	-	-	-	-	骨孔有り	写真のみ	

榑之御所57次かわらけ観察表(2)

番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	その他	図版	写真図版
1001	深美	山茶碗か	口縁	89-70・89-71、I・II層			31	26
1002	深美	山茶碗	口縁	35-27-44-33、根張			31	26
1003	深美	山茶碗	口縁	37-29周辺、根張			31	26
1004	深美	皿類	底部	37-29周辺、III-IV層		内閣輪	31	26
1005	深美	広口壺	口縁	37-27・37-28、IV・VI・VII層			31	26
1006	深美	壺	口縁	85-70-85-71、I層			31	26
1007	深美	広口壺	口縁	86-72・87-72、I層			31	26
1008	深美	美か	底部	57 S E 1 埋土			31	26
1009	深美	酒壺か	底部	89-70-89-71、I層			31	26
1010	深美	美	口縁	P 372、IV層			31	26
1011	深美	壺	口縁	37-28-37-29、根張			31	26
1012	深美	壺	口縁	37-28-37-29、根張			31	26
1013	深美	壺	口縁	35-28、根張			31	26
1014	深美	酒壺か	底部	57 S E 2 埋土			31	26
1015	深美	美	底部	23 S G 1、75-78・II周縁土塊			31	26
1016	深美	壺	底部	57 S X 21 埋土			31	26
1017	深美	鉢類か	底部	57 S E 2 埋土			31	27
1018	深美	壺	底部付近	57 S D 35、4層			31	27
1019	深美	壺	底部	23 S G 1、T 2 塊			31	27
1020	深美	酒壺か	底部	P 233埋土		痕跡	31	27
1021	深美	壺	底部	57 S D 31 埋土		押印	31	27
1022	深美	壺	底部	57 S D 32 埋土		押印	31	27
1023	深美	壺	底部	35-28、根張・37-28-37-29、電射・35-27周縁、根張			32	27
1024	深美	壺	底部	57 S D 41 埋土			32	27
1025	深美	壺	底部	57 S D 35、4層		押印	32	28
1026	深美	美	底部	57 S X 26 埋土		常滑か	32	28
1027	深美	壺	底部	87-70・87-71、I層		押印	32	28
1028	深美	美	底部	57 S D 40 埋土		天地逆か	32	28
1029	深美	壺	底部	57 S X 21 埋土		押印	32	28
1030	常滑	片口鉢	底辺	35-28、根張		メズリ	32	28
1031	常滑	広口壺	口縁	P 321埋土			32	28
1032	常滑	壺	底部	35-27周縁、根張		沈線	32	28
1033	常滑	山茶碗か	高台	89-70-89-71、2層			32	28
1034	常滑	壺	口縁	38-29、根張			32	28
1035	常滑	美	底部	23 S G 1、T 4・1-5層		押印	32	28
1036	常滑	壺	底部	89-70・89-71、I層		沈線	32	28
1037	常滑	広口壺	底部	57 S D 35、4層			33	28
1038	常滑	広口壺	底部	23 S G 1、T 4・1-5層			33	28
1039	常滑	美	底部	90-71			33	28
1040	常滑	壺か	底部	57 S D 35、2層			33	28
1041	常滑	壺	底部	57 S D 41 埋土			33	29
1042	常滑	壺	底部	23 S G 1、T 1・12層		産地自信ない	33	29
1043	常滑	美	底部	P 233埋土		天地逆か	33	29
1044	常滑	美	底部	P 233埋土			33	29
1045	常滑	壺	底部	P 233埋土			33	29
1046	常滑	壺	底部	57 S E 2 埋土			33	29
1047	須恵器系	壺	口縁	57 S E 2 埋土			34	29
1048	須恵器系	壺	口縁	36-26・36-29、根張			34	29
1049	須恵器系	壺	口縁	36-28周辺、根張		常滑か	34	30
1050	須恵器系	壺	底部	39-30周縁、根張		液伏紋	34	30
1051	須恵器系	壺	底部	43-32周辺、根張			34	30
1052	須恵器系	壺	底部	35-28周縁、根張		別個体がつく	34	30
1053	須恵器系	壺	底部	91-70			34	30
1054	須恵器系	壺	底部	57 S D 41 埋土		産地自信ない	34	30
1055	須恵器系	壺	底部	57 S K 31 埋土			34	30
1056	須恵器系	壺	底部	85-70・85-71			34	30
1057	須恵器系	壺	底部	57 S D 35、2層			34	30
1058	須恵器系	壺か	底部	87-72-89-72、I層		産地自信ない	34	30
1059	常滑	広口壺	底部	57 S D 40 埋土		器種自信ない	-	写真のみ
1060	須恵器系	壺	底部	57 S D 41 埋土		常滑か	-	写真のみ
1061	須恵器系	壺	底部	37-28周縁、根張			-	写真のみ

柳之御所57次国産陶器観察表

番号	器種	部位	出土位置	太平洋分類	年代観	その他	図版	写真図版
2001	白磁壺	口縁部	86-70・71、I層	Ⅱ系	12C		35	P214
2002	白磁壺	肩部	73 74、横出時	Ⅲ	12C		35	P214
2003	白磁壺	肩部	35-27-44-33、粗掘	Ⅲ	12C		35	P214
2004	白磁壺	体部	57S E 2埋土	Ⅲ	12C		35	P214
2005	白磁壺	肩部	57S D41埋土④	ⅢかE	12C		35	P214
2006	白磁壺	体部下	90-71	Ⅲ	12C		35	P214
2007	白磁壺	体部	85-70・71、I層	Ⅲ	12C		35	P214
2008	白磁壺	体部	表様	Ⅲ	12C	徐潤落	35	P214
2009	白磁壺	体部	37-28-37-29	Ⅲ	12C	徐潤落	35	P214
2010	白磁壺	体部	57S D41埋土	Ⅲ	12C		35	P214
2011	白磁壺	体部	37-28周辺	Ⅲ	12C		35	30
2012	白磁壺	体部	37-27-37-28	Ⅲ	12C		35	30
2013	白磁碗	体部	57S E 2、3層	IV 2 c	12C		35	30
2014	白磁壺	体部	57S E 2埋土	Ⅲ	12C		35	30
2015	白磁壺	体部	57S D 35、5層	Ⅲ	12C		35	30
2016	白磁壺	体部	36-28周辺、粗掘	Ⅲ	12C	徐潤落	35	30
2017	陶器片?	底面	37-29周辺、粗掘	-	12C	磨鏡自信ない	35	30
2018	白磁壺	体部	35-27-44-33	Ⅲ	12C		35	30
2019	白磁壺	体部	37-29周辺、粗掘	Ⅲ	12C		35	30
2020	白磁碗	体部	38-29周辺	Ⅲ	12C		35	30
2021	白磁碗	底面	36-28周辺	V かⅢ	12C		35	30
2022	白磁碗	体部下	57S X21埋土	V かⅢ	12C		35	30
2023	白磁碗	口縁部	36-28周辺	Ⅲ	12C		35	30
2024	白磁碗	口縁	89-70・71、I層	Ⅳ	12C		35	30
2025	白磁碗	口縁部	85-70・71、I層	Ⅳ	12C		35	30
2026	白磁碗	口縁部	P 320埋土	V 1 b	12C		35	30
2027	白磁碗	口縁部	57S D 41埋土②	V 2 c	12C		35	30
2027	白磁碗	口縁部	57S D 41埋土③	V 2 c	12C		36	30
2027	白磁碗	口縁部	57S D 41、⑤	V 2 c	12C		36	30
2028	青磁碗	口縁	57S D 41埋土	I 6 b	12C	龍泉型系	36	30
2029	青磁碗	体部	57S D 32埋土	I かⅣ	12C	龍泉型系	36	30
2030	陶器片?	体部	23S G 1、T 6・I層	越州型系	12C	軟質な粘土、被熱	36	30
2031	陶器片	体部	P 310埋土	C 群	12C	黄釉か	36	30
2032	陶器片	体部	36-28周辺	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	30
2033	陶器片	体部	36-28周辺	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	30
2034	陶器片	体部	P 396埋土	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	30
2035	陶器片	体部	37-29周辺、Ⅲ類	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	30
2036	陶器片	体部	37-29周辺、Ⅲ類	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	30
2037	陶器片	体部	35-27周辺	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	31
2038	陶器片	体部	35-27-44-33、粗掘	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	31
2039	陶器片	体部	35-27-44-33	C 群Ⅲ	12C	黄釉	36	31
2040	陶器片	体部	57S D 35、2層	C 群Ⅲ	12C	褐釉	36	31
2041	陶器片	体部	57S D 32埋土	C 群Ⅲ	12C	褐釉	36	31
2042	陶器片	体部	73 48-76 49	Ⅲ	12C	混入物が少ない、閃光タキ	36	31
2043	陶器片	体部	39-29-39-30	C 群Ⅲ?	12C	黄釉、灰子	36	31
2044	陶器片	体部	57S D 41埋土	Ⅳ?	12C	ノーマルな貯土ではない	36	31
2045	白磁壺	体部	38-29周辺、Ⅲ類	Ⅳ	12C		36	31
2046	白磁壺	体部	89-70・89-71	-	12C		36	31
2047	陶器片	底面	57S X21埋土	C 群Ⅲか	12C		36	31
2048	陶器片	体部	表様	-	12C		36	31
2049	白磁壺	体部	57S D 41埋土	Ⅲ	12C		36	31
2050	白磁碗	体部	35-27-44-33、粗掘	-	12C		-	31
2051	陶器片	体部	37-28-37-29	C 群Ⅲ	12C	黄釉	-	31
2052	新しい		36-28周辺		12C		-	
2053	新しい		89-70・89-71、I層				-	
2054	新しい		37-28周辺、横出時					
	新しい		不掲載					
	新しい		不掲載					

柳之御所57次中国産陶磁器観察表

番号	種類	出土位置	特 徴	長さ(μ)	図 版	写真図版
3001	軒丸瓦	23SG1、T4・1-5層	散骨を焼き上がり。	20	37	31
3002	丸瓦	23SG1、T4・1-5層	散骨を焼き上がり。	70	37	31
3003	丸瓦	87-70・87-71、I層	内面は黒く変色している。	100	37	31
3004	平瓦	89-70、II層	破損を焼き上がり。12世紀ではないからしれない。	230	37	31
3005	平瓦	23SG1、T1・12層	表面は風化している。	110	37	31

柳之御所57次瓦観察表

番号	種類	出土位置	法 量 (cm)			備 考	図版	写真図版
			最大長	最大幅	厚 さ			
4001	無破か	23SG1、T2C(SE3)、7・13層①	9.5	8.4	1.6	排水溝の備後か	38	32
4002	不明	23SG1、T2C(SE3)、14層③	9.4	3.1	0.7		38	32
4003	不明	23SG1、T2C(SE3)、7・13層③	11.4	3.5	1.9		38	32
4004	不明	23SG1、T2C(SE3)、14層③	21.3	2.5	1.3		38	32
4005	破材	23SG1、T2C(SE3)、14層②	26.8	5.0	0.8	高さ3mm程の縁がつく	38	32
4006	不明	23SG1、T2C(SE3)、7・13層②-B	13.2	2.6	0.7		38	32
4007	不明	23SG1、T2C(SE3)、7・13層④	16.6	2.5	0.3		38	32
4008	不明	23SG1、T2C(SE3)、14層⑤	9.0	3.7	2.9	先を尖らせている	38	32
4009	不明	23SG1、T2C(SE3)、7・13層②-A	11.8	0.6	0.3		38	32

柳之御所57次木製品観察表

品 名	かわら け	瓦 産 品 部				輪 入 陶 器 部				瓦		焼土塊 重量	金銀品 数量	その他 遺物の内容	本館品・自 然遺跡など		
		管産 破片数	管産 破片数	管産 破片数	その他 破片数	白磁 破片数	青磁 破片数	青白磁 破片数	陶器 破片数	平瓦 破片数	丸瓦 破片数						
23SG1	20455	3	8						1	2	2	79					
T1-75地盤	3														1片		
瓦葺敷地区遺構外	107865	22	31	10	2	5			1	3	1	200	46				
土間敷地区遺構外	385			1		1			1			20					
館外埋地区遺構内	66043	28	30	13		12	2		6			2419	20	縄文13 埴輪2	石器16	炭10、 木製品	種子 2点
館外埋地区遺構外	27051	30	80	22		12			9			315	11				
瓦土灰葺不明		1	3	1													
灰葺	62	6	7	1		1			1								
総 数	221961	80	179	48	0	2	31	2	0	19	5	3045	77	縄文13 埴輪2	石器16	炭58、 木製品	種子 3点

柳之御所遺跡57次調査出土遺物計測表

Ⅳ 猫間が淵跡の発掘調査

第1章 はじめに

1 遺跡の概要

猫間が淵跡はJR東北本線平泉駅の北約700mのところの位置し、北上川右岸に形成された河岸段丘上に立地する。周辺には奥州藤原氏の三代秀衡の政庁跡とされる柳之御所遺跡、秀衡が造営した無量光院、秀衡及び四代泰衡の居館跡と伝えられる伽羅之御所跡があり、猫間が淵跡はこれらの遺跡に囲まれた一段低い地形である。現況は水田としての利用が大部分であるが、住宅部分も存在する。

猫間が淵跡は柳之御所遺跡に隣接して並行している為、範囲は北西から南東方向に長さ700mと細長く、南東に向かうにつれて用地は段々に低くなる。北西の最高位部分は東北電力平泉変電所付近と現在では考えられている。この地点は高館の南麓であり、山からのしほり水と金鶏山の西谷嶺から北に向かって大きく曲がる水系が注ぐ場所である。

地形図からの判読ではあるが、無量光院跡の北東部と、伽羅之御所跡の北東部から北側の柳之御所遺跡に向かって張り出しが見られる。この2箇所は発掘調査が行われていないことから、詳細については明らかではない。猫間が淵跡の全体的形状は、長さ700m、幅50～60mを測る。海拔は最高位部分で30m、最低位部分で20mを測り、その差が10mもある。

この低い田地では以前からかわらけや陶磁器片とともに、木製品の下駄などが、電柱の建て替えや耕作時に出土している。

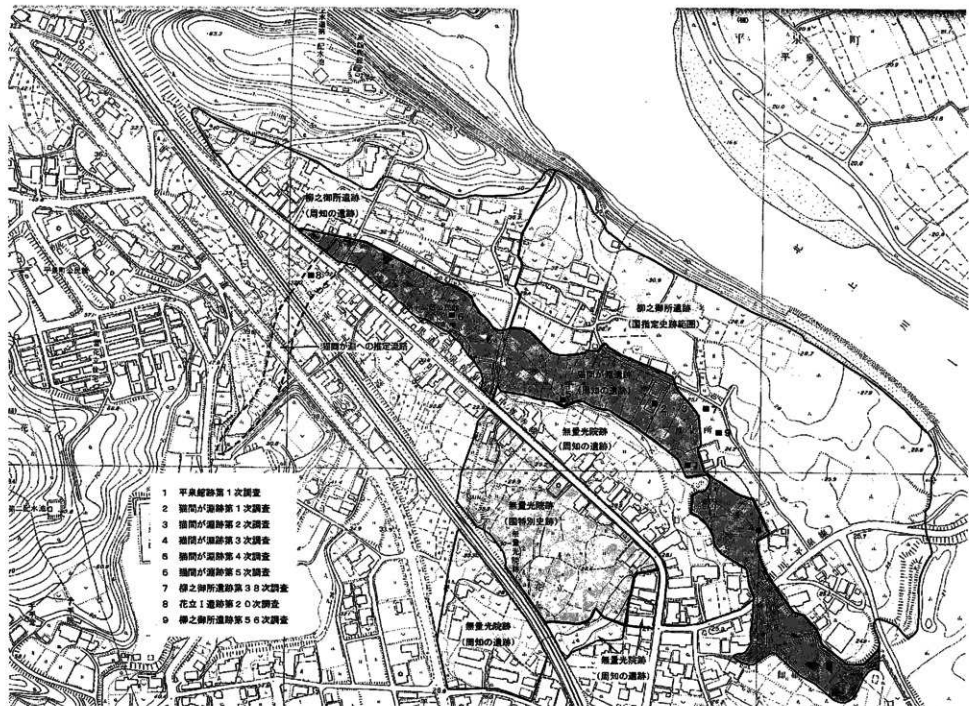
2 「猫間が淵」の由来

猫間が淵の文献上の初出は元禄9（1696）年の『書上写』であり、「猫魔ヶ淵」と記載されている。その後、享保19（1734）年の『奥羽平泉名所記』や、宝暦10（1760）年の『平泉旧蹟志』、安永元（1772）年の『封内風土記』、天明6（1786）年に菅江真澄によって記された『かすむこまがた』等多くの文献に表記は種々あるが（註1）、猫間が淵の位置及び各資料に記された当時の現況などが書かれている。位置は「伽羅之御所か」より北、「高館城の下」、「高館の下東南」、「柳御所南」、「義経堂から共宅丁」などとする。

由来について触れている文献は2つある。1つは安永年間（1772～1780）に書かれた『磐井郡西磐井平泉村風土記傳用書出』である。昔は中島に厩に似た石があるところを猫摩厩と呼んでおり、そこから名前がついたという由来と、清衡以下三代のうちの何代目かの時に、厩ノ前という女が罎へ飛び込んで死んだ時に猫魔ヶ淵という名がついたという2つの由来が記されている。

もう1つは文化8（1779）年に記された『叢樞埃捨録』である。願瀧・願石の項に猫魔ヶ淵という記述がある。願瀧の由来には2説あるが、異説を説明する際に猫魔ヶ淵の記述がみられる。

なお、全国的には地名に「猫」がついている地名が見られる。北上市の霧谷地などのように、低湿地の意味合いで「猫」が使われている可能性もある。



第39図 猫間が淵跡の周辺地形図 (S=1/4000)

編者 平泉町史編纂委員会 (北1)

第2章 調査経過

1 猫間が溜跡の範囲内における調査（第39回）

猫間が溜跡に直接関係する調査は次のとおりである。

	調査次数	調査年度	調査期日	調査面積	調査機関	調査目的
(1)	第1期第1次平泉館跡	昭和45年度	昭和46年3月15日 ～3月31日		平泉遺跡調査会	遺跡内容確認
(2)	猫間が溜跡第1次(NF1)	昭和61年度		116㎡	平泉町教育委員会	住宅建築に伴う緊急調査(試掘)
(3)	猫間が溜跡第2次(NF2)	昭和62年度	昭和62年6月17日 ～8月12日	300㎡	平泉町教育委員会	住宅建築に伴う緊急調査
(4)	猫間が溜跡第3次(NF3)	平成元年度	平成2年2月4日 ～2月15日	53㎡	平泉町教育委員会	鉄塔建設に伴う緊急調査
(5)	猫間が溜跡第4次(NF4)	平成元年度	平成2年2月8日 ～2月23日	57㎡	平泉町教育委員会	鉄塔建設に伴う緊急調査
(6)	猫間が溜跡第5次(NF5)	平成14年度	平成15年2月17日 ～3月28日	800㎡	平泉町教育委員会	宅地造成に伴う緊急調査

(1) 第1期第1次平泉館跡の調査

猫間が溜跡の発掘調査は、平泉遺跡調査会によって昭和46年に行われたのが最初である。この時は平泉館跡の調査としているが、その際の第2トレンチが猫間が溜跡の部分に当たる。無量光院跡から張り出した堤防跡かと考えられるところの東北低地にトレンチをT字型に設定している。

①遺構（第40回）

幅1.2mの溝が、北西から南東へ、東方向に向きを変えながら走っている状況で検出されている。

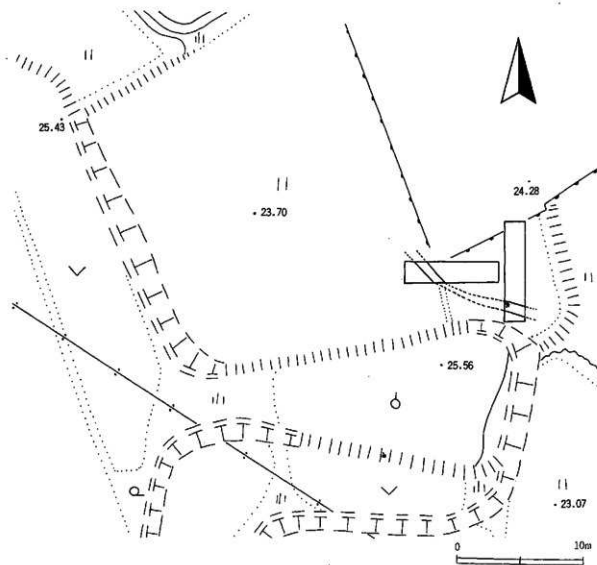
なお、溝の性質については、今後さらに東へトレンチを拡張して明らかにしたいとしているが、その後調査は行われていないうえ、断面形状や深さ等については記載がなく、不明である。

②遺物

かわらけ、瓦、国産陶器などの遺物が多く出土している（註2）。なお、実測図は当時の報告書には掲載されていない。

かわらけはロクロかわらけ、手づくねかわらけ双方が出土している。口径は12～14cmの大型のもの、7～8cmの小型のものがある。出土数は、大型の手づくねかわらけ10点、ロクロかわらけ46点、小型の手づくねかわらけ4点、ロクロかわらけ8点、形状不明104点である。

瓦は、軒平瓦3点、軒丸瓦が1点、平瓦が96点、丸瓦が12点出土している。軒丸瓦は、三巴文、蓮珠文、剣頭文を持ち、中尊寺伝小経蔵址出土のものと同范と見られるとある。軒平瓦は、3点とも種類が違うと記されている。1点は中尊寺伝小経蔵址出土のものと同范と見られるとしている。あと2点は中尊寺調査中の遺物には認められていない。1点は剣頭文及び重圍をもち、もう1点は巴文を並列したものであると



※ 本図におけるトレンチ位置は推定である。

第40図 第1期第1次平泉館跡調査 第2トレンチ平面図

している。平瓦片には布目、縄目を持つものと、ヘラ削りのものの2種類があるとしている。

国産陶器は15点出土している。すべて大型の甕の破片である。灰軸がかかっているものが2点、肩部にまばらなタタキ目をもち、格子目文のものが1点、スタレ状文のものが2点あるとしている。

(2) 猫間が淵跡第1次(調査略号: NF1)調査

猫間が淵跡のはは中央付近、柳之御所遺跡の堀内部地区を取り囲む2条の堀の南西隅近くに位置する。住宅建設に伴う試掘調査である。住宅建設予定地内にトレンチを設定している。

①遺構(第41図 写真図版36)

遺構としては、猫間が淵の南壁、土坑1基が確認されている。

猫間が淵の南壁は、1号土坑の北東にある。深さ約1.1m、30°角の勾配をもって直線的に傾斜する。底面は北に緩やかに傾斜している。北壁は検出できなかった。

1号土坑からは、検出段階で多数の加工木材が出土している。

②遺物 (第42図)

かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器、縄文土器、石器が出土している。図化されているものは、かわらけ6点と縄文土器1点である。

かわらけは、細片は多く出土しているが、実測可能なものは、大型のロクロかわらけ1点、小型のロクロかわらけ2点、大型の手づくねかわらけ1点、小型の手づくねかわらけ1点、内折れかわらけ1点である。耕作土もしくはその下の灰褐色土層から出土している。

陶器は、常滑産・瀬灰産の大窯破片と在地産と見られる須恵器系陶器の破片が少数出土している。

磁器は、中国産の白磁が6点出土している。大半が壺破片であるが、四耳壺の耳部分の破片等も認められる。全て耕作土もしくはその下の灰褐色土層からの出土である。

縄文土器は、トレンチ北東部の表土下2.5mの青灰色粗砂層から3点出土している。縄文後期中葉に属するものと見られる。この他に、トレンチ南西部猫間が淵の北側(淵の中)から2点出土している。

石器は数点出土しているが、全てフレイクであり、製品は認められない。

③小括

猫間が淵の南壁は検出されたが、北壁は検出されなかったことから、町道下で立ち上がるようである。

(3) 猫間が淵跡第2次(調査略号: NF2)調査

前年度に実施した猫間が淵跡第1次調査で遺構が確認されたことに伴い、実施した調査である。今回の調査では、第1次調査の南側について、調査範囲を拡大している。

①遺構 (第41・42図 写真図版36)

淵の壁の立ち上がり的一部、土坑4基が確認されている。

淵跡は、2段の平坦面の北東側に淵跡の一部を検出した。上端ラインは北から南に向かって東に走る弧を描く。壁面の上方は約20°、下方は約50°で底面になる。表上から最も深い底面まで2.5mあるので、追跡調査はできなかった。埋土の中一層にかけて遺物は少なくなり、底面付近から縄文時代後期中葉から晩期にかけての粗雑な土器が数点出土しているのみである。

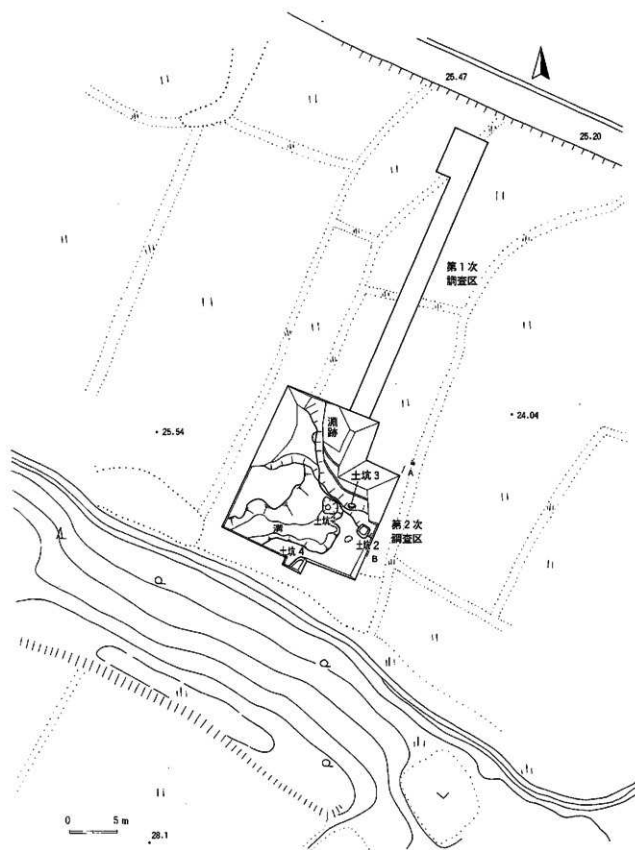
なお、浅い溝や土坑1・2、淵跡を覆うように厚さ10~20cmの炭化物が多量に混入している黒色土層を今回の調査で検出した。黒色土層の存在は調査区西側、前年度調査トレンチの中央から北にかけては確認できなかった。この層からは、多量の楕円形溝、ふいごの羽口、かわらけ片が出土している。

土坑1は、前年度の第1次調査で確認されていたものである。黒色土層の下に確認面が存在する。多量に出土した木製品は、埋土の上半分、土坑の上端より外側にはみ出している。規模は、東西1.6m、南北1.7m、北西がやや張り出た隅丸方形で、底面は直径約0.5mの円形に近く、深さは1.2mを測る。埋土の中層から底面にかけて遺物は見つからなかったが、中層から上層にかけて部分的に炭化した板材・角材が投げ捨てられたように発見されている。材と材の間から器肉の厚さが0.8cmの小型のロクロかわらけが完形で1個出土している。

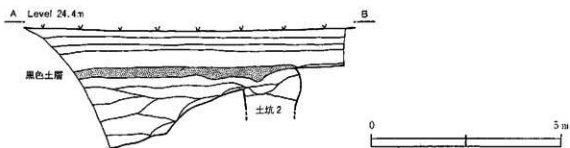
土坑2は、淵跡の層の部分、土坑1の4m東の位置で検出された。1.2m四方の隅丸方形で、深さは1.5mを測る。土坑1と同様に、部分的に炭化した角材・板材が多量に土坑の中央から、上方にかけて投げ込まれた状態で出土している。埋土中に3辺を組んだ材が出土しており、井戸枠の可能性もある。

土坑3は淵跡の壁下部から発見されている。長軸が東西に細い楕円形であり、埋土は粘性のある黒色土層である。遺物は出土していない。

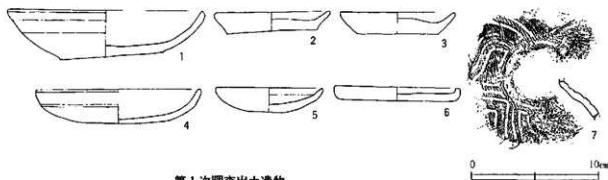
土坑4は形状不明である。皿状に掘られた方形土坑かと思われる。遺物は出土していない。



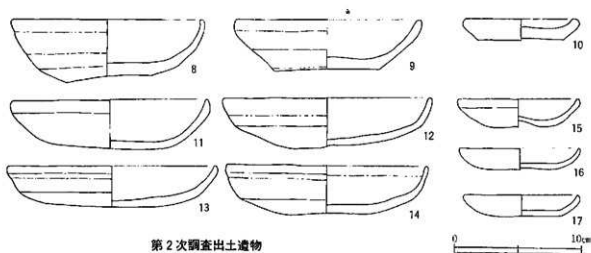
第41図 猫蘭が淵跡第1次・第2次調査 平面図



第2次調査断面図



第1次調査出土遺物



第2次調査出土遺物

第42図 猫間が淵跡第1次・第2次調査 断面図・出土遺物

②遺物 (第42図)

かわらけ、甕産陶器、中国産陶磁器、瓦、木製品が出土している。図化されている物は、かわらけ10点である。

かわらけは、①南高平坦面地山直上②北東一東西に走る浅い溝③淵跡の上に乗る黒色土層中の3箇所に限定して出土している。大型かわらけはフイゴの羽口や鉄滓とともに黒色土層中の出土である。黒色土層中からはかわらけ細片は多量に出土する。図化できたものは大型の手づくねかわらけ4点、ロクロかわら

け2点、小型の手づくねかわらけ3点、ロクロかわらけ1点である。

陶磁器片等については、常滑・瀬美の大甕破片は多量に出土している。この他に、溝跡埋土層から、片口部分はないが、底部から口縁まで接合するこね鉢片、白磁の碗皿片・壺片、青白磁細片、布目の平瓦細片も出土している。

溝の底面直上からは柄と見られる木製品が出土している。長さ14.5cm、幅2.4cm、厚さ1.5cmを測る。一端から穴があけられており、目釘穴が1個ある。

③小括

今回の調査で護岸や土坑も確認されたこと、今までに電柱の建て替えや水田耕作時にかかわらけや陶磁器片、木製品などが出土すること、柳之御所や無量光院の堀が猫間が淵跡につながるなどが明らかになった。

しかし、北側では、十和田火火山灰が堆積しており、深い部分はどこかで立ち上がるようである。今回の調査区では淵跡の北側は検出されていない事から、今回検出された淵跡については、無量光院跡の北側の堀の可能性も考慮に入れる必要があるかもしれない。

(4) 猫間が淵跡第3次(調査略号：NF3)調査

柳之御所遺跡に接した猫間が淵跡の一角に位置する。標高は22.2mを測り、現況は水田である。昭和57年度の柳之御所跡第15次調査地点は今回の調査地点のすぐ北に位置する。コの字状にトレンチを3本設定している。

①遺構(第43図 写真図版37)

T2で溝跡を検出している。シルト質の黄灰色土の地山を掘りこんでいて、溝の上幅幅1.9m、底幅0.7m、深さ1.0mを測り、断面形は逆台形を呈する。埋土は円砂混じりの砂層の単層である。T3ではT2に続く溝跡は検出することはできなかった。

②遺物(第43図)

遺物としては、溝埋土中から多量のかかわらけ細片、国産陶器片(瀬美33片・常滑36片・在地産とみられる甕破片1片)、中国産陶磁器片、瓦、縄文時代の石器が出土している。園化できたものは、在地産陶器片1点、軒平瓦、軒丸瓦の3点、縄文時代の石鏃と石斧1点ずつの計6点である。

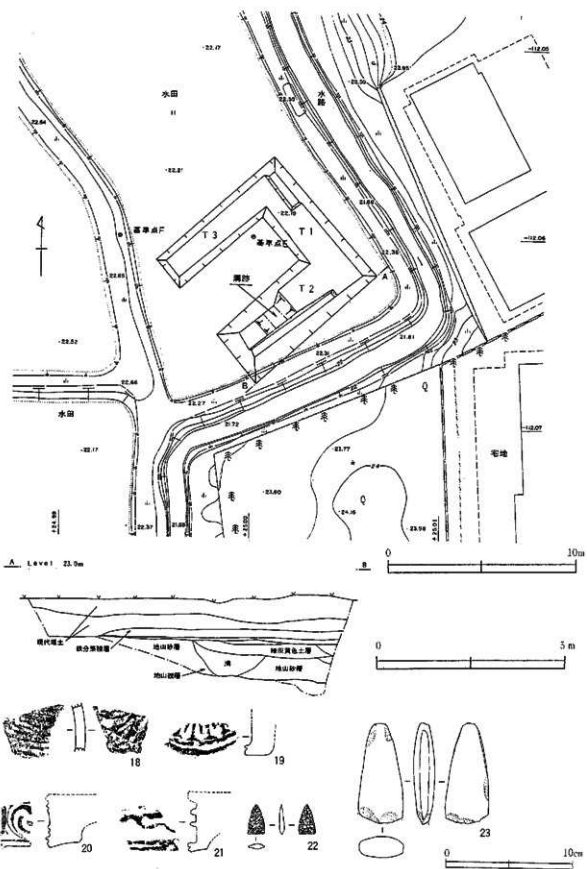
かわらけは、ほとんどが細片のため、実測できるものはなかった。

国産陶器片については、大半はT2溝埋土から出土している。器種別では壺片が90%を占め、残りは壺と鉢の口縁部である。

中国産陶磁器の出土は、白磁4片・青磁1片・青白磁2片・褐釉陶器9片である。いずれも溝埋土からの出土である。白磁は四耳壺・折り曲げ口縁の碗、青白磁は、襷指文のものである。陶器については、硬質な胎土の1片を除いた8片は胎土・厚さ・釉薬のかかり具合が類似していて、同一個体と考えられる。国産・中国産の陶磁器に見られる共通点として、割れた断面、表面が河原石と同様に摩滅していること、二次的に火を受けていることがあげられる。

布目瓦は、ほとんどが溝埋土からの出土である。点数は、平瓦9片、丸瓦18片、軒平瓦2片、軒丸瓦1片、種類不明64片の計94片である。軒丸瓦は、中央に三巴文、その外周に刻頭文を配したものである。軒平瓦は、1点は三巴文と刻頭文が交互に配される種類の部分、もう1点は磨草文の部分である。

その他に、溝の埋土中から縄文時代の石器2個と剥片5個が出土している。石器は石鏃と石斧である。石鏃は長さ2.3cm、幅1.3cmの無茎石鏃であり、石斧は長さ8cm、幅3.5cm、厚さ1.5cmの磨製石斧である。石斧は、刃部が欠損している。



第43図 猫間が淵跡第3次調査 平面図・断面図・出土遺物

③小括

柳之御所遺跡との関連遺構は検出されなかったが、柳之御所方向から流れ込んできたとみられる遺物が多数出土している。国産・中国産陶磁器片は割れ面が摩滅し、かわらけも細片である。瓦片については、柳之御所第13次・第15次でも多量の瓦が出土しているが、破片の状況から、本調査区は廃棄された瓦の移動した最終地点で、柳之御所跡第13次調査区の北側あるいはその付近に瓦を使用した建物があったのではないかと考えられる。

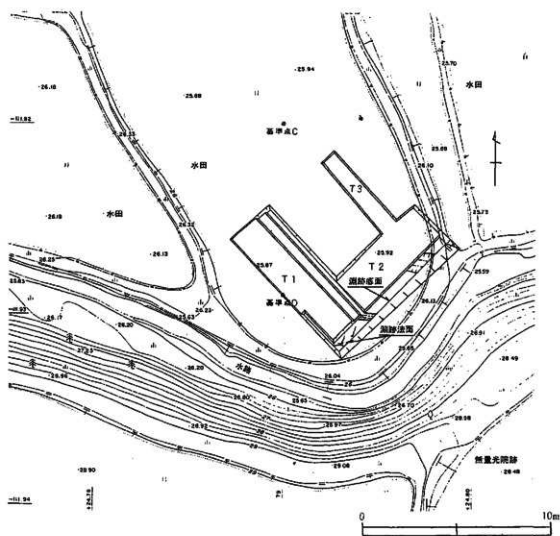
(5) 猫間が淵跡第4次(調査略号: NF4)調査

無量光院の北に接し、北西から南東に細長い猫間が淵跡の中間に位置する。東側に100m離れたところに猫間が淵跡第2次調査区がある。トレンチはコの字型に3本設定した。

①遺構(第44図 写真図版37)

T1では、表土から3層目の炭化物粒子を多く含む暗褐色土中からかわらけ片が出土した。鉄分が付着している。南東隅から多量のかわらけが出土しているが、すべて細片で、溝状の埋土内に含まれている。

T2はT1に直交して設定した。3層の下層であるシルト質の灰褐色土層中から完形のかわらけが多数



第44図 猫間が淵跡第4次調査 平面図

平面的に分布して出土している。表土下1mにあり、T1の北西部では同レベルは砂層に変化するが、ここではかわらけ細片がわずかに出土したのみである。

T3は調査区北東側に細長く設定した。同一レベルからは南東に寄ったところから完形かわらけが1点出土している。

これらのかわらけの出土面は南側（無景光院側）からの流れ込みとみられる。

T1南側にて北に下る地山面の一部を検出したことから、T2南側に小トレンチを設定した。かわらけ出土量は急激に減少し、埋土が水分の多いシルト質の暗褐色土層中から、クルミ種子や木片が出土するようになる。

地山面は青灰色の礫質で、断面は北に45°下る斜面を持ち、表土下2.6m（標高23.26m）のレベルで底面になる。かわらけは青灰色に変化し、下層から加工の板材、漆塗りの碗片が出土している。

②遺物（第45回）

かわらけ、国産陶器、中国産磁器、加工板材、漆塗りの碗が出土している。同化できたものはかわらけ56点である。

かわらけ片は主に3ヶ所から多量に出土している。上層では溝状遺構の埋土内から出土している。細片が多く、実測は不可能である。中層では無景光院方向から流れ込んだ完形かわらけが多い。表土下1mのレベルでT2に主に分布する。同化したかわらけの大半はここから出たものである。下層では猫間が瀧跡埋土からの出土で、青灰色に変色したかわらけである。実測可能なかわらけは、手づくねかわらけでは大型27個、小型14個、ロクロかわらけでは大型7個、小型8個である。口径11.8cmの手づくねかわらけを除いて今まで出土した規格に当てはまる。内折れ等の特殊かわらけはない。

陶磁器片の出土量は、かわらけの出土量に比して非常に少ない。神安産の裏2点、常清産の裏4点である。堯の口縁部の陶器片から12世紀の遺物である。

中国産磁器は、白磁・青磁の碗皿片が各1点出土したのみである。

漆塗りの碗片は、青灰色土層から出土しており、内外面に黒漆を塗ったものである。

③小括

無景光院跡との北接地点でもあることから、阿遺跡のかかわりの一部が発見されるのではないかと期待していた地点だったが、調査範囲が狭いこと、遺構検出面が深いこと、阿遺跡間に水路が現存していることから、今回の調査ではそれぞれについて言及することができる資料を得ることができなかった。

(6) 猫間が瀧跡第5次（調査略号：NF5）調査

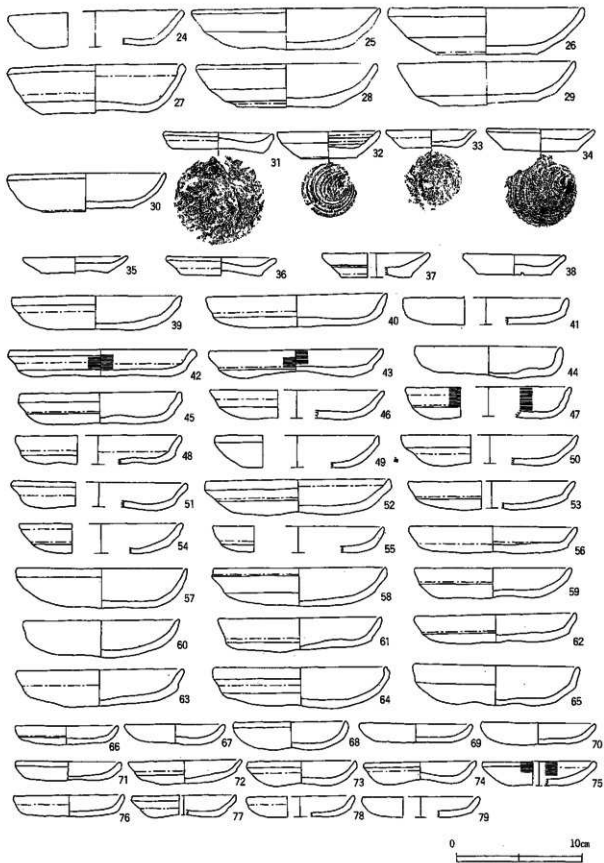
猫間が瀧跡の北西側、猫間が瀧では上流の部分に位置する。猫間が瀧跡を横断するように南北に5本のトレンチを設定している。なお、遺構の分布状況の把握を主眼とした調査であり、平面確認にとどめている。

①遺構（第46回 写真図版38）

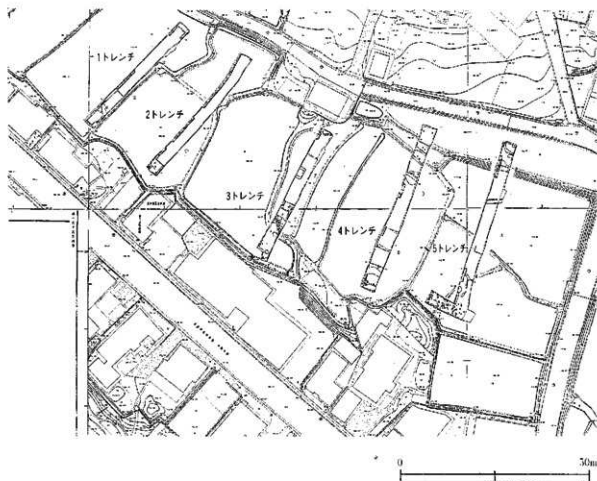
柱穴、土坑、溝などが、トレンチの南端・北端で集中して検出されている。なお、遺構数については報告書に記述がないので不明である。各トレンチに部分的な深掘りをする、底部で河原石・砂層があり、流れを伴う沢の痕跡が確認される。しかし、後には自然堆積層が厚く堆積している様子が確認され、流水の状態は認められなかった。なお、1トレンチでは表土よりそれほど深くないところに火山灰の堆積が確認されている。

②小括

流れを伴う沢の様子が認められることから、流水の時期があるものの、1トレンチで認められる火山灰の堆積状況などから推察すると、12世紀段階では既に埋まっており、瀧の様相を呈していなかったものと考えられる。



第45圖 猫間が淵跡第4次調査 出土遺物



第46図 猫間が淵跡第5次調査 平面図

2 猫間が淵跡に関連する調査

調査名称は猫間が淵跡ではないが、猫間が淵の形成過程に直接関係する調査成果があがっているので、本稿で記述することとする。

(1) 柳之御所遺跡第38次（調査略号：YG38）調査

平成4年度に調査が行われており、対象面積は140㎡である。調査区内のT1、T2で猫間が淵に関係する成果があがっている。

柳之御所遺跡の堀内部地区を取り囲む堀跡の南西隅付近に位置する。40m北西には猫間が淵跡第1次・第2次調査区がある。

①遺構（第47・48図 写真図版38・39）

溝・堀跡が計3条確認された。このうち、堀跡38SD3で猫間が淵跡に関連する成果があがっている。

まず、38SD3について説明する。

T1では、上端幅7.2m、下端幅3.2m、深さ1.9mを測る。覆土は最上層の人為堆積層、下層は流水によって運ばれた砂礫と地土を主体とした崩壊層、中層は水性堆積の沈殿層であり、中央にある有機質層（断面図における27層）によって上下に分け、4層に大別できる。

有機質層は黒褐色を基調とする極めて粘土に近い層である。草のような有機質が多量に含まれ、この層の部分で水草等が生い茂った状態があったことを示している。

最下層は堀の掘削当初に堆積した層であり、壁が崩壊する前に比較的流れの速い流水があったことが想像され、壁の崩壊後滞水するようになったとみられる。

T2ではトレンチ東端の地山上の自然層を確認面とするおおよそ南北の壁を確認している。壁面は地山上に掘りこまれている。T1では地山は南に下がっていき、低位に位置したが、この部分では高位に位置している。壁面の一部を検出したにすぎないものの、猫間が淵跡第1次調査のトレンチの調査結果と考え合わせると38SD3が西に進まずに、北側に向きを変えていることは明らかである。

壁面の一部を調査したにすぎないが、T1にはない黒色の炭化層を検出した。この層の上位や下位からはかわかけ細片しか出土していないが、この層からは多くの遺物が出土している。この層がT1のどの層にあたるかは不明だが、上位に入る人為堆積層と滞水性の沈殿層が認められ、有機質層の可能性もある。

次に猫間が淵跡の部分について説明する。

T1では、38SD3の南壁は自然堆積層を切っている。さらに地山が38SD3の南壁で立ち上がりかけるものの、また南に向かって下がっていく部分が認められた。層位は最上層の人為堆積層、火山灰上位層、火山灰下位層の3層に大別できる。

最上層からはかわかけ細片や常滑産の甕片が出土している。38SD3と同時期が古い層である。つまり、38SD3を掘ったときには既に平坦地になっていたことが分かる。この層は12世紀に堆積している。

火山灰上位層から剥片石器が1点、下位層から剥片石器2点及び石核が出土している。火山灰層は低地の窪みに堆積した様相を呈しており、猫間が淵跡第1次調査で検出したものと同じものと考えられる。火山灰は十和田a、胆沢、灰白色火山灰のいずれかと考えられる。いずれも9世紀末から10世紀前半の降灰年代が与えられている。すなわち、最も新しく考えても10世紀には既にこの付近が平地になっていたことを示す。

猫間が淵跡第1次調査のトレンチ北側では火山灰層を掘り下げても地山は検出できなかったが、この付近も12世紀には淵跡にはなっていない。南部の無量光院跡の台地の北側では淵跡らしき遺構を検出しているが、この遺構は無量光院の堀跡の可能性もある。

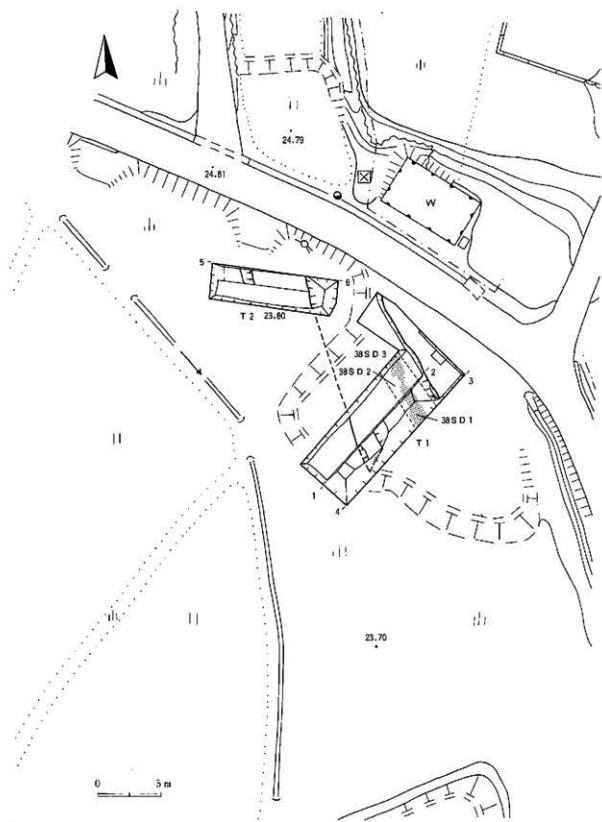
T2では、38SD3より下位の自然層の直下に地山が確認できる。ここからも12世紀において、この部分が淵状になっていないことが分かる。一部で1トレンチ南部から検出した人為堆積層と火山灰を検出している。自然層から遺物は出土していない。

②遺物 (第50・51図)

38SD3からはかわかけ、国産陶器、中国産陶磁器、瓦、木製品、剥片石器が出土している。猫間が淵跡からはかわかけ、国産陶器、剥片石器などが出土している。ただし、図化しているのは、38SD3の遺物のみである。

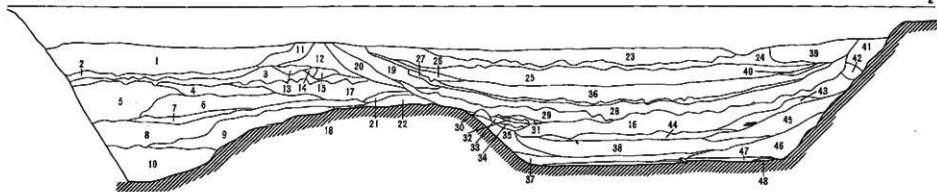
③小括

今回の調査で、猫間が淵跡は少なくとも、この付近において、堀が掘られた段階には平地になっていた。38SD3南部の地山ブロックを主体とした人為堆積層は、12世紀に堆積したものであり、38SD3との関係は、同時期かもしくは古いものである。この層の供給源は堀を掘ったときの排土の可能性もある。いずれ、猫間が淵跡は沼地状にはなっていないが、実際は低湿地であったと見られる。北は柳之御所遺跡の台地、南は無量光院跡の台地に挟まれた低地であり、中尊寺もしくは花立山からの沢状の低地になっていること、平泉において火山灰を検出している場所は5ヶ所あるが、今回の調査区を除くと全てが低湿地状の部分であることが根拠として挙げられる。

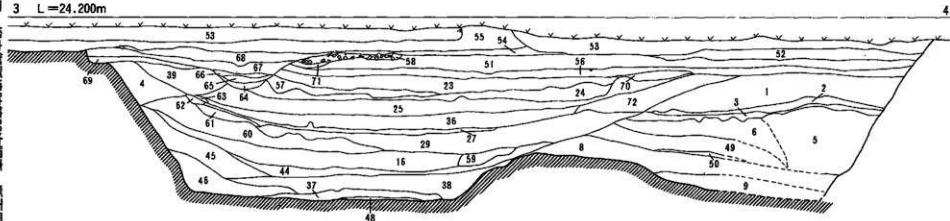


第47図 柳之御所遺跡第38次調査 平面図

1 L=23.800m

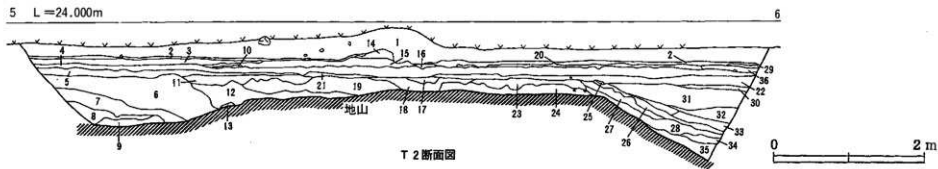


3 L=24.200m

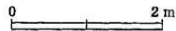


T 1 断面图

5 L=24.000m



T 2 断面图



第48图 柳之嶺所遺跡第38次調査 断面图

T 1 土層注記

1. 褐色土層 (H0YR5-0) シルト質 鉄分、小石入る 人為堆積層
2. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-1) シルト質 鉄分、炭化物、カーボン入る
3. 褐色土層 (H0YR5-1) シルト質 鉄分、炭化物、カーボン入る 火山灰入る
4. 灰黄色土層 (2.5YR6-2) シルト質 鉄分入る 20%砂質ブロック入る
5. 褐色土層 (H0YR7-2) 砂質 小石、鉄分入る
6. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-1) シルト質 鉄分、カーボン入る
7. 灰黄色土層 (H0YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン入る
8. 黒褐色土層 (H0YR3-2) シルト質 鉄分、カーボン入る
9. 褐色土層 (2.5Y4-1) シルト質 炭化物、小石入る
10. 灰黄色土層 (2.5Y6-1) シルト質 赤石、カーボン入る 下層砂質
11. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン入る 灰黄色土の大丈夫ブロック入る
12. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-2) 鉄分、カーボン入る 二色い黄褐色土と灰黄色土層のタマゴ大ブロック入る
13. 灰黄色土層 (H0YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン、炭化物入る
14. オリーブ黄色土層 (5YR6-3) シルト質 鉄分、カーボン入る 浅黄色土混入
15. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-2) 鉄分、カーボン、浅黄色土混入
16. 灰黄色土層 (H0YR5-1) シルト質 鉄分、カーボン入る 沈殿砂
17. 黄褐色土層 (2.5YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン、炭化物入る
18. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 炭化物、鉄分入る
19. 二色い黄褐色土層 (2.5YR5-1) シルト質 炭化物、鉄分入る
20. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 炭化物混入 黄褐色土層の大丈夫ブロック混入
21. 褐色土層 (H0YR5-1) 砂質 赤石多量
22. 褐色土層 (H0YR5-1) 砂質 タマゴ大の石多量入る
23. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分、炭化物、カーボン入る 黄褐色土層の大丈夫ブロック混入 人為堆積層
24. 黄褐色土層 (2.5YR5-3) シルト質 鉄分入る
25. 褐色土層 (H0YR5-1) シルト質 水分多量 沈殿砂
26. 黄褐色土層 (H0YR5-1) 砂質 炭化物混入
27. 黒褐色土層 (H0YR3-1) 炭化物混入 有機質材
28. 暗オリーブ土層 (5Y4-3) 粘土質 カーボン、木片、小石入る 沈殿砂
29. 暗オリーブ土層 (5Y4-2) 粘土質 大丈夫の石入る
30. オリーブ灰色土層 (2.5Y6-1) 砂質 大丈夫の石、材が入る
31. 暗オリーブ灰色土層 (2.5Y4-1) 砂質 炭化物混入
32. 暗オリーブ灰色土層 (2.5Y4-1) シルト質
33. オリーブ灰色土層 (H0YR5-2) シルト質 砂っぽい、小石、材が入る
34. オリーブ灰色土層 (H0YR5-2) シルト質 砂、小石、材が入る
35. 褐色土層 (H0YR5-1) 砂質 石、材が入る 噴染堆積
36. 灰色土層 (4Y5/1-1) シルト質 炭化物混入 噴染層
37. 褐色土層 (4.5Y6-1) シルト質 下層砂質

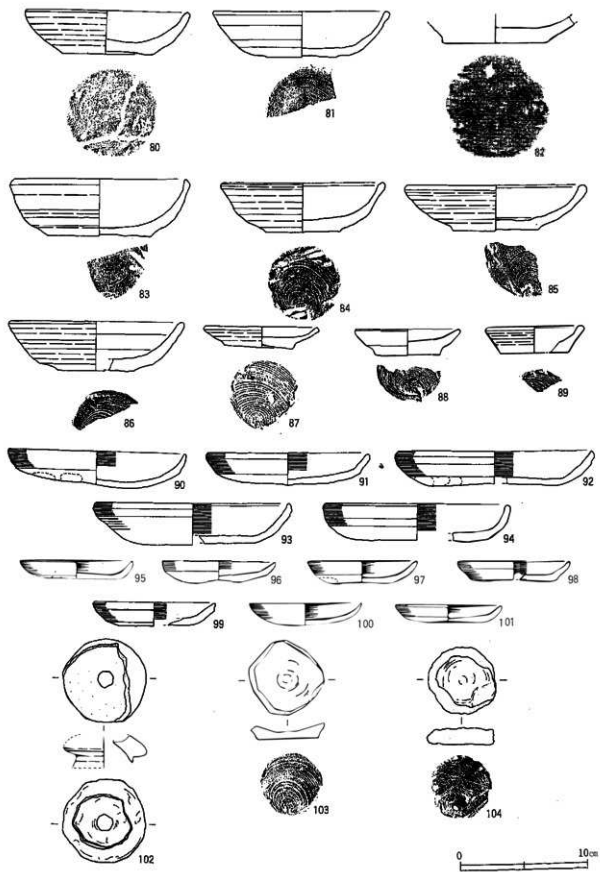
T 2 土層注記

1. 表土
2. 明褐色土層 (H0YR5-0) シルト質 鉄分混入
3. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分、かわらけ、小石、カーボン混入
4. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分、かわらけ、小石、カーボン混入 明褐色土層混入
5. 褐色土層 (H0YR5-1) シルト質 鉄分、かわらけ、小石、カーボン混入
6. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分、カーボン多量含む
7. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分含む
8. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-1) 砂質 鉄分多量
9. 黄褐色土層 (H0YR5-2) 砂質 タマゴ大の石多量入る 水分多量
10. 黄褐色土層 (H0YR5-1) 砂質 鉄分、炭化物含む 黄褐色土層のタマゴ大のブロック入る
11. 二色い褐色土層 (H0YR5-0) シルト質 鉄分、炭化物、カーボン入る
12. 黄褐色土層 (H0YR5-2) シルト質 鉄分、タマゴ大の石入る
13. 灰黄色土層 (H0YR5-2) 砂質 鉄分、カーボン入る
14. 黄褐色土層 (H0YR5-2) 砂質 かわらけ、炭化物、カーボン入る
15. 黒褐色土層 (H0YR3-2) 砂質 炭化物、カーボン、鉄分混入
16. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分、カーボン混入
17. 黄褐色土層 (H0YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン、炭化物混入 灰黄色土層大丈夫ブロックで入る
18. 黄褐色土層 (H0YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン、炭化物、小石混入

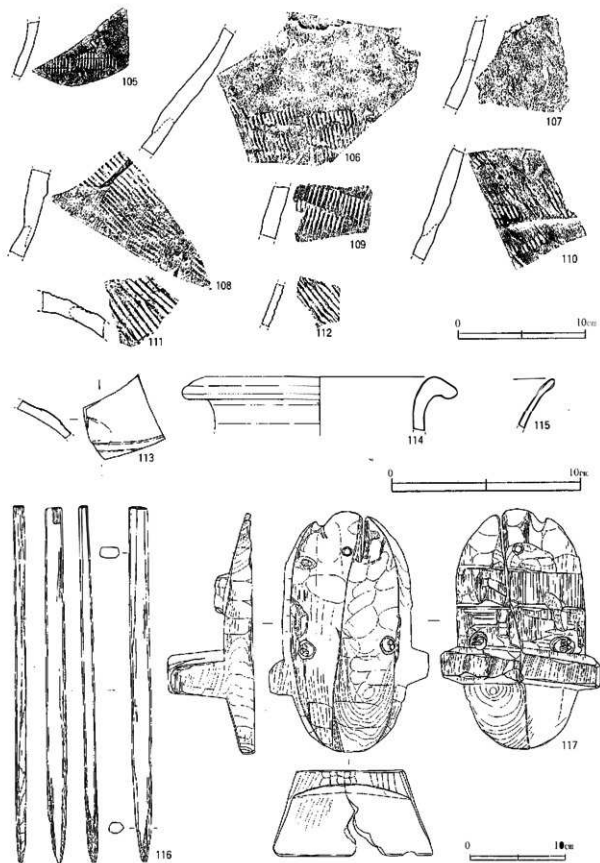
19. 褐色土層 (H0YR4-1) 砂質 小石入る
20. 二色い黄褐色土層 (2.5YR5-2) シルト質 カーボン、炭化物含む 鉄分多量混入
21. 灰オリーブ土層 (5Y5-2) 砂質 鉄分、炭化物混入 褐色土層のタマゴ大ブロック混入
22. 二色い黄褐色土層 (H0YR5-2) シルト質 噴染堆積
23. 明褐色土層 (H0YR5-0) シルト質 噴染堆積 鉄分多量
24. 灰色土層 (5Y4-1) 砂質 炭化物、小石混入 人為堆積層
25. 褐色土層 (H0YR3-1) シルト質 炭化物混入 褐色土層20%混入 噴染堆積
26. 褐色土層 (H0YR3-1) シルト質 褐色土層の大丈夫ブロック混入 噴染堆積
27. 褐色土層 (H0YR3-1) 粘土質 鉄分混入 水分多量
28. 褐色土層 (H0YR3-1) シルト質 水分多量
29. 褐色土層 (H0YR3-1) シルト質 カーボン、鉄分多量
30. 褐色土層 (2.5Y4-2) シルト質 鉄分多量
31. 褐色土層 (2.5Y4-2) 砂質 鉄分多量
32. 黄褐色土層 (2.5YR5-1) シルト質 カーボン、鉄分多量
33. 暗褐色土層 (2.5YR3-2) 砂質 鉄分混入 灰黄色土層の準大ブロック入る
34. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分多量
35. 褐色土層 (2.5Y6-2) 砂質 鉄分多量
36. 褐色土層 (2.5YR5-2) シルト質 鉄分、カーボン多量混入
37. 黄褐色土層 (2.5YR5-2) シルト質 カーボン、鉄分多量
38. 暗褐色土層 (2.5YR3-2) 砂質 鉄分混入 灰黄色土層の準大ブロック入る
39. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分多量 タマゴ人の石混入
40. 暗オリーブ灰色土層 (4.5YR5-1) 粘土質 暗オリーブ灰色土層の砂多量含む
41. 黄褐色土層 (2.5YR5-1) シルト質 褐色土層のブロック入る
42. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 カーボン、鉄分、炭化物混入
43. 褐色土層 (4.5Y4-1) シルト質 炭化物、鉄分、小石入る
44. 褐色土層 (2.5Y4-2) 砂質 鉄分多量
45. 灰オリーブ土層 (5Y6-2) シルト質 鉄分多量
46. 黄褐色土層 (2.5YR5-2) 砂質 鉄分混入
47. 褐色土層 (2Y4-1) シルト質 鉄分、大丈夫の石、炭化物、かわらけ混入
48. 褐色土層 (2.5YR5-2) 砂質 かわらけ、炭化物混入
49. 黄褐色土層 (2.5YR5-1) シルト質 鉄分、小石入る
50. 黄褐色土層 (2.5YR5-1) シルト質 鉄分多量 炭化物、かわらけ混入
51. 褐色土層 (H0YR4-1) シルト質 鉄分多量 炭化物、かわらけ混入
52. 褐色土層 (H0YR3-1) シルト質 カーボン、鉄分多量

柳之御所遺跡第38次調査 土層断面注記

しかし、12世紀において竈間が隠跡は存在していなかったのかということになるとこれも明らかではない。竈間が隠跡第2次調査の無景光院跡でしっかりとした壁面を検出しているが、その北側では今回の調査区同様火山灰層を検出している。調査不足の部分もあるが、竈間が隠跡が12世紀に存在していたとしても、



第50図 柳之御所遺跡第38次調査 38SD3出土遺物(1)



第51圖 柳之御所遺跡第38次調査 38SD3出土遺物(2)

かなりの小範囲であることが考えられる。

(2) 花立 I 遺跡第20次 (調査略号: HDI-20) 調査

平成12年度に調査が行われている。対象面積は324㎡である。花立 I 遺跡の北東側に位置し、柳之御所遺跡や猫間が淵跡に近接している。調査の結果、12世紀には沢であったようであり、猫間が淵跡につながるものと考えられる。

①遺構 (第52図 写真図版39)

橋脚と見られる丸太状の木を2本検出している。東側は長さ1.0m、径27cm、西側は長さ1.25m、径40cmである。それぞれは0.9m離れて建っていた。

なお、下層に礫や木片を多く含み、流水の痕跡が顕著に見られる層がある。

②遺物 (第52図)

かわかけ、褐釉四耳壺、国産陶器、木製品等が出土している。図化できたものは、褐釉四耳壺、木製品の2点である。

③小括

12世紀代には沢であったようであり、橋が架かっていた可能性もある。沢の流れの方向は周辺地形と過去の調査から勘案すると、南西の花立山から、今回の調査地点を通り、猫間が淵に達すると考えられる。

(3) 柳之御所遺跡第56次 (調査略号: YG56) 調査

平成14年度に調査を行った。調査対象面積は4,000㎡で、堀跡、トイレ状遺構、溝跡、掘立柱建物跡などが検出されている。このうち、56SD39のすぐ脇で猫間が淵の様相が認められる部分が確認されている。

①遺構 (第49・53・54図 写真図版40)

56SD39のすぐ脇で猫間が淵の様相が確認できる部分が見ついている。

56SD39は柳之御所遺跡を巡る2条の堀のうち、外側の堀に当たる。表土下約35cmのところ検出される。上幅約6.5～9m、下幅2.8～3.3m、深さ2.1mを測る。底面は概ね平坦で、断面は逆台形を呈する。埋土は概ね自然堆積の様相を呈し、泥質及び砂質土が交互に流れ込んでいる。西側の堀底面の立ち上がりが極端に緩やかである。これは猫間が淵という土質のやわらかい低地を掘削している為である。

猫間が淵跡は地表下0.7～1.3m (標高22.5～23.1m) の位置で確認されている。また、猫間が淵確認面の約10cm下で十和田 A 火山灰 (915年噴降下か) と見られる灰白色火山灰層が認められる。少なくとも10世紀前半以降には当該部分は淵跡になっておらず、低湿地の様相を呈していたものと考えられる。

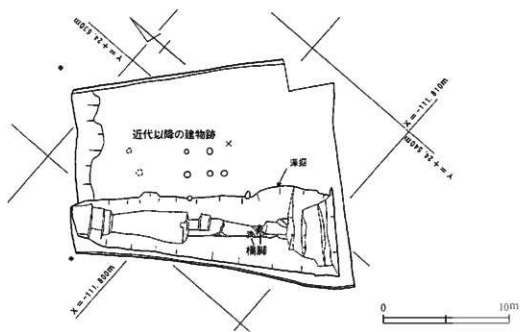
②遺物 (第55～59図)

56SD39からは、かわかけ片が約14kg、国産陶器58片、中国産陶磁器8片、瓦3片、木製品、動植物遺体などが出土している。なお、底部に脚が取り付くと見られる折敷も出土している。

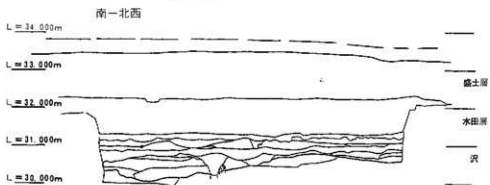
猫間が淵跡からはT2のみからではあるが、かわかけ約6kg、国産陶器片3片、自然木などが出土している。

③小括

地表から約35cm掘り下げると堀跡が確認できることから、12世紀から現代までの間に35cm程度しか土の堆積は進んでいない。すなわち、地形的に今日と大きな変化はなさそうである。つまり、12世紀の猫間が淵は低地・低湿地的な地形であったとはいえ、常時湛水していたような景観は今回の調査地点では想定できないことが明らかになった。



遺構配置図



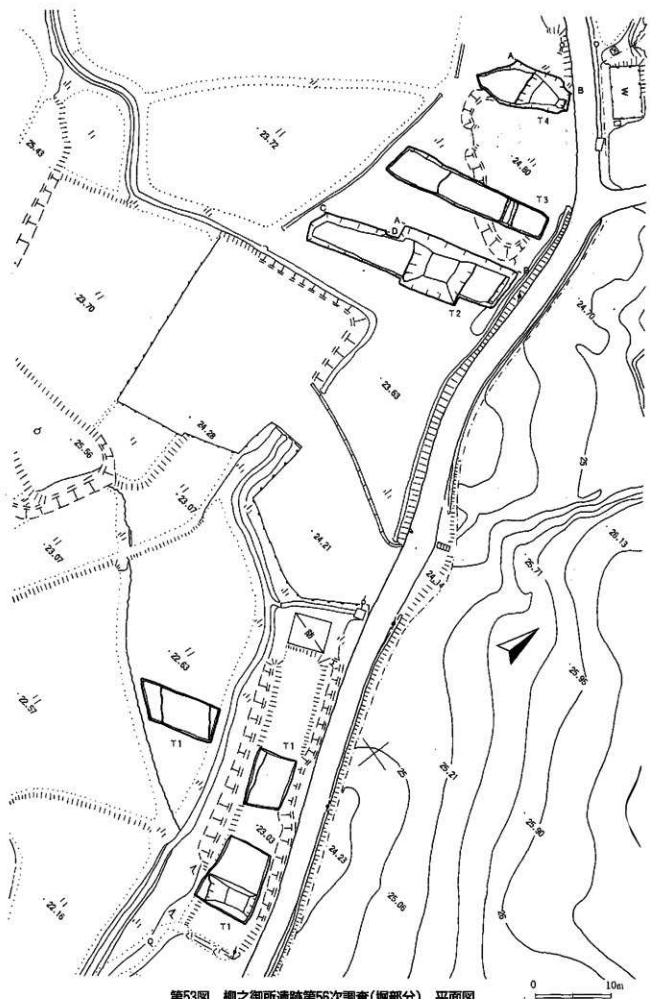
南西側壁断面図



出土遺物



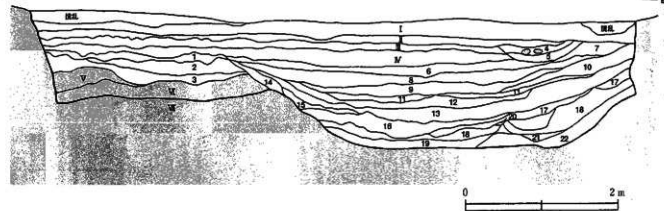
第52図 花立 I 遺跡第20次調査 遺構図・断面図・出土遺物



第53図 柳之御所遺跡第56次調査(堀部分) 平面図

L=42m

56T4SD39



56 T4 SD39

(基本土層)

- Ⅰ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 地山ブロック少量混入 粘性やや有 締りやや有
 Ⅱ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 酸化鉄有 粘性やや有 締りやや有
 Ⅲ 10YR4/6褐色土 水田床土 粘性弱 締っている
 Ⅳ 10YR2/1黒色土 酸化鉄有 粘性やや有 締りやや有
 Ⅴ 10YR4/3にふい黄褐色土 地山ブロック少量をこく微塵含む 粘性やや有 締っている
 Ⅵ 10YR7/6明黄褐色土 粘性やや有 締っている (地山)
 Ⅶ 2.5Y7/4淡黄色砂 砂と5~10cmの層からなる 粘性なし 締っている
 Ⅷ 2.5Y7/3淡黄色砂 粘性やや有 締り弱

T4 (露地部分)

- 1 10Y5/6黄褐色土 暗褐色土ブロック少量含む 粘性やや有 締っている
 2 2.5Y7/3淡黄色砂質土 暗褐色土・黄褐色土ブロックと混合する 粘性やや有 締っている
 3 2.5Y8/3淡黄色土 暗褐色土・小礫との混合土 粘性有 締っている

T4 (56SD39)

- 4 2.5Y3/1茶褐色土 硬20cm前後の河原石を含む 粘性やや有 締りやや有
 5 10YR4/4褐色砂 小礫ごく微塵含む 粘性弱 締りやや有

T4 (56SD39)

- 6 10YR4/2灰黄褐色土 酸化鉄多量に見られる 小礫ごく微塵含む 粘性やや有 締っている
 7 2.5Y3/1暗褐色土 中・小礫少量含む 粘性やや有 締りやや有
 8 10YR4/2泥質土 酸化鉄有、粘性有 締りやや有
 9 2.5GY4/1暗オリーブ灰色土 酸化鉄有、粘性有 締りやや有 (比較層)
 10 5GY4/1暗オリーブ灰色土 地山ブロック多量含む 粘性やや有 締っている
 11 7.5Y3/2オリーブ藍色泥 粘性強 締りやや有 (比較)
 12 6Y3/1オリーブ黒泥 粘性強 締りやや有 (比較)
 13 10YR2/1黒色土 炭粒を大量 かわかけ細片を少量含む 粘性やや有 締りやや有 (人為か) (木部)
 14 2.5Y5/3黄褐色土 壁面堆土か 粘性やや有 締りやや有
 15 10YR4/2暗灰黄色砂 粘性やや有 締り弱
 16 5Y4/1灰色泥 木部入る 粘性やや有 締っている
 17 7.5Y5/1灰色砂質土 粘性やや有 締りやや有
 18 5Y4/1灰色泥 地山ブロック少量含む 粘性強 締り弱 (比較)
 19 2.5Y4/1暗オリーブ灰色泥 木部含む 粘性やや有 締り弱 (比較)
 20 7.5GY5/2暗灰色砂 粘性やや有 締り弱 (沈込み)
 21 2.5Y4/1灰色土 粘性有 締り弱
 22 2.5GY5/1暗オリーブ砂質土 灰色土との混合土 本質粘性有 粘性やや有 締り弱

第54図 柳之御所遺跡第56次調査 T4断面図

第3章 まとめ

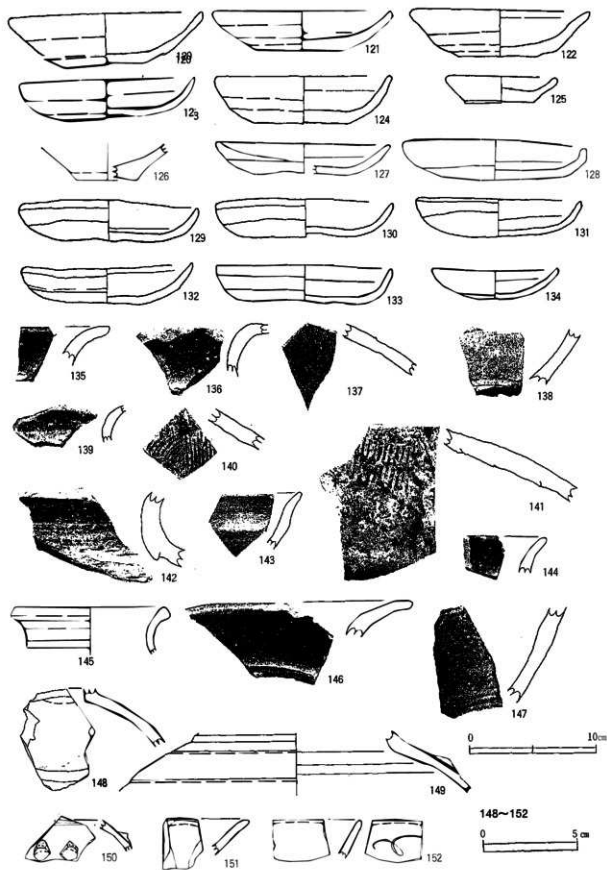
1 遺構について

(1) 淵跡

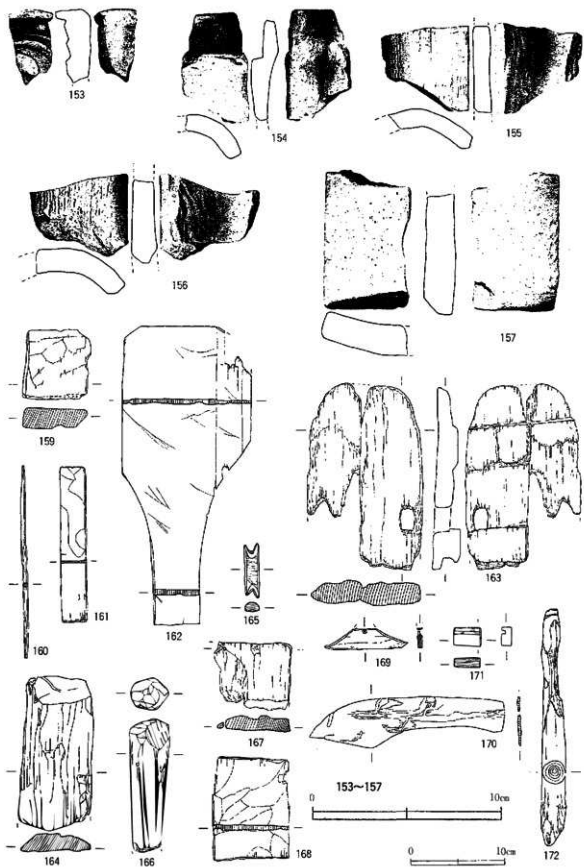
明らかに淵跡と考えられる遺構が検出されているのは、猫間が淵跡第2次調査の際の淵跡1箇所のみであり、位置は無量光院側の堤の部分である。

しかし、猫間が淵跡第4次調査では、かわらけが出土しているが、かわらけの出土面が無量光院からの流れこみと考えられている。さらに、柳之御所第38次調査や56次調査、猫間が淵跡第5次調査で12世紀当時猫間が淵は淵を呈さず、低湿地の様相を呈しているという調査結果から勘案すると、猫間が淵跡第2次調査の際の淵跡は、淵跡のほかに无量光院側の堤の壁の可能性も考えなくてはならない。猫間が淵跡第1次調査の際に、无量光院側の表土下1.0mで地山が検出されているが、中央部は地表下0.5mで検出を止めていることから、今後の調査によって、猫間が淵跡第2次調査の淵跡とされているものが、淵跡になるか、堀跡になるかということが明らかになるだろう。

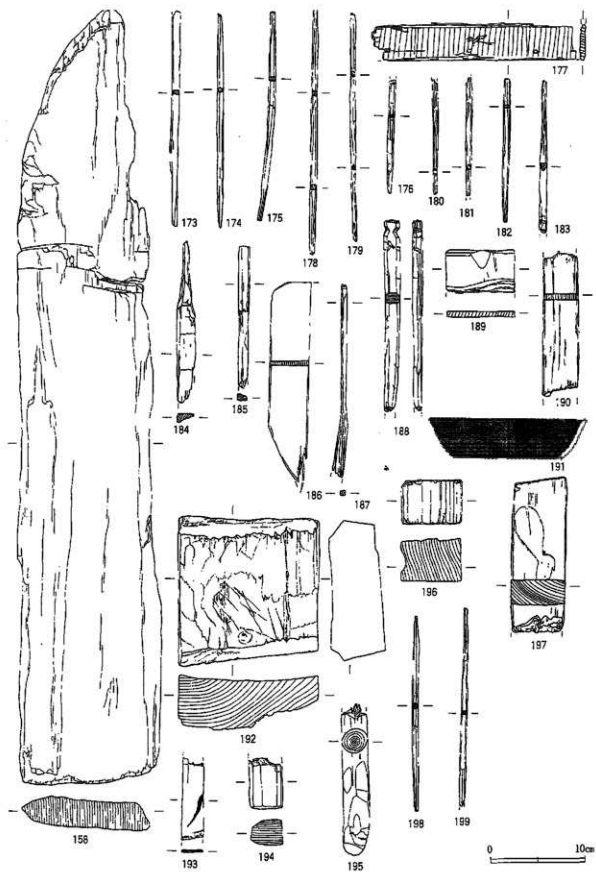
淵跡として形成された時期は、おそらく縄文時代後期前後になるのではないかと考えられる。淵跡底部や表土下



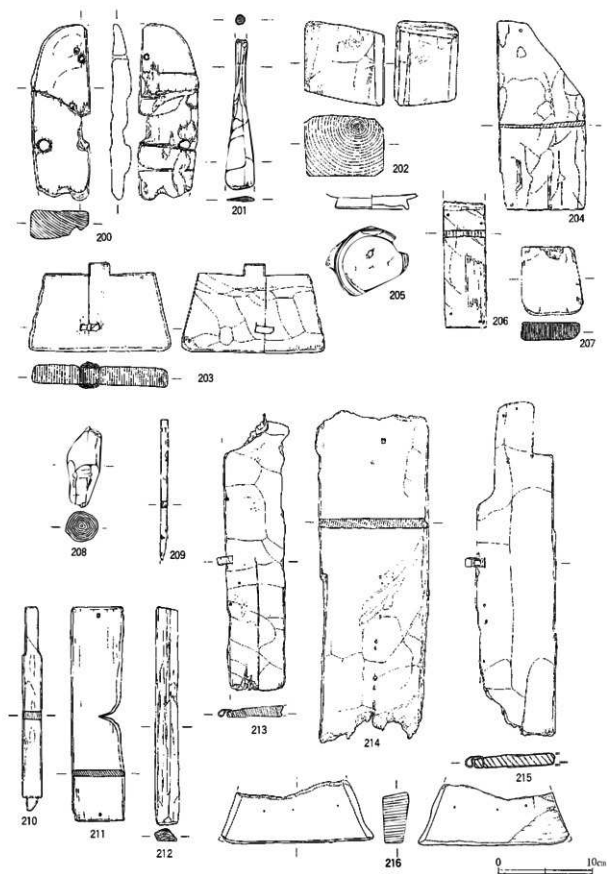
第55図 柳之御所遺跡第56次調査 56SD39出土遺物(1)



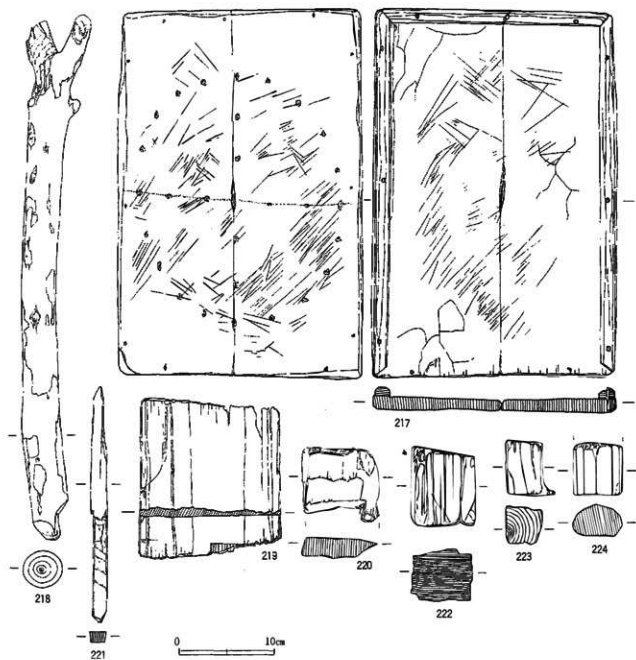
第56図 柳之御所遺跡第56次調査 56SD39出土遺物(2)



第57図 柳之御所遺跡第56次調査 56SD39出土遺物(3)



第58圖 柳之御所遺跡第56次調査 56SD39出土遺物(4)



第59図 柳之御所遺跡第56次調査 56SD39出土遺物(5)

2.5mに縄文土器片が確認されていることなどがその根拠としてあげられよう。

(2) 土坑跡

土坑跡は猫間が淵跡第1次および第2次調査で検出されている。いずれも淵跡の南、無量光院側で確認されている。確実に12世紀の遺構になると考えられるのは、土坑1のみである。その他の3基については、年代の特定できる遺物が伴っていないので、時期については不明である。

(3) 溝・堀跡

溝・堀跡は、昭和46年の平泉遺跡調査会の調査、猫間が淵跡第3次、柳之御所第38次・第56次で検出され

ている。

昭和46年の平泉遺跡調査会の調査については断面形状などの記述がなく、不明である。

猫間が淵跡第3次調査の溝は、埋土中から多量のかわけ片、国産陶器片、瓦片、縄文時代の石器、剥片が出土している。時期については、溝埋土という事もあり、確実なところは不明だが、12世紀あるいはそれ以降のものであるといえよう。

柳之御所跡第38次調査では、3本の溝・堀跡が検出されている。うち、12世紀に関わるものは38SD3であり、他の2本は近世以降のものである。

38SD3は堀跡で、南側で猫間が淵の自然堆積層を切っている。かわけや国産陶器、中国産磁器、木製品が9層の埋土上層から、最下層から木製品が出土している。堀が自然堆積を切っていたり、埋土中からのかわけ等の出土状況から、12世紀かそれ以前に堀は掘られたものと考えられる。

柳之御所跡第56次調査の56SD39も、柳之御所跡第38次調査の38SD3と同様に、南側で猫間が淵の自然堆積層を切っている。共存する遺物からも12世紀の遺構と考えられる。

2 遺物について

遺物については、かわけ、国産陶器、中国産陶磁器、縄文土器、石器、木製品などが出土している。多くはかわけ、国産陶器、中国産陶磁器である。

縄文土器・石器は、猫間が淵跡第1次調査～第3次調査で出土している。第3次調査の石器は溝埋土内の出土である。第3次調査の溝からはかわけ片なども出土しており、後世の流入であると考えられる。第1次・第2次調査の際の縄文土器は、淵跡底面や表土下2.5mからの出土である。

かわけ・国産陶器・中国産陶磁器は、各調査区から出土している。特に猫間が淵跡第4次、柳之御所跡第38次、柳之御所跡第56次から出土したものは、猫間が淵の形成過程についても示唆することになる。

3 猫間が淵の地形変化について

猫間が淵は元々、西の花立山から沢状の地形を呈していた。このことは地形図からも読み取れるし、花立I遺跡第20次調査や猫間が淵跡第5次調査でも底部では河原石や砂層が確認され、流れを伴う沢の痕跡を示していることから裏付けられる。

猫間が淵は、縄文時代にはすでに形成されていたものと考えられる。猫間が淵跡第1次調査ではトレンチ北東部表土下2.5mから後期中葉に属すると見られる土器が出土しており、猫間が淵跡第2次調査では淵跡の底面から後期中葉～晩期にかけての粗雑な土器が出土していること、柳之御所跡第38次調査の38SD3の南側の自然堆積層中の火山灰下位層に剥片石器・石核など出土していること等がその根拠として挙げられよう。

では、12世紀の猫間が淵の様相はどのようであったのだろうか。結論からいえば、淵の様相は呈しておらず、低湿地であった可能性が高い。その根拠としては、柳之御所跡第38次調査の堀跡である38SD3とその南側に形成される堆積層の関係において、38SD3の立ち上がり以南に堆積した層の最上層である人為堆積層の形成年代が38SD3と同時期あるいはそれより古いことがあげられる。人為堆積層を堀が切っていることから、12世紀の段階ではすでにかなりの堆積があったことが想像される。さらに、人為堆積層の下層に火山灰層が認められる。火山灰は十和田a、胆沢、灰白色火山灰のいずれかと考えられるが、いずれも9世紀末から10世紀前半の降灰年代が与えられるものであり、新しく考えても10世紀前半以降には既にこの付近にはかなりの堆積があったことが伺われる。さらに、写真からではあるが、猫間が淵跡第4次調査の際のかわけの出土状況からも12世紀の段階ではかなりの土砂の堆積があり、淵の様相を呈していなかったのではな

いかということを推測させる。猫間が淵跡第5次調査でも、現地表面からそれほど深くないところで火山灰が堆積し、流水の状況は見られないこと、同年に実施した柳之御所遺跡第56次調査でも堀の検出面が現地表面から1mも低くならない上、10世紀前半代の十和田a火山灰が現地表面から1.5m下に確認されていることから裏付けられるのではないだろうか。

しかし、柳之御所遺跡や無量光院跡を造る際に埋めることも可能であったのにも関わらず、埋めることをせずに低地として生かしていることも明らかになった。つまり、低地として猫間が淵を残したことにもその意味があったのだろうか。これは今後の検討課題である。

註

- (1) 猫間が淵・猫間ヶ源のはかに、猫摩淵・猫金淵などの表記がある。
- (2) 原報告書では、「かわらけ」は「土師質土器」、「国産陶器」は「須恵質陶器」としているが、以降の調査との統一をのため、それぞれかわらけ、国産陶器とした。

引用・参考文献

- 佐々木博康 1991 『平泉と東北古代史 第4編 平泉地名・遺跡名索引』 岩手出版
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡第56次発掘調査概報（岩手県文化財調査報告書第117集）』
- 平泉町・平泉町教育委員会・平泉遺跡調査会 1971 『平泉遺跡総合調査 第1期第1次平泉館跡発掘調査略報』
- 平泉町教育委員会 1987 『平泉遺跡群発掘調査報告書 伽羅之御所跡第2次、猫間が淵跡第1次、柳之御所跡第18次調査（岩手県平泉町文化財調査報告書第11集）』
- 平泉町教育委員会 1988 『平泉遺跡群発掘調査報告書 猫間が淵跡第2次、柳之御所跡第19次調査（岩手県平泉町文化財調査報告書第13集）』
- 平泉町教育委員会・東北電力株式会社 1990 『東北電力鉄塔用地（No.49、No48、No47）発掘調査報告書（岩手県平泉町文化財調査報告書第20集）』
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書 柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査（岩手県平泉町文化財調査報告書第33集）』
- 平泉町教育委員会 2001 『平泉遺跡群発掘調査略報（岩手県平泉町文化財調査報告書第77集）』
- 平泉町教育委員会 2003 『平泉遺跡群発掘調査略報（岩手県平泉町文化財調査報告書第81集）』

番号	調査次数	報告書 田番号	出土位置	分類	法 量 (cm)			口径/口径	遺存率 (%)	備 考	図版
					口径	底径	器高				
1	猫間が淵跡第1次	1		ロクロ大	15.6	8.0	3.7	0.51	完形	表面摩滅甚しい。	42
2		2		ロクロ小	9.0	7.0	1.5				42
3		3		ロクロ小	9.0	6.4	1.7				42
4		4		手づくね大	13.0	-	2.7		1/2		42
5		5		手づくね小	8.4	-	1.9		完形		42
6		6		特殊かわらけ	10.0	-	1.1		1/4		42
9	猫間が淵跡第2次	5	地山直上	ロクロ大	14.8	6.6	4.5	0.45			42
8		6	黒色土層中	ロクロ大	14.3	8.2	3.9	0.57			42
10		10	土坑1層土上層	ロクロ小	9.2	6.6	2.2		完形	器内厚0.8cm。	42
11		1	溝埋土	手づくね大	15.2	-	3.9				42
12		2	黒色土層中	手づくね大	16.2	-	3.8				42
13		3	黒色土層中	手づくね大	16.2	-	3.2				42
14		4	黒色土層中	手づくね大	15.6	-	3.8				42
15		7		手づくね小	9.3	-	2.2				42
16		8		手づくね小	9.3	-	1.7				42
17	9	地山直上	手づくね小	8.9	-	1.7				42	
24	猫間が淵跡第4次	28	T1溝 埋土	ロクロ大	14.0	9.5	2.8	0.68	1/3		45
25		29	T2 灰褐色土層	ロクロ大	15.0	7.8	3.5	0.52	1/2		45
26		30	T2 灰褐色土層	ロクロ大	15.6	8.0	3.9	0.51	1/3		45
27		31	T2 灰褐色土層	ロクロ大	14.2	8.4	3.8	0.59	3/5		45
28		32	T2 灰褐色土層	ロクロ大	14.4	7.3	3.8	0.51	完形		45
29		33	T2 灰褐色土層	ロクロ大	14.1	7.8	3.5	0.55	完形	すのこ痕あり。	45
30		34	T1溝 埋土	ロクロ大	12.7	7.2	3.2	0.57	完形		45
31		49	T1南側溝跡 埋土下層	ロクロ小	8.9	7.2	1.6		2/3		45
32		50	T1南側溝跡 埋土下層	ロクロ小	8.2	4.4	2.1		1/3		45
33		52	T1粗掘	ロクロ小	7.2	4.4	1.4		1/3		45
34		54	T1南側溝跡 埋土下層	ロクロ小	8.7	5.9	1.6		1/2		45
35		51	T1粗掘	ロクロ小	8.4	5.3	1.7		1/2		45
36		53	T1南側溝跡 埋土下層	ロクロ小	8.8	6.4	1.5		1/3		45
37		55	T1南側溝跡 埋土下層	ロクロ小	8.6	5.6	1.8		1/4		45
38		56	T1南側溝跡 埋土下層	ロクロ小	8.2	5.7	1.6		1/3		45
39		1	T2粗掘	手づくね大	13.7	-	2.9		3/4		45
40		2	T2粗掘	手づくね大	14.4	-	2.9		1/3		45
41		3	T2粗掘	手づくね大	13.2	-	1.9		1/4		45
42		4	T1粗掘	手づくね大	15.0	-	2.1		1/2		45
43		5	T2粘土層中	手づくね大	13.8	-	2.2		1/3		45
44		6	T1溝 埋土	手づくね大	11.8	-	2.5		2/3		45
45		7	T1粗掘	手づくね大	13.0	-	2.6		1/2		45
46		8	T1粗掘	手づくね大	13.8	-	2.4		1/3		45
47		9	T1粗掘	手づくね大	13.2	-	2.6		1/4		45
48		10	T2南側 灰褐色土層	手づくね大	13.2	-	2.5		1/4		45
49		11	T2溝 灰褐色土層	手づくね大	13.0	-	2.5		1/4		45
50		12	T1溝 埋土	手づくね大	14.0	-	2.5		1/4		45
51		13	T2 灰褐色土層	手づくね大	14.0	-	2.3		1/4		45
52		14	T1粗掘	手づくね大	14.8	-	2.5		1/4		45
53		15	T1粗掘	手づくね大	13.2	-	2.2		1/2		45
54		16	T1溝 埋土	手づくね大	13.0	-	2.1		1/5		45
55		17	T1溝 埋土	手づくね大	13.6	-	2.0		1/5		45
56		18	T1粗掘	手づくね大	13.4	-	1.9		1/4		45
57		19	T2 灰褐色土層	手づくね大	13.6	-	3.1		完形		45
58		20	T2 灰褐色土層	手づくね大	14.0	-	3.0		2/3		45
59		21	T1溝 埋土	手づくね大	12.6	-	2.4		1/2		45
60		22	T2 灰褐色土層	手づくね大	12.6	-	2.9		1/2		45
61		23	T2 灰褐色土層	手づくね大	13.1	-	3.0		完形	すのこ痕あり。	45
62		24	T2 灰褐色土層	手づくね大	13.0	-	2.4		1/2	すのこ痕あり。	45
63		25	T2 灰褐色土層	手づくね大	14.4	-	3.1		完形	すのこ痕あり。	45
64		26	T2 灰褐色土層	手づくね大	14.0	-	3.3		完形		45
65		27	T2 灰褐色土層	手づくね大	13.4	-	3.2		1/2		45
66	35	T2 灰褐色土層	手づくね小	8.2	-	1.7		完形		45	
67	36	T2 灰褐色土層	手づくね小	8.0	-	1.7		完形		45	
68	37	T2 灰褐色土層	手づくね小	9.1	-	2.6		完形		45	
69	38	T1溝 埋土	手づくね小	9.0	-	1.5		完形		45	
70	39	T1溝 埋土粗掘	手づくね小	9.2	-	2.0		1/2		45	
71	40	T2粗掘	手づくね小	8.4	-	1.6		1/2		45	
72	41	T2 灰褐色土層	手づくね小	9.0	-	1.8		完形		45	
73	42	T1粗掘	手づくね小	8.8	-	1.9		1/2		45	

猫間が淵跡関係出土かわらけ観察表 (1)

番号	調査次数	報告書 目録番号	出土位置	分類	法 量 (cm)			底径/ 口径	遺存率 (%)	備 考	図版		
					口径	底径	器高						
74	猫間が淵跡第4次	43	T1粗面	手づくね小	8.8	-	1.7	1/2		45			
75		44	T1漆 掘土	手づくね小	9.2	-	2.1	1/3		45			
76		45	T1粗面	手づくね小	8.8	-	1.5	1/3		45			
77		46	T1粗面	手づくね小	8.4	-	1.8	1/3		45			
78		47	T1粗面	手づくね小	8.7	-	1.6	1/3		45			
79		48	T2 灰褐色土層	手づくね小	9.4	-	1.7	1/2		45			
80	橋之陣所遺跡第3次	OK8	T1 灰褐色3BSD3層(人島)	ロクロ大	13.1	7.1	3.5	0.54	3/4	すのこ痕あり。磨滅。	50		
81		OK28	T1 灰褐色3BSD3人島埋層(直上)	ロクロ大	14.2	5.7	3.6	0.40	1/3		50		
82		OK31	T1 3BSD3 有機質層上	ロクロ大	-	8.4	-	-	-	底層のみ	底層肥厚。	50	
83		OK32	T1 3BSD3有機質層上	ロクロ大	14.4	8.0	4.1	0.56	1/6		50		
84		OK40	T1 3BSD3有機質層下	ロクロ大	13.2	5.8	3.7	0.44	1/3		すのこ痕あり。	50	
85		OK41	T1 3BSD3 有機質層下	ロクロ大	14.6	6.9	3.6	0.47	1/4		すのこ痕あり。	50	
86		OK42	T1 3BSD3 有機質層下	ロクロ大	14.0	6.0	3.9	0.43	1/4		すのこ痕あり。	50	
87		OK9	T1 3BSD3 有機質層上	ロクロ小	9.2	5.6	1.8	-	2/3		すのこ痕あり。	50	
88		OK33	T1 3BSD3 有機質層上	ロクロ小	8.6	5.0	2.0	-	1/2			50	
89		OK43	T1 3BSD3 有機質層下	ロクロ小	8.0	5.6	2.1	-	1/3			50	
90		OK7	T1 灰褐色3BSD 上層(人島)	手づくね大	14.2	-	2.5	-	2/3		すのこ痕あり。	50	
91		OK11	T2 褐色土層	手づくね大	13.2	-	2.5	-	2/3		磨滅。	50	
92		OK12	T2 3BSD3 黒色層	手づくね大	16.0	-	2.7	-	1/2			50	
93		OK29	T1 灰褐色3BSD 人島埋層(直上)	手づくね大	17.7	-	3.3	-	2/3		すのこ痕あり。	50	
94		OK30	T1 灰褐色3BSD 人島埋層(直上)	手づくね大	15.0	-	3.0	-	1/3			50	
95		OK3	T1 3BSD3有機質層上	手づくね小	9.0	-	1.5	-	1/2			50	
96		OK4	T1 灰褐色3BSD 上層(人島)	手づくね小	9.0	-	1.5	-	完形			50	
97		OK5	T1 灰褐色3BSD 上層(人島)	手づくね小	8.8	-	1.7	-	2/3			50	
98		OK6	T1 3BSD3 有機質層上	手づくね小	9.0	-	1.6	-	1/2		磨滅。	50	
99		OK10	T1 3BSD3 有機質層上	手づくね小	9.8	-	1.8	-	1/2		すのこ痕あり。	50	
100		OK13	T2 3BSD3 黒色層	手づくね小	9.0	-	1.8	-	完形			50	
101		OK14	T2 3BSD3 黒色層	手づくね小	8.6	-	1.3	-	1/2			50	
102		橋之陣所遺跡第3次	95	T2 猫間 文層	ロクロ大	15.4	6.8	4.1	0.44	3/10		55	
121			96	T2 豊後層 56SD39~39の層	ロクロ大	13.4	7.6	3.1	0.57	1/2		55	
122			100	T4 56SD39 15層	ロクロ大	14.4	6.6	3.8	0.46	3/5		55	
123			101	T4 跡土中	ロクロ大	13.8	6.2	3.3	0.45	3/5		55	
124			102	T4 56SD39 掘土	ロクロ大	14.0	7.6	4.8	0.54	ほぼ完形		55	
125			104	T4 56SD39 15層	ロクロ小	9.0	5.7	2.3	-	3/5		55	
126			103	T4 56SD39 13~22層	ロクロ	-	5.0	(2.9)	-	1/20		55	
127			90	T2 56SD39 22~26層	手づくね大	13.8	-	3.0	-	3/10		55	
128			91	T2 56SD39掘土	手づくね大	16.0	-	3.3	-	ほぼ完形		すのこ痕あり。	55
129			92	T2 56SD39 22~23層	手づくね大	14.2	-	3.2	-	ほぼ完形		すのこ痕あり。	55
130			93	T2 56SD39 23層	手づくね大	14.2	-	3.1	-	完形		55	
131	94		T2 56SD39 III-V層、I-V層	手づくね大	13.2	-	3.0	-	4/5		55		
132	98		T4 56SD39 13層	手づくね大	13.6	-	3.2	-	1/2		すのこ痕あり。	55	
133	99		T4 56SD39 13層	手づくね大	14.0	-	2.8	-	3/10		底に指紋あり。	55	
134	97		T4 56SD39 2~34層	手づくね小	10.0	-	2.4	-	3/5			55	

猫間が淵跡関係出土かわけ観察表(2)

番号	調査次数	報告書 目録番号	種類	器種	部位	出土位置	年代	その他	図版
13	猫間が淵跡第3次	51	在処産	刷	T3	表土	12C	内面にて具痕あり。	43
105	佛之御所遺跡第38次	Or206	常滑	甕	T1	拡張部 38SD3 上層(人為)	12C		51
106		Or313	常滑	甕	T1	38SD3 有横貫刷上	12C		51
107		Or435	常滑	甕	T1	38SD3 有横貫刷下	12C		51
108		Or312	瀬美	甕	T1	38SD3 有横貫刷上	12C		51
109		Or437	瀬美	甕	T1	38SD3 有横貫刷下	12C		51
110		Or434	瀬美	甕	T1	38SD3 有横貫刷下	12C		51
111		Or440	須恵器系	甕	T1	拡張部 38SD3 人為堆積層(最上)	12C	厚手。全面タタキ。	51
112		Or441	須恵器系	甕	T1	拡張部 38SD3 人為堆積層(最上)	10C?	厚手。全面タタキ。	51
135	佛之御所遺跡第56次	1038	常滑	壺	口縁	56SD39 T4 埋土	12C	中国産陶器か。	55
136		1039	常滑	広口壺	口縁	56SD39 T1 表土	12C	2-3形式。内面自然釉。	55
137		1042	常滑	壺	体部	56SD39 T4 8層	12C		55
138		1043	常滑	片口鉢	底部	56SD39 T1	12C	ヘラケズリ。	55
139		1044	常滑	壺	口縁	56SD39 T2	12C	甕の可能性もある。	55
140		1045	常滑	甕	体部	56SD39 T1 表土	12C	押印。	55
141		1099	瀬美	甕	体部	56SD39 T4 13層	12C		55
142		1103	瀬美	甕	底部	56SD39 T1 表土	12C	外面に釉。	55
143		1100	瀬美	山茶碗	口縁	56SD39 T2 底部付近	12C		55
144		1101	瀬美	不明	口縁	56SD39 T1	12C		55
145		1141	須恵器系	壺	口縁	56SD39 T4 2-3層	12C	胎土に黒色小粒を含む。	55
146		1142	須恵器系	甕	口縁	56SD39 T1	12C		55
147		1143	須恵器系	甕	体部	56SD39 T4 15層	12C		55

猫間が淵跡関係出土国産陶器観察表

番号	調査次数	報告書 目録番号	種類	器種	部位	出土位置	大宰府分類	年代	その他	図版
113	佛之御所遺跡第38次	Or8	白磁	四耳壺	口部・腹手	T1 拡張部38SD3 上層(人為)	白磁Ⅱ系	12C		51
114		Or19	白磁	壺	口縁部	T2 38SD3 黒色土層	白磁Ⅱ系	11C後-12C前		51
115		Or21	白磁	甕	口縁部	T2 38SD3 黒色土層	白磁Ⅱ系・Ⅲ	11C後-12C		51
118	花立1遺跡第20次		船輪陶器	四耳壺	口部					52
148	佛之御所遺跡第56次	2013	白磁	壺	口部	56SD39 埋土	Ⅱ系	12C		55
149		2011	白磁	壺	頸部	56SD39 T1 1層	Ⅱ系か	11C後-12C前	内面施釉。	55
150		2012	白磁	壺	口部	56SD39 T1 1層	Ⅱ系	11C後-12C前	水墨の痕。	55
151		2014	白磁	皿	口縁部	56SD39 T1 検出	Ⅱ	12C中-13C		55
152		2029	青磁	甕	口縁部	56SD39 T4 2層	熊泉陶Ⅰ 2a-b	12C	内面に片 張り施す	55

猫間が淵跡関係出土中国産陶磁器観察表

番号	調査次数	報告書 図番号	器種	出土位置	法 量 (cm)			備 考	図版
					最大長	最大幅	厚 さ		
116	柳之御所遺跡第38次		不明	38SD3	37.4	2.1	1.2		51
117			下駄	38SD3	25.4	16.8	9.0		51
119	花立1遺跡第20次		不明		8.8	0.8	0.5		52
158	柳之御所遺跡第56次	4050	漆材	56SD39 T2埋土	80.9	14.8	4.0		57
159		4051	下駄歯	56SD39 T2 8層	7.4	6.9	2.2		56
160		4052	箸	56SD39 T2 9~11層	20.3	0.6	0.4		56
161		4053	不明	56SD39 T2 13層 ㊶	16.4	2.7	0.2		56
162		4054	杵形木製品	56SD39 T2 13層	31.4	13.7	0.5		56
163		4055	下駄	56SD39 T2 16層	19.9	12.1	2.9	遺跡下駄。残存状態不良。	56
164		4056	不明	56SD39 T2 13~22層	16.3	7.5	1.8	残存状態不良。	56
165		4057	不明	56SD39 T2 22層 [22]	5.8	1.5	1.0	削皮残存。	56
166		4058	棒状製品	56SD39 T2 22層 [23]	14.1	4.0	3.4	加工痕あり。	56
167		4059	不明	56SD39 T2 22層 [25]	7.2	8.1	1.5	穿孔あり。	56
168		4060	不明	56SD39 T2 22層	11.1	7.9	0.4	端部に穿孔あり。	56
169		4061	不明	56SD39 T2 22層 [21]	8.6	2.3	0.5	穿孔あり。	56
170		4062	不明	56SD39 T2 22層 ㊵	20.5	5.5	0.3		56
171		4063	不明	56SD39 T2 25~31層	2.1	3.0	1.0		56
172		4064	棒状製品	56SD39 T2 27~31層	24.7	2.5	2.4	加工痕あり。	56
173		4065	不明	56SD39 T2 27~31層	22.8	0.9	0.4		57
174		4066	箸	56SD39 T2 27~31層	22.7	0.8	0.5		57
175		4067	箸	56SD39 T2 27~31層	22.1	0.8	0.5		57
176		4068	箸	56SD39 T2 27~31層	12.0	0.6	0.4		57
177		4069	虫物製品	56SD39 T2 27~38層 ㊶	21.4	3.8	0.5	穿孔2ヶ所あり。	57
178		4070	箸	56SD39 T2 27~38層	26.0	0.6	0.5		57
179		4071	箸	56SD39 T2 27~38層	24.2	0.5	0.5		57
180		4072	箸	56SD39 T2 27~38層	12.2	0.6	0.5		57
181		4073	箸	56SD39 T2 27~38層	12.6	0.7	0.6		57
182		4074	箸	56SD39 T2 27~38層 ㊶	15.1	0.7	0.3		57
183		4075	不明	56SD39 T2 27~38層	16.1	0.8	0.8		57
184		4076	不明	56SD39 T2 27~38層	17.1	1.9	1.0		57
185		4077	不明	56SD39 T2 31~38層	15.1	1.2	0.8		57
186		4078	不明	56SD39 T2 31~38層	21.6	4.2	0.6		57
187		4079	不明	56SD39 T2 31~38層	18.3	1.1	0.7		57
188		4080	不明	56SD39 T2 31~38層	20.1	1.8	1.2		57
189		4081	不明	56SD39 T2 31~38層	7.2	4.6	0.7		57
190		4082	不明	56SD39 T2 31~38層	15.4	3.8	0.6		57
191		4083	漆器残	56SD39 T2 34層 ㊶ (16.0層)	-	41 (5層)		両面黒塗あり。漆は剥離著しい。	57
192		4084	不明	56SD39 T2 35層	15.9	14.9	5.5	残存状態不良。	57
193		4085	墨香板片	56SD39 T2 36~37層	8.7	2.2	0.2	板状は不明。	57
194		4086	不明	56SD39 T2 37~38層	5.4	3.5	2.8		57
195		4087	棒状製品	56SD39 T2 37~38層	16.1	2.8	2.6	加工痕あり。	57
196		4088	不明	56SD39 T2埋土	4.6	6.5	4.5		57
197		4089	不明	56SD39 T2埋土	16.5	5.8	2.8		57
198		4090	箸	56SD39 T2埋土	20.6	0.7	0.7		57
199		4091	箸	56SD39 T2埋土	21.0	0.6	0.4		57
200		4092	下駄	56SD39 T2埋土	18.5	6.2	3.0	遺跡下駄。	58
201		4093	彫形木製品	56SD39 T2埋土	16.0	3.1	1.0		58
202		4094	不明	56SD39 T2埋土	8.8	8.4	6.5		58
203		4095	不明	56SD39 T4 14~15層	13.4	4.5	0.7	木釘跡4ヶ所あり。	58
204		4096	不明	56SD39 T4 14~15層	20.1	9.0	0.6	穿孔あり。炭化部分あり。	58
205		4097	碗	56SD39 T4 14~15層	-	㊶(5層) 15(部高)		ワロコ爪跡あり。残存状態不良。	58
206		4098	下駄歯	56SD39 T4 13層	9.4	14.9	2.0	割を削いでいる。	58
207		4099	不明	56SD39 T4 14~15層	7.1	6.1	2.0		58
208		4100	不明	56SD39 T4 14~15層	8.5	3.5	3.5	加工痕あり。	58
209		4101	不明	56SD39 T4 14~15層	14.9	0.7	0.7	黒塗付着。	58
210		4102	不明	56SD39 T4 14~15層	21.5	2.1	1.0		58
211		4103	不明	56SD39 T4 14~15層	22.5	5.5	0.7	木釘跡4ヶ所あり。	58
212		4104	不明	56SD39 T4 14~15層	22.9	2.5	1.5		58
213		4105	不明	56SD39 T4 14~15層	29.2	6.5	1.0	植物性繊維具あり。	58
214		4106	不明	56SD39 T4 14~15層	35.0	11.5	1.1	木釘跡9ヶ所あり。215と重なり合って出土か。	58
215		4107	不明	56SD39 T4 14~15層	35.2	9.6	1.2	植物性繊維具あり。214と重なり合って出土か。	58
216		4108	不明	56SD39 T4 14~15層	16.0	6.7	3.0		58
217		4109	折敷(炭板・漆)	56SD39 T4 14~15層	39.0	26.0	2.4	炭化部分あり。白がっついて黒灰状になるが、木釘跡や繊維跡及び漆部中に黒灰状・十字に多数あり。炭板に多数あり。	59

猫間が淵跡関係出土木製品観察表(1)

番号	調査回数	報告書 目録番号	器種	出土位置	法 量 (cm)			備 考	図版
					最大長	最大幅	厚 さ		
218	神ノ御所遺跡第56次	4110	不明	56SD39 T4 16層	55.1	4.2	3.9	樹皮残存。加工痕あり。	59
219		4111	不明	56SD39 T4 16層	17.0	14.7	1.0	残存状態不良。	59
220		4112	不明	56SD39 T4 22層	7.8	8.0	2.0		59
221		4113	不明	56SD39 T4埋土	24.8	1.7	1.5		59
222		4114	不明	56SD39 T4埋土	8.4	6.5	5.7		59
223		4115	不明	56SD39 T4埋土	5.9	5.2	4.0		59
224		4116	不明	56SD39 T4埋土	5.6	5.2	3.5		59

猫間が淵跡関係出土木製品観察表 (2)

番号	調査回数	報告書 目録番号	器種	出土位置	色調	形状	重さ (g)	そ の 他	図版
19	猫間が淵跡第3次	60	軒丸	T2清 埋土	灰白	椀	43	製造文。	43
20		16	軒平	T2清 埋土	浅黄橙	椀	26	三巴文。	43
21		61	軒平	T2清 埋土	灰	椀	40	唐草文。	43
153	神ノ御所遺跡第56次	3002	軒丸	56SD39 T1 検出面	灰黄	椀	45	陶左三巴陶地珠文。	56
154		3003	丸	56SD39 T1 検出面	灰白	椀	80	浮漚。	56
155		3005	丸	56SD39 T2 埋土	灰白	椀	75	砂を含まない。	56
156		3004	丸	56SD39 T1 検出面	淡黄	椀	105		56
157		3012	平	56SD39 T1 検出面	淡黄	椀	250	産れ砂が見られない。	56

猫間が淵跡関係出土瓦観察表

番号	調査回数	報告書 目録番号	出土位置	分類	法 量 (cm)			備 考	図版
					口径	底径	器高		
7	猫間が淵跡第1次	7		縄文土器片					42
22	猫間が淵跡第3次	6		石鏝					43
23		7		磨製石斧					43
102	神ノ御所遺跡第38次	OK15	T2 38SD13 黒色刷						50
103		OK38	T1 灰張部38SD13 人為埋積層 (最上)	土製円盤				炭化物付着	50
104		OK29	T1 灰張部38SD13 人為埋積層 (最上)	土製円盤					50

猫間が淵跡関係出土その他遺物土器観察表

V 第1次・第2次内容確認調査総括

1 遺構

柳之御所遺跡で検出した12世紀の主な遺構には、柵（塀）建物、道路、溝（堀）、井戸、池、土坑、その他の施設などがある。本遺跡は表土が薄く、遺構確認面までの深さは場所によって異なるが30cm程のところが多い。部分的に盛土整地された面や主に低い地形などに残る暗褐色土層面で検出される遺構もあるが、殆どの遺構は地山面で一斉に確認される。以下、遺構の種類別に全体を概観するが、遺構の方位に関しては座標北で記述する。各遺構の時期については第3節で記述する。

(1) 柵（塀）

(1) 柵（塀）の分類

平泉遺跡群でこれまでに検出された12世紀の柵（塀）跡については以下のような構造の違いが指摘されている。

分類	A	布掘りを行うもの。溝状遺構として検出される。布掘りには板の痕跡や支柱などが痕跡を残していることや、材が残存している場合がある。
	B	柱列で構成されるもの。柱穴が直線状に並ぶ。
	C	布掘りに柱列が並行するもの。
	D	柱穴の掘方が接して連続しているもの。溝状の遺構。
Aの細分	0	検出状況によって支柱や板痕跡が確認できないもの。
	1	支柱・板痕跡ともに確認できるもの。
	2	板痕跡のみが確認できるもの。
	3	板痕跡の配列はA2類と同じであるが両端に柱穴が配置される

(2) 柵（塀）の具体例（第60～62図）

52S A 2 板材を並べた板塀である。道路状遺構の南側側溝52S D 29の南側に平行して在り、道路状遺構と同時存在である。軸方向（直交する）はN17° Eである。約40mにわたり途切れ途切れの状態で検出された。23S A 1 23S G 1南端部の東約22mから検出された。東西方向に延びる南辺（N87° W、42m）と、その東端からほぼ直角に北へ延びる東辺（軸線は南北方向、22m）からなる。南辺東端と東辺南端は遺構検出においては離れているが、本来は一体のものともみさせる。

南辺の西端は近年削平されており、塀はさらに西へ延びていたと推測できる。また、東辺の北端はさらに北へと延びていたと推測できるが、追跡調査では確認できなかった。北上川へ向い形成されている小規模谷地形などにより失われたと判断される。

幅30～70cm、深さ50cm程の布掘りに、幅10～20cmの連続した材の痕跡が全域に続き、角材を隙間無く並び据えられた溝状であったと想定された。

12世紀の遺構である23S A 3・23S A 4・23S K 60・23S K 61・23S K 62・23S K 83より新しい。

28S A 1 園池23S G 1北辺の北約30mに位置する。南に開いたコ字状に配置された塀である。北辺は29.24m（N85° W）、西辺が19.18m（N4° E）、東辺が8.98m（NS）である。北辺のほぼ中央には塀の掘方がない部分が1.1mある。そこには構造物がなかったと推測できる。東辺の北端部には約2mほど掘方がない部分があり、北辺東端と東辺は接していない。ここには、土地に据えられた構造物はなかったと考えられ

る。西辺は南に延びるにつれ浅くなり、消滅する。地山自体が後に削られたと推測できる。東辺の南端は深いまま終わっており堀がそこで終わっていたといえる。布掘りに残された痕跡から、構造は23SA1に似るが堀自体は掘り抜かれ、埋められた箇所が多かった。

28SD1 28SX1に切られる。空間的に28SB1・28SB2と重なる。28SB1は28SX1を切る。

23SA3 23SA1東辺の西約12mの所に、それに平行して検出された柱列である。直線上に並ぶ15基の柱列である。ほぼ南北方向に延びているが、軸方向はN2°Eである。北端柱-南端柱までは31.6mを測る。柱穴には掘り抜かれたものも多い。23SA1・23SA4に削られている。

23SA4 直線上に並ぶ11間(23.5m)の柱列が23SA3に重なって検出された。軸方向はN10°Eである。柱が掘り抜かれた柱穴とそうでない柱穴とがある。23SA3の柱穴の一つを削り、23SA1に一つの柱穴が削られている。

52SA1 丸太材を連続して並べた扉である。軸方向(直交する)はN17°Eである。

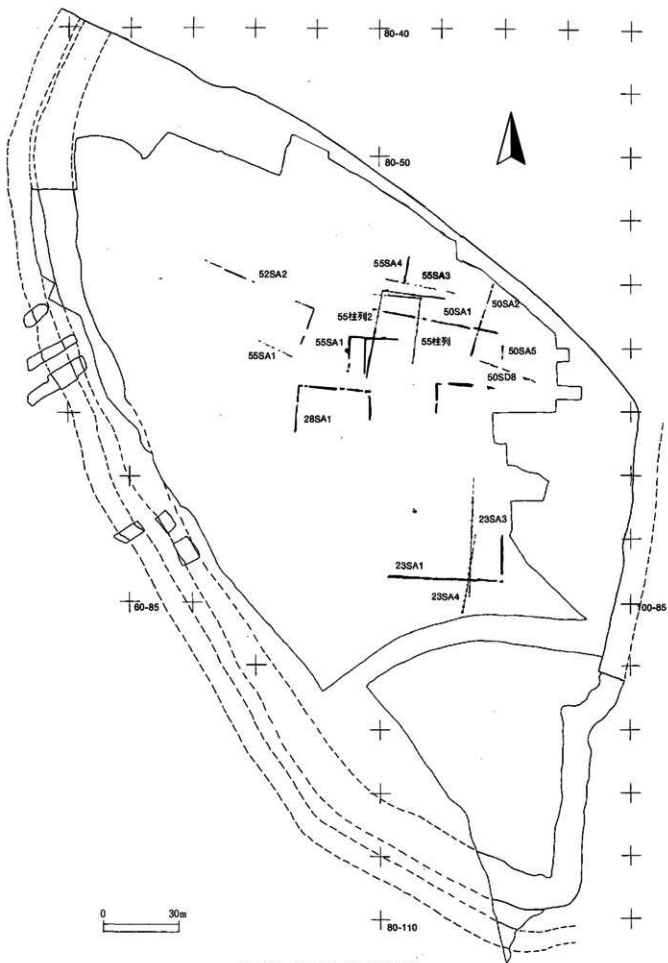
55柱列1 L字型の柱列である。南北筋は南側へなお続く可能性がある。柱穴から遺物は出土していないが、周辺にある遺構の状況から12世紀前半の可能性が高い。

55柱列2 L字型の柱列である。布掘り状の溝が伴う部分があり、本来は全体が溝の中に柱穴が配される形態であったと推測される。12世紀後半。

12は20.3mで

遺構名	区画	種類	方向	方位	全長(m)	柱間(尺)	その他特記事項
50SA1	86-82~89-83	溝	東西側	N11°E	22.30	-	柱を間隔なく連続して並べた扉
50SA2	88-81~90-86	溝	山北・東西側	N17°E	山北25.00、東西16.80	-	柱を間隔なく連続して並べた扉
50SA3	89-81~89-85	溝	山北側	S3°E	5.30	-	柱を間隔なく連続して並べた扉
50SA7	85-86~88-86	板扉	東西側	S3°E	19.70	-	板材を連続して並べた板扉
52SA1	79-81~72-85	溝	東西側	N17°E	11.60	-	丸太材を連続して並べた扉
52SA2	66-58~73-81	板扉	東西側	S17°E	14.0	-	板材を連続して並べた板扉
55柱列1	80-80~82-88	柱穴列	山北・東西側	S6°E	東西12.80、山北22.30	8.3尺	東西では8.3尺と7.9尺が伸びている
55柱列2	78-87~85-81	柱穴列	山北・東西側	西辺N11°E、北辺N81°W(N9°E)	東西24.20、山北24.10	8.5・8尺	布掘り状の掘り込み部分あり
55SA1	77-86~81-84	溝	山北・東西側	-	東西19.50、山北14.00	-	字状の溝。55SX2に接するか
55SA2	80-86	板扉	山北側	-	3.0	-	板材を連続して並べた板扉
55SA3	80-59~85-60	板扉	東西側	N11°E	27.0	-	板材を連続して並べた板扉
55SA4	82-57~81-59	板扉	山北側	S17°E	10.0	-	板材を連続して並べた板扉
52SA1	89-82~98-79	溝	山北・東西側	N・0°	南辺12、東辺22	-	中心城を囲む堀とみられる
58SA1	73-71~79-76	溝	北:溝(た)分字路	北辺N85°W、西辺N4°E	北辺29.21、西辺19.18、東辺8.88	-	柱を連続して配列か
23SA3	87-77~87-81	柱穴列	山北	S2°E	31.60	2.110	
23SA4	87-81~86-85	柱穴列	山北	S10°E	23.50	2.140	

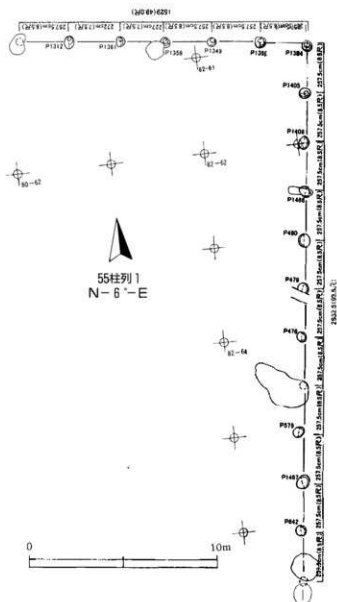
欄・柱穴一覧表



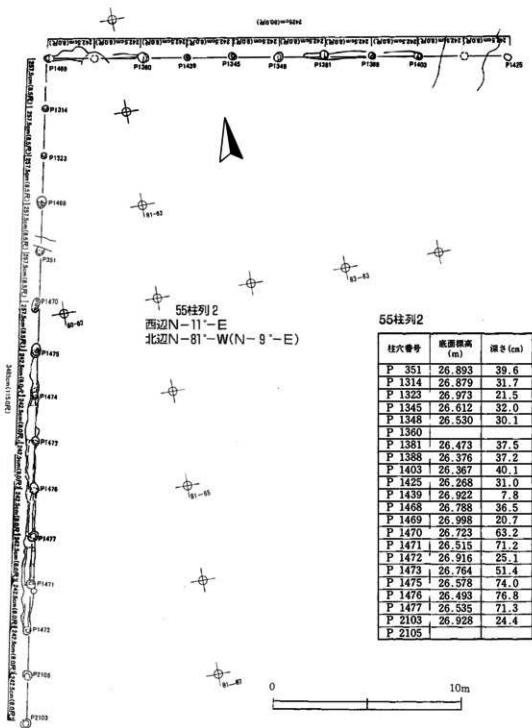
第60圖 欄(柵・柱列分布圖)

55柱列1

柱穴番号	底面標高 (m)	深さ(m)
P 478	26.160	54.5
P 479	26.509	15.6
P 480	26.595	5.2
P 579	26.303	27.1
P 642	26.349	27.7
P 1312	26.795	33.0
P 1349	26.575	35.5
P 1350	26.667	16.8
P 1358	26.601	45.6
P 1361	26.721	15.2
P 1384	26.595	18.5
P 1405	26.588	23.2
P 1406	26.556	22.1
P 1466	26.493	22.1
P 1467	26.219	31.1



第61図 柵・塀・柱穴列(1)



第62図 柵・堀・柱穴列(2)

〔2〕 建物跡

本遺跡では柱穴を多数検出したが、その中で12世紀の建物跡と判断したものの合計は46棟である。この他に近世及びそれ以降と思われる建物跡も38棟推定されている。また、建物に想定できなかった柱穴も数多くあるが、これも何らかの施設を成していたはずである。建物は掘立柱建物跡で平地建物の主体をなす。礎石建物跡は確認されていないが、可能性を指摘されているところについては触れたい。

（1） 掘立柱建物跡

これまでに報告された建物跡及び柱穴群に関して、再検討をした。

結果、変更したもや新たに想定された建物跡が22棟ある。これらの建物跡について軸方向・柱間寸法を示した第63～66図を作成し、新しい遺構名はH S ■○○とした。新旧関係や主な特徴に関しては一覧表に整理した。

軸方向 正方位に近い角度の建物は、主に堀内部地区のほぼ中央に位置し規模も大きい。本遺跡の中心的な建物に多用されていた軸方向と見て大過ない。他に、N 3～6° Eのもの、N 17° Eを基調とするもの。N 11° Eを成すものに大別され、前述した正方位の建物の周辺に展開する。

柱間寸法 様々な寸法が用いられているようである。建物の規模、構造が似通っていても柱間寸法が一致してくるわけでもなく、梁行と桁行とで異なる間尺を使用しているものも多い。そうした中で基準値的なものを抽出するのは難しいが、よく使われる間尺となると6～8尺である。また、本遺跡のなかでも規模の大きな（床面積200㎡以上）建物に関しては柱間寸法も大きく10尺以上が用いられている。

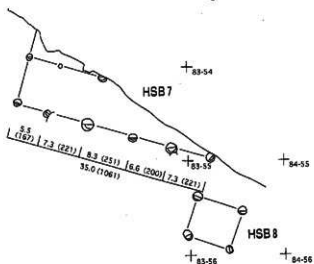
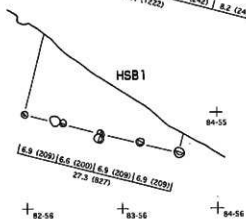
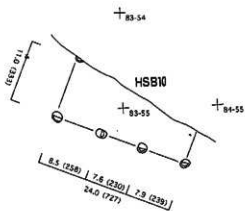
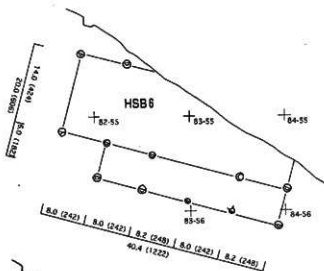
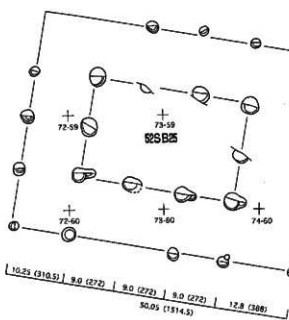
堀内部地区での占地 堀池23 S G 1の北東約20m、堀内部地区はほぼ中央は規模の大きな建物が密に分布するところである。建物は重複して検出されており、本遺跡でも中心となる建物が同じ場所を立て替えを繰り返していた様相を呈する。これらの大型建物を中心建物群と呼んでいるが、この場所のほかに規模の大きな建物が占地するところとしては、遺跡中央北側がある。前述した中心建物群が、ある時期に北へと移動したものと考えられる。この他、中・小規模の建物はこれらの大型建物の周辺に分布するが、遺跡状遺構に並び、角度を揃えるものが多い。遺跡南端部にも多数の柱穴があるが大型の建物は想定できず、小規模な建物のみで構成されている。遺跡南西部（堀間が潤や無量光院に面する地域）では地形的に低くなっており、遺構の残りは良くない可能性がある。建物の分布が希薄なのはそうした条件による可能性がある。

建物の規模 最も大きな建物は55 S B 6（6×6間、358㎡）である。大型の建物は200㎡以上のもので4面庇の建物が多い。中規模の建物で約120㎡（四面庇・二面庇の建物の他に、様々な形態の建物がある）、それより小規模な建物もある。本遺跡の特徴として大型の建物は南北棟となるものが多い。

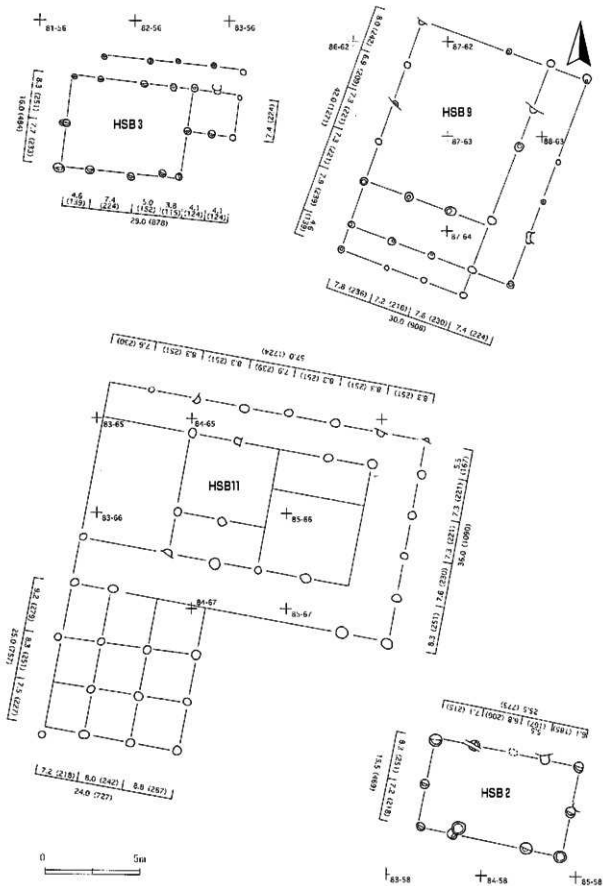
（2） 礎石建物の可能性

礎石建物は確認されていないが可能性が指摘されているものについて触れておく。

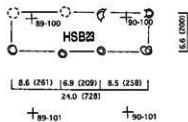
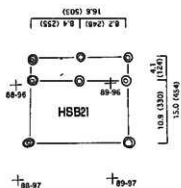
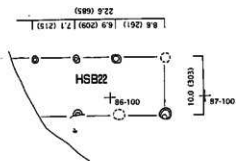
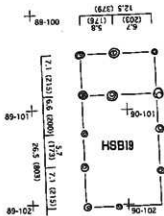
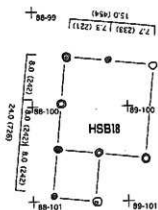
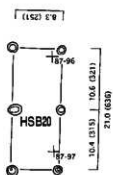
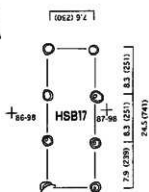
- ・28 S A 1は23 S G 1池跡の北約20mに位置するコの字形を呈する塚跡であるが、この塚が礎石建物の基礎を載せる土留めの痕跡である可能性。
- ・23 S G 1池跡の中央南側にぐり石状の痕跡が数カ所で確認できるが配置は少し乱れる。
- ・11次調査区（堀内部地区の南西部）付近では瓦の出土が他に比べて多いことから御堂的な建物があった可能性が指摘される。



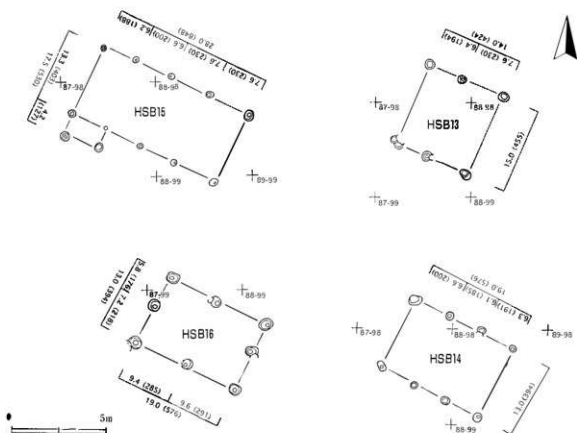
第63圖 掘立柱建物跡 (1)



第64圖 掘立柱建物跡(2)



第65圖 掘立柱建物跡(3)



第66図 掘立柱建物跡（4）

遺構名	位置	規模	軸方向	平面形式	柱間寸法	備考
HSB 1	83-35	桁行4間×梁行不明	N-14°-E	東西棟	4.91尺多用	
HSB 2	84-37	桁行4間×梁行2間	N-11°-E	東西棟	様々な寸法が使われている	
HSB 3	82-37	桁行2.5間×梁行2間	N-7°-E	東に突出を持つ	様々な寸法が使われている	
HSB 6	83-35	桁行3間×梁行1間に北	N-15°-E	北面に庇状に4間取り付く	桁行では8尺と8.2尺を多用	
HSB 7	82-54	桁行3間以上	N-17°-E	東西棟の2面庇建物か	3.5-8.3尺	
HSB 8	83-35	1間×1間	-	-	-	
HSB 10	83-35	桁行3間×梁行1間以上	N-22°-E	東西棟	8.5-9.6尺	
HSB 11	84-46	桁行2間×梁行3間に3×3間	N-11°-E	東西棟建物の南に3×3間の突出	梁行8.3尺、桁行7.3尺が多用	28Sは4より南
HSB 13	87-98	2間×1間	N-25°-E	南北棟	7.6、6.4尺	
HSB 14	88-98	桁行3間×梁行1間	N-27°-E	東西棟	桁行は6尺代を多用	
HSB 15	88-98	桁行4間×梁行1間	N-15°-E	東西棟	油断に一部突出	
HSB 16	87-99	桁行2間×梁行2間	N-26°-E	東西棟	桁行は9.5尺、梁行は6.5尺か	
HSB 17	86-98	桁行3間×梁行1間	N-2°-E	南北棟	桁行は8.3尺を多用	
HSB 18	88-100	桁行3間×梁行2間	N-6°-E	2間×2間の油断に1間張り出す	8尺が多用	
HSB 19	89-101	桁行4間×梁行2間	N-1°-W	南北棟	3.7-7.1尺	
HSB 20	86-96	桁行2間×梁行1間	N-3°-E	南北棟	桁行は約10尺	
HSB 21	88-96	桁行2間×梁行1間	N-1°-E	北面に庇がつく東西棟	桁行は約8尺	
HSB 22	85-99	桁行4間以上×梁行1間	N-1°-E	東西棟	桁行は6.9-8.4尺	

掘立柱建物跡観察表

[3] 道路・橋跡

柳之御所遺跡を取り囲む堀跡に架かる橋跡に通じる道路、様々な遺構の変遷を検討していく上で位置、規模、形態などから道路側溝と考えるのが妥当であると判断した溝跡など、道路遺構とした遺構は3基である。ここでは橋跡と橋の予想される場所についても記しておく。

(1) 道路 (第67・68図)

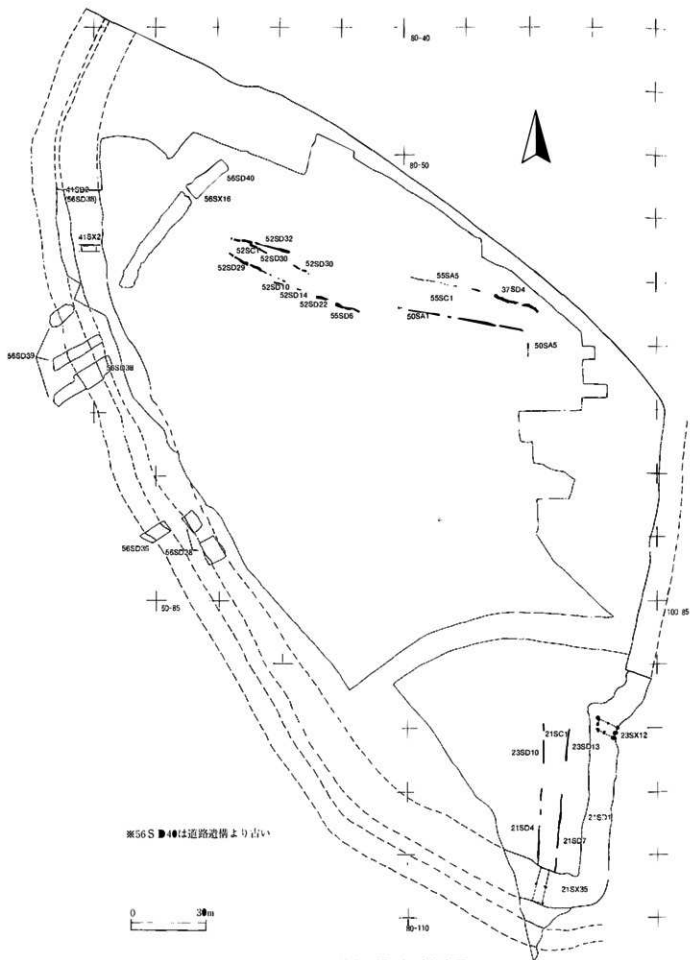
21SC1道路状遺構 柳之御所を取り囲む堀跡21SD1南端部に架かる橋21SX35北部の延長上に、ほぼ並行した2条の溝が検出されている。この溝に挟まれた区域にはそれと同時期の遺構がないことから、これらの溝を道路脇の側溝と考え、これらに挟まれた区域を道路状遺構とした。道路幅は10.2～7.6m、検出できた溝の総延長は約57mで両溝ともほぼ南北を向いている直線状だが、東側溝はN4°E、西側溝はN2°Eの傾きを持つ。東西側溝ともに北端部では底面からほぼ垂直に立ち上がっており、検出された北端部が元々の最北端であったことが推測できる。しかしながら、道路としてはさらに北側へと延びて東西道路52SC1・55SC1と連結すると類推される。また、橋脚を渡り遺跡の外へ出て直線的に南へ行くと泉屋遺跡13・16次調査で検出されている南北道路(13SD12・13SD13・16SD8)に行き着くことになる。道路側溝は12世紀の遺構である21SX36や21SK115を覆う整地層上に造られている。東側側溝には多量のかわけが廃棄された状態で出土する地点もあるが西側溝からはあまりかわけは出土していない。遺構の重複関係や出土したかわけの特徴などから12世紀後半以降に設置されたと推測でき、その後は埋め戻されたことはなく奥州藤原氏滅亡までは機能していた可能性が高い。

52SC1道路状遺構 52SD29と52SD30からなり、この二つの溝は対になる道路側溝である。道路幅は溝を含めて約8m、残存状態は良くなく、所々途切れつつ約30m検出されたが、本来は東西にまだまだ続いていたと推測される。高館の裾を通り中尊寺に至る道の一部分と考えられる。重複関係を整理すると本遺構は52SB25と重複するが道路状遺構が古い。また52SE7、52SI2、52SK39とは同時存在ではない。52SD32が新しく、52SA2は同時存在と考えられる。

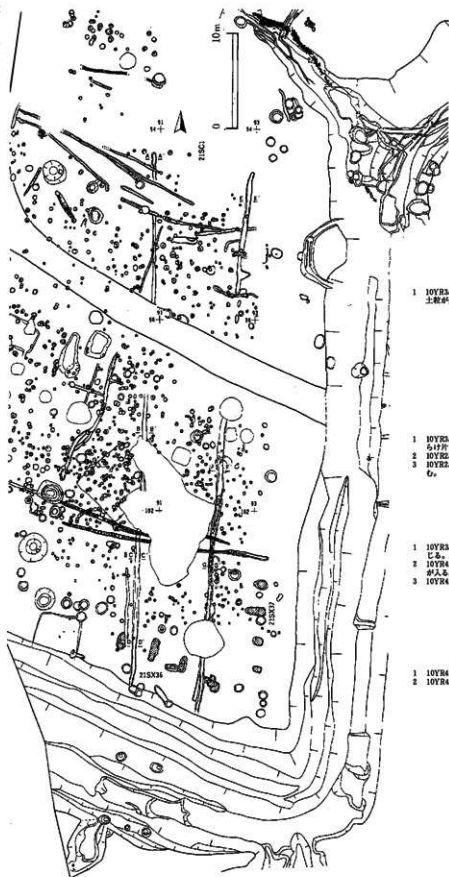
55SC1道路状遺構 50SA1横列状の塀とそれに平行する55SA3板塀との間(幅は約12mある)に道路を想定した。50SA1と55SA3の内側には道路側溝は残存していないが、西側に延長すると52SD32と52SD10がある。また、東側の延長上には37SD4がある。これらを道路状遺構の残存とみなして55SC1とした(軸方向N11°E)。この道路の軸方向では堀外部地区で検出された道路にスムーズにつながらない。堀跡を跨ぐ付近で北側に緩やかに道路がカーブして堀外部地区の道路につながるかと推測される。

遺構名	遺構名細分	位置	時期	方向	方位	全長(m)	幅(m)	その他記事項
21SC1	東側溝	93-94 91-106	12C後半 代と推測	南北	N4°E	57	北端で 10.2 南端で	既定全長190m。東西側溝とも北から南へ続く様相。東西溝とも検出された北端部が元々の最北端と推測。特に東側溝から集約的に検出された出土。12世紀の遺構である21SX36や21SK115を覆う整地層上に造られている。
	西側溝	90-94 90-105			N2°E	56	7.6	
52SC1	北側溝(52SD30)	67-66 72-59	12Cに 属する	東西	N60°W	約30	約6.0	既定全長185m。かわかけ、国産陶器片出土。道路側溝から出土したかわかけの形跡と踏面上に3層の遺構が存在することから4層と推定される。52SB25と重複するが道路状遺構が古い。52SD30と52SD32が重複するが52SD32が新しい。52SE7、52SI2、52SK39と道路遺構は重複するが、切り合い関係がなく重複関係はでないが、同時存在ではない。
	南側溝(52SD29) 52SA2	66-57 70-59			N65°W			
55SC1	52SD32, 55SA3, 37SD4	66-56 30-62	12Cに 属する	東西	N79°W	125	西端で 13.0 南端で	既定全長172m。軸方向が同じ板塀と溝状遺構を組み合わせて想定した。
	52SD10, 50SA1, 50SA5	69-59			N79°W	102	1.0	

道路状遺構一覧表



第67図 道路・橋・堀跡分布図。



- 1 10YR2/2黒褐色粘土混じりシルト。炭化物片、黄土粒が少量入る。かわらけ片を含む。

- 1 10YR2/2黒褐色砂混じりシルト。炭化物片、かわらけ片を含む。磁器。
2 10YR2/2黒褐色粘土混じりシルト。
3 10YR2/2黒褐色粘土混じりシルト。炭化物片を含む。

- 1 10YR2/2黒褐色粘土混じりシルトが主体。砂が混じる。炭化物片、かわらけ片、磁器が多い。
2 10YR4/2灰黄褐色粘土混じりシルト。かわらけ片が入る。
3 10YR4/1褐色粘土混じりシルト。

- 1 10YR4/1褐色シルト。炭化物片を多く含む。
2 10YR4/2灰黄褐色シルト。

第68図 道路状遺構 (1)

(2) 橋 (第69-73図)

A 検出された橋 (土橋)

柳之御所を取り囲む堀21SD1には、橋が2基架かっていた。また、他に橋の可能性のある遺構1基が41SD2-Bトレンチから検出されている他、56SD40には土橋56SX16が設置されていた。

21SX35 21SD1南端部に架けられている。橋脚は桁行2間、梁行1間である。桁方向はN12°Eである。橋脚桁行は13.6mを測り、梁行は北が3.36m、南が4.36mである。造り替えはない。橋脚穴の中で21SK1・21SK3の下部には柱根が一部残っていた。前者は径44cm、後者は径36cmで両者とも八角柱と推定される。

本遺構は柳之御所堀内部地区と平泉拠点地区を結ぶ橋脚である。橋脚を渡り堀内部へと入ると21SC1道路状遺構が直線的に延び、反対に外部へ行くと、泉屋遺跡13・16次で検出された道路状遺構(13SD12・13SD13・16SD8)につながる。

23SX12 21SD1堀中部と北端部の接合部に構築されていた。橋脚は桁行2間、梁行2間である。桁行方向はN75°Wである。調査時点では、桁行方向は同じだが異なる2基の橋があったと推定していた。但し、一見柱穴を掘改めたように見える土でも別の解釈が成り立ち、橋は1つしかなく、新旧はなかった可能性もある。

橋脚穴21SK18の底面には34cm×31cm、厚さ約5mmの板材が水平にあった。23SK17には径44cm、23SK19には最大径50cm、23SK21には最大径52cm、23SK25には最大径44cmの柱根が底面に残っていたこと、しかもそれぞれが隣接している柱穴を切っているようにも見えることから、調査時点では、これら柱根が残っていた柱穴を最新の橋脚穴と考え、橋は2期にわたって造り替えられたと考えていた。橋脚柱根は八角柱と推定できる。

41SX2 41SD2-Bトレンチから、柱穴とそれに付随する柱根が堀の東西法面に1基ずつ検出された。2基の柱穴が堀を跨いでいることから、それらを橋の桁方向の橋脚であると推測したが、対になる桁方向の橋脚はBトレンチ内にはない。橋脚穴41SK36と41SK37を結んだ軸方向はN90°Eである。東西橋脚柱根の間隔は4.08mである。41SK36の柱根平面形は直径16cmの円形、41SK37の柱根平面形は23×21cmの角がとれた五角形のような円形である。調査は遺構検出のみで、柱根は取り上げずに埋め戻した。

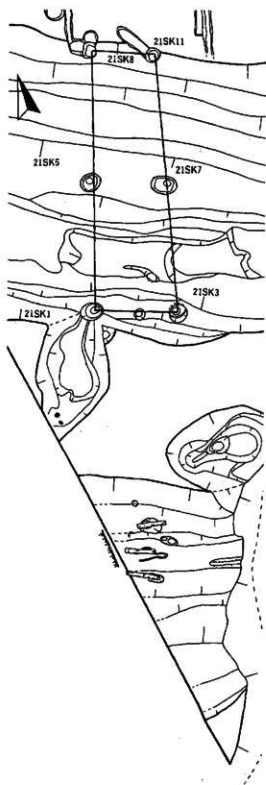
本遺構に関連する道路状遺構としては52SC1を西にほぼ直線上に延長させて見れば最も可能性が高い。しかしながら対岸にあたる堀外部の発掘調査では道路遺構は検出されていないため、この遺構を橋脚跡とはみなさない見解もある。その場合52SC1はやや北西向きを変え、堀外部地区で検出されている道路遺構につながるという解釈になる。

56SX16土橋 内堀56SD40の北端部から南西へ19m(63-53グリッド)に位置している。長さ6.0m、上幅2.8-1.5m、下幅は約3mと推測される。北側2カ所で精査したところ、内堀の底面から土橋上面への立ち上がりが見え、遺跡ののり基盤層を掘り残すかたちで土橋を構築していることが明らかになった。内堀に直交するように設置されており、軸線はN40°Wを指す。門などの付属する施設並びに関係する道路は判然としない。

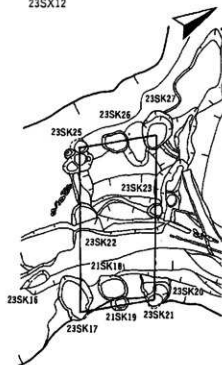
B 橋が想定される場所について

これまでの発掘調査の成果から、調査が及んでいない地域でも橋が架かっていた可能性を指摘できるところがあるので以下に記しておく。

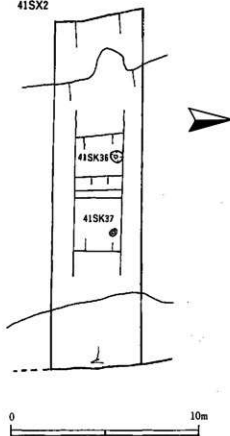
21SX35



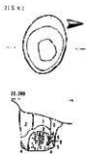
23SX12



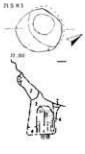
41SX2



第69圖 橋跡(1)



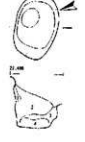
- 215K1
- 1 10YR7/1にふい黄褐色砂泥じりシルト 地山粘土小アロック少量散在 地土砂少量含
 - 2 10YR7/2にふい黄褐色砂泥じりシルト 23Y4/4浅黄色粘土小アロック約40%散在 炭化植物片、地土砂少量含む心け付含
 - 3 10YR7/1に黄褐色シルトと泥じりシルト 下部には緑黄色粘土小アロック散在 炭化植物片含
 - 4 20C1/1緑黄色砂泥じりシルト
 - 5 10YR7/1にふい黄褐色粘土泥じりシルト
 - 6 付録 (遺物)



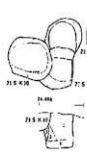
- 215K2
- 1 10YR7/1シルト泥じり砂
 - 2 20C1/1の砂、シルト泥じり砂土、浅黄色粘土小アロック含
 - 3 10YR7/1のシルトと泥じり粘土、炭化物片、少量少量含 (付録の地化したものか)
 - 4 20C1/1明褐色、シルト泥じり粘土、付録の地化したものか
*付録の図柄には浅黄色粘土が2-3cmほど見られる。動物が腐食したとったものであろう



- 215K3
- 1 10YR3/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色粘土アロックが少量散在 炭化植物片、かわらけ付が少量含まれる
 - 2 10YR3/2の黄褐色砂泥じりシルト 炭化植物片少量含
 - 3 10YR3/1に黄褐色砂泥じりシルト 炭化植物片少量含 かわらけ付少量含
 - 4 10YR6/2浅黄褐色砂泥じりシルトが主、灰白色浮石が少量含まれる 炭化植物片含 かわらけ付少量含
 - 5 10YR4/2浅黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色粘土アロックが約40%ほど散在する 炭化植物片含 かわらけ付少量含
 - 6 10YR6/1暗褐色砂、シルト泥じり粘土 炭化植物片、かわらけ付含 地土砂少量 (付録)



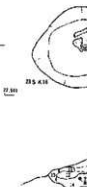
- 215K4
- 1 2.5Y7/4明黄褐色粘土上アロックが主、2.5Y8/2暗黄褐色粘土上アロックが主 炭化植物片含 かわらけ付少量含
 - 2 10YR3/2黄褐色砂泥じりシルトアロックが主 炭化植物片含 かわらけ付少量含
 - 3 10YR3/2黄褐色砂泥じりシルトアロックが主 炭化植物片含 かわらけ付少量含
 - 4 10YR3/2黄褐色粘土上アロックが主 かわらけ付少量含



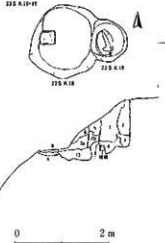
- 215K5
- 1 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、2.5Y8/2暗黄褐色粘土上アロックが約70%の割合で混在 同く緊密
 - 2 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、同く緊密
 - 3 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片含 地土砂少量含 同く緊密
 - 4 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片含 地土砂少量含 同く緊密



- 215K6
- 1 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、2.5Y8/2暗黄褐色粘土上アロックが約70%の割合で混在 同く緊密
 - 2 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、同く緊密
 - 3 10YR4/4黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 4 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、2.5Y8/2暗黄褐色粘土上アロックが約70%の割合で混在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 5 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 6 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 7 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 8 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密



- 215K7
- 1 5YR/3黄褐色粘土、やや汚れる
 - 2 5YR/3黄褐色粘土、アロック、10YR6/2黄褐色粘土上アロックが主
 - 3 5YR/3黄褐色粘土上アロック、10YR6/2黄褐色粘土上アロック 炭化植物片少量含
 - 4 10YR6/2、10YR4/2黄褐色シルトアロックが主、5YR/3黄褐色粘土上アロックが少量散在
 - 5 10YR4/2黄褐色シルトが主、5YR/3黄褐色粘土上アロック約20%含
 - 6 2.5Y4/1黄褐色粘土
 - 7 2.5Y4/1黄褐色粘土が主、下部には緑黄色粘土がアロック状に混入
 - 8 10YR4/2黄褐色シルトが主、5YR/3粘土上アロック 付録1-20a、40%含
 - 9 10YR4/2黄褐色シルトが主、地山粘土の小アロック散在
 - 10 10YR4/2黄褐色が主、中々の地山粘土アロック散在
 - 11 10YR4/2黄褐色粘土が主、付録1cmの地山粘土アロック25-30%含
 - 12 10YR4/2黄褐色粘土が主、付録1cmの地山粘土アロック約40%含
 - 13 10YR2/2黄褐色土、10cに混るが、含まれる地山粘土アロックの割合が50%含
 - 14 10YR2/2黄褐色土、10c、13cに混る 地山粘土アロック散在、約10%以下 下部の粘土アロックは5YR/3-10YR/6色

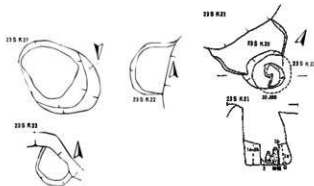


- 215 K10
- 1 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、2.5Y8/2暗黄褐色粘土上アロックが約70%の割合で混在 同く緊密
 - 2 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、同く緊密
 - 3 10YR4/4黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 4 2.5Y7/4浅黄褐色粘土上アロックが主、2.5Y8/2暗黄褐色粘土上アロックが約70%の割合で混在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 5 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 6 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 7 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 8 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密
 - 9 10YR2/2黄褐色砂泥じりシルトが主、浅黄色シルトアロックが少量散在 炭化植物片少量 同く緊密

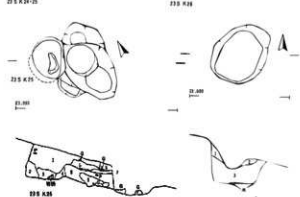
第70図 橋跡 (2)

23SK18 - 19

- 1 10YR4/1褐色シルト。かわかけ粉細片、炭化物片散在。
- 2 10YR4/3にふい黄褐色が主。5YR/3淡黄色粘土ブロック散在。
- 3 10YR4/2灰黄色粘土が主。地山粘土小ブロック約5%。炭化物片散在。
- 4 2.5Y/4/1黄灰色粘土。水分多く粘質。
- 5 5YR/3淡黄色粘土大ブロックが主。10YR5/4にふい黄褐色粘土ブロック。
- 6 10YR6/4褐色土が主。径約1cmの地山粘土小ブロック。
- 7a 10YR4/2灰黄色土が主。径約1cmの地山粘土ブロック約10%以下。かわかけ粉片散在。
- 7b 10YR6/2灰黄色土が主。7aとはほぼ同じ。地山粘土ブロックにやや大型のものを含む。
- 8 10YR5/2黄褐色土が主。地山粘土中ブロック約10%以下。
- 9 10YR4/1黄灰色土が主。径約3cmの地山粘土ブロック約5%。
- 10 10Y2/1黒褐色土が主。地山粘土中ブロックが上半に散在。



23SK20 - 21



23SK21

- 1a 10YR4/1褐色土～10YR3/1灰黄色土。大小の粘土ブロックを含む。
- 1b 10BG4/1暗青灰色土。1aが凝結グライ化したもの。
- 2 10GY2/1黒褐色土。

23SK26

- 1 10YR6/2灰黄色褐色土が主。地山粘土大小ブロック多量。径約3cm以下の塊少量。
- 2 5BG6/1青灰色粘土。
- 3 10YR2/1黒褐色土並にシリシルトと地山粘土大小ブロックが半々。粘土は還元し、黄灰色。

23SK25

- 1 10YR2/1オリーブ黒色粘土質土に大小ブロックや細砂が混入。
 - 2 10GY3/1緑灰色粘土。
 - 3 10YR4/1オリーブ黒色粘土。
 - 4 10GY5/1緑灰色粘土と10GY3/1オリーブ黒色粘土質土。
 - 5 10GY4/1暗緑灰色～10GY3/1オリーブ黒色粘土土と2.5Y5/2暗黄灰色細砂の混在。
 - 6 1に依る。粒径50mm程度の塊を含む。
 - 7 10G5/1緑灰色土。細砂が凝結。
 - 8 10Y3/1オリーブ灰色。
 - 9 10Y7/1オリーブ黒色土。粘土の大小ブロックと最大粒径100mm以下の塊を含む。
- ※1～4が23SK26の埋土。

56SX16土層(西)



56SX16土層(東)

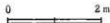


56 内層の一部 西

- 1 10YR5/4にふい黄褐色土 地山ブロックごく微量含む 粘性やや有 締っている
- 2 10YR2/1黒褐色土 地山ブロック大小～大粒を多量に含む 粘性やや有 締っている
- 3 2.5Y2/1黒褐色土 地山ブロック大粒を大量に含む 粘性有 締っている 鉄分有
- 4 2.5Y7/4黄褐色粘土 地山 黒褐色土ごく微量含む 粘性有 締っている 鉄分有
- 5 2.5Y7/3黄褐色粘土 灰黄色土との混土 鉄分有 粘性有 締りやや有
- 6 2.5Y6/2黄褐色土 黒褐色土微量を含む 粘性やや有 締りやや有
- 7 10YR2/1黒褐色 部分的に灰黄色土を混する 黄灰色地山土含む 3～4層との境には境界が凝結している。粘性やや有 締りやや有
- 8 2.5Y7/3黄褐色粘土 灰黄色土少量含む 粘性やや有 締っている 鉄分含む
- 9 2.5Y6/4黄褐色粘土質土 鉄分含む 粘性有 締っている

56 内層の一部 東

- 1 10YR6/3にふい黄褐色粘土質 堅く締る φ3mm程度の炭化物少量。かわかけ少量
 - 2 10YR4/3にふい黄褐色粘土質 堅く締る 10～20cm大の円筒を含む 炭化物・かわかけ少量 (内層埋土中の割の遺構?)
 - 3 10YR2/1黒褐色粘土質 堅く締る 炭化物・かわかけ片や多く含む (内層埋土中の割の遺構?)
 - 4 10YR6/4にふい黄褐色粘土 堅く締る 埋褐色土含む (下半にやや多い)
 - 5 10YR6/3にふい黄褐色粘土 堅く締る 埋褐色土含む 灰色の砂質土塊少量
 - 6 10YR6/2灰黄色粘土質 堅く締る 10YR4/2灰黄色粘土含む
 - 7 2.5Y7/3黄褐色粘土 締り有 炭化物散在 均質な土
 - 8 10YR6/3にふい黄褐色粘土質 締り有 灰黄色塊少量 灰にふい黄色の砂質土含む
 - 9 2.5Y6/4にふい黄褐色粘土 堅く締る 炭化物ごく少量 均質な土
- ※1～9人為堆積

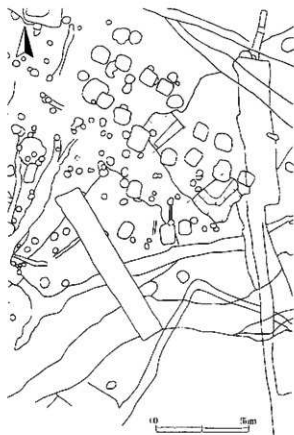


第71図 橋跡(3)

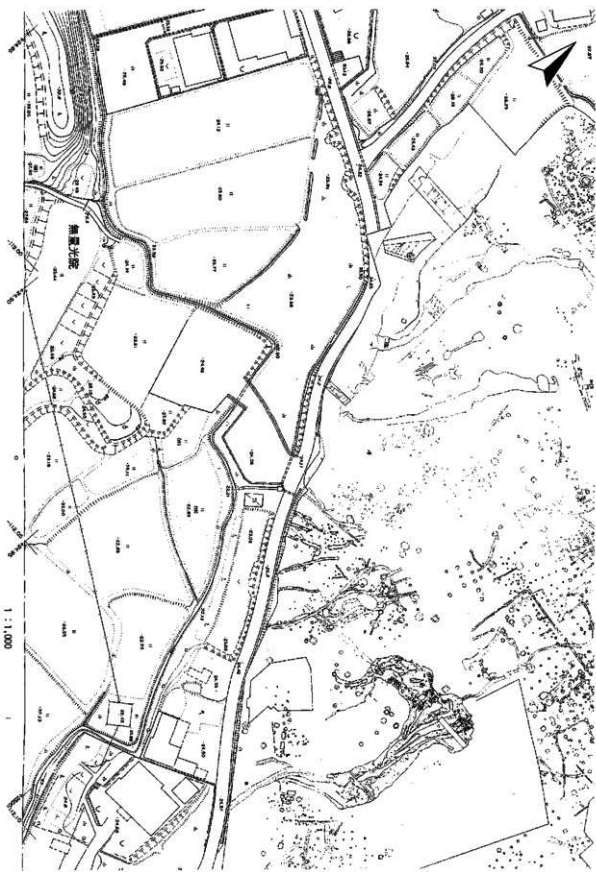
柳之御所堀外部地区から堀内部地区へ渡る橋堀外部地区で検出された道路側溝跡(25SD3・25SD7・29SD1・29SD2)と堀内部地区で検出された道路52SC1と55SC1とを繋ぐ橋が想定される。位置は道路遺構の延長線上で柳之御所堀内部地区を囲む堀跡の部分になる。

無量光院と柳之御所堀内部地区を結ぶ橋

本道跡と無量光院は猫間が淵跡と呼ばれる低地を挟んで隣り合っている。無量光院が造営された12世紀後半には本道跡と無量光院を結ぶ道路及び橋を猫間が淵跡の中に設けていたと想定するのが自然である。有力な場所としては、無量光院側から本道跡のほうへ舌状に張り出す地形がある。ここは無量光院の北東隅にあたり、志羅山遺跡で確認された南北道路を北へ延長し無量光院と加羅御所の間を通りここに至る。そして一方は東に曲がり張出地形から猫間が淵跡とその中に構築された堀を渡り柳之御所堀内部地区へ、もう一方は西へ転じて無量光院北辺の上流に沿って中尊寺方面へと延びると考えられる。



第72図 土橋・堀跡



第73図 想定される橋

〔4〕 堀跡・溝跡

溝は幅14cm、深さ8cm、全長6.3mの小規模なものから、幅が4.5m、深さが1m、全長約85mに及ぶ大規模なものまである。素掘りのものが多いが、側壁に板材を組んだ構造のものもある。機能面から見ると排水、区画、道路側溝、自然流路などが挙げられるが、はっきり分けることができないものも多かった。

(1) 堀跡

堀は3条確認されている。柳之御所遺跡を取り囲む2重の堀跡は本遺跡を代表する遺構である。また、もう一つの堀も遺跡の性格を考える上で興味深い遺構といえる。

A 柳之御所を取り囲む2重の堀（第74～79図）

柳之御所遺跡は北上川西岸の台地上に形成されているが、堀は東側では沖積低地との境界、南～南西側では蒲間が溜の縁の自然地形に沿って巡り、西～北西部では台地を切り低地へとぬけるかたちで構築されている。予想される全長は500mに及ぶが、緊急調査時には南東部を主に、内容確認調査時には北西部の一部を調査したにすぎない。

内側の堀 これまでに21SD1・41SD2・56SD38という遺構名が付されているが調査次と地点が異なるだけで全て同じ堀のことである。

21SD1 堀の東南部分にあたる。開口部幅は、8.0～13.7m（平均的な幅は約10m）である。深さは2.2～4.6m、堀内の台地部と堀底面の比高が2.2mである。断面形はほぼ逆台形状、底面はほぼ平坦である。底面の幅は1.4～2.0mである。また、底面には間仕切り状の区画を有する部分がある。埋土は堀が構築された段階から次第に土が堆積し、近世から近代の頃にやっと埋まりきったことを示しているが、12世紀の遺物はかわらけの完形品や木製品が集中して多量に入るなど、廃棄したり意図的に置くなどして、人間が直接関与した堆積状況を示すものも多かった。

堀南端部の北岸と中部南半部の西岸に整地層が検出されている。

41SD2 内側の堀の北西部部分にあたる地点に3つのトレンチを設定して調査した。

Bトレンチからは構脚の可能性のある柱穴と柱根が検出された。堀底面の幅は0.4mと狭くなっている。埋土は基本的に自然堆積で、腐食土を主体とし、有機質遺物を多く含む。淀んでいたことを推測させる層も見られる。中には人間が有機物を捨ててきた層も確認されている。かわらけはロクロ整形のものが多く、最下層からは遺物は全く出土していない。

56SD38 AトレンチとDトレンチの中間に設定した。この付近において堀は現町道の下を通っていることが判り、立ち上がる両岸部分をこのトレンチと56次調査で蒲間が溜跡に設定したT2トレンチで確認した。開口部での幅は約10m、深さは少なくとも3m以上あるものと考えられる。加えて、12世紀末まで機能していたと考えられる溝56SD20が堀に土砂を流し込む状況を観察し、12世紀後半には内側の堀は埋まりかけていたことも確認できた。

遺物はかわらけ、陶磁器、瓦、木製品等が多量に出土しているが、廃棄されたものと土砂とともに流れ込んだものとのが複雑に混ざり合う状態で出土している。

外側の堀 これまでに21SD2、56SD39という遺構名が付されているが調査次と地点が異なるだけで同じ遺構のことである。

21SD2 堀跡21SD1の南から検出された。上幅9.0から12.6m、下幅は3.6m、断面形は比較的鈍い角度

の逆台形で深さは2.4～2.6mを測る。調査区にそのごく一部がかかっていただけだったので、細かな状況までは述べられないが形態・規模などは21SD1南端部に類似する。埋土下層は自然堆積土（古期層）であるがその層を切って堆積する人為堆積も認められた（新期層）。いずれも12世紀の堆積と判断される。

56SD39 堀南西部にあたり猫間が淵跡と呼ばれる低地の中にトレンチを設定して調査した。地表面から35～85cm程掘り下げた段階で開口部を検出している。上幅約6.5m、下幅3.3m、深さは約2.1mを測る。底面は概ね平坦で断面形は逆台形を呈する。猫間が淵と呼ばれる低地地形を掘り込んで構築されている。埋土は基本的に自然堆積の様相を呈し、泥質及び砂質土が交互に流れ込んでおり、流水と沈殿を交互に繰り返したようだが、常に水を溜えた状況は考えにくい、原則は空堀であったといえる。

遺物はかわかけ、陶磁器、瓦、木製品（自然木含む）が出土しているが、その量は内側の堀に比べ極端に少ないのが特徴である。

B 56SD40堀跡（第67図）

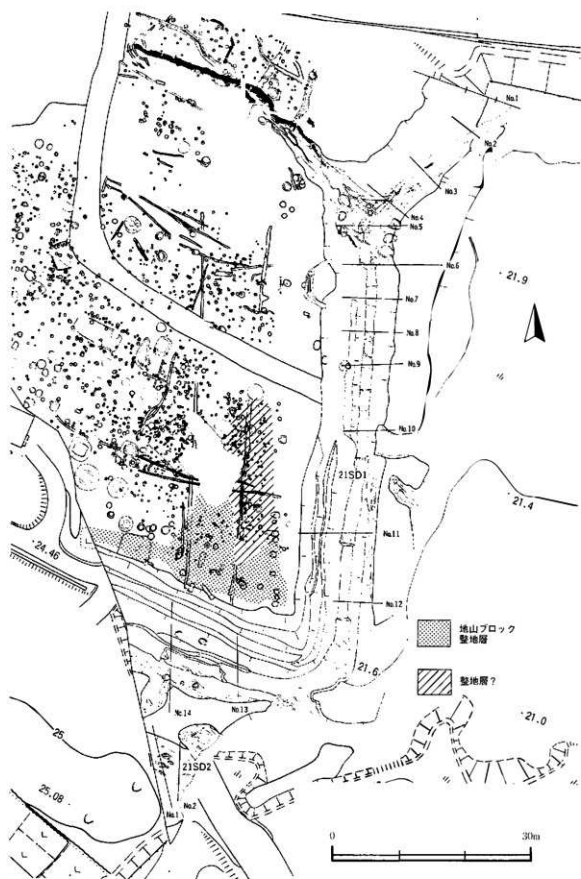
遺跡の西側に位置し、全長は約65mで西側に緩やかに膨らむ弓状を呈する。幅5～6m、深さ0.8～1.2mを測る。重複する全ての12世紀に属する遺構より本遺構は古い。堀の両端部は底面から急角度で立ち上がり、全長がこれ以上延びるとは考えられない。埋土は底面付近に僅かな自然堆積層がありここからは自然木が出土しているのみで土器・陶磁器等は無い。その上層には人為堆積層が厚くみられ一気に埋め戻されている。この遺構にはやや北寄りに幅が2mに満たない土橋（56SX16）が設けられている。

遺構に伴う遺物はない。しかしながら、他の12世紀の遺構との重複関係では何れも本遺構が古く、12世紀のある段階には機能を失い埋め戻された施設といえる。そうした意味からも12世紀の中でも古い段階に位置づけられる可能性を有し、その上限は12世紀に限らない。堀内部地区の西側を区画する堀跡と考えられる。

（2）溝跡

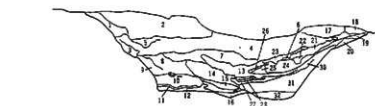
41SD1 52SD26・56SD20も同じ溝のことである。堀内部地区の西側に位置している。標高の高い北側から猫間が淵や堀の廻る南側へ蛇行しながら延びている。全長は約85m、上幅は1～4m、深さは0.2～1.1mを測る。標高の最も高いところ（66-53）から溝を掘り始めていることを断面観察から確認した。この溝はそれから低い方へ蛇行して流れ、最も西側に面した部分は「コ」字状の張り出しを持つように掘削されている。それからは南側へ向きを変え柳之御所を取り囲む堀跡（内側の堀）にまで達している。埋土は基本的に自然堆積である。流水や周辺からの土砂が流れ込み、時間をかけて徐々に埋没したものと考えられる。多量の遺物を含み、これらは全て12世紀以前の遺物であるが、その多くは奥州藤原氏が滅亡した直後の状況と解釈される。よって本遺構は1189年の奥州藤原氏滅亡時に開口していたことになり、柳之御所遺跡の最終段階の遺構とすることができる。埋土の状況からは排水目的の溝といえるが、その規模から堀内部地区をさらに区画する意味も有していた可能性もある

この溝から柳之御所を囲む堀跡に土砂を流し込む状況を観察した結果、堀よりも本遺構は新しく、堀は12世紀後半には埋まりかけていたことも判明した。



第74図 堀跡(1)

SE 22.000m 21SD1 ベルトNo.3北面土層断面 NW

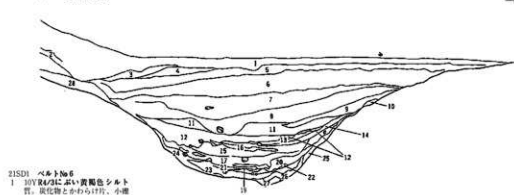


21SD1 ベルトNo.3

- 1 10YR4/3に多い黄褐色シルト質。炭化物、かわらけ片、小礫を含む。
- 2 10YR4/2黄褐色シルト質。炭化物、かわらけ片、小礫を含む。
- 3 10YR4/3に多い黄褐色シルト質がブロックで入る。炭化物、かわらけ片、酸化鉄、礫を含む。整地層。
- 4 2.5Y4/2黄褐色シルト質。炭化物、かわらけ片、酸化鉄を含む。
- 5 2.5Y4/2黄褐色シルト質。炭化物、かわらけ片、酸化鉄、礫を含む。
- 6 10YR4/2黄褐色シルト質。
- 7 10YR4/3に多い黄褐色シルト、ややかわらけ、酸化鉄、炭化物、多量のかわらけ片、礫を含む。21SD35の裡土。
- 8 10YR5/2黄褐色シルト。酸化鉄、炭化物、かわらけ片、礫を含む。12号坑の21SD1層土。
- 9 2.5Y4/2黄褐色シルトが主。10YR6/4に多い黄褐色シルトをわずかに含む。炭化物、かわらけ片、酸化鉄を含む。12号坑の21SD1層土。
- 10 2.5Y4/1黄褐色シルトが主、ややかわらけ。2.5Y3/2黄褐色シルトがわずかに入る。炭化物、かわらけ片、酸化鉄、礫を含む。12号坑の21SD1層土。
- 11 5Y4/4黄褐色シルト。12号坑の21SD1層土。
- 12 2.5Y4/1黄褐色粘土質土。炭化物、微量の酸化鉄を含む。
- 13 10YR4/2に多い黄褐色粘土質シルトが混在。炭化物、かわらけ片、酸化鉄を含む。
- 14 10YR4/4に多い黄褐色砂質土。かわらけ片と礫を多量に含む。
- 15 10YR3/2黄褐色粘土質土。微量の酸化鉄を含む。21SD34の裡土。
- 16 5Y4/1黄褐色砂質土。かわらけ片、礫を含む。
- 17 10YR4/2黄褐色シルトと2.5Y3/2黄褐色シルトが混在。酸化鉄を含む。整地層。
- 18 10YR4/2黄褐色シルトが主。2.5Y3/2黄褐色シルトを含む。酸化鉄、礫を含む。

- 19 10G4/1緑褐色砂質土。
- 20 10G4/1緑褐色粘土質シルト。
- 21 2.5Y4/2黄褐色シルトに2.5Y7/2黄褐色シルトが長いブロックで入る。整地、炭化物、かわらけ片、酸化鉄を含む。21SD35の裡土。
- 22 2.5Y4/2オリーブ褐色シルト。炭化物、かわらけ片、礫を含む。21SD35の裡土。
- 23 2.5Y4/2オリーブ褐色粘土質シルト。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が混在する。21SD35の裡土。
- 24 2.5Y6/2に多い黄褐色粘土質シルトが主。10YR4/3に多い黄褐色粘土質シルトが入る。酸化鉄が混在する。21SD35の裡土。
- 25 10YR4/2黄褐色粘土質シルト。炭化物、かわらけ片、礫混入。酸化鉄が混在する。
- 26 2.5Y4/1黄褐色粘土質シルト。酸化鉄が混在する。21SD35の裡土。
- 27 7.5Y4/1黄褐色粘土質シルト。酸化鉄が混在する。21SD35の裡土。
- 28 10YR5/4に多い黄褐色砂質シルト。21SD35の裡土。
- 29 5Y4/1黄褐色粘土質シルト。炭化物、かわらけ片を含む。21SD35の裡土。
- 30 2.5Y4/2黄褐色粘土質シルト。炭化物、かわらけ片を含む。21SD35の裡土。
- 31 10YR3/1黄褐色粘土質シルトが主。2.5Y7/2黄褐色粘土質シルトがブロックで入る。炭化物、かわらけ片を含む。21SD35の裡土。
- 32 2.5Y4/1黄褐色粘土質。炭化物、かわらけ片、礫、酸化鉄を含む。21SD35の裡土。

W 24.000m 21SD1 ベルトNo.6南面土層断面 E



21SD1 ベルトNo.6

- 1 10YR4/3に多い黄褐色シルト質。炭化物とかわらけ片、小礫(2-3mm)を含む。
- 2 10YR3/2黄褐色やや粗いシルト質。小礫を含む。
- 3 10YR5/2黄褐色粘土質シルト。炭化物を含む。酸化鉄が認められる。
- 4 10YR5/2に多い黄褐色シルト質土。5Y6/4に多い黄褐色シルト質土がブロックで入る。炭化物、かわらけ片、小礫をわずかに含む。酸化鉄が認められる。
- 5 10YR4/3の黄褐色シルト質。炭化物、かわらけ片、小礫を含む。酸化鉄が認められる。
- 6 10YR5/4に多い黄褐色と2.5YR/1の黄褐色土の最上。整地層である。
- 7 10YR5/3に多い黄褐色やや粗いシルト。炭化物、かわらけ片をわずかに含む。中央部やや西側に礫の混在が見られる。
- 8 10YR4/3に多い黄褐色やや粗いシルト。炭化物、かわらけ片をわずかに含む。
- 9 10YR5/3に多い黄褐色シルト質土。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が見られる。
- 10 2.5Y7/4黄褐色土層に10YR6/3に多い黄褐色がわずかに混入する。シルト質粘土。酸化鉄が見られる。
- 11 10YR5/2黄褐色シルト質土。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が認められる。
- 12 2.5Y4/2黄褐色シルト層土に2.5Y6/4に多い黄褐色(粘土質)がブロック状に入る。炭化物、かわらけ片を少量程度含む。酸化鉄が見られる。
- 13 酸化鉄層
- 14 10YR4/2黄褐色粘土質土。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が見られる。
- 15 10YR4/1黄褐色粘土質土。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が見られる。
- 16 10YR4/2黄褐色シルト。炭化物、かわらけ片を含む。
- 17 10YR4/1黄褐色粘土質土。炭化物、かわらけ片、礫を含む。酸化鉄が見られる。
- 18 10YR4/1黄褐色土に7.5Y6/1緑褐色がブロックで入る粘土質シルト。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が見られる。
- 19 酸化鉄層
- 20 10YR3/1黄褐色土に7.5Y6/1緑褐色がブロックで入る粘土質シルト。炭化物、かわらけ片を含む。酸化鉄が見られる。

- 21 10YR4/1黄褐色粘土質土。酸化鉄が認められる。
- 22 10YR4/3に多い黄褐色に5Gシオリア質粘土質土がブロックで入る砂質土。炭化物を含む。
- 23 10YR3/1黄褐色に5G6/1緑褐色がブロックで入る粘土質土。炭化物、かわらけ片、礫を含む。酸化鉄が見られる。
- 24 7.5Y9/1緑褐色粘土質土、砂、酸化鉄が認められる。
- 25 2.4Y7/4黄褐色土層に10YR5/2黄褐色をわずかに入る粘土質シルト。炭化物を含む。酸化鉄が認められる。
- 26 2.5Y4/1黄褐色土に7.5Y6/1緑褐色がブロックで入る粘土質シルト。炭化物を含む。酸化鉄が見られる。
- 27 2.5Y7/2黄褐色粘土質土が主層。10YR5/3に多い黄褐色シルトが20%混入。酸化鉄若干見られる。

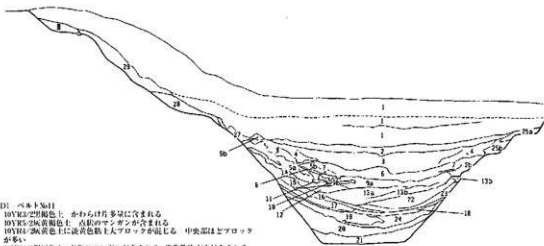
0 2m

第75図 堀跡 (2)

W
— 24.700m

21D1 ベルトNo.11南面土層断面

E
—



21SD1 ベルトNo.11

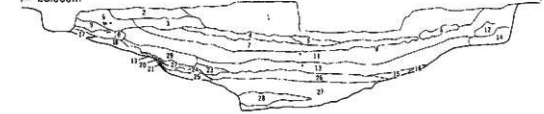
- 1 10YR2-2黒褐色土 かわらけ片多量に含まれる
- 2 10YR2-2黒褐色土 点状のマンガンが含まれる
- 3 10YR1-2黄褐色土に淡黄色粘土ブロックが混じる 中央部はヒエロックが多い
- 4 10YR4-1黒褐色土 点状のマンガンが含まれる 炭化植物が少量含まれる
- 5a 2.5Y6-4淡黄色粘土ブロックが集合した層 一部に砂が混じる 砂管炭化が見られる
- 5b 2.5Y6-4淡黄色粘土 一部に砂が混じる 砂管炭化が見られる
- 6 10YR3-1黒褐色土 粘り 砂が混じる
- 7 10YR4-1黒褐色土 粘りより土質硬さが少ない 砂管炭化が見られる
- 8 10YR3-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 点状 炭化の炭化が見られる
- 9a 10YR2-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 下部に粘土が卓越する 本頁 炭化植物が含まれる
- 9b 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 本頁 炭化植物が含まれる
- 10 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる
- 11 10YR4-1黒褐色土に細粒のクマシムンが含まれる
- 12 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 厚さ1cmの粘土ブロックや黄色土ブロックが混じる 本頁が含まれる
- 13a 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13b 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13c 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13d 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13e 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13f 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13g 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13h 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13i 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13j 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13k 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13l 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13m 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13n 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13o 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13p 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13q 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13r 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13s 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13t 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13u 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13v 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13w 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13x 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13y 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 13z 10YR4-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる

- 19 10YR3-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 20 10YR3-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 21 5Y7-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 22 2.5Y6-4淡黄色粘土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 23 5Y7-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 24 10YR3-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 25 10YR3-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 26 5Y7-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 27 5Y7-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる
- 28 5Y7-1黒褐色土 粘り少すブロックが混じる 粘り少すブロックが混じる

N
— 23.000m

21D1 ベルトNo.14南面土層断面

S
—



21SD1 ベルトNo.14

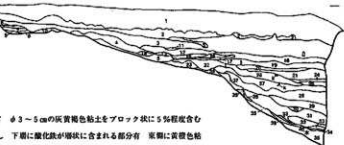
- 1 10YR2-2黒褐色土 非常に粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 2 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 3 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 4 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 5 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 6 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 7 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 8 7層上層の粘り
- 9 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 10 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 11 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 12 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 13 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 14 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 15 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 16 10YR2-2黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む

- 17 2.5Y7-4淡黄色粘土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 18 2.5Y6-4淡黄色粘土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 19 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 20 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 21 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 22 5Y7-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 23 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 24 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 25 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 26 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 27 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 28 2.5Y7-4淡黄色粘土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む
- 29 10YR3-1黒褐色土 粘り 炭化植物、かわらけ片を多量に含む

第76図 堀跡(3)

56SD38 (41SD2)

A — 24.0m — B



56SD38(41SD2)

1 2.5YR7/2黄褐色粘土 粘り強 粘性やや有 ϕ 3~5cmの黄褐色粘土をブロック状に5%程度含む

2 10YR4/2黄褐色砂質粘土 粘り有 粘性なし 下層に酸化鉄が凝状に含まれる部分有 重層に黄褐色粘土ブロックを散在含む

3 10YR4/2に多い黄褐色砂質土 粘りやや有 粘性なし かわらけ片を少量 炭化物を微量含む

4 10YR4/4褐色砂質土 粘り有 粘性なし 礫・かわらけ片を少量含む

5 10YR3/2黄褐色砂質土 粘りやや有 粘性やや有 炭化物を少量含む かわらけ片を少量含む 礫を多

6 10YR3/2黄褐色砂質土 粘り強 粘性なし 炭化物・かわらけ片を少量含む

7 10YR5/6黄褐色砂質土 粘り強 粘性なし

8 10YR4/4褐色砂質土 粘り強 粘性なし かわらけ片が微量入る

9 10YR4/4褐色砂質土 粘り強 粘性やや有 かわらけ片1口有

10 10YR4/4褐色砂質土 粘り強 粘性あまりなし 明黄褐色砂質土ブロックを微量含む かわらけ片1口

11 10YR4/4褐色砂 粘りやや有 粘性なし

12 10YR3/4暗褐色砂質土 粘り有 粘性やや有 かわらけ片少量含む 炭化物微量含む

13 2.5YR2/6赤褐色砂質粘土 粘りやや有 粘性やや有 かわらけ片少量含む

14 10YR4/4褐色砂質土 粘り有 粘性やや有 かわらけ片を少量含む

15 2.5Y7/3黄褐色砂質土 粘り有 粘性やや有 かわらけ片をやや多く含む 礫を少量含む 炭化物を微

量含む

16 10YR3/2暗褐色砂質粘土 粘り強 粘性やや有 礫・かわらけ少量 炭化物を

やや多く含む

17 2.5Y4/2暗黄褐色 粘りあまりなし 粘性なし 炭化物を少量含む 黄褐色

粘土ブロックを微量含む

18 10YR4/4褐色砂質粘土 粘り有 粘性有 かわらけ片を少量含む 炭化物を微

量含む 明黄褐色粘土ブロックを散在含む

19 10YR4/4褐色砂質土 粘りあまりなし 粘性ほとんどなし 炭化物・かわらけ

片微量 黄褐色粘土ブロックを少量含む

20 2.5Y4/8オリーブ褐色砂質粘土と2.5YR3/2オリーブ褐色砂質粘土の混合層 粘

りやや有 粘性やや有 かわらけ片・炭化物を微量含む

21 2.5Y7/1黄灰砂 粘りあまりなし 粘性なし 黄褐色粘土粒子 (ϕ 3mm)・

炭化物 かわらけ片を微量含む 赤成層の構成あり

22 2.5Y7/2黄灰色粘土 粘り強 粘性強 炭化物を微量含む

23 2.5Y4/8オリーブ褐色砂質粘土 粘り強 粘性やや有 明黄褐色粘土ブロック

を微量含む

24 2.5Y4/2暗オリーブ灰色砂 粘り弱 粘性あまりなし 炭化物をごく微量含む

25 2.5Y4/2暗オリーブ灰色砂 粘り弱 粘性あまりなし

26 2.5YR3/1黄褐色シルト質土と7.5GY3/1暗緑灰色砂の混合層 粘り弱 粘性やや

有 かわらけ片を微量含む 炭化物を微量含む礫を少量含む

27 10YR3/3暗褐色砂質粘土 粘りやや有 粘性強 炭化物ブロックをわずかに含

む 炭化物粒を少量含む 黄褐色土粒子を若干含む

28 2.5Y4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 粘り有 粘性強 炭化物粒子を多く

含む かわらけ片を少量含む 本層は礫多し

29 10YR2/2黄褐色シルト質粘土 粘りやや有 粘性強 炭化物粒をやや多く含む

水孔が少量含まれる

30 10YR2/2黄褐色砂質土 粘り弱 粘性やや有

31 5GY4/1暗オリーブ灰色砂質粘土 粘り弱 粘性やや有

32 2.5YR3/1黄褐色シルト質土 粘り強 粘性有 炭化物粒を微量含む

33 5G6/1緑灰色シルト粘土 粘り弱 粘性強

34 2.5Y2/1黄褐色シルト質粘土 粘りやや有 粘性強

35 2.5GY4/1暗オリーブ灰色 砂質シルト質粘土 粘りやや有 粘性強

36 10YR4/4褐色砂 粘り有 粘性やや有

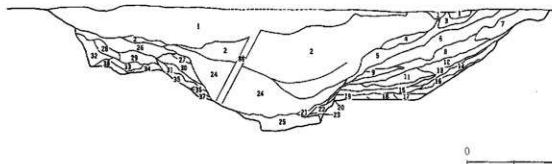
37 10YR4/3に多い黄褐色粘土 粘り強 粘性強

38 7.5GY3/1暗緑灰色粘土 粘り強 粘性有

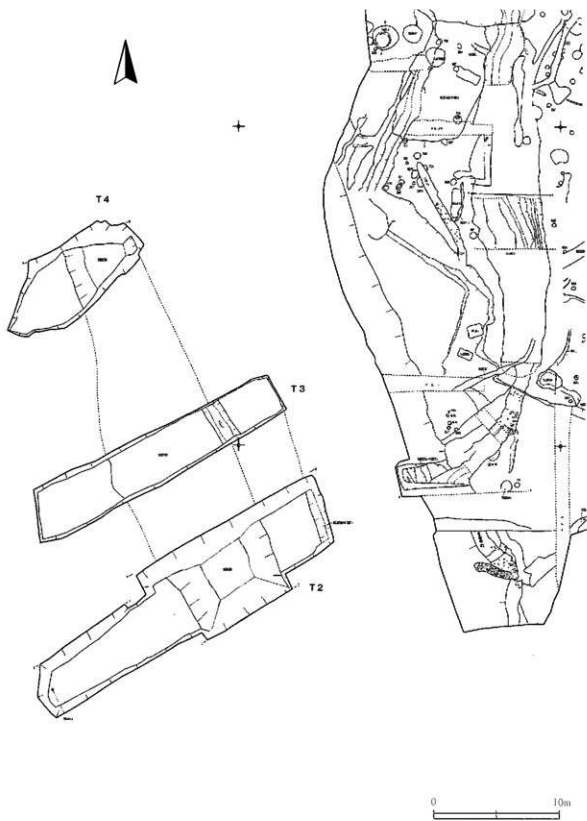
39 2.5GY3/1暗オリーブ灰色砂 粘りなし 粘性なし

S
T 23500m

21 SD2 ベルトNo.1東面土層断面

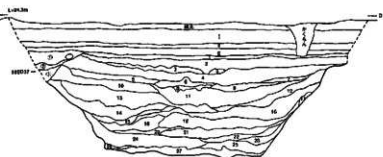
N
1

第77図 堀跡(4)



第78図 堀跡 (5)

56T2SD39

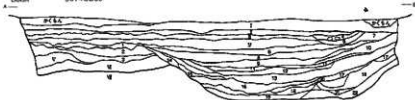


56T 2SD39 形 (南面)

- ① 10YR4/2灰黄褐色土 炭粒やかわかけ片を多量に含む 粘性やや有 締っている
- ② 2.5Y3/2黄褐色土 鉄分含む 粘性有 締り弱
- ③ 10YR2/2黄褐色土 粘性やや有 締り弱
- ④ 10YR2/2黄褐色土 粘性やや有 (耕作土)
- ⑤ 10YR6/6明黄褐色土 硬土 粘性やや有 (締り弱)
- ⑥ 10YR2/2黄褐色土 粘性やや有 締りやや有
- ⑦ 10YR2/2黄褐色土 鉄分少量含む 粘性有 締りやや有
- ⑧ 10YR4/3い黄褐色土 鉄分ごく微量含む 粘性やや有 締っている
- ⑨ 10YR6/6明黄褐色土ブロック主体 その周囲に黄褐色土ごく微量 粘性やや有 締りやや有
- ⑩ 10YR5/3い黄褐色粘土 粘性有 締りやや有 (鉄分微量含む)
- ⑪ 10YR4/2灰黄褐色土 鉄分ごく微量含む 粘性やや有 締りやや有
- ⑫ 10YR4/2灰黄褐色土 鉄分含む 粘性やや有 締りやや有
- ⑬ 2.5Y3/2黄褐色土 鉄分含む 粘性有 締りやや有
- ⑭ 2.5Y7/3灰黄色砂 鉄分微量含む 粘性なし 締りやや有
- ⑮ 10YR4/2灰黄褐色泥質土 砂との互層を成す 粘性やや有 締りやや有
- ⑯ 10YR5/2い黄褐色粘質土 粘性やや有 締りやや有
- ⑰ 10YR4/2灰黄褐色泥質土 にい黄褐色砂との混合 粘性やや有 締っている

- ⑱ 10YR5/2灰黄褐色砂 部分的に泥質土を含む 粘性なし 締りやや有
- ⑳ 2.5Y3/1黄褐色土とに黄褐色粘土との互層 粘性やや有 締りやや有
- ㉑ 7.5Y3/1オリーブ褐色泥 部分的に緑褐色土含む 粘性やや有 締り弱
- ㉒ 10Y3/2オリーブ褐色泥 泥との互層を成す 粘性有 締っている
- ㉓ 10YR2/2黄褐色土 砂との互層を成す 18-19層との間に小石片や木皮等が比較している 粘性やや有 締り弱
- ㉔ 10YR6/3い黄褐色土 地山ブロック多量に含む 粘性やや有 締りやや有
- ㉕ 10YR2/2黄褐色土 鉄分少量含む 粘性有 締っている
- ㉖ 2.5Y4/2黄褐色泥 砂と互層を成す 黄褐色粘土 粘性やや有 締りやや有
- ㉗ 10Y3/2オリーブ褐色砂 黄褐色泥質土含む 粘性無 締っている
- ㉘ 2.5Y4/2黄褐色泥 砂との混合 鉄分を少量含む 粘性やや有 締りやや有
- ㉙ 2.5Y4/1灰色砂 粘性弱 締りやや有
- ㉚ 10Y3/2オリーブ褐色粘土 粘性やや有 締りやや有
- ㉛ 7.5Y3/5オリーブ褐色粘質土 粘りやや有
- ㉜ 2.5Y4/1灰色土ブロック主体 その周囲に灰黄褐色土少量入る 粘性やや有 締りやや有
- ㉝ 2.5Y3/2黄褐色泥 粘性有 締りやや有
- ㉞ 2.5Y4/1黄褐色土 粘性やや有 締りやや有 (締りすぎか)

56T4SD39



56T 4SD39

(基準土層)

- ① かくらん 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 地山ブロック少量混入 粘性やや有 締りやや有
- ② 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 酸化鉄有 粘性やや有 締りやや有
- ③ 10YR4/6褐色土 水田土 粘性弱 締っている
- ④ 10YR2/2褐色土 酸化鉄有 粘性やや有 締りやや有
- ⑤ 10YR4/3い黄褐色土 地山ブロック少量をごく微量含む 粘性やや有 締っている
- ⑥ 10YR2/2黄褐色土 粘性やや有 締っている (地山)
- ⑦ 2.5Y7/4灰黄色砂 砂と5-10cmの層からなる 粘性なし 締っている
- ⑧ 2.5Y7/3灰黄色砂 粘性やや有 締り弱

T4 (地盤部分)

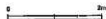
- ① 10YR5/8黄褐色土 明褐色土ブロック少量含む 粘性やや有 締っている
- ② 2.5Y7/3灰黄色砂質土 明褐色土と黄褐色土ブロックと混入する 粘性やや有 締っている
- ③ 2.5Y8/3黄褐色土 明褐色土と小礫との混入土 粘性有 締っている

T4 (6SD27)

- ① 2.5Y3/1黄褐色土 径20cm前後の河原石を含む 粘性やや有 締りやや有
- ② 10YR4/4褐色土 小礫ごく微量含む 粘性弱 締りやや有

T4 (6SD39)

- ① 10YR6/2灰黄褐色土 酸化鉄多量に見られる 小礫ごく微量含む 粘性やや有 締っている
- ② 2.5Y3/2黄褐色土 小礫少量含む 粘性やや有 締りやや有
- ③ 10YR4/2橙色土 酸化鉄有 粘性有 締りやや有
- ④ 2.5Y4/1暗オリーブ褐色土 酸化鉄有 粘性有 締りやや有 (沈殿層)
- ⑤ 5Y4/1暗オリーブ褐色土 地山ブロック多量含む 粘性やや有 締っている
- ⑥ 7.5Y3/2オリーブ褐色泥 粘性強 締りやや有 (沈殿)
- ⑦ 5Y3/1オリーブ褐色泥 粘性強 締りやや有 (沈殿)
- ⑧ 10YR2/2黄褐色土 炭粒を大量 かわかけ樹皮を少量含む 粘性やや有 締りやや有 (L&Sか) (木灰)
- ⑨ 2.5Y3/3黄褐色土 硬質土か 粘性やや有 締りやや有
- ⑩ 10YR4/2黄褐色土 粘性弱 締り弱
- ⑪ 5Y4/1灰色泥 水が入る 粘性やや有 締っている
- ⑫ 7.5Y5/1灰色砂質土 粘性やや有 締りやや有
- ⑬ 5Y4/1灰色泥 地山ブロック少量含む 粘性強 締り弱 (沈殿)
- ⑭ 2.5Y4/1暗オリーブ褐色泥 水を含む 粘性やや有 締り弱 (沈殿)
- ⑮ 7.5Y3/1緑褐色砂 粘性やや有 締り弱 (流石込か)
- ⑯ 2.5Y4/1黄褐色土 粘性有 締り弱
- ⑰ 5Y3黄オリーブ砂質土 灰土との混入土 水質物を含む 粘性やや有 締り弱



第79図 堀跡 (6)

(5) 井戸

これまでの調査で57基の井戸が確認されている。分布は堀内部地区のほぼ中央及びその南西側、中心建物群と園池の周辺からまわって検出されている。他に遺跡北東部、北西部、南部からも少ないが検出されている。検出されていない地区としては遺跡北部と東部がある。本遺跡での形態を見ると、井戸枠を持つものと素掘りのものとに大別されるが前者は2基しか検出されておらず少ない。主体は素掘りの井戸である。中には井戸なのか、その他の施設なのか判断に迷うものもあった。以前の報告では遺構略号がSKとなっていたものの中で実際は井戸状の遺構であると記載していたものも今回は含めている。出土遺物には遺跡の性格、時期的な変遷などを推察する上で良好な資料が多くあり、ここではそうした例を中心に、構造や井戸の機能などに特徴的なものについても概説したい。検出された井戸については一覧表にまとめた。(第80～84図)

21S E 2 平面形は検出面ではほぼ円形、底部は楕円形をしている。検出面から1.10mほどの深さの所に井戸枠の方形に組まれた横桟が残っていた。そこから、底面まではほぼ円筒形である。底面に近づくにつれ、いくらかは狭まり、深さは5.47mを測る。

28S E 2 平面形は検出面では不整形で、途中から整った隅丸長方形になり底面に至る。上部は円筒形で途中から底面までは隅丸四角柱を呈し深さは3.96mを測る。埋土上部は短時間に一気に埋められたと推測できる人為堆積層、下部は比較的長い時間をかけて土や遺物を入れられて形成された層と考えられる。

竪造の対の層と考えられる絵が描かれた折敷が6層から出土した。同じ層からは、年輪年代測定によると1130年、1141年の年輪を持つ折敷が検出され、多量のかわけなど共に一括廃棄された状況を呈する。

28S E 3 28S B 1西端の北西約6mに位置する。中心建物群の北部にあたる。平面形は検出面では隅丸方形で、底面もほぼ同じ形をしている。深さは2.42mを測る。埋土は基本的に入為堆積であるが、その中層に焼けた土製の破片を多量に含む人為堆積層があり、かわらけの完形品も20点ほど含まれていた。最下層の粘土層には折敷や完形のかわけが十数点ほど含まれていた。年輪年代1175年の折敷が出土しているほか木製小室塔も出土した。

28S E 4 28S B 5の東辺を切る。検出面での平面形は隅丸方形、底面はほぼ方形で深さは4.55mを測る。埋土下部の12世紀の人為堆積層からはかわらけや木製品が大量に出土している。この中に裏面に人の顔が描かれた手づくねかわらけがある。墨を用い、筆で描かれている。また、年輪年代1124年の折敷も出土している。

28S E 11 28S B 8と空間的には重なる位置にある。検出面での平面形は不整形円形、底面は隅丸方形を呈し深さは4.37mである。開口部から深さ1.2m程のところまでは人為堆積と自然堆積との互層で、その下部から底面までは黒褐色粘土が主体の人為堆積層(15層)。ここから馬の轡や折敷(1179年伐採のものあり)、かわらけ、焼土壘他が出土している。年輪年代1179年と測定された折敷の出土状況から、この遺構はその年以降に埋められたと推測でき、12世紀第4四半期に埋められた遺構とみることができると推測できる。

28S E 16 園池23S G 1北辺中央の北約7mにある。検出面での平面形は隅丸方形、底面はほぼ方形で深さは3.22mである。埋土は、最上部1層以外は人為堆積である。遺物は3～5層から多く出土した。かわらけ、

呪符、折敷、糸巻、物差、箸、陶磁器などである。3層の標高24.45mあたりの遺構中央から3枚の花びらが開いたような格好で3枚の折敷が出土した。「人々給綱日記」と記されたものはその中の1点である。年輪年代1158年の折敷も出土している。機織りに関連する木製品が多く出土した。

31SE1 79-82グリッドに位置している。検出面での平面形はほぼ方形、底面も方形である。底面は平坦で深さは6.15mを測る。埋土は最上部が自然堆積、その下には短時間のうちにできた人為堆積、その下に比較的長時間のうちに廃棄されてきたとれる層がある。遺物を見ると、かわらけが極端に少なく1点のみ図化できた。大甕、何らかの部材などが出土している。

31SE2 園池23SG1の西側、69-74グリッドに位置している。検出面での平面形は隅丸方形、底面もほぼ同じ形で深さは3.65mを測る。底面には灰白色粘土がほぼ水平に敷かれ、その上面はほぼ中央部に松鶴鏡が置かれていた。この鏡を覆う埋土にはウリ科種子も含まれていた。その上の埋土（9層）がこの遺構埋土の大部分を占め、手づくねかわらけが入る。その中には建築部材が多量に廃棄されていた。その上部層（7層以上）をみると短期間のうちに一気に埋められた土で構成されている。

37SE2（50次調査で精査）かわらけ、部材などが出土している。検出面で井戸本体の外周を環状に囲むように粘土が貼られていた（厚さは4-16cm）。しかしながら、この用途、意味は現在のところ判断し兼ねる。

50SE3 素掘りの井戸である。埋土には人的に一時に埋められた層とやや時間差をもって人為と自然とが生じて生成された層とからなる。銅製印章、漆布のついた白磁四耳壺が出土。

52SE8 下部でやや膨らむ断面形を呈する素掘りの井戸である。埋土は各層共に人為的な遺物を多く含み人為を介在しながら徐々に堆積したと考えられる。埋土下位（9層）から出土した折敷の年輪年代は1186年伐採との結果であった。かわらけの形態も12世紀第4四半期の特徴を有し、柳之御所遺跡が機能していた最終段階に位置づけられる遺構である。

52SE10 深さ2.3m程で割合に浅い。下部の8層は一気に埋めた土と考えられる。9層は炭化物が多く混じる層で箸が一本出土した。5層からはかわらけが多量に出土し、これらは12世紀第1四半期に位置づけられる。

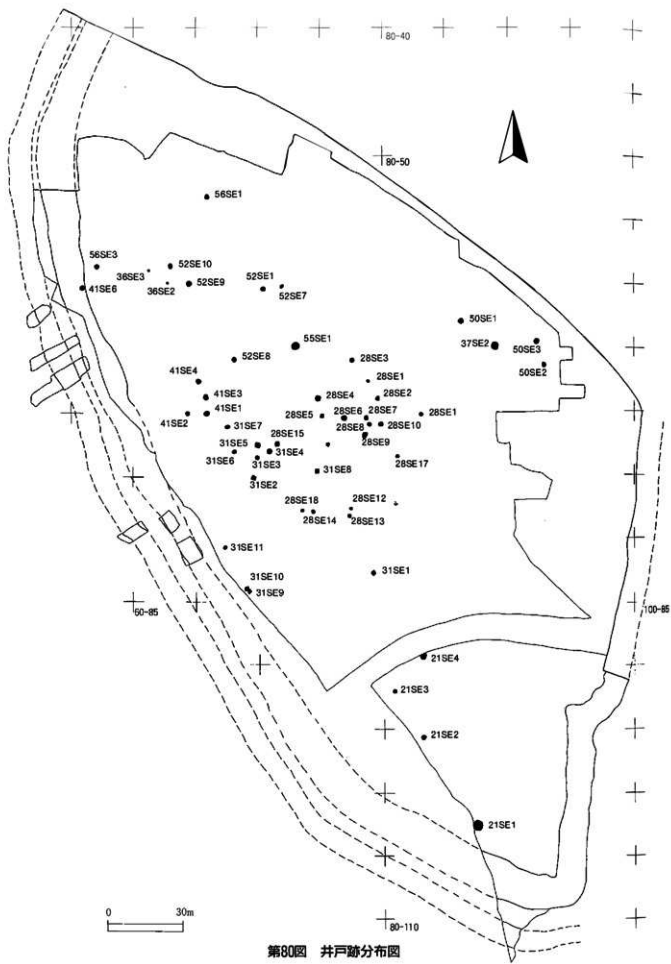
55SE1 井戸枠を持つ井戸である。井戸枠は検出面から1.7mより上に存在し、その下は素堀である。深さは8.5mを測り、堀内部地区では最深である。枠の板材は抜き取られたと推測される。12世紀前半のかわらけが埋土の上部から出土している。

遺蹟名	位置	時期	規模 (m)			周囲高 (m)	特 徴
			長さ	幅	深さ		
21SE1	87-102	12C後半代	3.14	2.90	4.72	29.21	かわらけ、土間片、刀子、弓はさみ、漆器類、陶器が出土。
21SE2	85-85	12C後半代	2.60	1.94	5.47	29.29	本紐芥子と考えられるかわらけ、陶器片、瓦鏡片、銅管、銅鏡片、蓮下駄、貝片など、漆器が出土。ウリ科種子も複数出土。
21SE3	80-92	12C後半代	1.52	1.98	3.78	31.16	弓矢のものをふくめ多量のかわらけが出土。銅鏡破片、箸、各種木製品、陶器片が出土。ウリ科の種子も複数出土。
21SE4	82-80	12C後半代	2.44				丹が新一部と推測される材が残っていた。かわらけ、陶器片、瓦片、ウリ科種子が複数出土。
21SK21	94-114	12C後半代に埋められたと推測	3.00	2.96	2.00	21.18	構造は舟状造形の竈に入る。かわらけ片が比較的多く11/2以上の破片は4点、全重量は31,508gに入る。埋土下部から遺物2点、加工刺1点が出土。
21SK23	87-101	12C後半代に埋められたと推測	3.22	3.22	2.64	22.71	構造は舟状造形の竈に入る。かわらけ片が比較的多く11/2以上の破片は5点、破片全重量は5,220gに入る。埋土下部から陶器破片17点、埋土中層から木製品がいくらか出土。
28SE1	78-67	12C後半代	1.43	1.35	2.19	24.98	かわらけ、ウリ科の種子が多数出土。柳之御所跡内部の地区における最後の時期の遺構である可能性がある。
28SE2	79-68	12C後半代に埋められたと推測	1.90	1.35	3.96	23.03	かわらけ、銅の釘が出土した。120年と111年の年輪年代測定結果の併読。28SE2・28SE7の柱穴を切っている。
28SE3	77-65	12C第4四半期に埋められたと推測	1.60	1.55	2.42	24.94	かわらけ、瓦鏡片、軒平瓦、炭化した部材、下駄、木製小宝箱、焼けた土塊、1175年の年輪年代測定結果の併読。28SE3を切る。
28SE4	74-68	12C後半代に埋められたと推測	2.23	2.18	4.53	22.54	人頭形土かわらけを含む多量のかわらけ、1124年の年輪年代測定結果を含む銅鏡片、箸、赤巻き持本の一編、漆器破片、陶器破片が出土。ウリ科の種子も複数出土。
28SE5	75-78	12C後半代で内部一部が利用の跡と推測	1.51	1.46	3.67	22.80	かわらけ、焼けたものを含めた磁器片、自然削、ウリ科種子が出土。磁器片の数は、28SE16・28SK19と統合。
28SE9	70-70	12C後半代	2.27	2.40	5.29	23.40	ほとんど遺物を含まずかわらけと木製品が数点、箸が出土。28SE2を切る。
28SE7	78-78	12C後半代の浮杭と推測	1.72	1.40	2.51	21.41	28SE2と空間的に重なる舟状造形だが、建物より新しいと推測。遺物の出土は少なく、かわらけと陶器が数点出土。
28SE8	78-70	12C後半代の浮杭と推測	1.82	1.52	3.34	23.53	遺物は少なく、穿孔かわらけを含みすべてロクロかわらけが少量出土。
28SE9	78-71	12C後半代で内部一部が利用の跡と推測	2.38	1.95	4.32	22.29	かわらけ、陶器片、白磁片、瓦片、瓦鏡破片、漆器破片、木版が出土。28SE9は取壊の遺構を切る。
28SE10	79-70	12C後半代	1.82	1.82	1.88	24.96	遺物は非常に少ない。かわらけ、陶器片、白磁片、地壁土片が出土。
28SE11	82-78	12C第4四半期に埋められたと推測	1.80	1.76	4.37	21.99	かわらけ、新敷鏡片・刀の鞘を含む木製品、焼壁土片、陶器片が出土。1179年の年輪年代測定結果を持つ新敷が出土。
28SE12	77-77	12C後半代と推測	1.30	1.25	1.93	23.53	遺物はあまり多くない。かわらけ少量、赤巻き持本、箸などが出土。
28SE13	77-78	12C後半代に埋められたと推測	1.32	1.28	2.56	23.07	かわらけ、ウリ科種子が複数出土。
28SE14	74-77	12C後半代に埋められたと推測	1.76	1.44	3.61	21.58	遺物はあまり多くなく、刀子形木製品、ヘラ状木製品、かわらけなどが出土。埋土最上部から白磁四耳宍塚部破片が出土。
28SE15	71-72	12C後半代に埋められたと推測	1.92	1.84	1.95	21.37	多量のかわらけ片、木片、木炭片、鏡の種子、焼土塊、軒平瓦破片が出土。他に、金付首飾、磁器片、陶器片などが出土。
28SE16	75-72	1158年より後に埋められたと推測	1.68	1.48	3.22	23.31	かわらけ、鏡片、折笛、赤巻き持本、赤巻き持本、小刀の鞘と鏡、鏡毛の柄、漆器、陶器片、白磁片が出土。「人々編年記」と記された併読。1158年の年輪年代測定結果を持つ併読の辺部材がある。
28SE17	81-73	12C後半代に埋められたと推測	1.56	1.30	2.73	24.33	かわらけ、刀子、銅管、多量の瓦片が出土。
28SE18	73-77	12C後半代に埋められたと推測	1.21	1.18	2.87	22.71	人工遺物は非常に少なく、ロクロかわらけの1/2以上破片が2点出土。
31SE1	79-82	12C後半代に埋められたと推測	2.00	1.88	6.15	19.41	かわらけ、火鏡、部材など出土。
31SE2	69-74	12C後半代に埋められたと推測	2.04	1.93	3.65	22.25	かわらけ片、杉板鏡、ウリ科種子、建築部材が出土。
31SE3	69-73	12C後半代に埋められたと推測	1.70	1.64	2.12	23.96	かわらけ片、白磁片、鏡片、下駄、ウリ科種子が出土。31SE3より新しい31SE4に切られている。
31SE4	70-72	12C後半代に埋められたと推測	2.28	1.80	3.40	22.87	かわらけ、蓮下駄を含む木製品、鏡の下蓋部、ウリ科種子など出土。31SE3より古い31SE4に切られている。
31SE5	69-72	12C後半代に埋められたと推測	2.29	2.46	1.70	24.38	それほど遺物は多くない。かわらけ、白磁皿破片が数点。31SE3よりも古い31SE4に切られている。

柳之御所遺跡跡戸一覽表(1)

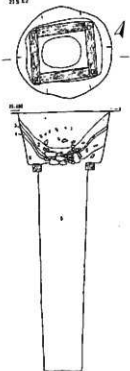
遺構番号	位置	時期	規模 (m)			基礎深高 (m)	特 徴
			長さ	幅	高さ		
31SE6	68-72	12C後半代に認められたと推測	1.80	1.76	3.33	22.62	もっとも多い遺物は焼土壁片であり、白壁破片も含まれる。他に、かわらけ、陶器片、磁器片、木製品、ウリ科種子も出土。
31SE7	67-71	12C後半代に認められたと推測	2.36	1.76	5.80	20.20	多量の焼土壁片、かわらけ、箸が出土した。他に、白壁破片、鉄管片、白磁片、漆塗り木片、種子片、ウリ・蕨・胡桃の種子などが出土。採けた遺物が比較的多い。
31SE8	74-74	12C後半代に認められたと推測	1.68	1.46	2.55	23.43	木製品、鉄管片、桃や胡桃の種子が比較的多く出土。他に、積木、かわらけ、柱状高台の台部が出土。
31SE9	69-84	12C後半代に認められたと推測	1.40	1.37	1.25	23.07	遺物は少なく、かわらけ破片がいくらか入っている。朱漆「開元通寶」、漆塗り瓦片が出土。
31SE10	69-83	12C後半代に認められたと推測	1.73	1.05	1.80	22.78	遺物は少ない。漆を塗る際の塗り器として使用されたと推測できるかわらけ出土。
31SE11	67-80	12C後半代に認められたと推測	1.64	1.56	1.52	22.92	かわらけ破片がいくらか含まれるだけである。
36SE2	62-59	12C後半代に認められたと推測	1.08	0.96	2.90	24.00	かわらけ片、陶器片、刀形破片、箸、角材、桃の種、ウリ科の種子が出土。
36SE3	61-58	12C後半代に認められたと推測	0.88	0.84	2.86	23.91	動物底灰、箸、刀子の柄、部材、木片、削りかすなどが出土。他に、桃の種、ウリ科種子の残粒、柱状高台の台部、フイゴ開口片が出土。
41SE1	65-69	12C後半代に認められたと推測	2.20	2.00	3.33	22.49	多量の角材、藁束、節を抜かれた竹、漆塗り瓦などが出土。
41SE2	64-70	12C後半代のものと考えられる	2.00	1.80	1.12	24.66	まったく含まれない。浅いので井戸とは考えられず。用途不明。
41SE3	65-68	12C後半代に認められたと推測	2.15	2.00	1.31	24.98	穿孔されたかわらけ、煮食した板、平瓦が出土。
41SE4	65-67	12C後半代に認められたと推測	2.00	1.88	3.10	23.40	破片、31SE1から出土したものと類似している部材が出土。
37SE2	68-64	12Cの前期と推測	3.55	2.95	2.23	23.75	かわらけ、部材などが出土。
50SE1	66-62		2.26	2.10	0.05	26.38	かわらけを多量に含む。
50SE2	62-66	12Cの遺構ではあるが期は不明	1.85	1.75	1.25	24.46	かわらけ、方形動物、加工材が出土。
50SE3	62-64	12Cの1期と推定	2.37	2.25	2.98	22.72	かわらけ、白磁器、墨書木片を含む木製品、白磁器耳環、「醫前村印」印章など出土。
52SE1	70-60	12C後半代と推測	2.05	1.82	3.00	24.15	かわらけ、厚底陶器片、白磁器耳環底部分、瓦、穿孔石、木製品などが出土。52SD1と重複するが52SE1が古い。また、52SD10からは、52SE1から出土した瓦と共通する瓦の大破片が出土した。よって両者は同時に開口した可能性が高い。
52SE7	71-60	12C後半代と推測	1.60	1.30	1.60	26.50	かわらけが多量に出土。他に、厚底陶器片、竹製の編物も出土。大型建物52S2B5の柱穴より古い。また、道路遺構の路室内に設置するので、同時存在ではない。
52SE8	68-65	12C第4期半期の可能性が高い	2.10	1.90	3.90	23.07	カモノ貝の殻片のある粘板瓦、大型磚、焼土壁片で構成される器、多量のかわらけや板材、部材が出土。その他、黄底陶器、中国産陶磁器、瓦など出土。1188年の享徳年代遼沈の結果を待つ折敷が出土。
52SE9	64-59	12C中期の遺構の可能性が高い	2.20	2.10	3.90	21.12	かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器、瓦、折敷・動物を含む木製品が出土。
52SE10	63-58	12C前期の遺構と推測	2.20	1.88	2.35	25.11	かわらけ、埴輪片、箸など出土。
55SE1	73-64	12C前半	3.15	2.60	8.45	18.95	井戸枠を持つが、枠板は取り除かれたと推測。かわらけの出土量は22.410gである。他に、国産陶器片、漆器片、墨書木片・簡・箸の骨・箸などを含む木製品が出土。
55SE38	74-54	12C	2.00	1.85	2.40	25.07	井戸状遺構にすべきであるが調査時の名称のままである。かわらけ片、国産陶器片、平瓦が出土。
55SE43	80-54	12C	1.60	1.25	2.65	24.75	井戸状遺構にすべきであるが調査時の名称のままである。方形かわらけを含むかわらけ破片、中国産陶器片、折敷、墨書片が出土。
55SE44	80-53	12C	1.80	1.70	3.15	24.20	井戸状遺構にすべきであるが調査時の名称のままである。方形かわらけ削り重なって多量に混入、焼けた壁土量混入、国産陶器片、中国産陶器片が出土。
56SE1	66-53	12C	1.95	1.85	2.40	25.30	井戸状遺構の中では出土量は少なく、かわらけ、国産陶器片、白磁片、木製品が出土。56SD19より古い。
56SE3	57-58	13C	1.98	1.85		2.6°で中斷	現代まで残っていた木構によって上部は掘削されている。かわらけ破片、石製鉢が出土。
56SK30	56-50	12C	1.20	1.20	1.65	26.56	動物骨を削り込んで構築されている。煤土の性質から井戸遺構。かわらけの全出土量は3,700g、厚底陶器2点、鉄製品、壁土が出土。

柳之御所遺跡井戸一覧表(2)



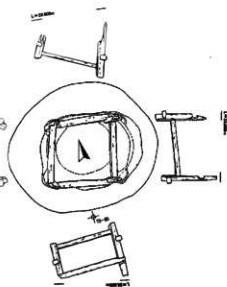
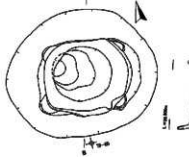
第80図 井戸跡分布図

55SE2



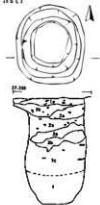
- 55SE2
 1 黒褐色シルト、炭化物、かわらけ片、焼土粒、礫石。
 2 黒褐色粘土質シルト、炭化物、焼土粒合。
 3 灰褐色シルト、炭化物合。
 4 黒色シルト、炭化物合。
 5 にんい黄褐色シルト。
 6 灰褐色粘土質シルト、炭化物合。

55SE1



- 55SE1
 1 10YR2/3黒褐色土 礫多量混入 固形陶器片を含む
 2 10YR2/3灰褐色砂 かわらけ細片多量混入
 3a 10YR4/2灰褐色土 炭化物混、かわらけ細片多量混入 大層のかわらけ片もある
 3b 10YR2/1黒褐色土 かわらけ (ほぼ完形) を含む
 4a 10YR2/3黒褐色土 かわらけ (ほぼ完形) を含む
 4b 10Y7/2オリーブ黒色土 かわらけ (ほぼ完形) を含む 木屑を多量含む
 5 10YR4/2灰褐色土 10YR7/8黄褐色ローム腐状に少量混入する
 6 10YR7/8黄褐色ローム 10YR4/2灰褐色土腐状に多量混入
 7 2.5YR4/4黄褐色ローム 10YR7/2にんい黄褐色ロームに多量混入
 8 10YR7/8黄褐色ローム 10YR4/1黒灰色土ブロック状に少量混入
 9 7.5GY7/1明緑灰色土 10YR1.7/1黒色土ブロック状に混入 5GY6/1オリーブ灰色土も少量混入 礫、木屑を含む
 10 2.5Y7/8黄褐色ローム 10YR5/1黒灰色土ブロック状に少量混入
 11 5GY6/1オリーブ灰色ローム 10YR1.7/1黒色土少量混入
 12 5GY7/1明緑灰色ローム 10GY2/1黒緑灰色土腐状に混入
 13 5GY2/1黄褐色土 有機質少量混入 木屑多量混入
 14 5GY7/1明緑灰色ローム 有機質少量混入 礫、かわらけ片含む
 15 N3/2暗灰色土 5GY7/1明緑灰色ローム腐状に混入 木屑、木屑多量に混入
 16 10GY7/1明緑灰色土 N3/2暗灰色土も少量混入 木屑、木屑をほとんど含まない
 17 N3/2暗灰色土 10GY7/1明緑灰色ローム腐降りに少量混入 木屑多量を含む
 18 5Y7/6黄褐色ローム N3/2暗灰色土も少量混入 木屑、木屑を含む 骨片碎屑を含む
 19 7.5GYR/1明緑灰色ローム 砂っぽい部分もある 礫混入 部分的にN3/2暗灰色土をブロック状に含む 木屑をごく稀に含む 底部は礫層で酸化鉄分が沈降して変色を呈す

28SE3

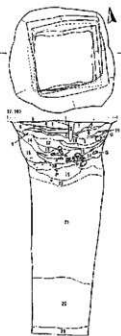


- 28SE3
 1a 10YR2/3黒褐色砂混じりシルト、かわらけ細片合、礫多量。(A為堆積)
 1b 10YR2/3黒褐色砂混じりシルト、10YR5/8明褐色砂約2%合、礫多量。(A為堆積)
 2a 10YR4/6褐色粘土主体、10YR6/0明褐色粘土ブロック約2%合、かわらけ細片合、炭化物約2%。(A為堆積)
 2b 10YR5/3にんい黄褐色砂主体、かわらけ細片合。(A為堆積)
 3 10YR3/2黒褐色シルト、炭化物約7%。径5cm前後の硬盤土塊を多量含む。(A為堆積)
 3a 10YR3/2黒褐色シルト、3a層に腐蝕、3a層に比べ硬盤土塊の混入が多い。(A為堆積)
 3c 10YR3/2黒褐色シルト、3a層に腐蝕、硬盤土塊は多いが、3a層に比較し炭化物混入の割合が多い。大量の米根片、かわらけ片が埋められている。(A為堆積)
 4 緑褐色粘土、炭化材多数混入、人頭大の歪円礫 (熱を受けている) を含む。※3-4層は腐蝕層で構成された層か。

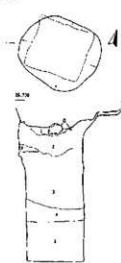
0 2m

第81図 井戸跡(1)

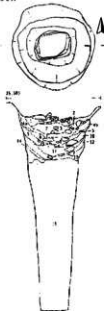
285E4



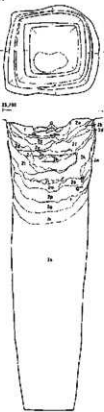
285E18



285E11



285E17



285E19

- 1 10YR3/2黄褐色釉張りシルト。かわらけ顔片少々
- 2 10YR3/2黄褐色シルト。かわらけ顔片。炭化物約2%
- 3 10YR3/2黄褐色シルト。顔料多量。かわらけ顔片
- 4 10YR3/2黄褐色シルト。かわらけ顔片。炭化物約2%
- 5 10YR3/2黄褐色シルト。顔料。炭化物約2%
- 6 10YR2/2黄褐色。炭化物約2%
- 7 10YR3/2黄褐色。炭化物約2%
- 8 10YR3/2黄褐色。炭化物約2%
- 9 10YR3/2黄褐色シルトが1。2.5Y7/4明黄褐色土ブロック約7%含。炭化物約2%。かわらけ顔片
- 10 10YR3/2黄褐色釉張りシルト。炭化物約2%
- 11 10YR3/2黄褐色釉張りシルト
- 12 10YR3/2黄褐色釉張りシルトが1。2.5Y7/4明黄褐色土ブロック約15% (人為添加)
- 13 10YR3/2黄褐色釉張りシルトが1。2.5Y7/4明黄褐色土ブロック約20% (人為添加)
- 14 10YR3/2黄褐色土。炭化物約2%
- 15 10YR7/4明黄褐色土ブロック。壁の断面片
- 16 10YR3/2黄褐色土
- 17 10YR3/2黄褐色土が1。10YR3/8黄褐色土ブロック約2%。炭化物約2%
- 18 10YR3/2黄褐色土が1。2.5YR/4黄褐色土ブロック約2%。炭化物約2%
- 19 10YR3/2黄褐色土が1。2.5YR/4黄褐色土ブロック約4%
- 20 10YR3/2黄褐色土が1。2.5YR/4黄褐色土ブロック約4%
- 21 10YR3/2黄褐色土。炭化物約2%
- 22 緑褐色土片
- 23 緑褐色土片(釉張り)

285E13

- 1 10YR3/2黄褐色釉張りシルトが主。断面に観察。上部には、中一(横溝)が見られる。壁石だったのでないかと思われる。径40mmほどの外縁も、斜め。壁内縁も。
- 2 10YR3/2黄褐色釉張りシルトに、2.5Y7/3黄褐色土ブロック(径3-5cm)が約9%ほど入る
- 3 10YR3/2黄褐色釉張りシルト。部分にクレーンション発注。自然埋積か。2.5Y7/3黄褐色土ブロック(径3cm)は2%。少くも。
- 4 2.5Y7/3黄褐色土。釉張り。個人所有
- 5 2.5Y7/3黄褐色土。クレーンション発注。薄く埋積もあり。自然埋積。釉張り
- 6 同上と同じ大きさよりも粘土が多い。自然埋積。断面
- 7 同上と同じ大きさよりも粘土が多い。自然埋積。断面
- 8 10YR3/2黄褐色土。釉張り。個人所有
- 9 10YR3/2黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 10 10YR3/2黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 11 10YR3/2黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 12 10YR3/2黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 13 10YR3/2黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 14 10YR3/2黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 15 釉張り。個人所有。この中から断面をわけて、断面を写す。オリーブ褐色に電化した粘土ブロック(径3-5cm)はいくらも入る

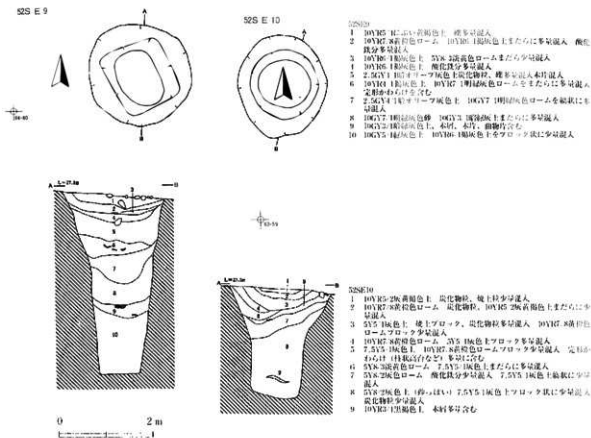
285E15

- 1 2.5Y5/2黄褐色シルト。上部に釉が塗る。粘土も多い。自然埋積。表面。木まじりなどないのである。大層な人が入っている。また、壁下部に塗料が個人入っている。陶器片が2点入っていた。この釉は厚い。粘土も多量である
- 2 10YR1/7白色釉張りシルトが主。中に埋入する2.5Y7/4黄褐色土。この色は空気に濡れて変化した色である。変化する前は、10G5/1-10R1黄褐色である。釉張りシルトブロックが約3%ほど含まれる。ブロックは径1-3cm。断面が1点用
- 3 同上と同じ性質の上。ただ、こちらの方が2.5Y7/4黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 4 2.5Y7/4黄褐色土ブロック
- 5 同上と同じ性質の上。2.5Y7/4黄褐色土ブロックの径は1-1cm
- 6 10YR1/7白色釉張りシルトが主。10YR3/2黄褐色土ブロック約2%。径1-3cm。断面が1点用
- 7 2.5Y7/4黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 8 2.5Y7/4黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 9 10YR1/7白色釉張りシルトブロックが約9%ほど。この中には径1cm以下の小塊も入る
- 10 2.5Y7/4黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 11 2.5Y7/4黄褐色土。シルト。釉張り。個人所有
- 12 同上と同じ性質の上。10YR1/2黄褐色釉張りシルトブロックが1-10YR1/7白色釉張りシルトブロック約5%ほど
- 13 同上と同じ性質の上
- 14 10YR1/7白色釉張りシルト。小塊(径1cm以下)も入る
- 15 2.5Y7/4黄褐色土ブロック(断面)も入る
- 16 10YR1/7白色釉張りシルト。小塊(径1cm以下)も入る
- 17 2.5Y7/4黄褐色土ブロックが主。10YR1/7白色釉張りシルト(断面1cm以下)の小塊も含む(50%ほど)
- 18 2.5Y7/4黄褐色土ブロック
- 19 10YR1/7白色釉張りシルト。この中ではかわらけ片が1点入っていた
- 20 10YR1/7白色釉張りシルトに2.5Y7/4黄褐色土ブロック。1個ブロックが少し入る。断面も
- 21 2.5Y7/4黄褐色土ブロックが主。断面ブロックもある

285E16

- 1 10YR3/2黄褐色シルト。しまりあり。1%の炭化物。酸化鉄含む。1%炭(角)。大層(40mm)も入る
- 2 10YR3/2黄褐色シルト。10YR3/8明黄褐色土が少量。釉も混じる。1%炭後の炭化物。人為的に炭をきかれたのであり
- 3 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 4 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 5 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 6 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 7 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 8 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 9 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 10 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 11 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 12 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 13 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 14 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 15 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 16 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 17 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 18 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 19 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 20 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 21 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 22 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 23 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 24 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 25 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 26 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 27 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 28 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 29 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 30 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 31 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 32 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 33 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 34 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 35 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 36 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 37 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 38 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 39 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 40 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 41 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 42 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 43 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 44 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 45 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 46 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 47 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 48 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 49 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 50 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 51 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 52 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 53 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 54 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 55 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 56 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 57 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 58 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 59 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 60 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 61 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 62 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 63 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 64 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 65 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 66 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 67 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 68 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 69 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 70 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 71 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 72 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 73 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 74 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 75 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 76 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 77 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 78 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 79 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 80 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 81 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 82 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 83 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 84 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 85 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 86 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 87 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 88 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 89 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 90 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 91 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 92 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 93 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 94 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 95 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 96 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 97 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 98 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 99 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有
- 100 10YR3/2黄褐色。釉張り。土質が硬い。個人所有

第82図 井戸跡(2)



第84図 井戸跡(4)

〔6〕 園池 (23SG1)

中心建物群の南西側に位置している。12世紀の中で大きく2時期の変遷が明らかになっており、古い段階をⅠ期、新しい段階をⅡ期として報告してきた。そして、Ⅱ期以降の園池の状況に関してもここで概説するが詳細は57次報告で行うこととする。

〈Ⅰ期〉

- ・柳之御所堀内部地区に初めて造られた園池である。
- ・水を湛える池で規模は東西最大で22m、南北最大25mを測る。80-90cmは少なくとも滞水が可能な深さを有していた。
- ・池の南端部についてはⅡ期の深い溝③の壁にあらわれるⅠ期池の埋土から想定した。
- ・地山を掘り込んで平坦な池底とし、底から岸への立ち上がりには改めて土を入れ直して緩やかに立ち上がるように成形されている。
- ・礫は一切用いられていない。
- ・西端部には排水溝が付けられ、西側へ延びて柳之御所を区画する堀へと排水されていた。
- ・池底から出土したかわらけは手づくねかわらけで、12世紀後半（秀衡期）のものである。

〈Ⅱ期〉

- ・Ⅰ期の池を廃し、その上に規模を拡大する形で構築されている。

- ・東西約40.5m、南北約32.4mの範囲で地山を掘削し、改めて立体的に盛土を行い大小の礫を表面に貼り付けて整形している。
- ・規筋もの溝状の「流れる」低い部分とその溝の間ができる島・尾根状の高い部分（低くない部分といった方が適切）から成る。溝は8条程想定され、その要所に景石が配置される。
- ・溝は大きく分けて南へ流れるものと、南西側へ流れるものがある。前者は最終的に1本の溝に集結し、やや蛇行して柳之御所を囲む堀へと延びている。後者に関しては緩やかに下る地形の影響で遺構が自然消滅してしまい全容は把握できない。これらの溝に新旧関係が存在する可能性も否定できないが、Ⅱ期池の埋土は前回の調査で掘られてないため今回の調査では検証できなかった。溝が大きく別れて流れる間の空間（陸地の部分）には一見、圍池とは無関係に配置されたように見える礫群がある。礎石の根石との指摘もあり、現存するものは記録をとったが残りが悪く、建物になるように展開するか判らなかつた。
- ・出土したかわらけからは12世紀後半と位置づけるのが妥当で奥州藤原氏滅亡の頃まで機能していたと考えたい。

Ⅱ期以降

- ・圍池東側の溝③～⑥を埋め戻し、水を湛える池若しくは窪地となっていることが埋土の状況から推測される。
- ・Ⅱ期以降については12世紀のものかそれ以降か判断し難い。

〔7〕 竪穴建物跡

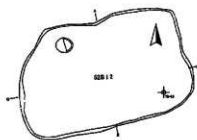
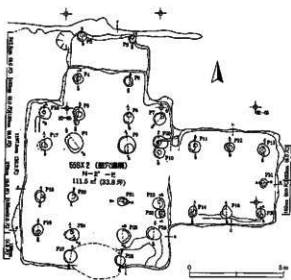
竪穴建物跡は2棟検出された。平泉遺跡群の中でも事例は少なく、この時期の平泉では一般的な施設とはいえない遺構である。（第85図）

55S X 2 約8×7mを測る方形プランの本体の北側と東側に張出を有する平面形である。張出を含めた長さは東西約14m、南北約12mになる。検出面からの深さは約1mである。床面並びに床面直上には完形かわらけが極めて多量に分布する。埋土はロームを主体とするもので人為的に埋め戻されていた。本遺構の北辺に接して板が抜き取られた塀跡55SA1が存在するが、土層断面の観察により塀と本竪穴は同時存在の可能性が高いと判断される。床面には柱穴が規則的に並んで検出された。この竪穴建物の検出位置は、中心建物群の重複域に接する北側で、ある時期の中心城を構成する建物の一つであったと推測される。出土したかわらけの特徴から12世紀後半の遺構と判断される。

52S 1 2 平面形は不整な隅丸長方形を呈する。規模は5.5×3.5m、深さは最大で36cmを測り底面は概ね平坦である。埋土は人為堆積でほぼ一時に埋め戻されたと判断される。遺物はロクロかわらけと思われる破片のみが出土している。

〔8〕 土坑

遺跡のほぼ全域に分布し、規模・形態ともかなり多様でその性格についても単純ではなかつたであろうが、多くの場合、具体的な性格を明らかにできない。本遺跡には墓と認識できる土坑は認められない。この中でトイレ状遺構に関しては別項で記述するが遺構一覧表では土坑とトイレ状遺構は統一して作成している。56次調査までで278基検出されている。



0 2 m



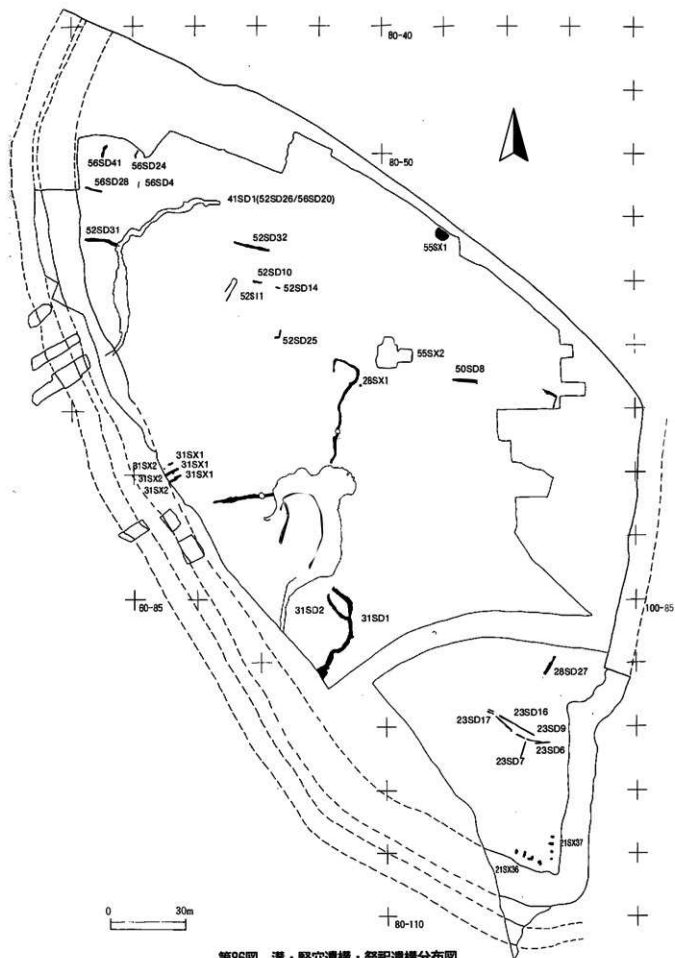
- SSK2
2. 5Y7/8黄褐色ローム 10YR5/2灰青褐色土層状に少量混入、かわらけ片を少量含む。人為的に埋めた土
 - 10YR5/2灰青褐色土 2.5Y7/8黄褐色ロームまじらに多量混入。炭化物類、かわらけ片(定期も多い)多量混入
 - 10YR7/1灰白色土 土成層か
 - 10YR7/8黄褐色ローム 10YR5/2灰青褐色土ブロックで少量混入 10YR7/8黄褐色ロームまじら少量混入。柱間
 - 10YR4/1暗褐色土 かわらけ細片非常に多量に混入 下部には完全にかわらけを赤土に多量に混入 炭化物物多量に混入
 - 2.5Y7/8黄褐色ローム 10YR5/2灰青褐色土層状に少量混入、かわらけ細片を赤土と1層に混入する
 - 10YR5/1暗褐色土 砂が混入し、かわらけ細片多量混入 55S 1Xの埋土ではなく 55SK1の埋土の残存か
 - 10YR2/1暗褐色土 10YR7/8黄褐色ロームまじら多量混入
 - 10YR6/1暗褐色土、かわらけ細片多量混入、あまりしりやがいの板の持ち寄り痕か
 - 10YR1.7/1暗褐色土 炭化物物多量混入、しりやなし
 - 1456
 - 10YR3/2暗褐色土 炭化物物多量混入
 - 55SX2を切る割側の土壌か、またはSX2P28
 - 10YR7/4に赤い黄褐色ローム 炭化物物少量混入
 - 10YR5/2灰青褐色土 炭化物物少量混入
 - F 516
 - 10YR5/2灰青褐色土 微量混入 柱間
 - 10YR7/8黄褐色ローム 10YR5/2灰青褐色土まじら少量混入 南方の土

- SSK12
- 10YR7/8黄褐色ローム 10YR6/1暗褐色土まじらに多量混入
 - 10YR7/8黄褐色ローム 10YR6/1暗褐色土まじらに少量混入
 - 10YR7/8黄褐色ローム 10YR6/1暗褐色土層状に少量混入
- 1-3層とも人為的に埋めた土

第85図 竪穴遺物跡

遺物名	位置	縦横 (m)			深さ	特 徴
		計測値	長	横		
21SK13	89-104	横断面 1.08	0.88	0.48	性質：かわらけは意図的に入れられた可能性はあるが、不明である。遺物：かわらけ 1個(土上半分は多量の細片、下半分は1/2以上のもの1個)、土上半分より10%の全重量は2.60gである。 時期：12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK14	89-103	横断面 2.42	2.05	1.82	性質：不明である。 遺物：かわらけが少量混入。出土全重量は110gである。 時期：現在の性質からかわらけは12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK16	89-103	横断面 0.95	0.82	1.27	性質：埋土と形跡から考えると12世紀後半の可能性はある。ただし、赤土などの分析はしていない。遺物：かわらけ細片が比較的多く含まれる。出土全重量は1.40gである。埋土中には10%の細片が混入される。 時期：12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK17	89-103	横断面 1.10	1.08	0.88	性質：不明である。遺物：かわらけ片がいくらか含まれる。出土全重量は2.125gである。 時期：現在の性質から12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK18	89-103	横断面 1.10	1.06	1.16	性質：不明である。遺物：かわらけ細片が比較的多く含まれるが、1/2以上のものは1個。 時期：埋土から考えらるならば12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK19	89-103	横断面 0.92	0.88	0.56	性質：不明である。遺物：かわらけ細片が少量入り、出土全重量は700gである。 時期：12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK20	89-103	横断面 1.28	1.08	0.43	性質：不明である。遺物：かわらけ片が比較的多く出土し、出土全重量は1,600gである。 時期：12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK 21	89-101	横断面 1.06	1.04	0.35	性質：不明である。遺物：1/2以上のかわらけは2点で、全重量は2,000gである。 時期：出土遺物の状態から12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK26	89-101	横断面 0.68	0.60	0.42	性質：埋土と形跡から推測するための欠と推測である。 遺物：かわらけ片が比較的多く出土(1/2以上11個)。底面に、完全に混ざりかわらけが2枚水平にあった。全重量は1,600gである。 時期：出土遺物の状態から12世紀後半に埋められたと推測。	
21SK33	89-100	横断面 1.12	1.08	1.34	性質：不明である。遺物：かわらけ片が3.66g含まれる。 時期：埋土から考えると12世紀後半の可能性はある。	
21SK35	89-104	横断面 0.98	0.91	0.38	性質：何かを埋めた可能性がある。遺物：かわらけが少量出土し、全重量は10gである。 時期：埋土から、12世紀後半に埋められたと推測される。	
21SK36	89-104	横断面 0.69	0.58	0.48	性質：不明である。遺物：織文土器片が少量出土した。 時期：埋土は12世紀後半のものに属するが不明である。	

土 坑 一 覧 表 (1)



第86圖 溝・竪穴遺構・祭祀遺構分布圖

遺構名	図号	規模 (m)			備考
		幅	長さ	高さ	
215K41	07-77	幅 3.77	長さ 5.74	高さ 0.92	1.00
215K42	07-77	幅 0.89	長さ 0.82	高さ 0.82	1.00
215K43	68-78	幅 1.82	長さ 1.72	高さ 0.97	1.00
215K44	67-78	幅 1.21	長さ 1.46	高さ 0.87	1.00
215K45	68-78	幅 1.10	長さ 1.10	高さ 0.81	1.00
215K54	68-76	幅 1.20	長さ 0.96	高さ 0.82	0.93
215K55	67-75	幅 0.72	長さ 0.86	高さ 0.72	0.67
215K57	70-74	幅 0.80	長さ 0.71	高さ 0.64	0.58
215K58	70-74	幅 1.80	長さ 0.92	高さ 0.86	0.81
215K59	70-74	幅 1.80	長さ 0.92	高さ 0.86	0.81
215K60	67-74	幅 0.64	長さ 0.51	高さ 0.46	0.40
215K61	68-71	幅 0.65	長さ 0.55	高さ 0.52	0.46
215K62	67-73	幅 0.82	長さ 0.58	高さ 0.54	0.46
215K63	67-73	幅 0.44	長さ 0.44	高さ 0.44	0.40
215K70	67-71	幅 1.70	長さ 1.30	高さ 0.92	1.00
215K71	71-71	幅 1.02	長さ 0.94	高さ 0.82	0.74
215K72	68-70	幅 1.42	長さ 0.92	高さ 0.89	0.80
215K73	71-68	幅 0.96	長さ 0.83	高さ 0.80	0.74
215K79	70-67	幅 1.48	長さ 0.87	高さ 0.82	0.74
215K80	70-67	幅 1.09	長さ 0.80	高さ 0.74	0.67
215K81	70-67	幅 0.79	長さ 0.74	高さ 0.74	0.67
215K83	75-65	幅 0.89	長さ 0.73	高さ 0.68	0.61
215K84	73-63	幅 0.48	長さ 0.38	高さ 0.38	0.32
215K85	73-63	幅 0.74	長さ 0.62	高さ 0.62	0.56
215K86	73-63	幅 0.39	長さ 0.32	高さ 0.32	0.26
215K87	74-63	幅 0.84	長さ 0.62	高さ 0.62	0.56
215K88	74-65	幅 0.72	長さ 0.62	高さ 0.62	0.56
215K89	74-65	幅 0.57	長さ 0.51	高さ 0.51	0.45
215K90	74-63	幅 0.86	長さ 0.68	高さ 0.68	0.62
215K91	74-64	幅 0.88	長さ 0.73	高さ 0.73	0.67
215K92	74-64	幅 1.16	長さ 0.92	高さ 0.92	0.86
215K93	68-70	幅 0.97	長さ 0.62	高さ 0.62	0.56
215K94	68-70	幅 0.75	長さ 0.48	高さ 0.48	0.42
215K95	68-63	幅 1.32	長さ 1.30	高さ 0.92	1.00
215K96	74-63	幅 1.38	長さ 1.38	高さ 0.98	1.00
215K97	74-63	幅 0.84	長さ 0.64	高さ 0.64	0.58
215K98	71-61	幅 0.83	長さ 0.73	高さ 0.67	0.61
215K99	61-59	幅 0.60	長さ 0.52	高さ 0.52	0.46
215K100	61-59	幅 1.18	長さ 0.80	高さ 0.74	0.67
215K101	61-59	幅 1.14	長さ 0.82	高さ 0.76	0.69
215K102	61-59	幅 1.21	長さ 0.91	高さ 0.85	0.78
215K103	61-59	幅 0.68	長さ 0.59	高さ 0.59	0.53
215K104	61-70	幅 1.16	長さ 0.98	高さ 0.92	0.86
215K105	61-70	幅 0.66	長さ 0.56	高さ 0.56	0.50
215K106	61-70	幅 1.38	長さ 0.92	高さ 0.86	0.79
215K107	61-70	幅 0.84	長さ 0.68	高さ 0.68	0.62
215K108	61-69	幅 1.38	長さ 0.92	高さ 0.86	0.79
215K109	61-69	幅 0.84	長さ 0.68	高さ 0.68	0.62
215K110	61-69	幅 1.13	長さ 0.91	高さ 0.85	0.78
215K111	61-69	幅 1.07	長さ 0.85	高さ 0.85	0.79
215K112	61-69	幅 0.90	長さ 0.72	高さ 0.72	0.66
215K113	61-69	幅 0.91	長さ 0.73	高さ 0.73	0.67
215K114	61-69	幅 1.30	長さ 0.89	高さ 0.89	0.83
215K115	61-69	幅 0.62	長さ 0.52	高さ 0.52	0.46
215K116	61-69	幅 1.80	長さ 1.20	高さ 0.86	0.79
215K117	61-69	幅 0.62	長さ 0.52	高さ 0.52	0.46
215K118	61-69	幅 1.80	長さ 1.20	高さ 0.86	0.79
215K119	61-69	幅 0.62	長さ 0.52	高さ 0.52	0.46

初之御所遺跡土坑一覧表(5)

遺跡名	区 界	幅 度 (m)				物 質	備 考
		北 面	東 面	南 面	西 面		
128K24	84-85	横溝溝	0.99	0.80		1.90	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけ細片、厚板陶器片、刀子。時期：12世紀。
528K25	86-83	横溝溝	1.05	0.95		0.78	遺物：かわらけ細片、厚板陶器片、瓦瓦。時期：12世紀。
568K26	82-85	横溝溝	1.10	0.80		0.80	遺物：厚板陶器片多数混入。時期：12世紀。
248K27	81-85	横溝溝	0.95	0.85		0.95	遺物：足形かわらけを含むかわらけ片多数混入。厚板陶器片。時期：12世紀。
588K28	83-56	横溝溝	1.10	1.10		0.55	遺物：かわらけ細片。時期：12世紀。
528K29	79-85	横溝溝	0.85	0.70		0.75	遺物：かわらけ細片、骨平尺。時期：12世紀。
518K30	82-59	横溝溝	0.90	0.70		0.65	遺物：かわらけ細片、磁土ブロッコ。時期：12世紀。518Kの状況1436より古い。
518K31	70-53	横溝溝	0.90	0.75		0.30	遺物：かわらけ細片、陶器片。時期：12世紀。
568K32	79-20	横溝溝	0.70	0.65		0.30	時期：12世紀。
568K33	81-68	横溝溝	1.00	0.90		0.40	遺物：かわらけ細片。時期：12世紀。518Kの状況1252より古い。
518K34	89-00	横溝溝	1.30	1.10			性質：土瓦。遺物：かわらけの金土土瓦180g。他に、厚板陶器片出土。時期：12世紀。
148K35	60-51	横溝溝	0.70	0.40			性質：土瓦。遺物：かわらけの瓦片180g。時期：12世紀。
568K36	60-53	横溝溝	0.90				性質：土瓦。遺物：150g。時期：12世紀。568D19より古い。
268K37	69-54	横溝溝					性質：土瓦。時期：12世紀。568D23より古い。
568K38	59K330	横溝溝					性質：土瓦。遺物：かわらけの金土土瓦20g。時期：12世紀の可塑性が高い。568K31・568K36・568D20より古い。
248K39	67-51	横溝溝	1.45	1.40			性質：土瓦。遺物：かわらけの金土土瓦10g。時期：12世紀。568K・568D23より古い。
568K40	60-63	横溝溝		0.70			性質：土瓦。遺物：かわらけの金土土瓦170g。時期：12世紀。568K11・568K30より新しい。
568K41	62-49	横溝溝	0.90	0.65		0.05	性質：土瓦。遺物：かわらけの金土土瓦190g。多量品出土。時期：12世紀。
268K42	60-49	横溝溝	1.00	0.85		0.85	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦210g。信付陶器片、鏡子、土物器類、灰化物出土。時期：12世紀。
568K43	63-48	横溝溝	0.95	0.70		0.60	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦150g。鏡子、木製品、灰化物出土。時期：12世紀。
568K44	63-49	横溝溝	1.00	0.80		2.10	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦370g。厚板陶器片180g。宇屋遺構跡1点。ウツリ鏡片。チャウ米を含む木製品、灰化物出土。時期：12世紀。
568K45	62-48	横溝溝	0.95	0.65		0.45	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦210g。厚板陶器片2点、ウツリ鏡子、木製品、灰化物出土。時期：12世紀。
568K46	67-49	横溝溝	0.50	0.40		0.10	性質：土瓦。遺物：土層は断片を受けていると見られる事件焼物。時期：12世紀。
268K47	60-30	横溝溝	0.75	0.65		0.60	性質：同層に確認した遺構からトイレ状遺構と考えられる。遺物：かわらけの金土土瓦700g。厚板陶器、信付陶器の製品と見られる中層陶器片、木製品出土。時期：12世紀。
568K48	63-49	横溝溝	0.90	0.65		0.15	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの細片。かわらけの金土土瓦230g。時期：12世紀。
568K49	63-50	横溝溝	1.00	1.00		2.80	性質：遺構の壁から浮いた状態の遺物。チャウ米や磁器の土瓦と見られる。他にトイレ状遺構に転写されたものと見られる。遺物：かわらけの金土土瓦170g。厚板陶器、中国産陶器1点、平尺、鏡子、鏡子、鏡子、チャウ米を含む木製品多数、漆器、灰化物出土。時期：12世紀。
568K50	64-00	横溝溝	0.65	0.90		1.75	性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦181.430g。厚板陶器片2点、棒状陶器、灰化物出土。時期：12世紀。
268K51	64-01	横溝溝	0.90	0.70			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。568D40より新しい。
568K52	64-50	横溝溝	0.70	0.60			性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦110g。時期：12世紀。568D40より新しい。
568K53	65-50	横溝溝	0.65	0.65			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。568D40より新しい。
568K54	66-49	横溝溝	0.90	0.80			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。
568K55	66-50	横溝溝	0.90	0.80			性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦180g。時期：12世紀。
568K56	67-49	横溝溝	0.95	0.85			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。
568K57	67-50	横溝溝	0.90	0.80			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。
568K58	69-50	横溝溝	0.80	0.80			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。
568K59	67-51	横溝溝	0.65	0.50		0.20	性質：土瓦。遺物の厚さは65gあり。遺物：かわらけの金土土瓦110g。厚板陶器1点、土瓦出土。時期：12世紀。
568K60	74-40	横溝溝	1.40	1.20			性質：トイレ状遺構。遺物：中国産陶器1点。時期：12世紀。
568K61	72-50	横溝溝	1.85	1.00			性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦270g。厚板陶器片2点、磁土瓦出土。時期：12世紀。
568K62	73-50	横溝溝	1.40	1.05		1.20	性質：鏡子やチャウ米の出土からトイレ状遺構と考えられる。遺物：かわらけの金土土瓦213.830g。厚板陶器1点、磁土瓦出土。時期：12世紀。
568K63	73-51	横溝溝	0.98	0.90			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。568D39より古い。
568K64	73-51	横溝溝	1.15	0.90			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。568D39より古い。
568K65	73-51	横溝溝	1.25	1.15			性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦230g。厚板陶器1点、鏡子と鏡子出土。時期：12世紀。568D37より古い。
568K66	74-50	横溝溝	1.05	1.05			性質：トイレ状遺構。遺物：かわらけの金土土瓦110g。時期：12世紀。
568K67	74-50	横溝溝	0.45	0.45			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。
568K68	73-50	横溝溝	0.65	0.80			性質：トイレ状遺構。時期：12世紀。

柳之御所跡跡土坑一覽表(7)

〔9〕トイレ状遺構

検出された土坑の中で、形態と出土遺物から便所として機能したことが推測できるもの、あるいは便所としてではないものの、人間の排泄物の処理と何らかの関連をもつことが推測できるような土坑をここで扱う。

具体的にトイレ状遺構とした遺構にはチュウ木を出土する土坑、ウリ科の種子を出土する土坑、その両方が出土するものや土壌分析の結果からトイレ状遺構の可能性の高い遺構などである。各遺構の内容は土坑類一覧表にその特徴を整理した。

分布をみると密集して検出されたものと、散在するものとは大きく分けられる。前者は堀内部地区の北西部に30数基ものトイレ状遺構がまとまって分布しているのを確認している。本遺跡でも最大規模の建物跡(55 S B 6)のすぐ西側に位置しており、東西約60m、南北約25mの範囲に不規則に展開している。この地区にはトイレ状遺構のほか、12世紀の遺構は56 S D 40以外になく、柳之御所遺跡が機能している間は一貫して排泄物を廃棄する場所であったことは確実である。位置的には堀内部地区の中でも堀池や中心建物群からは最も離れた場所であること、当時は平坦な地形ではなかったため建物を構築するには適さない場所であったと推察されることなどが多数のトイレ状遺構が占地する理由として考えられる。

後者は遺跡の南端から北端までの広い範囲に散らばって分布するが、その中でも遺跡南端部にやや多く、堀池23 S G 1の西や遺構の希薄な北西部など中心部からは外れた場所に位置している。

こうした分布の違いはあるものの原則として北西部の密集して確認された場所を使い、散在するものは土坑・井戸などの転用や各層載に付属するかたちで設けられた一時的なものであったと見たい。

トイレ状遺構については、直接利用あるいは廃棄の場であったものと考えられるはずだが、12世紀の生活面が失われているため上部の構造は不明であること、掘土の状況からはそうした違いを厳密に抽出することはできないことなどから、分けて扱うことは困難である。掘土の特徴としてチュウ木やウリ科種子を出土する土坑の主体となる土は、水分の多い黒色や灰～緑灰色土及び粘土であることが多かった。また一土坑の堀土断面に炭粒が薄い層を成して複数観察されるものも目立った。原則として人為的に入れられた多様な土で構成され、自然堆積(流れ込み)による土はなかった。このことから開口部には日垣は蓋若しくは屋根のような施設が想定でき、雨水などが流れ込まない状態にしていたことは想像に難くない。(第87図)

〔10〕その他の遺構(祭祀遺構)(第88～91図)

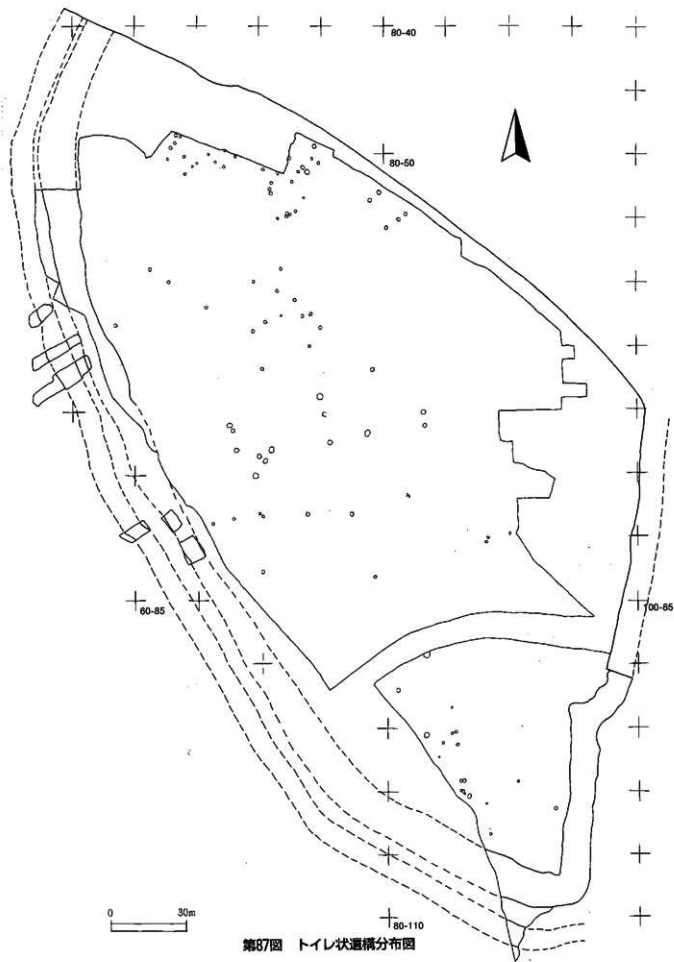
(1) 特殊柱列

21 S X 36と21 S X 37は堀跡21 S D 1の南端部に架かる橋21 S X 35の北側から検出されている。堀とは平行して並ぶ3間の柱穴状土坑で構成される。この柱穴状土坑の深さは28～76cmで、柱間は21 S X 36が10.20m、21 S X 37が8.84mを測る。掘土は基本的に人為堆積といえ、各柱穴間にみられる切り合い関係には時間的関係がどれほどあるか不明なものも多いと指摘されている。12世紀の築地境の下から検出されており、道路遺構21 S C 1よりも以前に埋められた遺構である。

31 S X 1と31 S X 2は堀池23 S G 1西側の西約40mにある。両遺構は並んで位置しており、31 S X 1のほうが新しいという前後関係はあるものの、同時に建てられ機能した可能性もある。太く長い柱3本が一直線状に建てられたと推測される遺構である。

31 S X 1は2間(5.70m)の柱列で、柱の深さは69～100cmあり、軸方向はN34°Wを指す。柱痕跡は35～31cmであった。

31 S X 2は2間(約6m)の柱列で、軸線方向はN30°Eを指す。柱痕は残っていなかった。



第87図 トイレ状遺構分布図

(2) 地鎮具埋納跡

28SK1 28SA1北辺の東端に近い部分に重なる浅い土坑である。以前の報告書では28SX1が28SA1を切ると判断している。また本遺構は28SB1の柱穴に切られる。

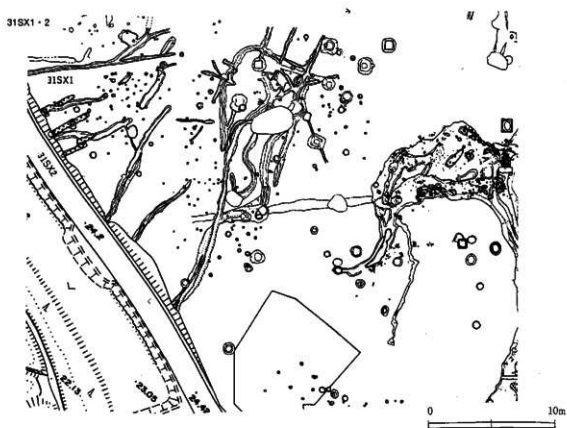
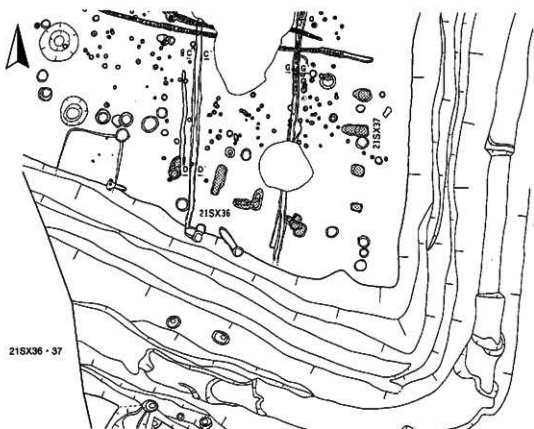
本遺構の平面形は隅丸方形で、浅い部分と深い部分とにはほぼ中央で分かれる。どちらも底面は平坦で、遺物が納められた土坑の長軸はN30°Wである。堀土は人為堆積で、地鎮具を納めた後に一気に埋めたと推測される。地鎮具としては輪室1点、塚1点、手づくねかわらけ7点(8点の可能性もある)が底面に置かれた状態で在った。輪室が北部底面中央に水平に置かれ、その中央に塚が刺さっていた。かわらけはその南側から出土している。北部に2枚、それに平行して中部に3枚、さらにそれに平行して南部に2枚、東端のラインがほぼ一直線になるように並べられていた。新旧関係は、28SX1は28SA1と28SB6より新しいと判断した。

(3) その他祭祀遺構

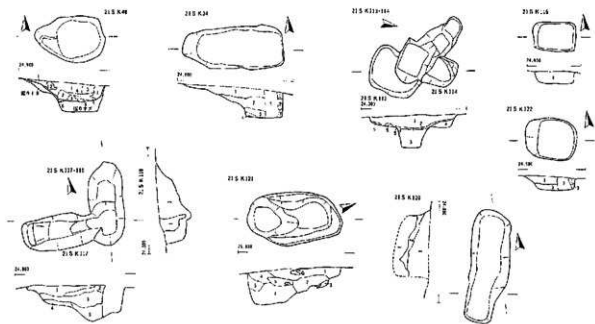
55SX1は外径約6mの円形の掘り込みのほぼ中央に、内径約2m地山の掘り残しを有する。埋土(とくに底部)からは多量のかかわらけが出土したが、具体的な用途は見いだせず、何らかの祭祀的な用途に用いられた遺構と推測される。人為的に埋め戻されており、埋め戻し層の上位からは底部に穿孔した小型手づくねかわらけを合わせ口にしたものが1箇所からまとまって約4組出土した。

遺構名	図 号	遺 構 (m)				注
		幅	径	深	埋 土	
28SK59	75-22	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK60	71-31	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK57	78-54	地表面 幅 1.15 径 0.65 深 0.25	0.65	0.25	0.25	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59より古い
28SK63	72-54	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 遺物: 両手輪室(1点)あり、時期: 28SK59より新しい
28SK61	72-54	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK65	75-55	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK58	70-52	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59より古い
28SK47	70-52	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 種子や土の屑の間にトイレ式遺構と重なっている 遺物: かわらけ(9点)あり(300g)、多数のチャウの破片、時期: 28SK59
28SK66	70-52	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK69	71-51	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK70	70-56	地表面 幅 1.15 径 0.70 深 0.20	0.70	0.20	0.20	性質: トイレ式遺構 時期: 28SK59
28SK72	62-51	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59より古い
28SK77	50-50	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 遺物: かわらけの全面土(1330g)あり 時期: 28SK59より新しい
28SK61	70-61	地表面 幅 1.15 径 0.70 深 0.20	0.70	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59、28SK59より新しい
28SK62	58-63	地表面 幅 1.10 径 0.60 深 0.20	0.60	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59
28SK67	52-58	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59
28SK68	30-65	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59より古い
28SK60	57-60	地表面 幅 1.15 径 0.70 深 0.20	0.70	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59より古い
28SK63	58-63	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 遺物: かわらけの全面土(1330g)あり、時期: 28SK59より古い
28SK94	50-49	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 遺物: かわらけの全面土(1330g)あり、両手輪室(1点)あり、時期: 28SK59、28SK59より新しい
28SK95	50-49	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 遺物: かわらけの全面土(1330g)あり、時期: 28SK59より古い
28SK16	100-59	地表面 幅 1.25 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59より古い、28SK59より新しい
28SK97	57-59	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59
28SK90	50-51	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 地鎮具を4年ほどで撤去して、このかわらけを埋め戻す形であったと考えられる 遺物: かわらけ、両手輪室(1点)あり、時期: 28SK59
28SK19	02-54	地表面 幅 1.20 径 0.75 深 0.20	0.75	0.20	0.20	性質: 土坑 時期: 28SK59より古い

柳之御所遺跡土坑一覧表(8)



第88圖 痕記遺構ほか(1)



215K10

- 1 2.5V7/4底黄色粘土アロックが主。彫刻色砂泥じりシルトアロック
- 2 10V12/3彫刻色砂泥じりシルトが主。黄褐色土アロック
- 3 10V12/3彫刻色砂泥じりシルトが主。炭化物付1~2%
- 4 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。黄褐色土アロック
- 5 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。
- 6 10V12/1彫刻色砂泥じりシルトが主。黄褐色粘土アロック

215K11

- 1 2.5V7/3底黄色粘土が主。10V12/3に赤い彫刻色少量。同く彫刻
- 2 10V13/7黄褐色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主
- 3 2.5V7/3底黄色粘土。部分部に砂泥が主
- 4 2.5V7/3底黄色粘土と10V26/2彫刻色砂泥じりシルトが混在
- 5 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルト。同く彫刻。小断面。片割露の完備性あり

215K113-114

- 1 2.5V7/3底黄色粘土と10V12/3彫刻色砂泥じりシルトが混在。同く彫刻
- 2 10V12/3底黄色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主。同く彫刻
- 3 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主。同く彫刻
- 4 10V16/2彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主。同く彫刻
- 5 10V16/2彫刻色砂泥じりシルト。

215K116

- 1 底黄色粘土アロックが主。10V16/2底黄色砂泥じりシルトアロック。10V12/3に赤い彫刻色砂泥じりシルトアロックが混在。

215K122

- 1 2.5V7/4底黄色粘土アロックと10V12/3彫刻色砂泥じりシルトが混在。同く彫刻
- 2 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルト。同く彫刻の完備性あり。同く彫刻
- 3 1に類似するが、2.5V7/4底黄色粘土が主

215K117

- 1 10V13/7黄褐色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主
- 2 10V13/7黄褐色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主
- 3 10V13/7黄褐色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主
- 4 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主
- 5 10V12/1彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/4底黄色粘土アロックが主。同く彫刻

215K120

- 1 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主
- 2 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 3 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルト。同く彫刻

215K121

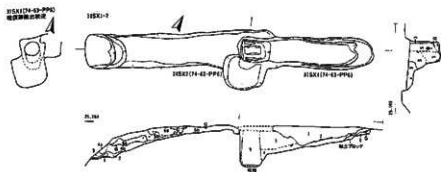
- 1 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 2 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 3 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 4 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 5 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 6 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻
- 7 10V13/7黄褐色砂泥じりシルト。同く彫刻

215K118

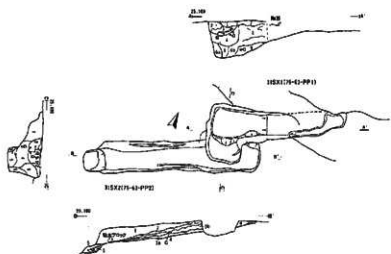
- 1 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/3底黄色粘土アロックが主。同く彫刻
- 2 10V16/2に赤い彫刻色砂泥じりシルトが主。2.5V7/4底黄色粘土アロックが主。同く彫刻



第89図 祭祀遺構ほか(2)

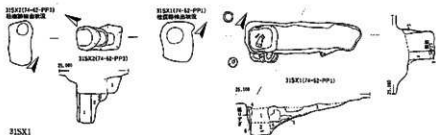


- JISX1**
- 1 10YR6/4褐色シルト。炭化物片約3%。わずかな少量。厚刃先。
 - 2 10YR7/6明黄褐色-10YR6/8粘土。
 - 3 10YR5/2深黄褐色シルト。炭化物片約5%。少なからず少量。刃約15cmの長さ。
 - 4 10YR6/3に多い黄褐色砂土。黒山粘土ブロック3%。小礫混在。
 - 5 10YR5/3に多い黄褐色砂泥じり粘土。黒山粘土ブロック5%。炭化物片約1%。
 - 6a 2.5Y7/4黄褐色と2.5Y6/4に多い黄褐色土。3層の土が部分に入る。
 - 6b 10YR5/6明黄褐色砂泥じり粘土。10YR6/2深黄褐色土混在。
 - 7 10YR4/6褐色-5/4に多い黄褐色砂泥じりシルト。黒山粘土ブロック約3%。小礫混在。
 - 8 10YR5/4に多い黄褐色-10YR4/6褐色。
 - 9 10YR4/2深黄褐色粘土。黒山粘土ブロック多量。炭化物片約3%。



- JISX2**
- 1 10YR6/6明黄褐色粘土。
 - 2 10YR5/2深黄褐色粘土上深じりシルト。黄褐色新土粘着。
 - 3 10YR5/3に多い黄褐色砂泥じりシルト。
 - 4a 10YR5/6黄褐色砂土。
 - 4b 10YR6/6黄褐色砂土。
 - 5a 10YR5/6黄褐色砂土。
 - 5b 2.5Y6/6黄褐色砂土。
 - 6a 10YR4/6褐色シルト。黒山粘土ブロック(厚約3cm)約3%。小礫混在。
 - 6b 10YR5/4に多い黄褐色シルト。6aより少ないが、小礫混在。

- JISX3**
- 1 10YR5/3に多い黄褐色シルト。炭褐色土約10%。炭化物片約1%。小礫比較的多い。黒山粘土ブロック(厚約2-3cm)混在。
 - 2 10YR7/6明黄褐色粘土。炭化物片約1%。
 - 3a 10YR5/3明褐色シルト。黒山粘土少量。炭化物片約1%。
 - 3b 10YR5/2に多い黄褐色シルト。黒山粘土ブロック(厚約1-2cm)と礫を含有。(厚7%)。炭化物片約1%。
 - 4 10YR6/6明黄褐色粘土。薄部分に3層の土が入る。炭化物片約1%。
 - 5 10YR5/6明黄褐色粘土。黒山粘土粒(径約5mm)と粒径4mmの3%。
 - 6 10YR3/2深褐色シルト。

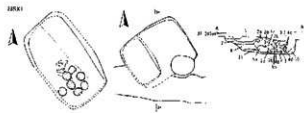


- JISX1**
- 1 10YR5/4に多い黄褐色シルト。炭化物片微量。
 - 2 5/1灰色粘土。
 - 3 10YR6/3に多い黄褐色-10YR5/4に多い黄褐色。鉄約5cmの塊山。赤石焼じり土ブロック混在。
 - 4 10YR6/3に多い黄褐色砂土。炭化物片約1%。厚刃先。
 - 5 2.5Y6/2深黄褐色粘土。黒山粘土ブロック混在。
 - 6 10YR6/3に多い黄褐色砂土。炭化物片約1%。厚刃先。
 - 7 2.5Y1/7灰色粘土。炭化物片約1%。

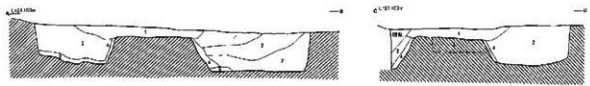
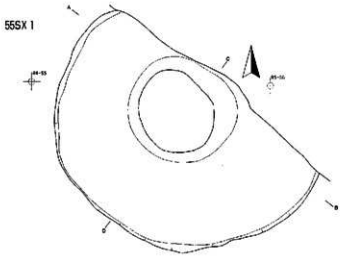
- JISX2**
- 1 10YR4/4褐色シルト。黒山粘土ブロック約10%。
 - 10YR6/6明黄褐色シルト。
 - 2.5Y7/4黄褐色粘土。径約1-3cmの礫混在。
 - 10YR6/6-6/明黄褐色砂土。
 - 10YR5/2に多い黄褐色砂泥じりシルト。小礫(径約5mm)混在。炭化物片約1%。
 - 10YR4/4褐色。黒山粘土粒少量。



第90図 祭祀遺構ほか(3)



- 1 10Y74-2に赤い泥質土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが約20%、かわらけ破片が少量ある。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが少量
- 2a 10Y77の明黄褐色土層にブロック
- 2b 10Y77の明黄褐色土層にブロックが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックも入る
- 3 壁に10Y7.2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが少量
- 4a 10Y74-2の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが約10%入る。泥炭層片、かわらけ破片が少量
- 4b ねと混入するが、10Y74-2の土層にブロックが少量
- 5a 10Y74-1の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが約1cmの厚さ約5%混入する。泥炭層片が少量含まれる
- 5b ねと混入するが、10Y77の明黄褐色土層にブロックが少量
- 6 10Y74-1の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが約1cmの厚さ約3%混入する
- 7 10Y74-2の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが約5%混入する
- 8 10Y77の明黄褐色土層にブロックが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが約5%混入する
- 9 10Y77の明黄褐色土層にブロックが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが約5%混入する。28S1の埋土
- 10 10Y77の明黄褐色土層にコシメトが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが約5%混入する。28S1の埋土
- 11 10Y77の明黄褐色土層にコシメトが主



- 1 10Y74-1の赤褐色土層にコシメト、かわらけ破片、泥炭層片が少量混入
- 1' 10Y74-1の赤褐色土層に10Y77の明黄褐色土層にブロックが少量混入。泥炭層片が少量
- 2 10Y74-2の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが少量混入。かわらけ破片、泥炭層片が少量
- 2' 10Y74-2の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが少量混入。かわらけ破片、泥炭層片が少量
- 3 10Y74-3の赤褐色土層にコシメトが主。10Y77の明黄褐色土層にブロックが少量混入
- 4 10Y77の明黄褐色土層にコシメトが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが少量混入
- 5 10Y77の明黄褐色土層にコシメトが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが少量混入
- 6 10Y77の明黄褐色土層にコシメトが主。2.5Y7.4の赤褐色土層にブロックが少量混入



第91図 祭祀遺構ほか(4)

2 出土遺物

(1) かわらけ

(1) かわらけの種類

本遺跡を含め平泉遺跡群で12世紀を中心とする時期に出土するかわらけの種類は、ロクロかわらけ・手づくねかわらけ・柱状高台に大きく分けられる。これらはさらに大型のものと小型のものに分けられる。手づくねかわらけの場合、口径が11cm以上を大型、10cm以下を小型と見る。ロクロかわらけでは10cmを境に、柱状高台では大型が13cm以上、小型は10cm前後と大小の違いが顕著である。また、手づくねかわらけとロクロかわらけの胎土も基本的に異なっている。

(2) 平泉でのかわらけの編年

この時点で最も新しい平泉（岩手県）での編年を参考にすることとする。この中には本遺跡の資料も含まれているので、それらを中心にここで説明したい。

〈1期〉

11世紀の中葉から12世紀前葉に位置付けられ、何れもロクロ整形で手づくねを含まない。この中で12世紀に関して見ると、ロクロかわらけの碗（坏）、小皿、柱状高台によって構成されており、国産陶器を全く含まない段階である。

52S E 10の資料（第92・93図・写真図版51～54）

深さ2.3mの井戸状遺構（52S E 10）の埋土上部（5層）からまとまって出土した。5層は10cm程の層厚しかなく、かわらけは一時に廃棄されたと判断される。99点が図化でき、他に図化できない細片が1,700gある。これらのかわらけは全てロクロ製である。

碗（坏）、小皿、大型の柱状高台、小型の柱状高台の4種類に分けられるが、小皿（74点）と碗（15点）の数量に偏りがあるのが特徴的である。また大型の柱状高台は平泉遺跡群では非常に例の少ないものである。ロクロかわらけ（大型）の法量の変化は前記した編年図からも分かるように時期差を反映しており平泉出土のかわらけでは最も古い形態を有している。本遺構出土大型かわらけの法量平均値は以下の通りである。

口径13.7cm 底径5.6cm 器高4.9cm 底径/口径0.41

〈2期〉

常滑・瀬美窯の生産開始後、製品が岩手県まで流通し、手づくねかわらけが導入され、広範に伝播する時期にあたる。常滑の編年では1b型式期（1130～1150年）～3型式（1175～1190年）の12世紀末までになる。平泉においては、かわらけ・陶磁器の消費の最盛期である。以下は2期の資料の中で古い順に並べている。

55S E 1の資料（第93・94図・写真図版55）

井戸枠をもつ。埋土の上部から大量の遺物が出土し、かわらけは総量22,410gが出土した。図化可能な資料は80点である。ロクロかわらけのみで構成され、小皿のほうが個体数としては多いのが特徴である。瀬美産陶磁器の破片1点が出土しており、平泉に国産陶器が本格的に搬入されはじめた初期段階に位置付けられる可能性が高い。大型かわらけの法量平均値は、口径13.2cm 底径5.9cm 器高5.0cm 底径/底径0.45 となった。年代は12世紀前半であろう。羽柴氏の編年ではⅡ期にあたり、伽羅之御所5次と共に中尊寺金剛院下層出土資料の次段階に位置付けられる。

52S E 7の資料 (第94・95図・写真図版42・43)

井戸上部の第2層中からロクロかわらけが一括で多量に出土している。これらは全てロクロかわらけで手づくねのものは破片も含め出土していない。凶化可能な軀体は小型かわらけ17点、大型かわらけ73点である。かわらけの他には瀬美産陶器に発破片が出土している。破片が小さく全体の器形や所収時期などは明らかではない。本遺構からは手づくねかわらけの破片が全く混入していないことから、手づくねかわらけ搬入以前の時期の所産と考えられる。加えて瀬美産陶器片が含まれることから、瀬美産陶器製の生産開始年代から12世紀第1四半期には上らない年代を想定することが可能と考えられる。前述した52S E 10と比較すると、大型、小型の比率が逆転しており、この段階以降、大小のかわらけの比率が逆転するようである。本遺構出土大型かわらけの法量平均値は以下のようになる。

口径14.3cm 底径6.5cm 器高3.7cm 底径/口径0.45

28S E 18の資料も同時期頃の可能性がある。

50S E 3の資料 (第96・97図・写真図版41・42)

井戸の3層からはロクロかわらけと手づくねかわらけが混在して出土している。漆が染み込ませられた白磁四耳壺が出土しているが(太宰府分類のⅢ系)、その形態はⅡ系の白磁四耳壺の形態に近く、Ⅲ系でも古い段階のものと推測される。ロクロかわらけと手づくねかわらけが共に出土しており、この頃から平泉における手づくねかわらけの導入時期と考えられる。大型ロクロかわらけの法量平均値は次の通りである。

口径14.3cm 底径6.9cm 器高3.3cm 底径/口径0.48

28S E 9の資料

28S B 3と28S K 13より新しい。かわらけの出土状況を見ると上部出土と下部(29層)出土に大きく分けられるが、比較的まとまりをもって出土している29層の資料を見ると、ロクロかわらけが主体で手づくねかわらけは小破片が1点のみである。同じ層からは八稜鏡破片が出土している。大型ロクロかわらけの法量平均値は次の通りである。

口径14.3cm 底径7.0cm 器高3.9cm 底径/口径0.48

52S E 9の資料 (第97図)

深さ3.9mの井戸である。主に6層と9～10層で完形に近いかわらけや木製品が出土している。手づくねかわらけはごく僅かで主体はロクロかわらけである。大小の軀体数を比較すると大型のロクロかわらけのほうが多い。

法量平均値 口径14.9cm 底径7.3cm 器高3.9cm 底径/底径0.49

28S E 16の資料 (第97・98図)

「人々給届日記」が記された折敷が出土した井戸である。手づくねかわらけとロクロかわらけが混在して出土している。この井戸からは年輪年代1158年を持つ折敷が出土しており、これを根拠の一つとし、12世紀第2四半期に位置付けている。大型のロクロかわらけの法量平均値は 口径14.4cm 底径7.4cm 器高3.7cm 底径/口径0.51 である。

同時期のかわらけは28S E 2、28S E 4、28S E 15、28S E 17、21S E 1、50S D 8、52S E 1などがある。

28S E 3の資料 (第99図)

手づくねかわらけとロクロかわらけが混在して出土している。他に瓦が比較的多く出土している。そして年輪年代測定1175年を有する折敷が出土している。大型ロクロかわらけの法量平均値は 口径14.1cm 底径7.7cm 器高3.6cm 底径/口径0.54である。同時期のかわらけとして28S E 5、28S E 11、30S E 6の資料があげられる。

52S E 8の資料 (第99・100図・写真図版44～50)

本遺構からは実測可能な手づくねかわらけが281個体、ロクロかわらけ5個体が出土している。手づくねかわらけの形態から平泉最末期に相当するものである。この多量の手づくねかわらけの中に、ロクロかわらけの胎土で作られた手づくねかわらけが少数(実測可能個体11点)含まれている。これらは非常に粗末なつくりであるのが特徴で、ひび割れた部分に粘土を貼ったりしているものもあり、ロクロかわらけの工人が手づくねかわらけの技法でつくったかわらけと考えられる資料である。平泉滅亡直前の僅か数年間の土器様相を反映した資料といえそうである。

小 結 12世紀の平泉において、かわらけが導入された段階は12世紀初頭と見てよいであろう。具体的には柳之御所遺跡堀内部地区の52S E 10出土の資料や中尊寺金剛院下層の資料がそれにあたる。この段階のかわらけは全てロクロ整形である。京都の技法である手づくねかわらけが導入されたのは12世紀中葉(1150年前後)と認識されており、該当するものとしては志羅山遺跡35次南側低地5層下位出土の資料がこれにあたる。柳之御所遺跡堀内部地区においてはこれまでのところ該期の手づくねかわらけがみられない。平泉遺跡群の中でも中心的な遺跡であった本遺跡が、この段階にはその性格が変わっていたと見なければならぬ。この時期、政庁施設(当主の宿館)が別の場所にあった可能性が推察される事象といえる。

(3) 柳之御所における代表的な一括資料

前述した資料を含め遺構内出土のかわらけ時期区分を一覧表にまとめた。

遺構名	ロクロかわらけの割合(%)	ロクロかわらけの割合(%)	法 量 (平均値)				手づくねかわらけの割合(%)	備 考
			口径	底径	器高	底径/口径		
28S E 3	5	8	14.1	7.7	3.6	0.54	13	年輪年代1175年測定の前敷
28S E 9	26	9	14.3	7.0	3.9	0.48	1	28S B 3と28S K 13より新、28S B 2とは実測的に重複
28S E 11	11	2	14.2	7.5	3.3	0.53	5	28S A 4より新、年輪年代1175年測定の前敷
28S E 4	110	16~21	14.2	7.4	3.7	0.52	71	年輪年代1124年測定の前敷
28S E 15	52	42	13.9	7.8	3.7	0.56	38	
28S E 16	9	12	14.5	8.1	3.6	0.56	21	年輪年代1092・1138年測定の前敷
28S E 18	2	0	14.1	6.6	3.7	0.71	0	
31S E 2	2	0	13.7	5.4	4.4	0.39	0	門と鎌倉される風見模様
31S E 4	2	3	13.6	6.8	4.3	0.74	0	31S E 3より古い31S B 4に初られる
34S E 3	1	3	13.9	6.3	4.8	0.45	0	柱状高台1点
52S E 10	6	83~83	13.7	5.6	4.9	0.41	0	12世紀初頭のかわらけであろう
52S E 1	5	37~43	13.2	5.9	5.0	0.45	0	12世紀前半のかわらけであろう
52S E 7	69	16~20	14.3	6.5	3.7	0.45	0	52S B 25より古、道路遺構と空間的に重複
52S E 1	10	0~1	14.0	7.4	3.6	0.53	15	52S D 1より古
52S E 8	4	1~11	13.5	6.4	3.2	0.47	多数	ロクロ胎土の手づくねかわらけあり、年輪年代1185年測定の前敷
52S E 9	14	4~5	14.9	7.3	3.9	0.49	5	12世紀中葉か
50S E 3	10	2	14.3	6.9	3.3	0.49	50	銅印、白磁瓦葺
50S D 8		35	14.4	7.1	3.1	0.49	16	

遺構別ロクロかわらけ計測値一覧表

(4) その他 出土傾向

井戸以外での大量出土例としては55S X 1と55S X 2がある。

55S X 1は径約6mの掘り込みは、中央部に、径約2mの埴川の掘り残しを有する遺構で、何らかの祭祀的な用途が考えられる。埋土から多量のかわけ（総量27,440g）が出土した（12世紀後半）。

55S X 2は中心遺物群に北隣する竅穴建物である。非常に多量のかわけ（546,570g）が出土しており、埴土は一時に運め戻した土と判断される（12世紀後半）。

この他に柳之御所遺跡を取り囲む堀跡からも大量のかわけが出土している。堀からは様々な種類の遺物が多量に出土しており、12世紀後半を中心にものを捨てた場となっていたようである。かわけには様々な形態のものがあるが、資料の一括性、陶磁器との共存関係、層位的な前後関係を明確に示せるものは得られていない。地頭埋納に係ると見られる資料に関しては、追補編にてその状況を概説している。

(2) 陶磁器

堀内部地区から出土した12世紀の陶磁器は同産陶器と輸入陶磁器とに分けられるが、各種類とも器形の全容を知り得る資料や、ある一時期に使用された陶磁器の組み合わせが把握できる出土例は多くない。

(1) 同産陶器（第101～103回）

同産・常産陶器の量が他を圧倒している。厳密な数値は計測できないが両者はほぼ同じくらいの量を持ち込まれているようである。次いで須恵器系陶器、水沼、東山などとなる。器種では瓶・壺類が最も多く、鉢や碗類がこれに次ぐ。平泉遺跡群の中でも同一面積に占める出土破片数が多いこと、壺類の出土が多いのが特徴のひとつで、本遺跡の性格を反映したものと理解できる。

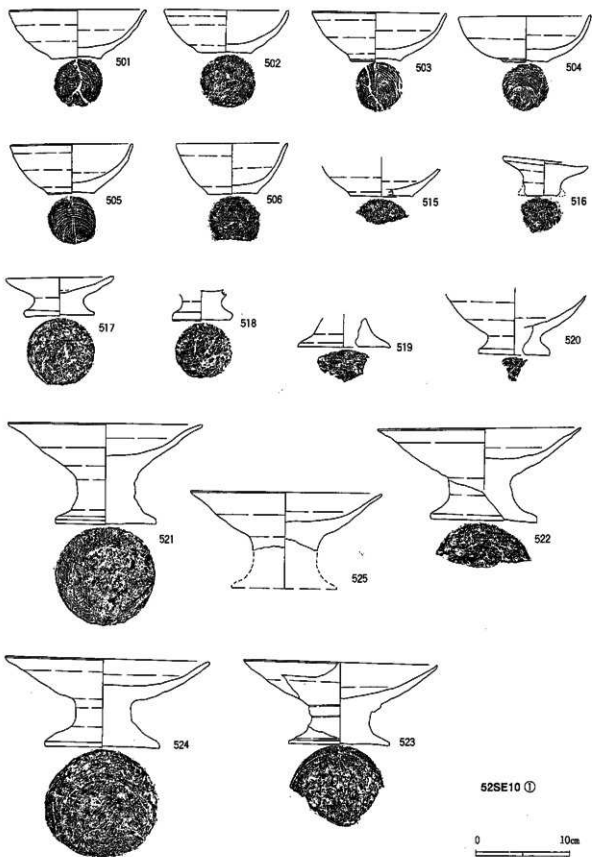
21次～41次調査出土陶器は既にまとめられているので、ここではそれ以降の調査で出土した資料を中心に集成図を作成している。

(2) 輸入陶磁器（第104・105回）

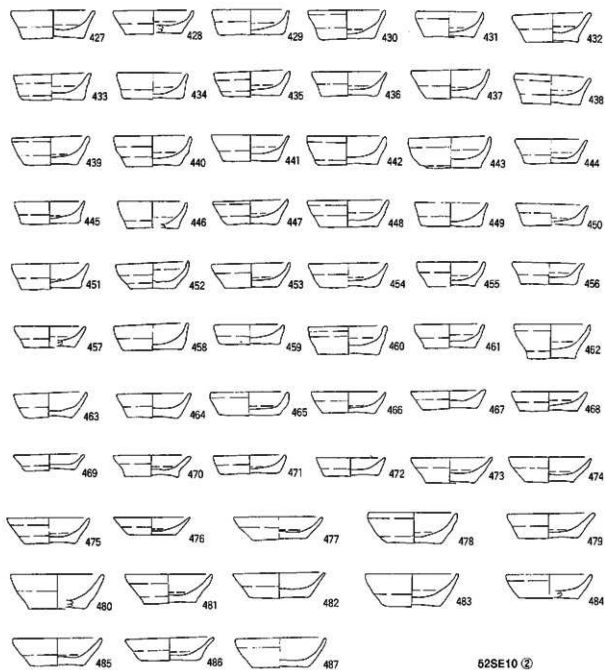
輸入陶磁器が最も多く出土しているのは柳之御所遺跡の中でも堀外部地区であり、堀内部地区がこれよりやや少ない量が出土している。調査面積に占める出土量を比べると他の平泉遺跡群よりは段違いに多い。

柳之御所遺跡堀内部地区では白磁四耳壺や陶器密類が多いのに対し、志羅山・東屋遺跡では碗皿や青白磁の比率が高くなっている。輸入された陶器を見ると平泉遺跡群の中では柳之御所遺跡から9割弱が出土するといった傾向を指摘できる。内訳は堀外部地区29%、堀内部地区57%である。また、種類別比率を見ても白磁に次いで多いのは柳之御所遺跡堀内部地区だけで、平泉の中でも明らかに偏った分布をしている。全体的な傾向として輸入陶磁器と同産陶器に出土状況に際立った違いを見出すことはできない。むしろ両者は遺構内外を問わず混じって破片の状態で出土する場合の方が自然である。そうした中で50S E 3から出土した白磁四耳壺は珍しい例にあたり。

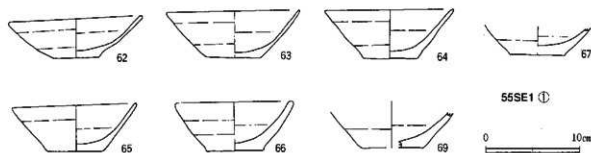
50S E 3から出土した白磁四耳壺は、割れた状態で出土したが接合するとほぼ完璧になる。このような白磁四耳壺の完品は平泉遺跡群では初めての出土である。中国福建省付近の産と推測され12世紀第3四半期の輸入と考えられる。この壺の特異な点は漆のしみこんだ布で覆われていることである。出土した時点では多くの部分が漆布で覆われていたことが観察できたが、多くは取り上げの際に剥落した。残された部分を観察すると、意図的に漆の染みだ布を器面に密着するように貼り付けたと考えられる。漆布が貼り付けられてい



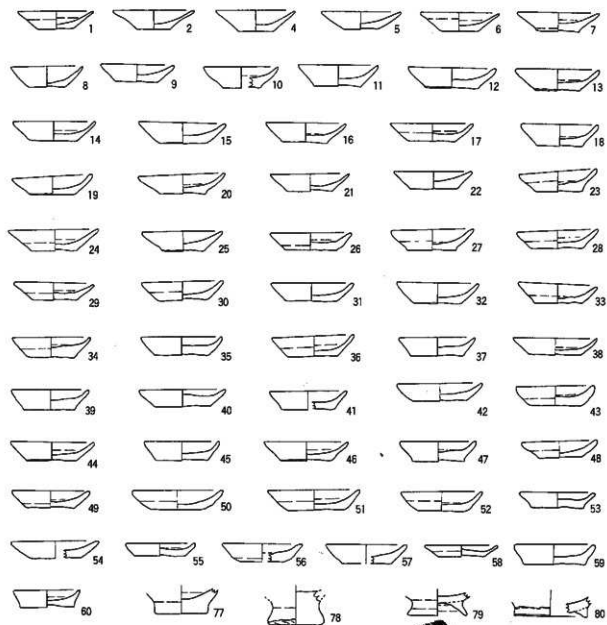
第92図 かわらけ集成図(1)



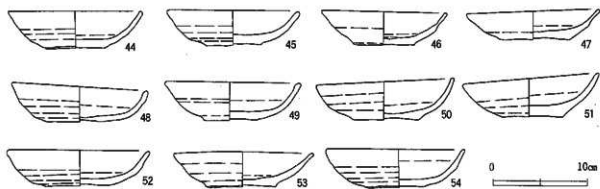
52SE10 ②



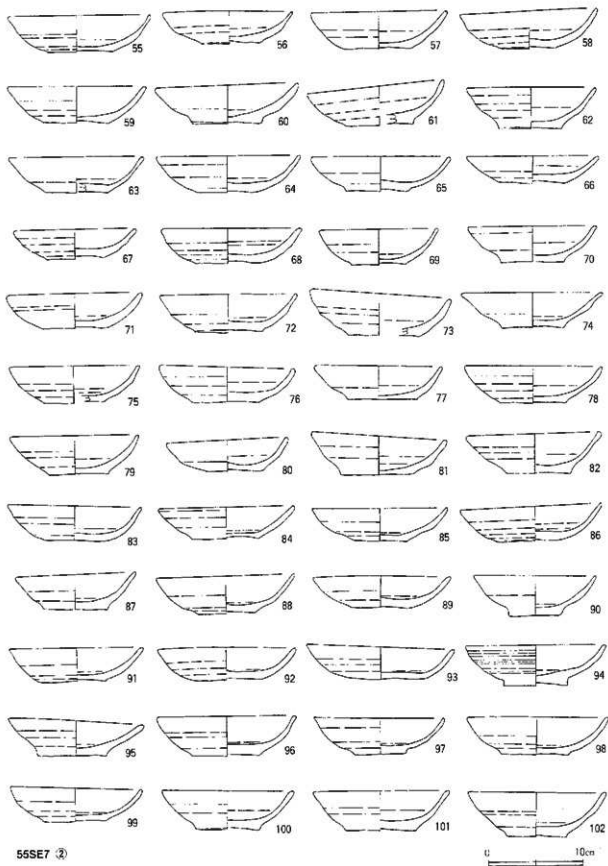
第33図 かわらけ集成図(2)



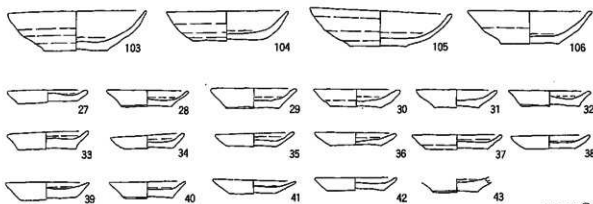
55SE1 ②
52SE7 ①



第94図 かわらけ集成図(3)

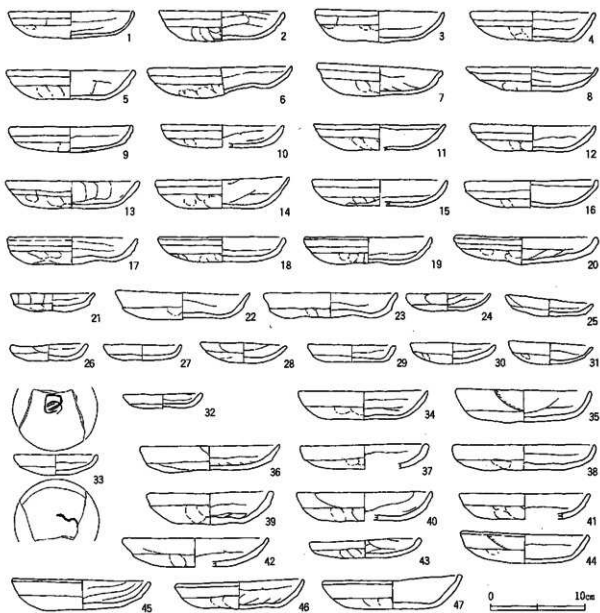


第95図 かわらけ集成図(4)

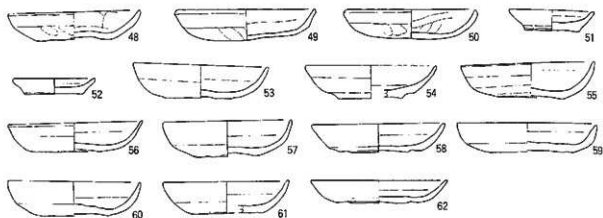


55SE7 ③

50SE3 ①

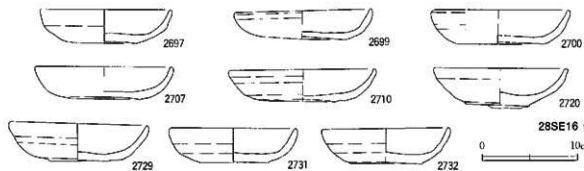
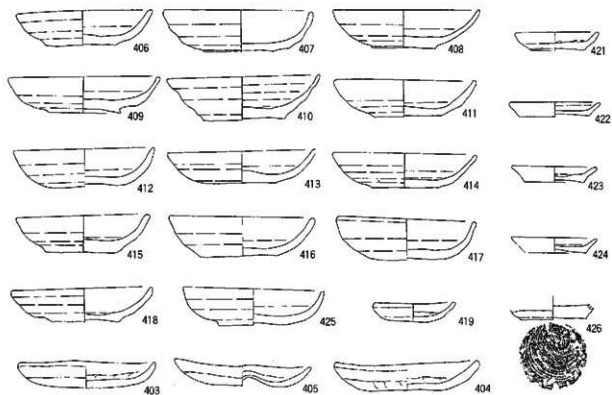


第96図 かわらけ集成図(5)



50SE3 ②

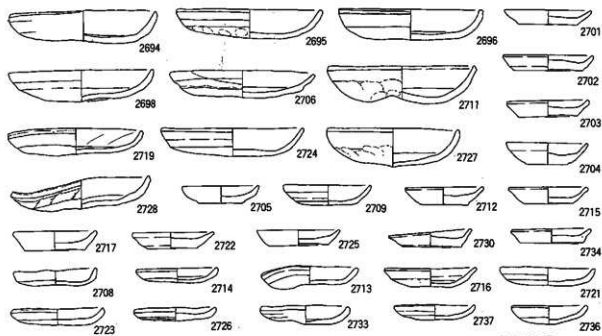
52SE9



28SE16 ①

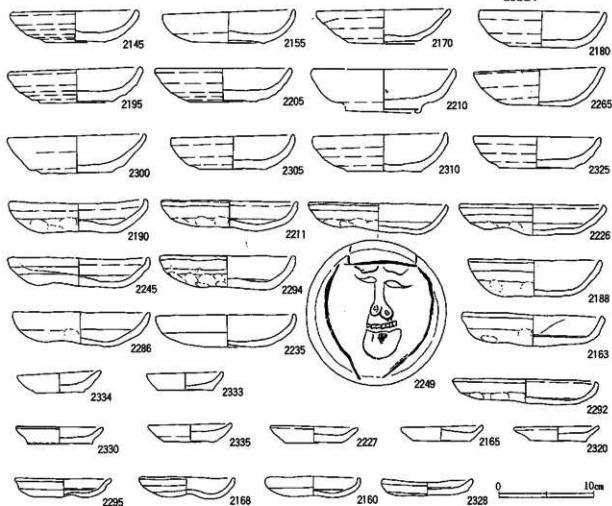
0 10cm

第97図 かわらけ集成図(6)

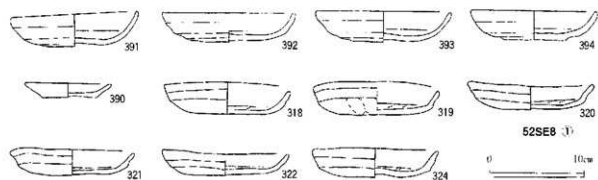
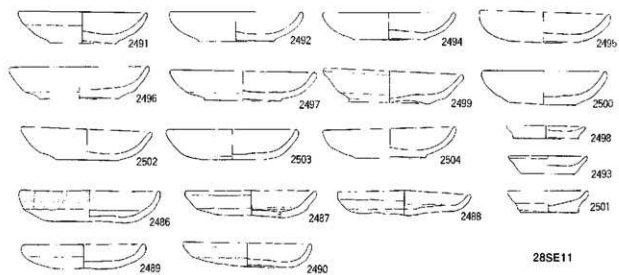
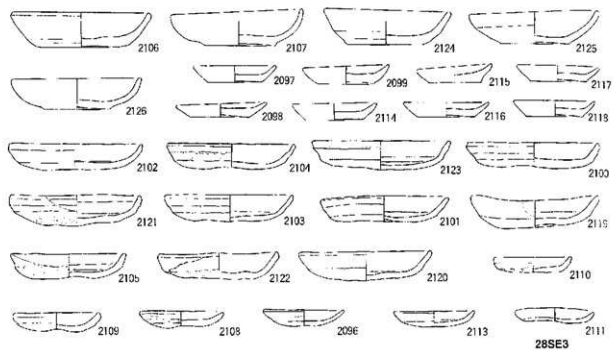


28SE16 ②

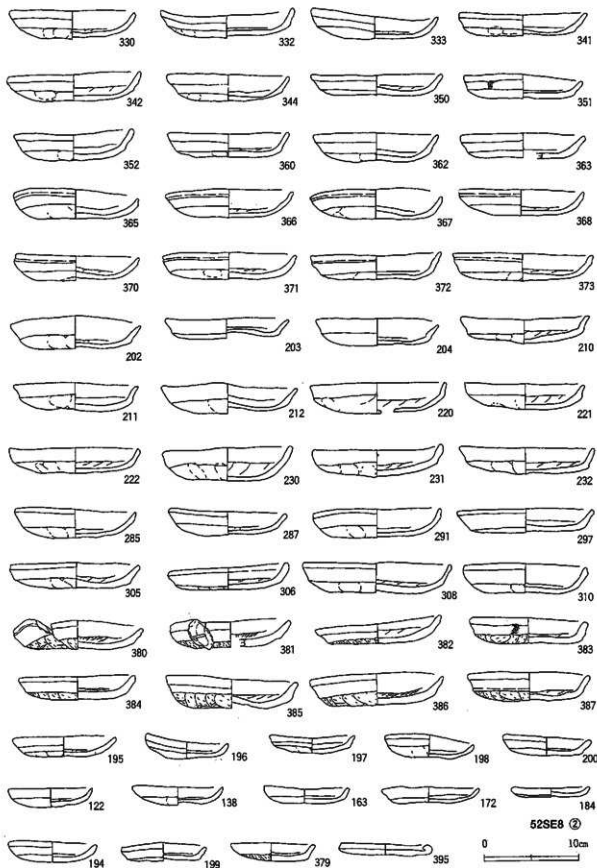
28SE4



第98図 かわらけ集成図(7)



第99図 かわらけ集成図(8)



第100図 かわらけ集成図(9)

た範囲は外底面から口縁外面までの外面全部、そして口縁内面の頸部付近までと推測される。布の素材は未
 同定であるが麻布と推測される。

白磁四耳壺に漆布を貼り付ける意味については、大きな課題として残っている。内部に入れたものを密封
 する、運搬時の保護、祭祀的な目的であったとは考えられず、可能性の一つとして蒔絵の工程の一つに「布
 着せ」という工程がある。柳之御所遺跡ではこれまでも漆工に関連する遺物が出土しており、その作業中
 に壺が割れた等の不都合が生じ廃棄されたという説がある。何れにせよ壺に漆布を貼り付けたのは平泉搬入
 後の可能性が高いことは明らかである。

(3) 平泉遺跡群と柳之御所遺跡の比較

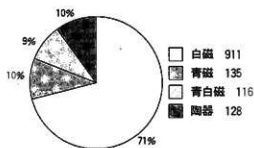
本遺跡と周辺遺跡の輸入陶磁器の出土量を比較するための一覧表を作成した。これまでも指摘されてい
 るように、出土量では柳之御所遺跡堀外部地区・堀内部地区が多く市街地で調査の進んでいる志羅山遺跡や
 泉屋遺跡がこれに次ぐ。器種構成の特徴をみると柳之御所遺跡堀内部地区では白磁四耳壺や陶器壺類が多い
 のに対し、志羅山・泉屋遺跡では碗皿や青白磁の比率が高いといった傾向があり、遺跡の性格の違いが出土
 した陶磁器の構成にも現れている。

遺跡名	区域	白	壺			碗											定数												
			II	III	IV	化有	化無	北	北	北	北	北	北	北	北	北		北	北	北	北	北	北	北					
柳之御所内部地区		9	233	209	35	0	2	8	10	13	14	41	23	23	11	3	11	18	0	6	2	2	3	1	2	3	21	0	803
柳之御所外部地区		14	172	286	66	0	3	14	9	8	28	54	12	8	34	3	15	30	1	4	0	1	4	5	7	3	14	6	911
志羅山遺跡		9	58	121	32	1	1	3	3	13	22	18	36	6	22	1	20	26	3	3	2	0	0	2	2	1	10	1	417
泉屋遺跡		0	17	118	17	2	0	2	7	10	21	23	4	3	34	1	6	28	1	4	1	0	0	0	0	1	11	1	312
毛越寺跡		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
中尊寺		1	8	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
北部地区		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東部地区		0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
南部地区		0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
西部地区		0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
総数		33	494	960	155	3	6	27	30	44	85	138	76	40	102	8	53	107	5	17	5	3	7	8	12	18	46	7	380

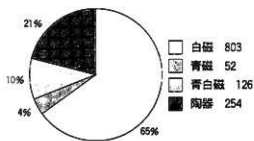
平泉遺跡群輸入陶磁器構成 1

遺跡名	種類	分型	青	青白磁					青白磁					陶器					総数											
				碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗	碗		碗										
柳之御所内部地区			2	2	39	2	0	5	0	0	4	3	60	5	6	8	8	0	0	39	3	150	54	3	24	12	0	8	437	
柳之御所外部地区			0	5	84	9	3	20	1	0	3	17	8	15	27	36	13	17	3	1	4	0	101	17	2	6	2	1	0	406
志羅山遺跡			0	4	24	2	0	21	2	0	0	4	4	15	21	19	21	12	0	0	2	0	28	3	3	0	1	0	0	186
泉屋遺跡			2	3	39	7	0	15	0	0	10	13	4	9	15	1	6	0	1	2	0	13	9	0	0	0	0	0	0	148
毛越寺跡			0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
中尊寺			1	0	8	0	1	0	0	0	0	1	0	3	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	18
北部地区			0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東部地区			0	0	3	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
南部地区			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
西部地区			1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
総数			12	14	197	21	3	64	5	6	4	35	28	94	65	80	50	44	3	2	47	3	295	83	8	30	15	1	8	1217

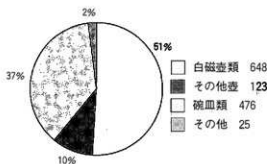
平泉遺跡群輸入陶磁器構成 2



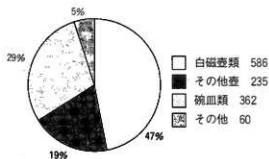
柳之御所遺跡場外部地区 輸入陶磁器種類比率



柳之御所遺跡場内部地区 輸入陶磁器種類比率



柳之御所遺跡場外部地区器種別構成



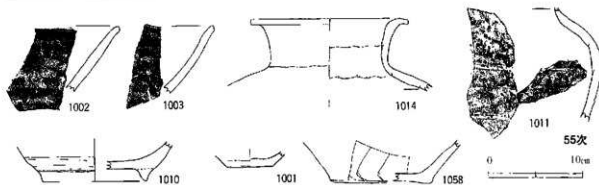
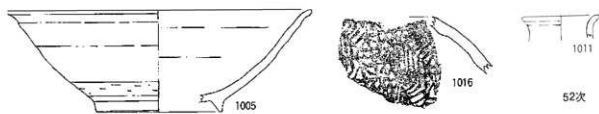
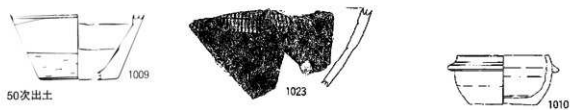
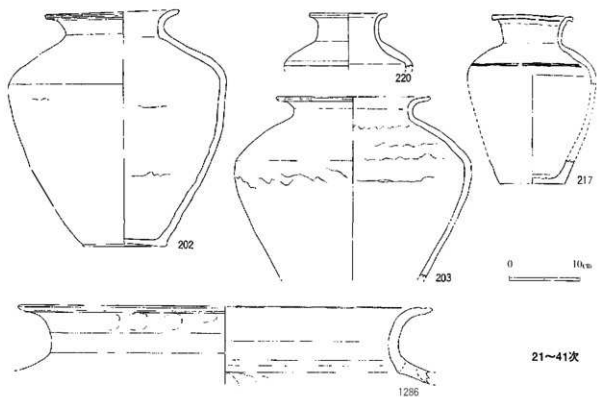
柳之御所遺跡場内部地区器種別構成

(3) 瓦

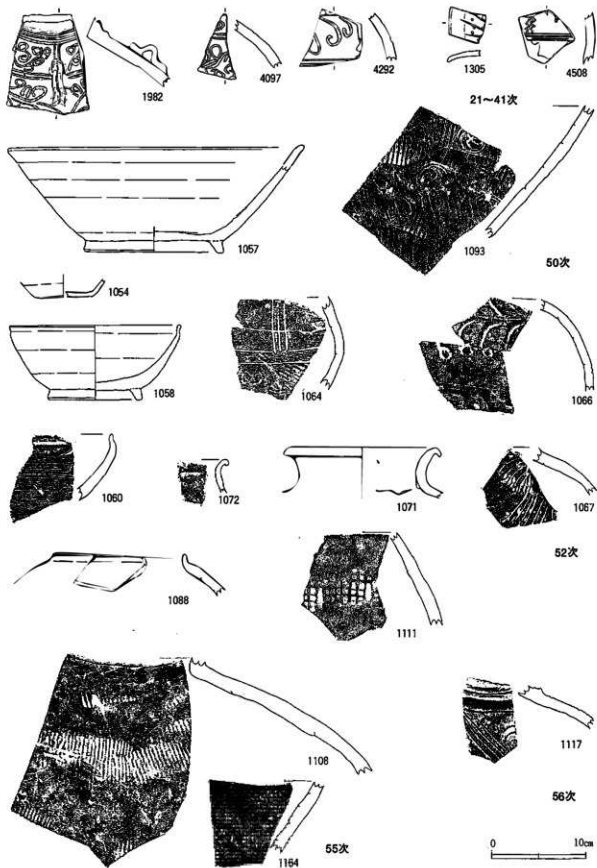
柳之御所遺跡場内部地区では平泉遺跡群の中でもとりわけ多量の瓦が出土した。

堀内部地区の6年間の調査(21~41次)では81kg、50次調査では計測していないが全出土量は8点、55次調査では12kg、52次調査では18kg、56次調査では3.7kg出土している。平泉町教育委員会が1980年に調査した13次調査区(23SG1の南西にあたる)からは約700点出土しているが重量は不明である。量的には総瓦葺の建物があったとは想定できない。しかしながら、文様や反り・大きさなどが異なる瓦の存在から複数の建物に用いられていたことは想像に難くない。

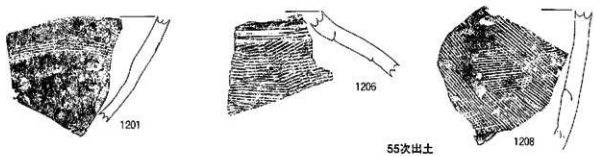
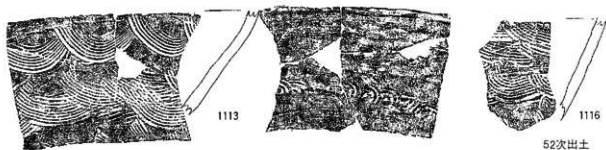
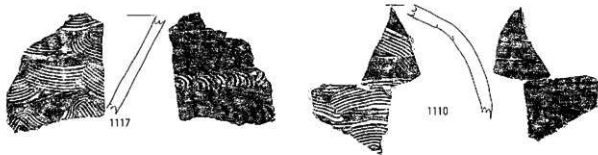
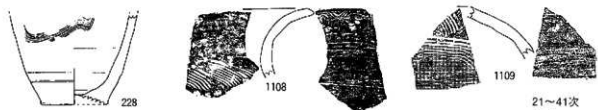
分布を見ると園池23SG1の南方(地形的に下がっていくほう)、同じく園池23SG1の西方(地形的に下がっていくほう)、そして中心建物群の付近である。堀跡21SD1の12世紀堆積の層からは数点しか出土していない。以下、50次調査以降に出土した瓦を中心に図示した。(第106・107図)



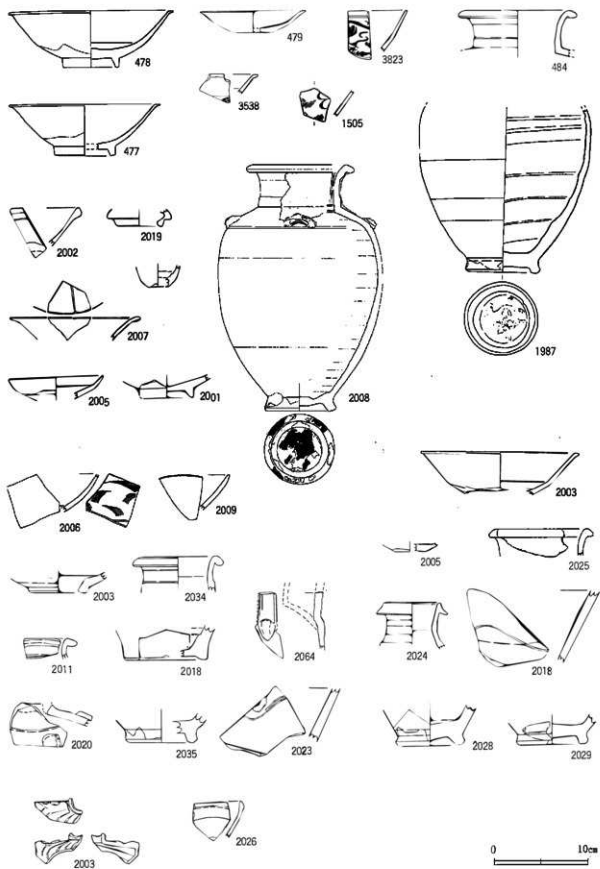
第101图 陶磁器(常滑)



第102图 陶磁器 (渥美)



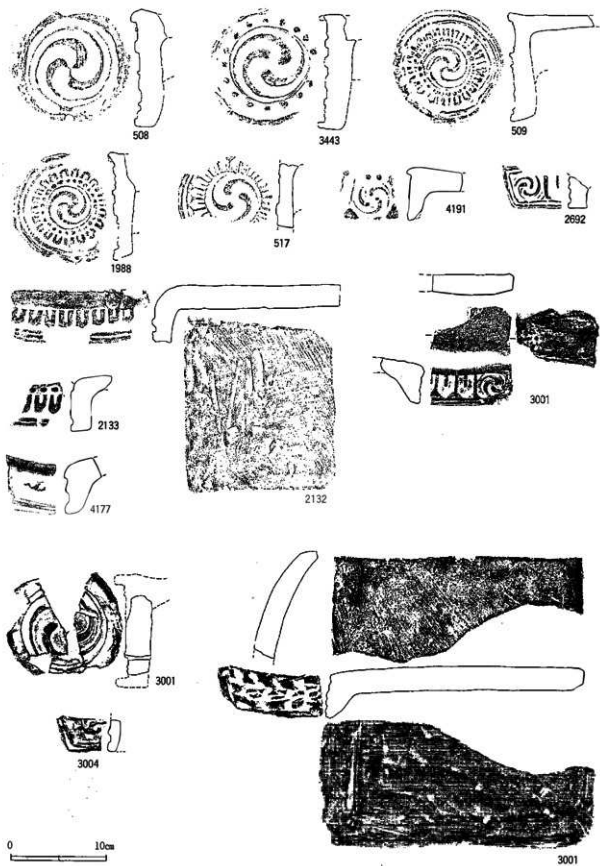
第103図 陶磁器 (須恵器系・水沼)



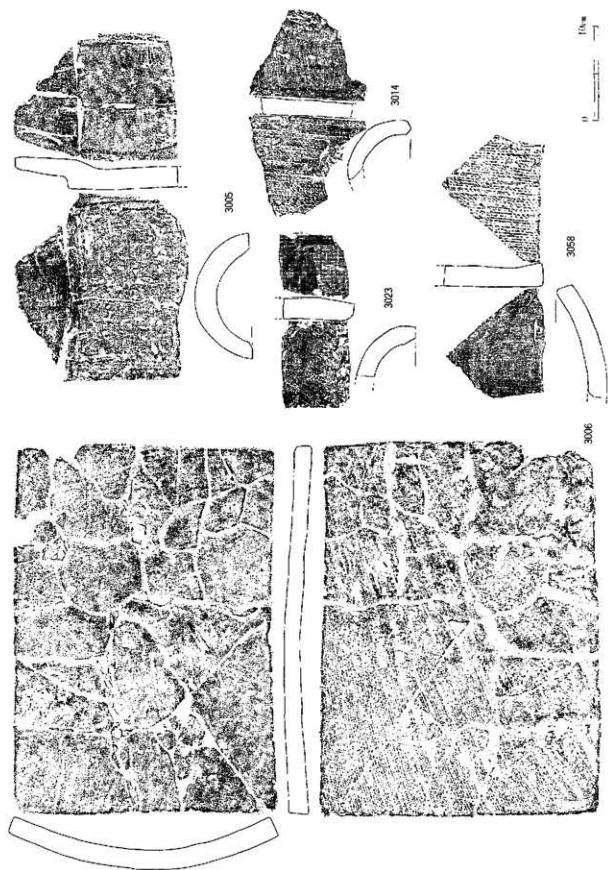
第104图 陶磁器(白磁)集成图



第105图 陶磁器（青磁・青白磁・中国産陶器）集成图



第106图 瓦集成图(1)



第107圖 瓦集成圖(2)

〔4〕木製品類

種類が多く分類できないものも相当数ある。21～41次調査の資料は報告書でまとめられているため、ここでは50次以降の資料を中心にまとめている。(第108～112図)

(1) 折敷

椀材の薄板に、大小の差はあるが長方形に切り整え、幅5～10mm程の縁を周縁に巡らせたものが多い。完全な形で出土することは稀で転用されていることの方が多いともいえる。よって折敷と認定できたものの方が珍しい可能性もある。井戸からの出土が圧倒的に多く他に土坑類や堀跡からも出土する。ここでは特徴的な資料を中心に概説する。

56SD39(T4)堀跡から出土した折敷は、脚が取り付けられていた可能性が高い資料である。縦39cm、横26cm、厚さ2.4cmを測り、周縁は一辺が欠けているものの、他はほぼ完全な状態で残っている。底板の裏面に十字と楕円状に28カ所の釘穴が認められること、底板の厚さも一般的な折敷に比べかなり厚く、平泉で出土する折敷の中では異質な特徴を有している。また、底板には表裏に傷跡が多く認められ、使い捨てではなかった可能性や転用(まな板など)の可能性も指摘できる。

52SE8からは破片数で33点出土している。その中で9層出土の折敷(5010)は年輪年代測定で1186年伐採の年代が導かれている。共伴したかわらけは数も豊富で平泉最末期の基準資料になり得る資料である。

50SE3と52SE8からは底板に墨書がある折敷が出土しているが、内容は未解読である。

(2) 漆器

椀皿が中心であるが遺存状態は整った形を残すものは少なく、破片となったものが圧倒的に多い。また、木地が腐食して漆膜のみが残る場合も相当数ある。

52SE8から椀が2点、55SE1から椀が2点、55SK40から椀が1点、56K33から椀が1点、56SD39堀から椀が4点出土している。文様を施したものはない。4001は口縁部が片口または輪花状になっている。

(3) 箸

細い棒に面取りの加工をし、両端を細めたものが多い。堀跡、井戸、トイレ状遺構などから多く出土する。

(4) 下駄

一木製の蓮瓣下駄と南部と台部が別材の蓋州下駄とがある。56SD39堀から3点(割れを継いでいるものあり)出土している。

(5) 曲げ物

37SE2から1点、50SE3から1点、52SE8から1点、52SK10から1点、56SK26から1点、56SD39から1点出土している。

(6) その他の木製品

櫛 5056・5057は52SE8から出土したもので刻線で文様を施している。50SE3からも1点出土している。
扇の骨 50SE3から1点、56SD38堀跡から1点、55SE1から3点、52SE8から6点が出土している。
5050は4本が組み合わされた状態で出土した。

木簡 木筒及び墨書のある木片は52S E 8から5点出土している。5005にはカナ文字が書かれている。

杓子 52S E 8から3点、56S D39から1点が出土している。

糸巻 なし

物差し 50S E 3から出土した資料は腐食が著しい。

格子 55S E 1、55S K40から出土している。

形代 52S E 8から3点出土している。5089は刀形であろうか。

宝篋 半分に欠損した宝篋の蓋が50S E 3から出土している。

鍬 56S D38馬蹄から出土している。先端に穿孔がある。

井戸杵 遺構の項を参照。

チュウ木 トイレ状遺構を始め、弁口、堀跡などからも出土する場合がある。出土量は相当数にのぼり、折敷などの板材を転用しているであろう。

刻み目のある板状木製品 細長い板状の製品で一方の端部側面に刻みが19個以上施されている。端部から10番目の刻みに対応する正面と背面に線が刻まれている。用途不明の製品である。

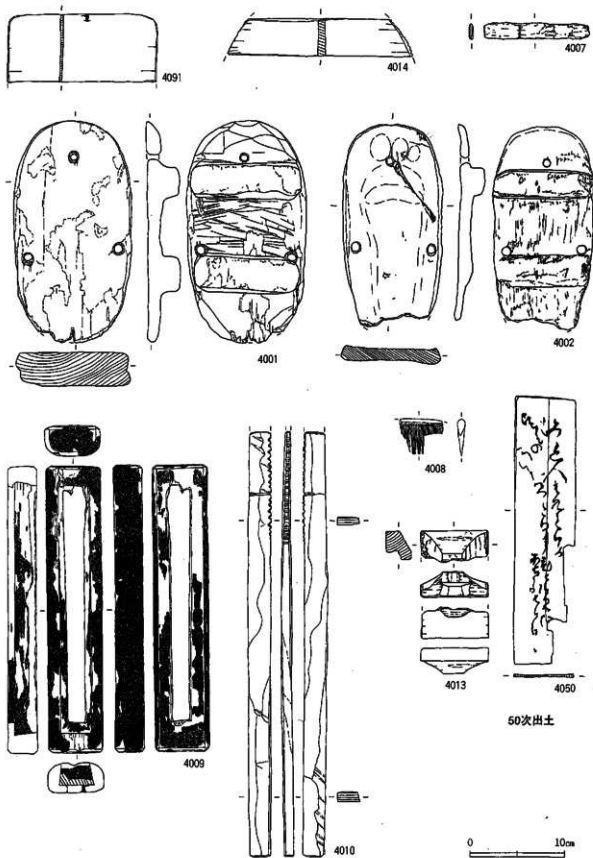
特異な漆塗りの木製品 内側が桶鉢形に例り貫かれ、外面、内面ともに漆が塗られている。底面の内側には布の痕跡がある。何らかの容器と考えられるが具体的な用途は不明である。

〔5〕文字・絵画資料 (第113・114頁)

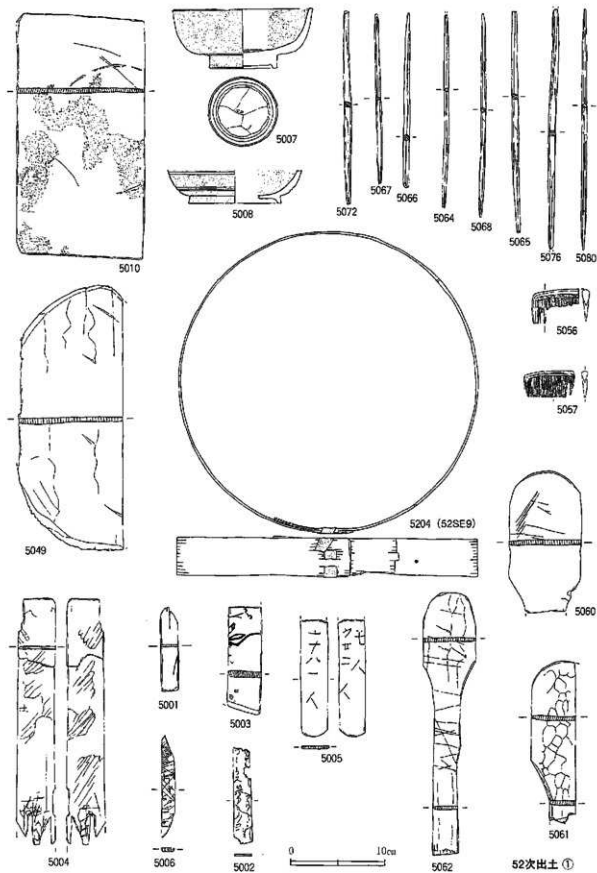
5013は銅製の印章である。印面は角がやや丸い正方形(4.7cm四方)で、厚さは0.7cm、印面から鈕頂部までの高さは3.7cmを測る。重量は167.4gで大きさのわりに重量感がある。鈕の部分は弧状となっており、特に孔は穿たれていない(弧銚無孔)。材質は銅で鋳造により製作され、鋳から取りだした後、細部を工具等で調整している。鈕槽部には、方向を明示する「上」の文字が刻印される。印面は陽刻、楷書体で「磐前村印」の文字がある。印部の凹面に、部分的に朱と思われる赤色顔料が残存しており、実際に使用した痕跡が認められるが、印面はほとんど摩耗していない。「磐前村印」は「いわさきむらいん」、或いは「いわがさきむらいん」と讀まれ、地名であると推定される。

2080は28S E 2出土折敷に家模造の対の塚と考えられる絵が描かれたものである。2249は28S E 4出土の手づくねかわらけの裏面に人面を墨書したものである。2772は墨で「人々給朝日記」と記された折敷である。

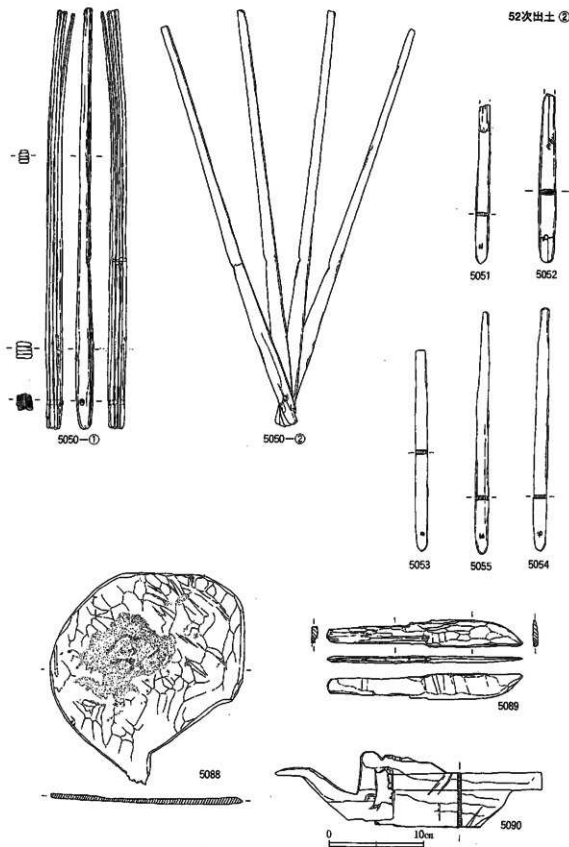
この他にも木筒・木片・漆器碗・かわらけ等に墨書がみられる資料があるが残存状態が良いとはいえず解読できないものがほとんどである。しかしながら出土したのものに関してはほぼ全点がこれまでの報告書には掲載されており、今後解読が進む可能性は高いと思われる。



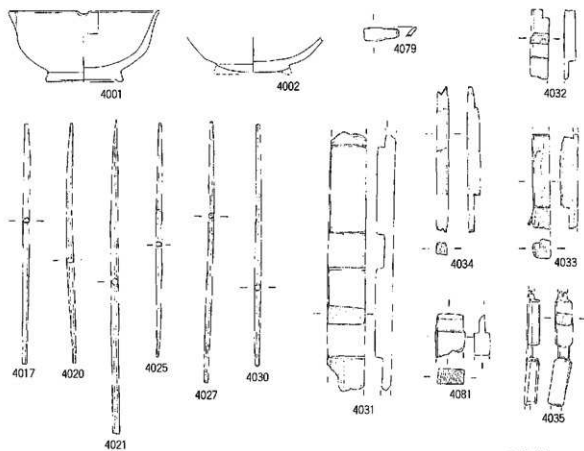
第108圖 木製品集成圖(1)



第109圖 木製品集成圖(2)

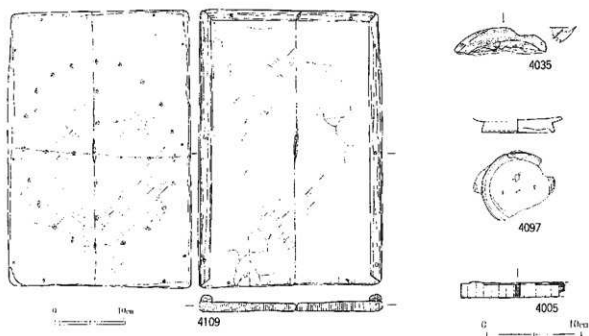


第110圖 木製品集成圖(3)

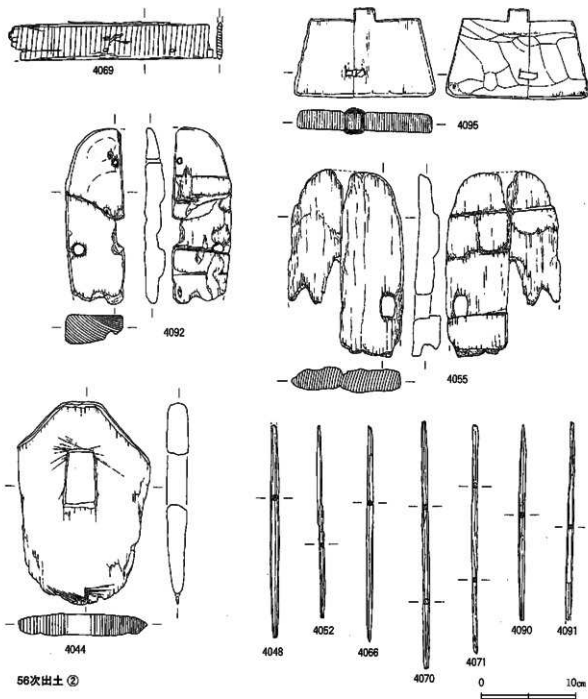


55次出土

56次出土 ①

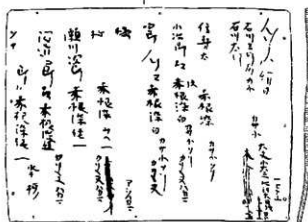


第111图 木製品集成图(4)



58次出土②

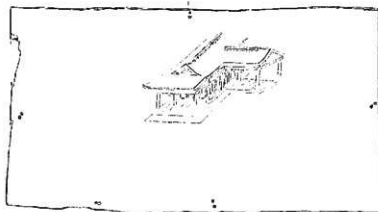
第112圖 木製品集成圖(5)



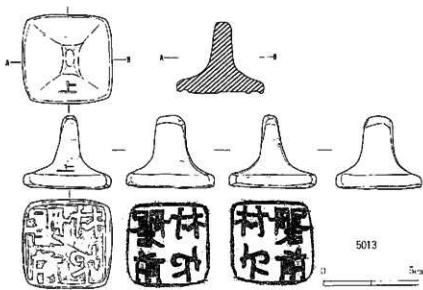
2772



2249



2080



5013



第113図 絵圖・文字資料集成圖(1)

〔6〕金属製品（第115図）

提子 銅製で提子の片口部に付く金具である。

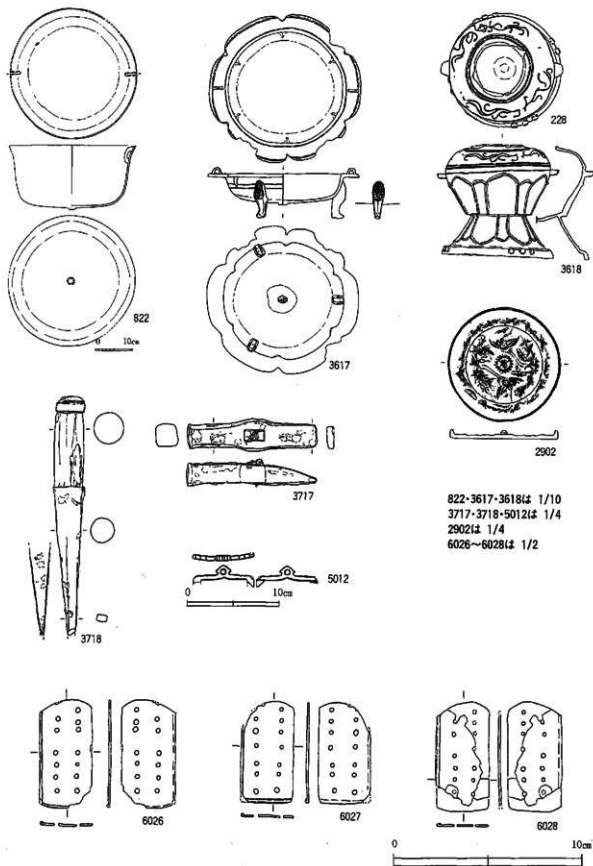
鍮の札 52SK24から3点出土している。

内耳鉄鍋 堀跡21SD1の底面付近から出土した。ほぼ完品で口縁を僅かに欠く。なお、内耳土鍋の口縁部破片が21SX4から出土している。

鉄礎・壺 28SK14の底面は隅丸方形をしているが、その向かい合う隅のそれぞれによった位置に鉄礎と壺（袋匳）が意図的に置かれていた。鉄礎の柄は埋置された後に腐敗したと考えられる。出土状況から地獄に係わる行為に用いられたものと推測される。

火舎・花瓶 21SK108の下半から花瓶が上、火舎が下になる状態で重なって出土した。ともに鉄錫物製である。花瓶は本体部と脚部を別々に作って接合している。口唇部は短く直立する。器高は29.7cmである。火舎としたものは吊り手2個が3617の上につく。内面には火を焚いた痕跡がある。花瓶としたものとともに蒸摩豆などに用いられる宗教用具と推測した。

和鏡 31SE2の底面直上から出土した松鶴鏡である。出土状況から非J1状遺構の鎮めの儀式に係わるものと推測される。



第115图 金属製品集成图

3 まとめ

遺構変遷

柳之御所遺跡堀内部地区の12世紀における遺構変遷について、歴史的な事象とも若干絡めながら整理し、本報告書のまとめとしたい。

存続期間

21次～41次調査を総括した報告書（Ⅱ）（岩手埋文1995）では、柳之御所遺跡は奥州藤原氏三代秀衡の時代（12世紀後半）の遺跡とされていた。本遺跡が国指定史跡となり、内容確認調査を控えていた平成12年度、平泉における最古の形態のかわらけが井戸状遺構52S E 10からまともに出て、柳之御所遺跡は初代清衡が江刺から平泉へ移った頃より使用されていることが明らかになった。清衡の平泉入府は11世紀末から12世紀初頭と考えられているが、本稿ではひとまず12世紀初頭としておく。

『古妻鏡』には文治5年（1189年）に奥州藤原氏は滅んだとある。また、考古学的な成果からは井戸状遺構52S E 8から1187年伐採の材の折敷が多量のかわりけと共に出土しており、柳之御所遺跡が1189年の平泉滅亡まで使用されているのは確実という感がある。よって終末年代に際して本稿ではひとまず12世紀末としておく。加えて滅亡後の鎌倉時代の遺構・遺物は柳之御所遺跡からは殆どみられない。この後、遺跡が再び利用されるのは16世紀後半以降である。

柳之御所遺跡の使用開始時期は12世紀初頭、廃絶年代は12世紀末（1189年）とすることができる。出土するかわらけにはこの期間を通じて盛衰が認められる。したがって検出された遺構にもそうした状況が反映されていると見た方が素直であろう。

堀について

前述したが21次～41次調査をまとめた報告書では堀についても12世紀後半に位置付けられていた。柳之御所遺跡は2重の堀で囲まれる範囲を堀内部地区、その外部を堀外部地区と呼び分けをしている。東を北上川、西を猫岡が臨津（低湿地及び沢地形）に挟まれた本遺跡が在る台地の縁に自然地形に沿って堀を巡らせている。こうした現地形を活かした堀の区画は11世紀代、安倍・清原氏の構（館）と立地を含めて共通点が多い。したがって柳之御所遺跡を巡る2重の堀に関しては、初代清衡が平泉に拠点を移した際、この地に安倍・清原氏の構（館）の系譜を引く居館を築いたときに構築されたと考えられる。前述したように12世紀初頭のかわりけが出土していること、12世紀後半には多量の遺物が廃棄され埋まりかけていること、堀の外から堀内部へと道路が途切れなく連続して延びていることなどからも構築年代を12世紀初頭とするのが最も妥当と考える。

堀の持つ防衛的な機能は次第に失われ、様々な遺物が廃棄される場となっていく。しかしながら、埋まりきってはいないこと、また堀を埋め立てようともしていないことから、堀は最後までその痕跡を留めていた。よって平泉滅亡段階までは堀の外と内とを区画する意味は有していたと考えられる。

中心建物群

堀内部地区のはじめ中央部、園池（23S G 1）の北東約20m付近には規模の大きな建物が集中する場所がある。建物の規模は平泉遺跡群の中でも大型であり、その検出位置からも本遺跡の中心施設であることは間違いない。該当する遺構は、28S B 1・28S B 2・28S B 3・28S B 4・28S B 6・28S B 7・28S B 8・28

SA1・55SX2で、いずれの建物も軸方向をほぼ正方位となるように建てられており、重複して検出されている。この地区には他に井戸状遺構、祭祀遺構、竪穴建物、土坑、槽（溝）などがある。

これらの中心建物群には5段階の変遷を想定できる。しかしながら空間的には重複するものの、柱穴どうしが切り合わない場合もあって、厳密な前後関係を捉えることはできない。複数の解釈が可能で、これまでもいくつかの変遷案が提示されている。まず、各遺構の前後関係及び諸条件をまとめておく。

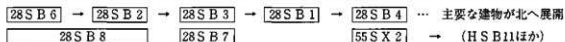
柱穴間の新旧関係をみると次のようになる。

28SB2 < 28SB7 > 28SB6 < 28SB1 (新 > 古)

その他に以下の条件もある。

- ・28SB7と同時存在の可能性があるのは28SB3である（他の建物は空間的に重複するため）
- ・28SB4は6段階（12世紀最末期）には位置付けられない（重複する28SE11から年輪年代1179年伐採材を使った折敷が出土しているため）。
- ・28SB8も6段階（12世紀最末期）には位置付けられない（重複する28SE11から年輪年代1179年伐採材を使った折敷が出土しているため）。
- ・28SB2は1・2段階以外には位置付けられない（重複する28SE2・28SE9から出土したかわかけの年代観から）
- ・28SB3は4段階よりも古く位置付けなければならない。

そうした中、現時点では以下のように変遷していると想定した。古い順に並べるとこのようになる。



これに加えて、中心建物28SB4の柱穴を切る建物50SB4がある。よって建物の変遷は12世紀初頭から12世紀末までに6段階の変遷を想定することができるのである。

前述した中心建物群とは場所を異にして規模の大きな建物がみられる。これらの建物も堀内部地区の中心施設であったことは疑いなく。それまで一貫して同じ場所で建て替えて繰り返していた中心建物群が約90m北側へ移動したと解釈した。これが中心建物28SB4より新しい6段階目の建物50SB4と時期的に同じではないかと考えられ、平泉藤原氏が滅亡する段階に建てていた中心建物と位置付けた（52B25、55SB6）。

その他の建物

これまでの調査で39棟の建物が想定されている。中心建物に付属しその機能を補助する施設、戦能・実務官衙といった異なる性格をもつ施設と推察される。中心建物群は正方位を意識して建てられたものが多いが、その他の建物は違う主軸方向を持つ。このことから中心建物群の特殊性、建物の性格の違いが、規模のみならず主軸方向にも現れていると推察できる。そのため、ある時期を捉える場合にも複数の主軸方向を持つ建物が同時存在している様相が想定されるのである。

これら12世紀の建物に関しては細かく時期区分することは難しい。前述した6段階の変遷に対応することができればよいのかもしれないが、全ての建物が同時期に一斉に建て替えを行うわけでもないであろうし、建物の存続時期には長短があつて当然である。したがって現時点では中心建物群に認められた6段階の変遷という成果を他の建物（及びその他の遺構）に完全には反映できないと判断した。以下、これとは別な遺跡内での画期を捉え、それに基づいて遺構変遷を整理していくが、中心建物の6段階変遷はその中に活かしていく。

遺跡内での画期

遺構の重複関係、出土遺物の年代観などから考えて後述する3つの段階を想定し、これに基づいて検出された遺構を整理してみたい。古いほうから新しいほうへⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期としているが前述したように中心建物群の重複関係をみれば細分が可能で、それはⅡa・Ⅱb…などと表現する。

Ⅰ期…本遺跡が使用された最初の段階。自然地形に沿って堀が巡り、この堀によって外部とは隔てられていた。奥州藤原氏初代清衡が平泉のこの地に移ってきた12世紀初頭から12世紀前葉の様相。

Ⅱ期…堀の防御的な意味が薄れはじめ堀内部に東西南北に縦貫・横断する道路が構築される。この道路は平泉拠点地区を区画する道路に連続するもので、柳之御所遺跡が都市域と接続された段階とみることができる。12世紀中葉。

Ⅲ期…堀内部に園池が整備される。前述した道路も塗り替えられる。規模の大きな建物がこれまでよりも北に建てられるなど大きな変化がある。こうした事象を基に細分できるはずだが、ここでは一括して扱う。12世紀後葉から12世紀末の様相で『吾妻鏡』に記された「平泉館」に相当すると考えられ、周辺には藤原氏類族の居所・無量光院・加羅御所が取り巻く様相が想定できる。

区分

遺構間の切り合い、出土遺物の年代観、建物や塀(柱列)・道路であれば、その軸方向(角度)などを根拠にして上述した各段階ごと遺構を整理した。その中でさらに細分の可能なものに関しては分けている。

Ⅰ期

①建物

遺構名	軸方向	柱間寸法	その他
28SB6	N-6°-E	10.3尺	28SB1、28SB7より古い。
28SB2	N-1°-E	9.6尺	
28SB8	N-2°-E	9尺	本来は5×2間の身舎に二面庇のつく建物か。
55SB5	N-6°-E	8尺主体	
HSB1	N-14°-E	6.9尺	
HSB2	N-11°-E	5.5-8.3尺	間尺の基準は見出せない。
HSB3	N-7°-E	4.1-8.3尺	間尺の基準は見出せない。
55SB8	N-3°-E	6.5尺、8尺	
50SB6B	N-18°-E	6.8-8.5尺	
52SB18	N-4°-E	6・7・8尺	
55SB19	N-6°-E	7・8尺	
HSB13	N-23°-E	6.4尺・7.6尺	

②横列、塀

55柱列1(軸方向N-6°-E) 23SA4(軸方向N-6°-E)

③その他の遺構

井戸状遺構:36SE3、52SE10、55SE1、31SE4、28SE3

竪穴遺構:52SI2

Ⅱ期(Ⅱa・Ⅱb期に細分される可能性あり)

①建物

遺構名	軸方向	主要柱間寸法	細分	その他
28SB3	N-2°-E	10.3尺	Ⅱa	
28SB7	N-1°-E	-	Ⅱa	建物構成する柱穴が少ないので要検討。
50SB6A	N-17°-E	8尺	Ⅱa	
56SB2	N-19°-E	7.6-8.8、8.5尺	Ⅱa	
52SB19	N-17°-E	6.6-9.6尺	Ⅱa	

遺構名	軸方向	主要柱間寸法	細分	その他
HSB6	N-15°-E	8尺、8.2尺	Ⅱa	
52SB14	N-22°-E	6.5・7.5尺	Ⅱa	
55SB24	N-7°-E	7尺	Ⅱa	
28SB1	N-6°-E	9.6尺	Ⅱb	
31SB7	N-1°-E	7尺	Ⅱb	Ⅲa期になる可能性あり。
HSB7	N-17°-E	5.5-8.3尺	Ⅱb	間尺に基準を見出せない。
HSB8	N-20°-E		Ⅱb	
HSB9	N-19°-E	6.9-7.9尺	Ⅱb	間尺に基準を見出せない。
48SB1	N-32°-E	8尺	Ⅱb	
HSB15	N-26°-E	6.2-7.6尺	Ⅱb	
HSB16	N-26°-E	5.8-9.6尺	Ⅱb	

②横列・塀、道路状遺構

Ⅱa期：50SA2（軸方向N-17°-E）、23SA3（軸方向N-0°）

Ⅱb期：52SC1（軸方向N-17°-E）

③その他の遺構

井戸状遺構：52SE7（Ⅱa期）、50SE3（Ⅱb期）

Ⅲ期（Ⅲa期・Ⅲb期に細分される可能性あり）

①建物

遺構名	軸方向	主要柱間寸法	細分	その他
28SB4	N-2°-E	9尺	Ⅲa	
31SB7	N-1°-E	7尺	Ⅲa	Ⅲ期にも含めている。
55SB16	N-12°-E	7.5尺	Ⅲa	
50SB3	N-11°-E	7尺台	Ⅲa	
23SB1	N-1°-E		Ⅲa	
28SB9	N-1°-E		Ⅲa	
23SB2	N-5°-E	7.5尺	Ⅲa	
HSB14	N-27°-E	6.1-6.6尺	Ⅲa	
HSB17	N-2°-E		Ⅲa	
HSB18	N-6°-E	8尺	Ⅲa	
HSB19	N-1°-E	5.7-7.1尺	Ⅲa	
55SB6	N-9°-E	10・10.9尺	Ⅲb	
52SB25	N-11°-E	9・10.25尺	Ⅲb	
56SB1	N-7°-E	8・9尺	Ⅲb	
HSB10	N-22°-E	7.6-8.5尺	Ⅲb	
HSB11	N-11°-E	7.3・8.3・7.6尺	Ⅲb	28SB4より新。平面形は50SB4を再考したものの。
55SB20	N-12°-E	8・9.5尺	Ⅲb	
31SB5	N-22°-E	10.7,10.2,7.9	Ⅲb	間尺に基準を見出せない。
HSB20	N-3°-E		Ⅲb	
HSB21	N-1°-E	8.2, 8.4尺	Ⅲb	
HSB22	N-1°-E	6.9-8.6尺	Ⅲb	さまざまな間尺が使われている。
HSB23	N-1°-E	6.9-8.6尺	Ⅲb	さまざまな間尺が使われている。

②横列・塀、道路状遺構

Ⅲa期：55SA3（軸方向N-11°-E）、55SA4（軸方向N-11°-E）、50SD8（L字形の溝）、28

SA1（コ字形横列） 55SC1道路状遺構

Ⅲb期：55柱列2（軸方向N-11°-E） 21SC1道路状遺構

③その他の遺構

Ⅲa期：55SX2（竪穴遺構）、31SX1・2（祭祀遺構か）、21SX35（橋脚）

Ⅲb期：52SE8（井戸状遺構）、55SX1（祭祀遺構）

おわりに

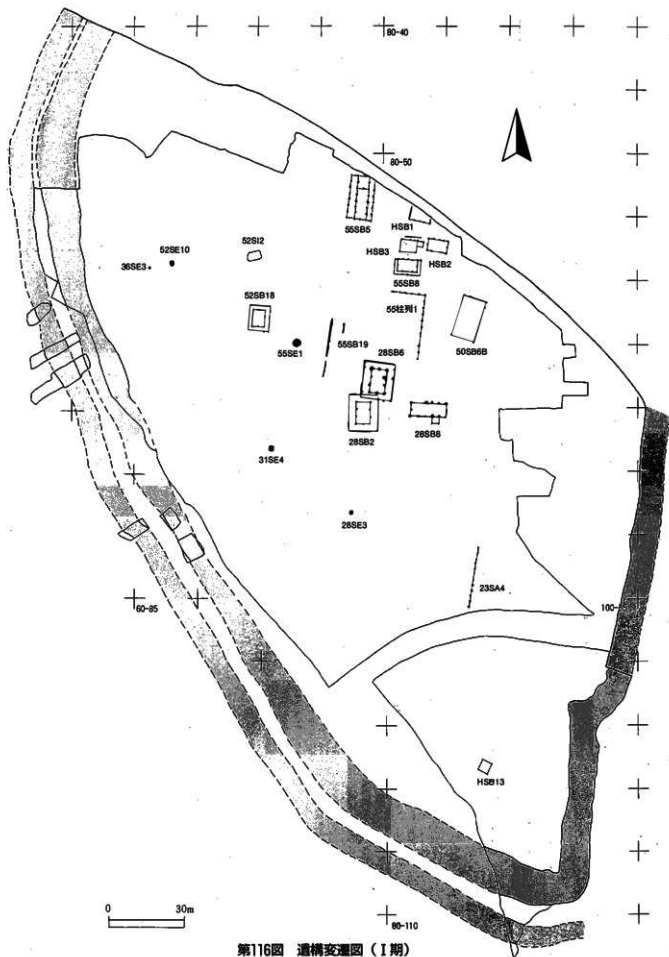
国指定史跡に指定され、内容確認の調査が進展する中で柳之御所遺跡の評価は大きく変わった。その一つは年代観が大きく変わったことである。12世紀初頭に位置付けられるかわらけが出土したことにより、これまで12世紀後半とされていた本遺跡の使用開始時期が、12世紀初頭（初代清衡の平泉入府役期）にまで遡ることになった。したがって柳之御所遺跡は12世紀初頭（初代清衡の平泉入府）から12世紀末（奥州藤原氏滅亡）まで、盛衰をもちつつも平泉の中でも重要な地区で在り続けていたとみて大過ないであろう。12世紀後半には、『吾妻鏡』に記された「平泉館」である可能性が高いとするこれまでの評価に大きな訂正はない。

猫間が遺跡は柳之御所遺跡と無量光院・加羅御所の間にある低地（埋没沢）である。柳之御所遺跡を取り囲む2重の堀は、この猫間が堀の中を掘り込んで構築されていることが明らかになった。よって猫間が堀は柳之御所遺跡の一部を含んでいるといえる。また、無量光院側と柳之御所遺跡堀内部地区とを結ぶ橋（道路）も猫間が堀の中にある可能性が高い。無量光院側から半島状に張り出す地形などがその有力な地点として指摘されている。猫間が堀には12世紀当時の地形が残っている部分が多く、当時の平泉を復元する上でも無視できない地域と考える。

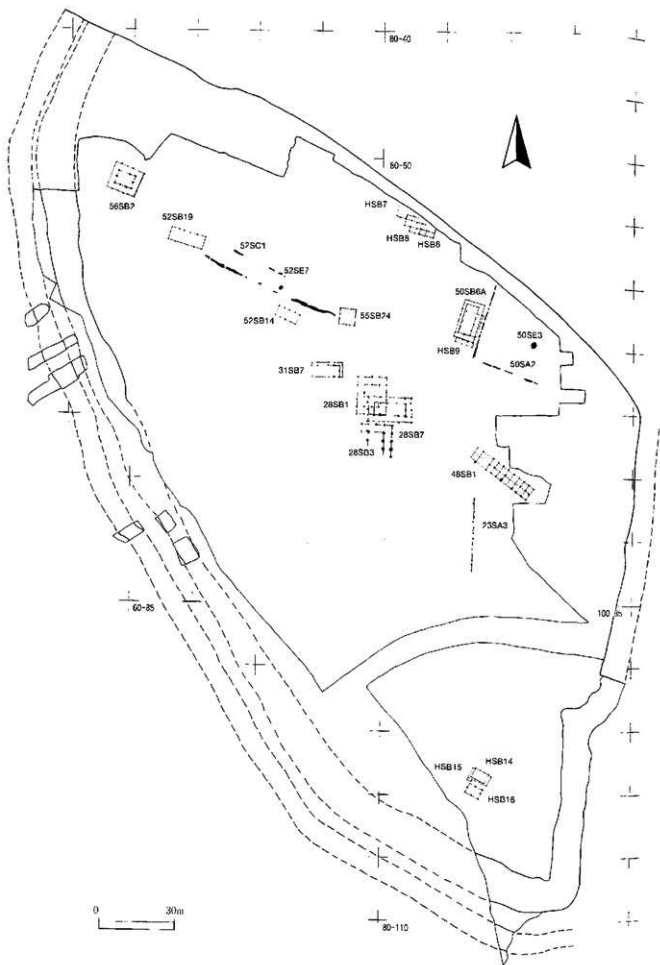
平泉に於けるかわらけの細分が進んだこと、柳之御所遺跡での調査に伴い該期の遺構が増加したことなどにより、遺構の変遷も再検討が求められた。しかしながら、本遺跡の遺構・遺物は膨大で、本稿では主要な遺構を中心に変遷を組み立てたかたちになり、その根拠も現時点では弱い部分もある。検討する中で新たな問題点もいくつか浮かび上がってきた。主なものとして、当時の詳細な地形復元と、想定された掘立柱建物跡の再検証、全体的にも該期の居館に関連する事例が殆どない中で個々の施設の平面形や性格を想定していかなければならないことなどがあげられる。内容確認の調査が続けられ、新たな成果が得られると今回の見解にも訂正を加えることができよう。また本報告を機会に様々な方面から新たな視点による再検討も行われることも期待してやまない。

引用・参考文献

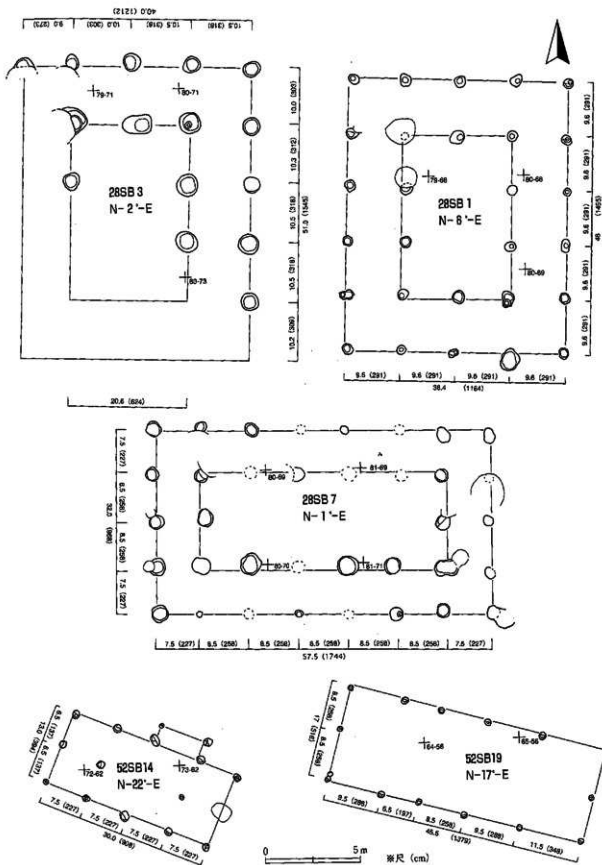
- 平泉町教育委員会 1994 「柳之御所跡発掘調査報告書」岩手県平泉町文化財調査報告書第38集
（財）岩手県文化振興事業団歴史文化財センター 1995 「柳之御所跡」岩手県文化振興事業団歴史文化財調査報告書第228集
岩手県教育委員会 1999 「柳之御所遺跡 一第49次調査概報一」岩手県文化財調査報告書第105集
岩手県教育委員会 2000 「柳之御所遺跡 一第50次調査概報一」岩手県文化財調査報告書第107集
岩手県教育委員会 2001 「柳之御所遺跡 一第52次調査概報一」岩手県文化財調査報告書第111集
岩手県教育委員会 2002 「柳之御所遺跡 一第55次調査概報一」岩手県文化財調査報告書第113集
岩手県教育委員会 2003 「柳之御所遺跡 一第56次調査概報一」岩手県文化財調査報告書第117集
太宰府市教育委員会 2001 「太宰府発跡跡XV 陶磁器分類編 校正版」太宰府市の文化財 第49集
羽委政人 2001 「平泉遺跡群のロクロかわらけについて」岩手考古学第13号 岩手考古学会
日本考古学協会 2001 「都市・平泉一成立とその構成」日本考古学協会2001年度盛岡大会研究発表資料集
東北中央考古学会編 2003 「中世奥州の土器・陶磁器」高志書院



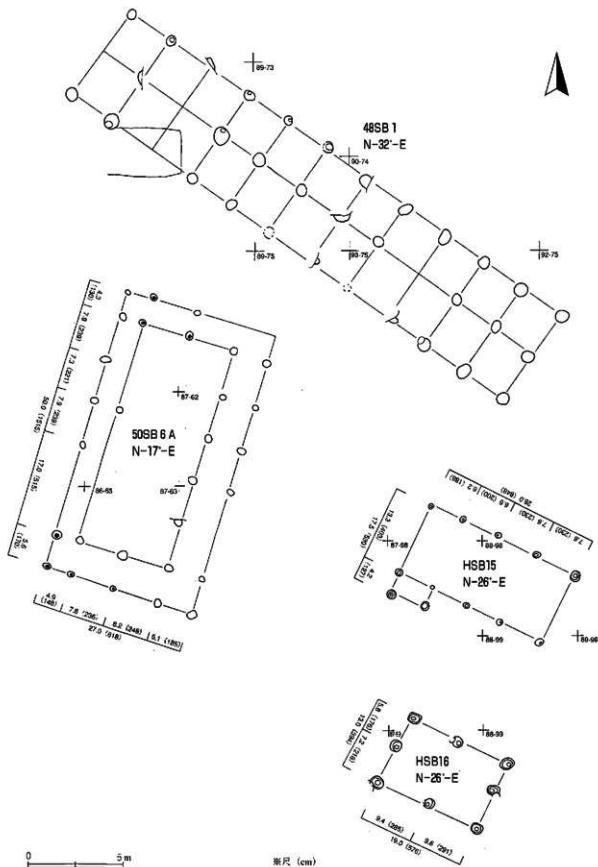
第116図 遺構変遷図（I期）



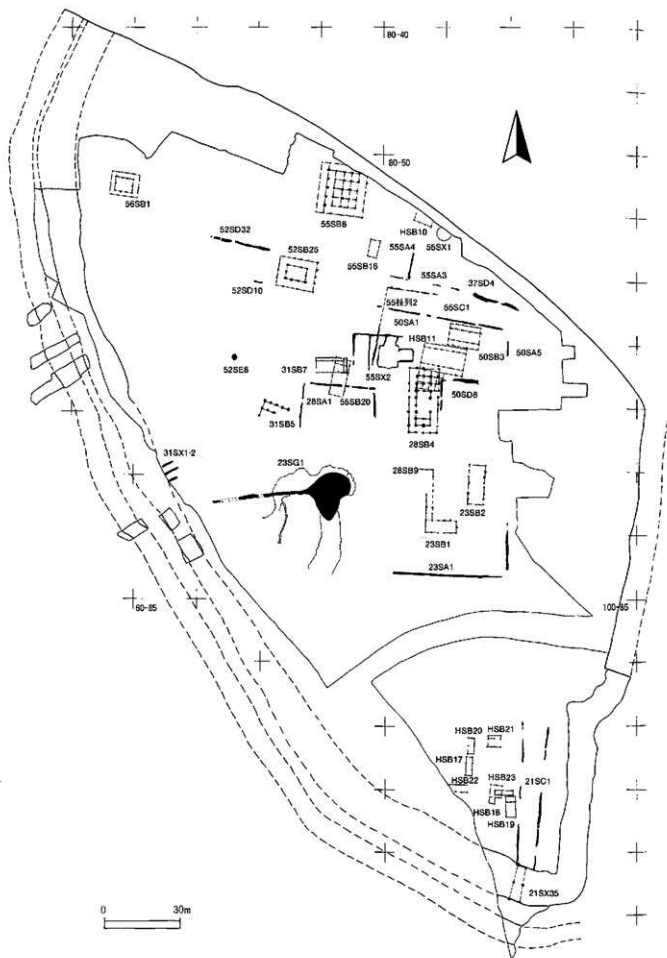
第119図 遺構変遷図(Ⅱ期)



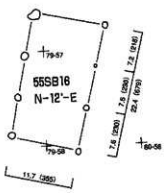
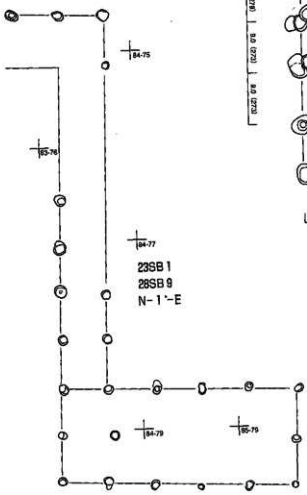
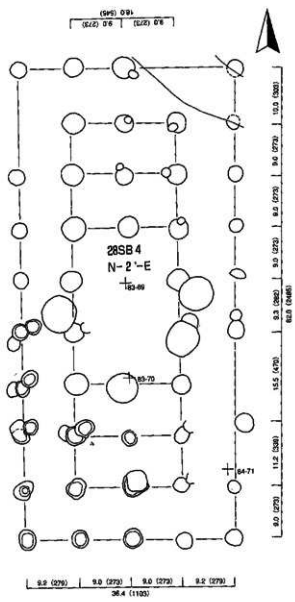
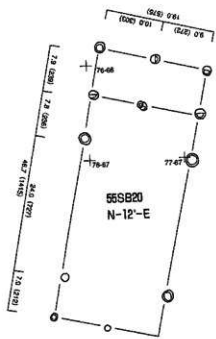
第120圖 II期建物(1)



第122圖 Ⅱ期建物(3)



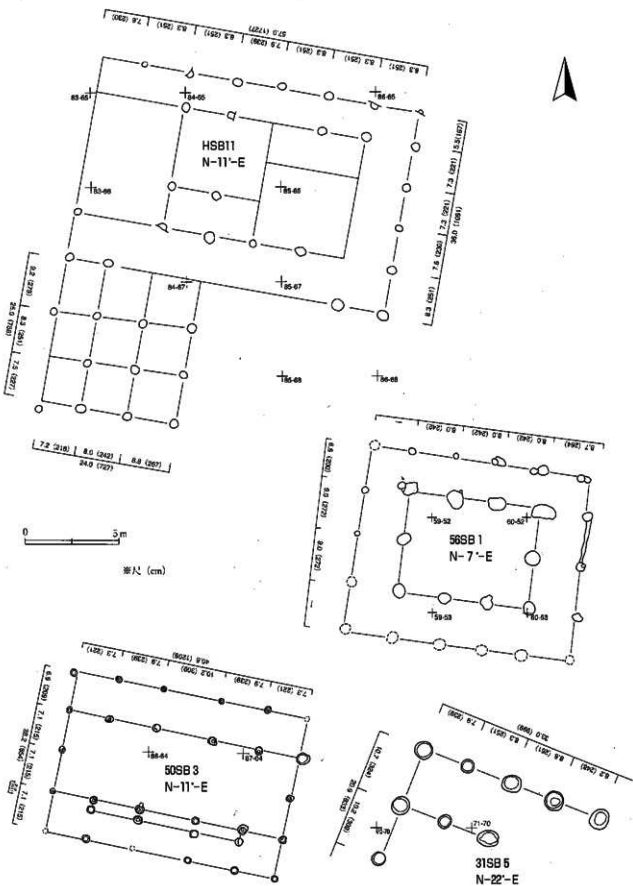
第123圖 遺構変遷圖(Ⅲ期)



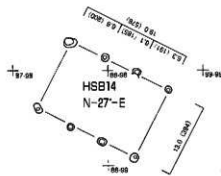
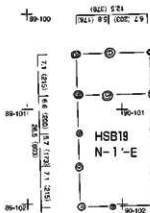
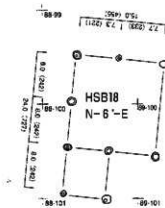
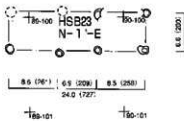
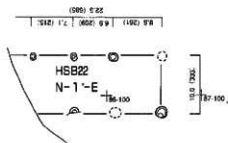
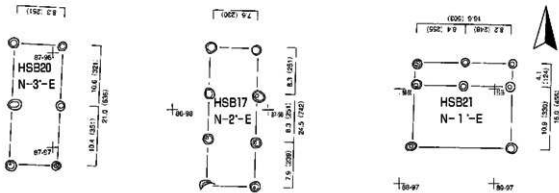
※尺 (cm)



第124圖 Ⅲ期建物 (1)



第126図 Ⅲ期建物 (3)



単位 (cm)



第127図 Ⅲ期建物(4)

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはつくつちようさほうこくしよ ねこまがふちあと							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 猫間が淵跡							
副書名	発掘調査本報告書							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第118集							
編著者名	斎藤邦雄 大関真人 戸根貴之 杉沢昭太郎							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	2004年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
ねこまがふちあと 猫間が淵跡	いわてけんにし 岩手県西 いわいぐんひら 磐井郡平 いずみちようひら 泉町平泉 いずみあざやなぎ 字柳御 のこしよ 所地内	03402		38度 59分 30秒	141度 7分 10秒	第1次～ 第5次 1981 ～ 20030328	1,326	住宅建築・ 鉄塔建設・ 宅地造成に 伴う緊急調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
猫間が淵跡	淵跡	縄文時代 12世紀 時期不詳	淵跡 土坑 溝跡 土坑	1基 1基 1条 3基	縄文土器(後期) 石器(石鏃、磨 製石斧など) かわらけ 国産陶器 中国産陶磁器 瓦 木製品(椀他) フイゴの羽口 鉄滓	・流れを伴う沢の 痕跡(NF5) ・淵の形成は縄文 時代(NF1、NF2 他) ・12世紀には低湿 地の可能性が高 い。 (灰白色火山灰 の堆積及び柳之 御所遺跡の堀の 形成との関係か ら) (NF1、NF5他)		

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐん やなぎのごしよいせき					
書名	平泉遺跡群		柳之御所遺跡			
副書名	第57次発掘調査概報、簡図が記述遺跡発掘調査本報告、第1次・第2次内容確認調査総括報告					
巻次						
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書					
シリーズ番号	第118集					
編者名	斎藤邦雄 大岡真人 戸根貴之 杉沢昭太郎					
編集機関	岩手県教育委員会					
所在地	岩手県盛岡市内丸10-1					
発行年月日	2004年3月30日					
ふりがな 所収遺跡名	やなぎのごしよいせき 柳之御所遺跡	位置	北緯38度59分28秒 東経141度7分35秒		調査 原因	史跡整備に向け た内容確認調査
しよさいら 所在地	いわてけんにしほらいぐんひらいずみちよあざやなぎのごしよ 岩手県西磐井郡平泉町字柳之御所地内				コード(市町村) 03402	
調査名 調査期間	調査面積 ㎡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第1次・第2 次内容確認 調査 19980515 ～ 20021129	11,900	奥州藤 原氏に 関連す る居館 跡	12世紀 近世以降 時期不詳	堀・柵列 20条 独立柱建物 41棟 道路状遺構 1条 溝・堀跡 14条 井戸状遺構 12基 圓池 1基 土坑 121基 その他 13基 独立柱建物 37棟 井戸状遺構 5基 溝・堀跡 87条 土坑 39条 独立柱建物 15棟以上 柵列 8条 土坑 43基	かわらけ 国産陶器 中国高麗磁器 瓦 各種木製品 (碀/折敷・ 下駄 他) 穴あき石 籠の札 近世陶磁器	・漆布に覆われた白磁四郎壺 ・製前村印、と刺印された銅 印 ・墨書資料8点 ・12世紀の惣の札 ・12世紀初頃の一塔土器 ・穴あき石(毛越寺淨土庭園使 用のものと同類) ・12世紀後半の大型遺物跡 (35SD6) ・12世紀前期の井戸跡 (35SE1) ・居館の外周を巡る2条の堀跡 (56SD38・39) ・トイレ状遺構の集大成 (56SK26他)
第57次発掘 調査 20030414 ～ 20031031	4,000	奥州藤 原氏に 関連す る居館 跡	12世紀 縄文時代 近世以降 及び 時期不詳	堀・柵列 1条 溝跡 4条 井戸状遺構 3基 圓池 1基 その他 3基 土坑 2条 溝跡 13条 土坑 1条 その他 2基	かわらけ 国産陶器 中国産高麗磁 器 瓦 木製品 (木椀 他) 埴壇 近世陶磁器	・圓池(23SG1)には最低でも2万 期の要遺が確認された。これま で不明な点が多かった古い段階 の池についても規模や構造・時 期について明らかになった。 ・堀外周地区の調査では遺跡内 部を区画する溝や堀が検出され た。